第三條　臺灣總督府師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
教授
助教授
教諭
舍監
書記

第四條　學校長ハ各校一人奏任トス知事廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條　教授ハ各校二人奏任トス師範學校生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ各校四人判任トス教授ノ職務ヲ助ク

第六條　教諭ハ各校二人判任トス附屬學校生徒ノ教授ヲ掌ル

第七條　舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

舍監ハ教授若ハ助教授ヨリ之ヲ兼ネシム

第八條　書記ハ各校二人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條　知事廳長ハ教授若ハ助教授ノ內ヨリ附屬學校主事ヲ命シ同校ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十條　師範學校設置ノ場所ハ臺灣總督ノ指定スル所ニ依ル

附　則

第十一條　本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

㊞臺灣總督府國語學校官制

明治三十一年七月勅令第二百四十二號

朕臺灣總督府國語學校官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　臺灣總督府國語學校ニ附屬學校ヲ置キ公學模範學校ヲ附設ス

第二條　臺灣總督府國語學校ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十二年一月勅令第十一號ヲ以テ「教諭」ノ次ニ存セシ「助教諭」ノ三字ヲ削ル）

學校長
教授
教諭
助教諭
書記

第二條　學校長ハ各所一人ヲ統ベ、勅ノ高等官又ハ教諭ヲシテ之ヲ兼ネシム

所長ハ知事、廳長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條　教諭ハ五十二人判任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教諭ハ二十人判任トス教諭ノ職務ヲ助ク

第四條　書記ハ二十八人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

㊞臺灣公學校官制

明治三十一年七月勅令第百七十九號

朕臺灣公學校官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　臺灣公學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
教諭
訓導

第二條　學校長ハ各校一人判任トス庶務署長又ハ支署長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

學校長ハ教諭ヲシテ之ヲ兼ネシム

第三條　教諭ハ判任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第四條　訓導ハ判任官ノ待遇トス教諭ノ職務ヲ助ク

訓導ノ俸給ハ臺灣總督定ムル所ノ規程ニ依ル

附　則

本令ハ明治三十一年十月一日ヨリ施行ス

㊞臺灣總督府小學校官制

明治三十一年七月勅令第百八十號

朕臺灣總督府小學校官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府小學校ニ左ノ職員ヲ置ク

第一條

學校長
訓導

第二條　學校長ハ各校一人判任トス庶務署長又ハ支署長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

學校長ハ訓導ヲシテ之ヲ兼ネシム

第三條　書記ハ二十八人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附　則

本令ハ明治三十一年十月一日ヨリ施行ス

㊞臺灣總督府直轄諸學校官制廢止ノ件

明治三十年七月勅令第二百四十四號

朕臺灣總督府直轄諸學校官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年勅令第九十四號臺灣總督府直轄諸學校官制ハ本年勅令第二百四十二號臺灣總督府國語學校官制及勅令第二百四十三號臺灣總督府國語傳習所官制施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七章　外務省所管

㊞外務省官制

明治三十一年十月勅令第二百五十八號

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外務省官制

第一條　外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ監督ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外帝國ニ駐在スル各國外交官、領事官、外國人叙勳、條約書保管及文書翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　外務省專任參事官ハ二人專任外務大臣秘書官ハ二人專任書記官

ハ五人ヲ以テ定員トス
第四條　外務省ニ左ノ二局ヲ置ク
政務局
通商局
第五條　政務局ニ於テハ外交ニ關スル事務ヲ掌ル
第六條　通商局ニ於テハ通商航海及移民ニ關スル事務ヲ掌ル
第七條　外務省ニ翻譯官四人ヲ置ク奏任トス文書翻譯ニ從事ス
第八條　外務省ニハ六十人ヲ以テ定員トス
第九條　外務省ニ翻譯官補六人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通辯ニ從事ス
第十條　外務省ニ技手二人ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ電信事務ニ從事ス
附　則
第十一條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

外務省分課規程

第一條　外務大臣官房ニ秘書課、記錄課、庶務課、會計課、翻譯課、及電信課ヲ置ク
秘書課
第二條　秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　大臣親展書ノ接受
二　大臣次官ノ官印及省印ノ管守
三　特命ヲ受ケタル機密事務
記錄課
第三條　記錄課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　條約書、准批書、諮國書及外交文書ノ保管
二　諸文書ノ編纂及刊行
三　圖書ノ保管及刊行
四　公文書類ノ接受發送ニ關スル事項
五　公文書類ヲ主管局課ニ配付スル事項
六　統計報告及官報掲載ニ關スル事項
庶務課
第四條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　所轄官吏ノ進退身分ニ關スル事項
二　御親書、國書、領事官ノ委任狀及認可狀ニ關スル事項
三　帝國ニ駐在スル各國外交官ノ謁見、待遇及諸儀式ニ關スル事項
四　外國人ノ叙勳及謁見ニ關スル事項
五　在帝國外國公使館雇入鑑札ニ關スル事項
六　外務省留學生ニ關スル事項
會計課
第五條　會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　本省及在外公館ノ豫算決算ニ關スル事項
二　本省及在外公館ノ金錢出納ニ關スル事項
三　本省所管ノ地所建物其他一切ノ諸用物品ニ關スル事項
翻譯課
第六條　翻譯課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　諸外國文書ノ邦語翻譯
二　邦語文書ノ外國語翻譯
電信課
第七條　電信課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　暗號電信ノ起草及解譯
二　諸電信ノ接受及發送
政務局
第八條　政務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　外交政務ニ關スル事項
二　各廳ノ條約解釋ニ關スル事項
三　外交官ノ職務及權限ニ關スル事項
四　在帝國外國人及外國人居留地ニ關スル事項
五　犯罪人引渡ニ關スル事項
六　外國人內地旅行免狀ニ關スル事項
七　帝國ニ漂着シタル諸外國人ニ關スル事項
通商局
第九條　通商局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事務ヲ分掌セシム
第一課
一　通商航海ニ關スル事項
二　通商航海及移住民條約ノ解釋ニ關スル事項
三　領事官ノ職務及權限ニ關スル事項
四　在外帝國領事裁判ニ關スル事項
五　在外帝國臣民及帝國臣民居留地ニ關スル事項
六　萬國博覽會及共進會ニ關スル事項
七　外國ニ於ケル內外人結婚ニ關スル事項
八　通商報告及其編纂刊行ニ關スル事項
第二課
一　海外出稼人及移民ニ關スル事項
二　旅券ニ關スル事項
三　在外帝國臣民救助ニ關スル事項
四　外國ニ漂着シタル帝國臣民ニ關スル事項
五　移民ニ關スル諸報告及其編纂刊行ニ關スル事項

外交官及領事館官制

明治二十六年十月勅令第百二十四號
朕外交官及領事官官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
外交官及領事館官制
第一條　外交官ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ
特命全權公使
辨理公使
代理公使
公使館一等書記官
公使館二等書記官
公使館三等書記官
外交官補
第二條　特命全權公使及辨理公使ハ勅任トス代理公使公使館一等書記官
公使館二等書記官三等書記官及外交官補ハ奏任トス
第三條　領事館ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ
總領事
一等領事
二等領事
領事官補
第四條　總領事、一等領事、二等領事及領事官補ハ奏任トス
第五條　外交官ヲ置カサルノ地ニ於テハ外交事務官ヲ置クコトヲ得
外交事務官ハ奏任トス領事官ヲシテ之ヲ兼ヲシム
第六條　領事官ヲ置カサルノ地ニ於テハ貿易事務官又ハ名譽領事ヲ置クコトヲ得
貿易事務官ハ奏任トス名譽領事ハ奏任待遇トス
第七條　公使館及領事館ニ書記生ヲ置ク
外務書記生ハ判任トス（明治三十年八月勅令第二百九十二號ヲ以テ本項改正）
第八條　外交官又ハ領事官ニシテ一時外國在勤ヲ免レタル者及外務省官吏ニシテ外交官又ハ領事官ニ囑任シ未タ任所ヲ命セサル者ヲ待命外交官又ハ待命領事官トス
但シ本令施行ノ際現ニ待命外交官又ハ待命領事官タル者ハ此限ニアラズ（明治二十九年十月勅令第三百五十五號ヲ以テ本項但書共改正）
待命外交官及待命領事官ハ臨時外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得
待命外交官及待命領事官ハ滿三年ヲ以テ期トス期滿レハ其ノ官ヲ免スルモノトス、
但シ本項ノ場合ニ於テハ在職官吏ニ關スル規程ヲ適用ス（同上法令ニテ本但書ヲ追加ス）
附　則

第九條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

◎領事官ノ職務ニ關スル件

明治三十二年三月法律七十第號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル領事官ノ職務ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　條約中特ニ領事官ノ權限ニ屬セシメタル事項ニ關シテハ法律ニ抵觸セサル範圍ニ於テ命令ヲ以テ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

第二條　條約中領事官ノ職務ニ關シ法律ノ規定ヲ要スル事項ニ付法律ノ規定ナキトキハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ハ法令及條約ノ規定ニ從テ其ノ職務ヲ行フヘシ但シ國際法ニ基因スル慣例又ハ駐在地特別ノ慣例ニ從フコトヲ得

前項ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條　外國ニ於ケル施行期日ヲ定メサル法律ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得

第五條　領事官ノ職務ニ關スル管轄區域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ第七條乃至第十七條ノ規定ニ從ヒ訴訟事件並非訟事件ニ關スル事務及登記事務ヲ行フ

第七條　前條ノ事務ニ關シテハ領事官ハ法令、條約及慣例ニ牴觸セサル範圍ニ於テ地方裁判所及區裁判所ノ職務ヲ行フ

第八條　領事官ハ重罪ノ公判ヲ爲スコトヲ得ス

輕罪ノ裁判ニ付テハ豫審ヲ須ヰス

第九條　領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ國交上必要アルトキハ外務大臣ハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ領事官ニ命シ且被告人ヲ內國ノ監獄ニ移送セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ司法大臣ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎控訴院檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ控訴院ニ爲サシメ其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎地方裁判所檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第十一條　前條ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎控訴院之ヲ管轄ス

區裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス

第十三條　領事官ノ領事館員又ハ警察官ヲシテ檢事又ハ裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘシ

裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘキ前項ノ官吏ナキトキハ領事官ハ其ノ管轄區域內ニ在留スル帝國臣民中ヨリ選任シテ臨時其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條　領事官ハ領事館員又ハ警察官吏ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムヘシ

前項ノ職務ヲ行フ者ハ自己ノ責任ヲ以テ自ラ適當ト認ムル者ニ臨時其ノ職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第十五條　法令ノ規定ニ依ルモノヲ除ク外訴訟代理人又ハ辨護人タラントスル者ハ領事官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條　通常裁判所ニ於ケル忌避又ハ回避ニ關スル規定ハ領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ニハ之ヲ適用セス

第十七條　第十三條及第十四條ニ揭ケタル職務ヲ行フ者ナキトキハ外務大臣ハ同一國內ノ他ノ領事館官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十八條　領事館ノ設置ナキ地ニ限リ命令ノ規定ヲ以テ本法其ノ他ノ法律中領事官ノ取扱フヘキ事項ハ領事官ニアラサル者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十九條　本法其ノ他ノ法律中單ニ領事又ハ領事官ト稱スルハ名譽領事ニアラサル領事及其ノ代理ヲ謂フ

第二十條　本法施行ノ爲必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條　清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎日本帝國領事規則

明治二十三年五月勅令第八十號

朕日本帝國領事規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム此規則ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

日本帝國領事規則

第一條　領事ハ日本ノ利益殊ニ貿易交通及航海ノ利益ヲ保護奬勵シ日本ト駐在國トノ間ニ締結セル條約ノ施行ヲ視察シ日本臣民竝ニ日本ト友好アル外國ノ臣民ヨリ倚頼アルトキハ之ニ相當ノ勤告者クハ保護ヲ與フヘシ

領事ハ諸般ノ事務ヲ執行スルニ當テハ日本ノ法律及命令ニ準據スヘシ但特別ノ條約又ハ慣例アル國ニ駐在スル者ノ外駐在國ノ法律慣例ニ遵フコトヲ得ス

第二條　領事ハ駐在國ニ於テ日本臣民ノ爲メ名簿ヲ備置キ日本臣民ヨリ居住、婚姻、出生、死亡ノ屆出ヲ受ケタルトキハ之ヲ其名簿ニ登錄スヘシ

第三條　領事ハ駐在國ニ於テ日本臣民死亡ノ際其遺留財產ヲ相續スヘキ者不在ナルカ又ハ其他ノ事故アリテ遺留財產ニ危險アルトキハ之ヲ保護スルノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　領事ハ駐在國ニ於テ救助ヲ要スル日本臣民アルトキハ之ニ一時ノ救助ヲ爲シ若クハ之ヲ本邦ニ送還スヘシ

第五條　領事ハ必要アルトキハ日本ノ海軍艦船及其乘組員ヲ借助スヘシ

第六條　領事ハ駐在國ニ於テ日本海軍艦船乘組員脫走シタルトキハ艦船長ノ要求ニ依リ其逮捕ヲ駐在國ノ官憲ニ照會スヘシ

第七條　領事ハ災厄ニ遭遇セル日本船舶ニ對シ必要ノ救助ヲ爲シ及駐在國ヨリ與フル救助ヲ監視スヘシ

第八條　領事ハ船難報告及船難證書ヲ證明スヘシ

第九條　領事ハ日本船舶ノ國旗ヲ監視スヘシ領事ハ國旗揭揚ノ認可書ヲ付與スヘシ

第十條　領事ハ駐在國ニ於テ日本船舶ノ海員雇入雇止定約ヲ公認スヘシ

第十一條　領事ハ駐在國ニ於テ日本船舶ノ船長ヲシテ出入港屆出ヲ爲サシムルコトヲ得

入港地ニ於テ船舶諸證書ヲ領事ノ保管ニ附スヘキ成規又ハ慣例アル時ハ領事之ヲ保管スヘシ

第十二條　領事ハ日本臣民ニ旅券ヲ附與シ及其旅券ヲ查證スルコトヲ得

領事ハ日本ニ旅行セントスル外國人ノ倚頼ニ依リ其旅券ノ查證ヲ爲スコトヲ得

第十三條　領事ハ日本船舶及日本ニ航行スル外國船舶ニ對シ其船長ノ倚頼ニ依リ船舶健康證書ヲ付與スルコトヲ得

第十四條　領事ハ駐在國ノ官廳ヨリ發セル證書ノ署名捺印ヲ證明スルコトヲ得

第十五條　領事ハ駐在國ニ於テ日本船舶ノ海員脫走シタルトキハ船長ノ申出ニ依リ其復役ヲ強制スル爲メ駐在國ノ官廳ニ照會スルコトヲ得

第十六條　日本船舶ノ船長疾病、死亡其他ノ事故ニ由リ船舶ノ指揮運轉ニ差支ヲ生シタルトキハ領事ハ其船舶關係人ノ申出ニ依リ假ニ船長ヲ選定スルコトヲ得

第十七條　條約若クハ慣例ニ從ヒ領事裁判權ヲ行フヘキ國ニ駐在スル領事ハ裁判權ヲ行フヘシ

第十八條　領事ハ日本臣民相互ノ間若クハ日本臣民ト外國人トノ間ニ生シタル民事上ノ爭論ニ關シ勸解ノ倚頼ヲ受ケタルモノハ之ヲ勸解スルコトヲ得

第十九條　領事ハ駐在國ノ法律規則及慣例ニ矛盾セサル限リ其國ノ日本臣民及日本船舶ニ對シ取締ヲ爲スコトヲ得

第二十條　領事ハ職務上必要アルトキハ日本軍艦ニ帶助ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條　領事ハ此規則ニ揭クル領事手數料及出張入費表目ニ據リ手數料及出張入費ヲ徵收スヘシ但別ニ法律規則ノ明文アル事項ニ付テハ其規定ニ從フヘシ

第二十二條　表目第一第二ノ手數料ハ其國係者無資力ナル場合ニ於テハ之ヲ免除スルコトヲ得

第三ノ手數料ハ遺留財產ノ價額五十圓未滿ナルトキハ之ヲ免除ス

第二十三條　（二十六年三月勅令第四十五號ニテ本條削除）

第二十四條　外國語ヲ以テ證明書ヲ付與シタルトキハ規定ノ手數料ニ十分ノ五ヲ增課スヘシ

飜譯ヲ要スルモノアルトキハ更ニ其實費ヲ拂ハシムヘシ

第二十五條　各地ノ法律規則又ハ慣例ニ依リ領事ノ證明又ハ取扱ヲ要スヘキ事項ニシテ表目中明文ナキモノニ付テハ其地ノ慣例ニ從ヒ五圓以內ノ手數料ヲ徵收スヘシ

第二十六條　日本臣民ノ願出ニ依リ領事館所在地外ニ出張シテ事務ノ取扱ヲ要スルトキハ規定ノ手數料ノ外其出張入費ヲ出願人ヨリ拂ハシムヘシ

第二十七條　領事ノ裁判權執行ニ付テハ民事訴訟用印紙規則ヲ適用スヘシ

第二十八條　領事ハ其職務上ノ事項ニ付外務大臣ニ報告スヘシ

第二十九條　領事ハ豫メ外務大臣ノ承諾ヲ得タル場合ノ外本邦他官廳ト直接通信スルコトヲ得ス

外務大臣ニ送遞スヘシ

第三十條　此規則ニ於テ領事ト稱スルハ總領事領事又ハ其代理及ヒ委任狀ヲ有スル副領事又ハ其代理ヲ云フ

領事手數料及出張入費表目

一	居住、婚姻、出生、死亡ノ屆出證錄	貳拾錢
二	同上證明書	五拾錢
三	遺留財產取調書及封緘、保管、公賣	
	價額五百圓以下	百分一
	但最小額貳圓	
	價額五百圓以上	貳百分一
	但最多額貳拾圓	
四	旅券	貳圓
五	同上査證	壹圓
六	船舶報告	壹圓
七	船舶證書	五圓
八	同上謄寫	壹圓
九	船舶出入港屆出及船舶諸證書保管（二十三年勅令第百三十四號ヲ以テ本項改正）	
	登簿噸數十五噸以下（百五十石以下）	五拾錢
	登簿噸數十五噸以上五十噸以下（百五十石以上五百石以下）	參拾錢
同	五十噸以上百噸以下（五百石以上千石以下）	
同	百噸以上二百噸以下（千石以上）	五拾錢
同	二百噸以上五百噸以下	壹圓
同	五百噸以上	參圓
	但漁船ハ手數料ヲ徵收セス	
十	船舶貿却及抵當ノ公認（二十四年勅令第六十四號ヲ以テ本項改正）	五圓
同	登簿噸數十五噸以下（百五十石以下）	壹圓
同	十五噸以上百噸以下（百五十石以上千石以下）	四圓
同	百噸以上（千石以上）	八圓
十一	國旗揭揚ノ認可書（二十四年勅令第六十四號ヲ以テ本項改正）	
	手數料ノ割合十項ニ同シ	
十二	脫走船員復役取扱	貳圓
十三	海員雇入雇止公認	被雇者給金一月分ノ百分一

十四　船舶健康證書　　貳圓

十五　出張入費

最初一時間　　壹圓

之ニ次ク每一時間及一時間未滿　　五拾錢

六時間以上ハ一日ト看做シ每一日　　五圓

外交官及領事官試驗委員官制

明治二十六年十月勅令第百二十六號

第一條　外交官及領事官試驗ヲ施行スル爲ニ外交官及領事官試驗委員ヲ置キ外務大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條　外交官及領事官試驗委員ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

委員長　外務次官

委員　外務省政務局長

外務省通商局長

文官高等試驗委員二名

帝國大學教授二名

外務次官、外務省政務局長又ハ外務省通商局長ニ缺員又ハ事故アルトキハ臨時他ノ高等官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　前條委員ノ外臨時必要アルトキハ臨時試驗委員ヲ命スルコトヲ得

第四條　外交官及領事官試驗委員ハ職務上當然委員長又ハ委員タル者ヲ除クノ外外務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス臨時委員亦同シ

第五條　試驗事務ニ關シ庶務ニ從事セシムル爲ニ書記ヲ置キ外務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　外交官及領事官試驗委員竝臨時試驗委員ニハ外務省官吏ヲ除クノ外年額百圓以內ノ手當金ヲ給スルコトヲ得

第七條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

附則

公使館ニ通譯官ヲ置キ公使館領事館及貿易事務館ニ通譯生ヲ置クノ件

明治二十八年六月勅令第八十二號

朕公使館ニ通譯官ヲ置キ公使館領事館及貿易事務館ニ通譯生ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　外交官及領事試驗官規則ニ揭ケサル外國語ヲ通譯スルノ必要アル公使館ニ一等通譯官及二等通譯官ヲ置クコトヲ得

公使館一等通譯官ハ高等官六等公使館二等通譯官ハ高等官七等トス

其陞叙ニ關シテハ外交官領事官及貿易事務官官等令ヲ適用ス

第二條　公使館書記生及領事館書記生試驗規則ニ揭ケサル外國語ヲ通譯スルノ必要アル公使館領事館及貿易事務官ニ外務通譯生ヲ置クコトヲ得

外務通譯生ハ判任トス（明治三十年八月勅令第二百九十二號ヲ以テ本條改正）

貿易事務官及公使館通譯官ノ待命ニ關スル件

明治廿八年六月勅令第八十七號

朕貿易事務官一等通譯官及公使館二等通譯官ノ待命ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

貿易事務官、公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ニシテ住所ナキ者ニハ明治二十六年勅令第百二十四號外交官及領事官官制第八條ヲ適用ス

◉外交官領事官通譯官書記生通譯生定員令

明治二十八年六月勅令第八十八號

勅外交官領事官通譯官書記生通譯生定員令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外交官領事官通譯官書記生通譯生定員令

第一條　外交官、領事官、通譯官、書記生、通譯生ノ定員令ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使、辨理公使ハ通シテ十四人（明治三十年三月勅令第四十二號ヲ以テ定員ヲ增ス）

公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官ハ通シテ二十四人

總領事、一等領事、二等領事、貿易事務官ハ通シテ三十一人

公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ七人

外交官補、領事館補ハ通シテ二十三人

公使館書記生、公使館通譯生、領事館書記生、領事館通譯生、貿易事務官通譯生ハ通シテ百人（明治三十一年勅令第十四號ヲ以テ定員ヲ增ス）

外交官ニシテ領事官ヲ兼任シ及領事官ニシテ外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼官ハ本條定員ノ內ニ算入セス（明治二十九年五月勅令第百八十三號ヲ以テ本項追加）

第二條　待命外交官、待命領事官、待命貿易事務官、待命公使館通譯官ハ前條定員ノ內ヘ算入セス

待命外交官、待命領事官、待命貿易事務官、待命公使館通譯生ハ通シテ十五人以內トス

第三條　明治二十六年勅令第百二十六號外交官領事官及書記生定員令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◉外交官領事官ヲ定員外ト爲スノ件

明治二十七年十一月勅令第百九十號

朕外交官領事官通譯官書記生通譯生定員令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外交官領事官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ從事スル者ハ之ヲ定員外ト爲スノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

待命外交官及待命領事官ニシテ戰時特設ノ職務ニ從事スル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

◉外交官領事官及貿易事務官更代ノ際ニ於テ臨時增員スルヲ得ル件

明治二十八年十月勅令第百五十號

朕外交官領事官及貿易事務官更代ノ際ニ於ケル臨時增員スルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外交官領事官及貿易事務官ヲ更代セシムルトキハ定員ノ外ニ臨時增員スルコトヲ得但增員ノ日ヨリ六箇月以內ニ定員ニ復スヘシ

臨時增員ハ左ノ定限ニ超過スルコトヲ得ス

待命全權公使辨理公使ハ通シテ二人

公使館一等書記官公使館二等書記官公使館三等書記官ハ通シテ四人

總領事一等領事二等領事貿易事務官ハ通シテ五人

◉各官廳ニ於テ在外公使領事ノ通信ヲ煩ハストキノ手續

明治二十五年五月閣令第四號

各官廳ニ於テ公務上在外公使領事ヲ煩ハササルヲ得サルコトアル時ハ事ノ大小ヲ論セス總テ之ヲ外務大臣ヘ照會又ハ稟請スヘシ

但緊メ外務大臣ノ承諾ヲ經テ直接通信ヲ爲スハ此限ニアラス

第八章　陸軍省所管

◉陸軍省官制

明治二十九年五月勅令第百九十二號

陸軍省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍省官制

第一條　陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス

第二條　大臣官房ニ副官五人ヲ置キ陸軍各兵科大中少佐及大尉ヲ以テ之ニ補シ大臣ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌ラシム

陸軍大臣秘書官ハ二人トシ副官中ヨリ之ヲ兼補ス

大臣官房ニ軍吏二人ヲ置キ高級副官ノ命ヲ承ケ本省ニ於ケル諸給與及用度ノ事ヲ掌ラシム

第三條　陸軍省ニ參事官二人ヲ置ク

陸軍省ニ參事官書記官ヲ置カス（明治三十一年十一月勅令第二百七十六號ヲ以テ「參與官」ヲ加フ）

第四條　大臣官房ニ人事課ヲ置キ課長ハ陸軍各兵科大佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍各兵科中少佐大尉ヲ以テ之ニ補ス

第五條　人事ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　將校同相當官准士官竝文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸、增給ニ關スル事項

二　將校竝准士官兵籍文官名簿停年名簿及充員名簿ニ關スル事項

三　退職將校同相當官准士官ノ人事及名簿ニ關スル事項

四　叙位、叙勳、記章、褒章、賞與ニ關スル事項

五　恩給ニ關スル事項

六　准士官下士文官採用ニ關スル事項

第六條　陸軍省ニ左ノ諸局部ヲ置ク

一　軍務局　陸軍將校ヲ以テ局長ニ充ツ

經理局　陸軍將校相當官ヲ以テ局長ニ充ツ（明治三十年三月勅令第三十七號ニテ本項改正）

醫務局　陸軍軍醫總監若クハ陸軍軍醫監ヲ以テ局長ニ充ツ（同上）

法官部　勅任理事ヲ以テ部長ニ充ツ

第七條　軍務局ニ軍事課、歩兵課、騎兵課、砲兵課、工兵課、兵器課ヲ置ク（明治三十年九月勅令第三百三號ニテ本條改正）

第八條　軍務局軍務課長ハ陸軍各兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍各兵科中少佐大尉一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス（同上）

課長及中少佐課員一名ハ參謀官トス

第九條　軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル（同上）

一　編制、建制ニ關スル事項

二　動員計畫、戒嚴、及徵發ニ關スル事項

三　軍隊諸勤務、教育、演習及檢閱ニ關スル事項

四　軍紀、風紀ニ關スル事項

五　諸學校（經理學校軍醫學校獸醫學校及砲兵工科學校ヲ除ク）ニ關スル事項

六　外國駐在員ニ關スル事項

七　儀式、禮式、服制、徽章ニ關スル事項

第十條　軍務局歩兵課長ハ陸軍歩兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍歩兵科中少佐大尉陸軍一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス（同上）

第十一條　歩兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル（同上）

一　兵役、召集、解兵ニ關スル事項

二　各兵科將校ノ補充ニ關スル事項

三　各兵科各部准士官以下補充ノ規定ニ關スル事項

四　現役、豫備役及後備役軍人ニ關スル事項

五　騎兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊ノ下士以下補充ニ關スル事項

六　其ノ他騎兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊、騎隊隊司令部ニ關スル事項

第十二條　軍務騎兵課長ハ陸軍騎兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍騎兵科中少佐大尉陸軍幅重兵科中少佐陸軍獸醫監陸

軍一等獸醫ヲ以テ之ヲ補ス(同上)

第十三條　騎兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)

一　馬匹ノ供給、飼養、衛生、育成、保續、徵發並牧場ニ關スル事項

二　蹄鐵ニ關スル事項

三　獸醫ノ材料ニ關スル事項

四　軍馬補充部、軍馬衛生會議及獸醫學校ニ關スル事項

五　獸醫部ノ教育、人員補充及兵籍ニ關スル事項

六　鐵蹄術ノ教育及各兵蹄鐵工長下長ノ補充ニ關スル事項

七　騎兵、輜重兵ノ下士以下補充ニ關スル事項

八　其ノ他騎兵、輜重兵及獸醫ニ關スル事項

第十四條　軍務局砲兵課長ハ陸軍砲兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍砲兵科中少佐大尉ヲ以テ之ニ補ス(同上)

第十五條　砲兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)

一　砲兵會議及砲兵工科學校ニ關スル事項

二　要塞(工兵ニ關スル事項ヲ除ク)ニ關スル事項

三　砲兵ノ下士以下補充ニ關スル事項

四　其ノ他砲兵ニ關スル事項

第十六條　軍務局工兵課長ハ陸軍工兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三名ヲ置キ陸軍工兵科中少佐大尉ヲ以テ之ニ補ス(同上)

第十七條　工兵課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(同上)

一　要塞(砲兵ニ關スル事項ヲ除ク)ニ關スル事項

二　運輸通信、交通ニ關スル事項

三　東京防禦總督部及要塞司令部ニ關スル事項

四　工兵會議及築城部ニ關スル事項

五　工兵ノ下士以下補充ニ關スル事項

六　其ノ他工兵ニ關スル事項

第十八條　軍務局兵器課長ハ陸軍砲兵科大中佐ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍砲兵科中少佐陸軍工兵科中少佐陸軍砲兵科大尉陸軍輜重兵大尉陸軍一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス(同上法令ヲ以テ本條及以下二條ヲ加ヘ以下順次繰下ク)

第十九條　兵器課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　兵器彈藥及兵器費ヲ以テ支辨スル器具材料ニ關スル事項

二　要塞ノ砲床ニ關スル事項

三　兵器廠及砲兵工廠ニ關スル事項

第二十條　軍務局ニ定員ノ外他ニ本職アル各兵科大中尉ノ出仕將校八名ヲ置クコトヲ得

第二十一條　經理局ニ第一課第二課第三課ヲ置ク

第二十二條　經理局第一課長ハ陸軍一、二等監督ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員五人ヲ置キ陸軍二、三等監督監督補一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス

第二十三條　第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　陸軍總豫算決算報告及動員計畫ニ關スル事項

二　諸給與及會計規定ノ審査ニ關スル事項

三　俸給諸手當旅費ノ規程及簿記證書ニ關スル事項

四　監督部軍吏部ノ教育、人員補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項

五　金錢ニ係ル出納官吏ニ關スル事項

六　經理學校ニ關スル事項

第二十四條　經理局第二課長ハ陸軍一、二等監督ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員四人ヲ置キ陸軍二、三等監督監督補一等軍吏ヲ以テ之ニ補ス

第二十五條　第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　糧秣被服及馬匹ニ係ル給與ノ規程ニ關スル事項

二　糧秣被服ニ關スル事項

三　中央糧秣被服廠及千住製絨所ニ關スル事項

第二十六條　經理局第三課長ハ陸軍一、二等監督ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員四人ヲ置キ陸軍二、三等監督監督補一等軍吏技師ヲ以テ之ニ補ス

第二十七條　第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　陸軍用地及諸建築(工兵事業及砲兵工廠ニ關スルモノヲ除ク)ニ關スル事項

二　宅料、陣營具及其ノ永續料、消耗品料、埋葬料、並諸調度ノ規程

ニ關スル事項

三　金櫃公用行李、戰用炊具及馬匹手入具ニ關スル事項(同上法令ヲ以テ本項ヲ追加シ以下順次繰下ク)

四　官有財產ニ關スル事項

五　物品會計及出納官吏ニ關スル事項

六　東京陸軍經營部ニ關スル事項

第二十八條　醫務局ニ第一課第二課ヲ置ク

第二十九條　醫務局第一課長ハ陸軍一等軍醫正若クハ二等軍醫正ヲ以テ之ニ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍二、三等軍醫正藥劑監一等軍醫ヲ以テ之ニ補ス(明治三十年三月勅令第三十七號ニテ本條改正)

第三十條　第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　衛生部ノ教育ニ關スル事項

二　建築、被服、糧食、給水、排水等ノ衛生ニ關スル事項

三　防疫及治病ニ關スル事項

四　衛生材料ニ關スル事項

五　衛生統計及衛生報告ニ關スル事項

六　軍醫學校衛生會議及中央衛生材料ニ關スル事項

第三十一條　醫務局第二課長ハ陸軍一等軍醫正若クハ二等軍醫正ヲ以テ之ヲ補シ其ノ下ニ課員三人ヲ置キ陸軍二、三等軍醫正一等軍醫ヲ以テ之ニ補ス

第三十二條　第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　衛生部ノ人員補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項

二　衛生ニ係ル規程ノ審査ニ關スル事項

三　身體檢査及恩給診斷ニ關スル事項

四　傷痍疾病ニ因ル被役免狀ニ關スル事項

五　赤十字社其ノ他篤志者看護團ニ關スル事項

六　其ノ他衛生ニ關スル事項

第三十三條　各局課ノ課員ハ其ノ課長ノ命ヲ受ケ其ノ課務ニ從事セシム

第三十四條　法官部ニ部員四人ヲ置キ奏任理事ヲ以テ之ニ充テ部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事セシム

第三十五條　法官部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　軍事司法ニ關スル事項

二　監獄ニ關スル事項

三　法官部及監獄ノ人員ニ關スル事項

第三十六條　法官部ノ職員ハ高等軍法會議ノ事務ニ服ス

第三十七條　陸軍省ニ屬百三十八人錄事三人技手九人ヲ置ク

◎陸軍省處務細則

明治二十六年十月陸軍省達第九十八號

陸軍省處務細則別冊ノ通改正ス

陸軍省處務細則　(別冊)

第一章　總則

第一條　本省ハ各局各課ヲ以テ全體ノ機關トナシ局長ハ大臣ニ課長ハ局長ニ對シ主務擔保ノ責ニ任ス

第二條　局長課長ハ主任ノ事務ニ就キ各其職權ニ屬スル事項ハ之ヲ專行シ且法規ノ疑義質問等ニ對シテハ責任ヲ負ヒ之カ解釋ヲ與フルモノトス

第三條　尋常定例ノ省務ニ就キ陸軍全部若クハ一部又ハ他向ニ對スル通牒ハ次官ノ名ヲ以テシ其輕易ノ事件ハ高級副官ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第四條　局長ハ主任事務ニ就キ聯帶ノ各局長ト會議ノ必要アルトキハ大臣ニ請求シテ之ヲ開キ且所要ニ依リ課長ヲ列席セシムルコトヲ得

第五條　部長又ハ課長不在ノ爲メ代理ヲ要スルトキハ局長ニ在テハ大臣ヨリ課長ニ在テハ局長ヨリ特ニ代理ヲ命スルモノトス

一時ノ病氣事故不在ニ際シテハ前項ノ例ニ依ラス上席ノ者(局長ニ對シテハ其局課長ノ內、課長ニ對シテハ其課員ノ內)當務ヲ處辨シ輕易ノ常務ハ之レカ代理ヲナスコトヲ得

副官ノ內不在缺勤等ノトキハ互ニ其分掌ノ主務ヲ補助スルモノトス

第六條　本則ニ於テ各局長ノ爲メニ規定シタル條項ハ法官部上席部員ニ適用ス

第七條　大臣官房中副官ノ公務ヲ取扱フ所ヲ副官部ト稱ス
第八條　省ノ當直トシテ副官部ノ屬一人順次ニ宿直セシム
各局ニ於テ宿直ヲ設クルト否トハ局長ノ便宜定ムル所ニ任カス

第二章　服務

第九條　局長ハ大臣ノ命ヲ承ケ管掌ノ主務ヲ整理シ部下ヲ指揮監督ス
第十條　局長ハ主務整理ノ爲メ局内ノ服務規程ヲ定ムルコトヲ得
第十一條　副官ハ大臣次官ノ命ヲ承ケ左ノ事務ニ服シ尚ホ高級副官ハ副官部ノ事務ヲ監督ス

一　公文ノ審査、起草、決裁ヲ要スル書類ノ取扱、淨寫、記註ニ關スル事項
二　各局部課ニ屬セサル事項
三　公文書類ノ接受、發送ニ關スル事項
四　諸報告ノ取扱、記室ノ管理、官報局新聞社通報及印刷ニ關スル事項
五　靖國神社ニ關スル事項
六　統計及年報ニ關スル事項
七　編纂ニ關スル事項
八　電信取扱所、支關署、給仕、小使ノ管理及省内風紀ニ關スル事項

第十二條　秘書官ヲ兼ヌル副官ハ本務分掌ノ外大臣ニ專屬シテ機密文書ノ取扱秘密事務ニ服シ且大臣次官ノ官印及省印ヲ管守ス其他人事項ノ外上裁又ハ機密ニ關スル差使往復ヲ掌ル
第十三條　參事官ハ大臣官房ニ在テハ大臣次官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具申シ及法規ノ審査ニ服ス
第十四條　課長ハ局長ノ命ヲ承ケ課務ヲ擔任シ課員以下ヲ指揮シ調査起案審議點檢總テ課務ノ整理ニ任ス
第十五條　課員（法官部部員ヲ包含ス以下同シ）ハ課長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ服ス
第十六條　照ハ上官ノ命ヲ奉シ事務ニ服ス

第三章　文書取扱

第十七條　本省ニ到來スル文書ハ凡テ副官部ニ於テ授受開封シ件名番號等ヲ簿册ニ記入スヘシ
第十八條　主務副官ハ到來文書ヲ査閲シ各局（法官部人事課ヲ包含ス以下同シ）ノ審議ニ付スヘシト認定シタルモノ尋常ノ件ハ其主務ノ各局（軍務局ハ各課）ヲ標示シ直ニ之ヲ配付スヘシ
第十九條　前條受付タル文書ノ内重要ナル事項ハ高級副官ヨリ次官ノ査閲ニ供シ處分ノ指揮ヲ承クヘシ
第二十條　事ノ定例ニ係リ或ハ尋常ノ事件ニシテ大臣ノ處決ヲ要セス又各局ノ審議ヲ要セスト認ムルモノハ高級副官ニ於テ本紙ニ次官ノ印ヲ捺印シ次官ノ決裁ヲ請ヒ直ニ執行ス
前項ノ外輕易ノ事件ハ高級副官ノ處分檢印ヲ以テ直ニ執行スヘシ
第二十一條　大臣ニ宛テタル親展ノ文書ハ封皮ノ上ニ記號シ記簿ノ後副官ヨリ直ニ呈スルカ又ハ秘書官ニ交付スヘシ次官ニ宛テタル親展ノ文書モ此手續ニ依リ副官ヨリ呈スヘシ進呈ノ後尋通文書ノ取扱トナルモノハ前三條ノ例ニ依ル
封皮上（人）ノ番號アルモノハ人事課長ニ送付スヘシ
第二十二條　凡ソ送付ノ文書ハ送達簿ニ受領者ノ檢印ヲ要スヘシ
第二十三條　事ノ數局ニ關聯スル文書ハ主務ノ局ニテ處分審案ヲ起草シ關係諸局ノ連印ヲ要スヘシ若シ彼此意見ヲ異ニスルトキハ面議商量シ尚ホ決セサルトキハ直ニ大臣又ハ次官ニ面陳スヘシ附箋ヲ以テ意見ヲ陳フルヲ得ス
第二十四條　各局調査濟ノ審案ハ之ヲ副官部ニ囘付シ高級副官ハ審査ノ上之ニ檢印シテ次官ニ呈シ次官査閲檢印ノ上大臣ノ決裁ヲ請フヘシ前項ノ場合ニ在テ重要ナル法規案ハ其審査ヲ要スル爲メ參事官ニ交付スヘシ
日常尋通ノ省務ハ次官査閲檢印ノ上直ニ執行スヘシ
前項ノ外輕易ノ事件ハ高級副官ニ於テ處分檢印シテ執行スヘシ
第二十五條　事ノ急施ヲ要シ定規ノ順序ヲ經ル能ハサル場合又ハ機密ニ係ルモノハ通常ノ手續ニ依ラス直ニ大臣又ハ次官ニ面陳スヘシ
第二十六條　凡テ人事ニ係ル事件ハ人事課長ノ擔任ニ屬シ上奏又ハ閣議ニ提出スルモノモ亦人事課長ノ所掌トス

第二十七條　人事及機密ノ文書ハ通常ノ手續ニ依ラス便宜主務者ニ於テ自カラ携帶シテ諮ヲ取リ又ハ祕封シ主任者ト授受スルヲ要ス其決裁濟施行ニ至ル迄ノ順序モ亦便宜ニ從ヒ別ニ人事及機密文書ノ件名簿ヲ調整シテ登錄スヘシ
第二十八條　高級副官ハ公文原書若クハ審案書ニ大臣又ハ次官檢印ノ濟否ヲ點檢シ其檢印濟ノ者ハ紙端ニ（囘）ノ字印ヲ捺シ淨寫ニ附シ未濟ナル者ハ特命アルモノノ外ハ淨寫送達スヘカラス
第二十九條　總テ送達スヘキ文書ハ副官部ニ於テ淨寫記註ノ上僕隷二人之レカ校合ノ證トシテ共ニ紙端ニ小印ヲ押シ送達日記ニ事件ノ大要ヲ錄シ一貫ノ番號ヲ記シ尚ホ本書ノ番號ヲ付シ主務副官ノ點檢ヲ受ケテ送達スヘシ
人事ニ係ル件人事課ニ於テ取扱フモノモ亦此例ニ同シ
大臣次官ノ印及省印ヲ要スル文書ハ秘書官ニ於テ其印ヲ捺ス
第三十條　總テ令達若クハ通牒等ニ添フヘキ書類表面圖面等ハ其發送ニ要スヘキ數ヲ其主務ノ局（軍務局ハ各課）ニ於テ調製スヘシ但印刷ニ付スヘキモノハ此限リニアラス
第三十一條　各局ヨリ呈出シタル文書ハ決裁濟ノ上ハ指令ヲ要スルモノト雖トモ別ニ指令ヲ爲サス副官部ニ於テ其本書綴外ニ（決裁濟）印竝關係諸局（軍務局ハ各課）ノ印ヲ押シ更ニ之ヲ廻送ス其局（軍務局ハ各課）ニ於テハ領知ヲ證スル爲メ印下ヘ局長課長若クハ課員ノ内押印シテ速ニ返送スヘシ但其書面ノ結局一船ヘ令達若クハ通牒トナリシモノハ其令達通牒ニテ領知スヘキヲ以テ別ニ本書廻送ノ手續ヲ爲サス
第三十二條　各局（軍務局ハ各課）ニ於テ文書ヲ受領スレハ日錄ニ其要領ヲ簡短ニ記註シ日錄ノ番號ヲ官房ノ受領番號ノ下ニ記註シタル上審議應答ノ手續ヲ爲スヘシ若シ單ニ一覽ニ止ムルモノハ其閲覽ヲ證スル爲メ本書ニ局長課長若クハ課員ノ内押印シテ副官部ニ返送スヘシ
第三十三條　副官部ニ於テハ各局（軍務局ハ各課）ニ送付シタル文書ノ内審案ヲ要スルモノニシテ毎月末日ニ於テ完結セサルモノアルトキハ稽緩目錄ヲ發シ各局（軍務局ハ各課）ニ於テハ其延滯スル理由ヲ右目錄書ニ記入シテ返付スヘシ而シテ高級副官ハ點檢ノ上次官ノ査閲ニ供スヘシ

◎陸軍軍人ヲ定員外ト爲スノ件

明治二十七年九月勅令第百六十三號

陸軍軍人ニシテ動員セシ部隊若クハ戰時特設部隊附ヲ命セラレタル者ヲ定員外ト爲スノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍人ニシテ本職ノ儘動員セシ部隊若クハ戰時特設部隊附ヲ命セラレタル者ハ本屬官衙及團隊ノ必要ニ應シ之ヲ定員外トシ其補缺ヲ爲スコトヲ得

◎陸軍通譯生ニ關スル件

明治二十九年九月勅令第三百六號

陸軍通譯生ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　外國語ヲ通譯スルノ必要アル陸軍官衙及各部ニ於テハ判任官定員以内ヲ以テ陸軍通譯生ヲ置クコトヲ得

第二條　陸軍通譯生ハ判任トス

第三條　陸軍通譯生ハ文官任用令ノ規程ニ依ラス文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

陸地測量部條例

勅令第百七十四號　明治二十五年八月

陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シ兵要地圖及一般ノ國用ニ充ツル爲メ陸軍編修ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸軍編修官ヲ置ク

第二條　陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク

第三條　陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	少將或各兵科大佐（明治二十九年五月勅令第百二號ヲ以テ本項改正）
參事官	各兵科少佐及陸軍文官
三角科主任	各兵科大尉
庶務長	各兵科少將（同上勅令ヲ以テ本條改正）二十八年三月勅令第三十六號ニテ本項改正）
科長	各兵科少佐或ハ少尉
班長	各兵科少佐或ハ大尉
班員	各兵科大中少尉或ハ相當陸地測量師及陸地測量手
修技所幹事	各兵科大尉
修技所教官	各兵科大中少尉或ハ相當陸地測量師
修技所助教	陸地測量手

第四條　部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ及陸地測量官衙成ノ責ニ任ス

第五條　事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部內ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第六條　三角科主官ハ部長ノ命ヲ受ケ器具三角及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第七條　庶務ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部內ノ會計物品ノ保管ヲ掌リ其下ニ出納記或ハ陸軍屬ヲ置ク

第八條　三角科ハ最初ノ基點ヲ設ケ地形科ノ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製シ修正シ製圖科ハ地形科ノ測量及水準測量ヲ施行シ又ハ諸測量ノ原圖ヲ製シ修正ス

第九條　修技所ハ陸地測量ヲ練成スルノ所ニシテ測量手ヲ製造シ及現役將校ニ對シ再教育ヲ施シ又ハ陸地測量ニ關スル學術ノ研究ヲ爲ス

第十條　科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各其科ノ整理ニ任ス

第十一條　科長ハ科長ノ命ヲ受ケ科內ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條　班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事務ヲ管理ニ任ス

第十三條　班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス

第十四條　科長ハ陸地測量ヲ以テ之ヲ充ツルニ不得

第十五條　修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所內ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十六條　修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ學術科ノ教授ヲ分掌ス

第十七條　修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若ハ學識アル者ヲ選ヒテ之ヲ囑託スルヲ得

陸地測量官官制

勅令第三十二號　明治二十二年三月

陸地測量官官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸地測量官官制

第一條　陸地測量官ハ參謀本部長ノ指揮ヲ承ケ陸地測量ノ綜務ニ從事セシムル爲メ陸軍測量官ヲ置ク

第二條　陸地測量官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其綜務ニ關シテハ陸地測量部長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條　陸地測量官ヲ分テ陸地測量師及陸地測量手トス

第四條　陸地測量師ハ奏任トシ陸地測量手ハ判任トス

陸軍編修官官制

勅令第二十三號　明治二十六年六月

陸軍編修官官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍編修官官制

第一條　兵要地理及編修ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸軍編修官ヲ置ク

第二條　陸軍編修官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ參謀總長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條　陸軍編修官ヲ分テ陸軍編修及陸軍書記トス

第四條　陸軍編修ハ奏任トシ陸軍書記ハ判任トス

第五條　陸軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ

編修	四人
編修書記	十四人

陸軍監獄官官制

勅令第二百四十二號　明治二十六年十月

陸軍監獄官官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍監獄官官制

第一條　陸軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

陸軍監獄長
陸軍監獄書記
陸軍監獄看守長
陸軍監獄看守

第二條　監獄長ハ奏任トシ監獄書記及監獄看守長ハ判任トシ監獄看守ハ判任官待遇トス

第三條　監獄長ハ衛戍司令官若クハ屯山兵司令官ニ隸シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條　監獄長ハ陸軍總制令ニ定ムル所ニ從ヒ監獄所屬員ヲ懲戒ス

第五條　監獄書記ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　監獄長非役アルトキハ上席監獄書記其ノ事務ヲ代理ス

第七條　監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ監獄看守ヲ指揮監督ス

第八條　監獄看守ハ監獄看守長ノ命ヲ承ケ看守、護送及門衛等ノ事ニ服ス

陸軍經營部條例

勅令第百五十七號　明治二十年四月

陸軍經營部條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍經營部條例

第一條　陸軍經營部ハ東京及各地師團駐屯且兵營所在地ニ之ヲ置キ陸軍所屬ノ廨營、倉庫、非他ノ建造物竝地所ヲ管理シ建築修繕ノ事務ヲ掌ル所トス但工兵非常及他兵工廠ニ屬スルモノハ此限ニ非ス

第二條　經營部ハ某地陸軍經營部ト稱ス

第三條　經營部ニ左ノ職員ヲ置ク

主管	一等軍吏
計算官	二三等軍吏

第四條　東京陸軍經營部主管ハ經理部長ニ隸シ其他各地陸軍經營部主管ハ當該監督部長ニ隸シ部務ヲ總理シ管內ノ非訟ニ就テハ陸軍經營部第三課長及近衛第一兩師團經營部長ノ命ヲ承ク

第九條　監獄看守長及監獄看守ハ職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ヒ制服ヲ著ス

第十條　監獄內ノ衛生非務ハ監獄看守長ノ指揮ニ從ヒ醫師ヲシテ之ヲ掌ラシム但札幌仙臺兵平廣島及近衛師團所在ノ衛戍病院ニ於テハ各其院長ヲシテ之ヲ掌ラシム

第十一條　本令施行前ヨリ陸軍監獄ニ職ヲ奉スル下士ハ本令施行ノ日以下十二ヶ年現役滿期トス

本令中監獄看守ニ關スル規程ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第十二條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ在職ノ者ハ後備役ニ服セシム但明治二十四年勅令第百八十七號施行以前ニ任セラレタル下士ニシテ服役年數七年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム但明治二十四年勅令第百八十七號施行以前ニ任セラレタル下士ニシテ服役年數七年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム但明治二十四年勅令第百八十七號施行以前ニ任セラレタル陸軍監獄ニ職ヲ奉スル下士ハ本令施行ノ日ヨリ

第五條　計算官ハ主管ノ命ヲ承ケ計算事務ヲ掌ル

第六條　第三條ニ掲クル職員ノ外其ノ事務ニ從フ

陸軍砲兵會議條例

明治三十二年勅令第十二號

陸軍砲兵會議條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　陸軍砲兵會議ハ砲兵技術及兵器材料（砲兵令第二條ニ掲クル職員ノ外其ノ事務ニ從フ者ヲ除ク）ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應シ且非常ノ場合ニ於テ陸軍大臣ノ諮詢ニ應スルノ外必要ト認ムルトキハ意見ヲ具申スルコトヲ得

第二條　陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長　少將若クハ砲兵佐官

議員　各兵科佐官

臨時議員　各兵科各部上長官又ハ陸軍技師

書記官　砲兵佐官同大尉

第三條　前條ニ掲クル職員ノ外其ノ事務ニ從フ者ノ下ニ工兵上等議員、工兵下士並ニ技手ヲ置ク

第四條　議長ハ陸軍大臣ニ隷シ陸軍大臣ノ命ヲ承ケ會議一切ノ事務ヲ整理シ會議ノ事項ニ關シテハ議事ノ經過ヲ陸軍大臣ニ報告ス

第五條　書記官ハ試驗ノ爲メ必要ト認ムルモノハ其種類ニ應シ陸軍戸山學校、陸軍騎兵實施學校、陸軍野戰砲兵射撃學校ニ於テ實施セシムルモノトス

第六條　砲工兵兩科ノ技術ニ跨カル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ於テハ陸軍大臣ハ會議ヲ總理スルノ必要アルトキハ會議ニ臨ミ又ハ其ノ代理者ヲシテ會議ヲ總理セシムルモノトス

第七條　議長不在ノトキハ議員中高級ノ者其代理ヲ務ム

第八條　陸軍砲兵會議ニ係ル事務ニ關シテハ陸軍大臣ニ建議スルモノニ在テハ議案ニ關シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第九條　陸軍砲兵會議ノ立案ニ係ル事項ハ陸軍大臣ニ建議スルモノニ在テハ議案ニ關シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ但輕易ノ事項ニシテ陸軍大臣ニ建議スルノ必要ナシト認ムルモノニ在テハ議案ニ關シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條　陸軍砲兵會議ハ議長ノ認可ヲ請フヘシ

第十一條　總議員三分一以上出席スルニアラサレハ議決ヲ開キ議事ヲ決スルコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議決ヲ開キ議事ヲ決スルコトヲ得

第十二條　議長ハ議決ノ數ヲ擇ヒ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條　議長ハ議事ノ經過ヲ記載シ且會議ノ事務ヲ總理シ會議ノ決スル所ニ依リ之ヲ公布セシム

第十四條　輕易ノ事項ニシテ議事ニ關スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ直ニ之ヲ施行スルコトヲ得

第十五條　試驗ノ爲メ必要ト認ムルモノハ其種類ニ應シ陸軍戸山學校、陸軍野戰砲兵射撃學校ニ於テ實施セシムルモノトス

第十六條　砲工兵兩科ノ技術ニ跨カル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ於テハ陸軍大臣ハ會議ヲ總理スルノ必要アルトキハ會議ニ臨ミ又ハ其ノ代理者ヲシテ會議ヲ總理セシムルモノトス

第十七條　合同會議ニ於テハ陸軍大臣ノ特設スル會議ニシテ砲工兵兩會議ノ開クモノトス此場合ニ於テハ陸軍大臣ハ會議ヲ總理スルノ必要アルトキハ會議ニ臨ミ又ハ其ノ代理者ヲシテ會議ヲ總理セシムルモノトス

第十八條　合同會議ニ關スル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十九條　砲工兵兩會議ノ特設ニ關スル事項ハ第五條ノ事項ニ準ス

陸軍工兵會議條例

明治三十年七月勅令第二百三十七號

陸軍工兵會議條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　陸軍砲兵會議條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第二條　陸軍工兵會議ハ工兵技術及兵器材料（砲兵會議ニ關スル所ト（明治三十二年一月勅令第十二號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第三條　陸軍工兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長　少將若クハ工兵佐官

議員　工兵佐官

臨時議員　各兵科各部上長官又ハ陸軍技師

書記官　工兵佐官同大尉

第四條　議長ハ陸軍大臣ニ隷シ陸軍大臣ノ命ヲ承ケ會議一切ノ事務ヲ整理シ會議ノ事項ニ關シテハ議事ノ經過ヲ陸軍大臣ニ報告ス

第五條　書記官ハ試驗ノ爲メ必要ト認ムルモノハ其種類ニ應シ陸軍戸山學校、陸軍野戰砲兵射撃學校ニ於テ實施セシムルモノトス

第六條　砲工兵兩科ノ技術ニ跨カル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ於テハ陸軍大臣ハ會議ヲ總理スルノ必要アルトキハ會議ニ臨ミ又ハ其ノ代理者ヲシテ會議ヲ總理セシムルモノトス

第七條　合同會議ニ於テハ開クモノトス此場合ニ在テハ議長ハ陸軍大臣ノ特設スル者ヲ以テ之ニ充ツ

第八條　合同會議ニ關スル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第九條　合同會議ニ關スル事項ハ第五條ノ事項ニ準ス

陸軍衛生會議條例

明治三十一年勅令第九十五號

陸軍衛生會議條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　陸軍衛生會議ハ陸軍衛生ニ關スル事項ヲ議スル所トス

第二條　衛生會議ハ陸軍大臣ノ特設スル會議ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ於テハ陸軍大臣ハ會議ヲ總理スルノ必要アルトキハ會議ニ臨ミ又ハ其ノ代理者ヲシテ會議ヲ總理セシムルモノトス

第三條　衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十一年十一月勅令第三百九十八號ヲ以テ「陸軍」ヲ「陸軍」ノ下ニ「若ハ一等軍醫正ノ七字ヲ加ヘ）

議長　一等軍醫正若ハ一等軍醫正　一人

非常勤議員　一等軍醫若ハ二等軍醫　二人

書記官　若干人

第四條　議長ハ陸軍大臣ニ隷シ會議ノ事務ヲ總理シ會議ノ決スル所ニ依リ之ヲ公布セシム

第五條　議長ハ事故アルトキハ其ノ指名シタル議員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム

第六條　議長ハ會議ノ必要ニ應シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第七條　議長ハ他ノ事務ニ關シテハ議員中高級ノ者ヲシテ其ノ代理ヲ務ム

第八條　議長不在ノトキハ議員中高級ノ者ヲシテ會議ヲ總理セシム但議長ハ非常勤ニシテ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第九條　陸軍衛生會議ノ立案ニ係ル事項ハ陸軍大臣ニ建議スルモノニ在テハ議案ニ關シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ但輕易ノ事項ニシテ陸軍大臣ニ建議スルノ必要ナシト認ムルモノニ在テハ議案ニ關シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ（同上）

第十條　陸軍衛生會議ハ陸軍衛生ニ關スル事項ヲ議スル所トス

第十一條　總議員三分一以上出席スルニアラサレハ議決ヲ開キ議事ヲ決スルコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議決ヲ開キ議事ヲ決スルコトヲ得

第十二條　議長ハ議決ノ數ヲ擇ヒ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條　議長ハ議事ノ經過ヲ記載シ且會議ノ事務ヲ總理シ會議ノ決スル所ニ依リ之ヲ公布セシム

第十四條　輕易ノ事項ニシテ議事ニ關スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ直ニ之ヲ施行スルコトヲ得

第十五條　試驗ノ爲メ必要ト認ムルモノハ其種類ニ應シ陸軍戸山學校、陸軍野戰砲兵射撃學校ニ於テ實施セシムルモノトス

第十六條　砲工兵兩科ノ技術ニ跨カル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ於テハ陸軍大臣ハ會議ヲ總理スルノ必要アルトキハ會議ニ臨ミ又ハ其ノ代理者ヲシテ會議ヲ總理セシムルモノトス

第十七條　合同會議ニ於テハ開クモノトス此場合ニ在テハ議長ハ陸軍大臣之ヲ特設スル者ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條　合同會議ニ關スル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十九條　合同會議ニ關スル事項ハ第五條ノ事項ニ準ス

陸軍衛生會議條例

明治三十一年十二月勅令第九十五號

陸軍衛生會議條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍衛生會議條例

第一條　陸軍衛生會議ハ陸軍衛生ニ關スル事項ヲ議スル所トス

第二條　衛生會議ハ陸軍大臣ノ特設スル會議ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ於テハ陸軍大臣ハ會議ヲ總理スルノ必要アルトキハ會議ニ臨ミ又ハ其ノ代理者ヲシテ會議ヲ總理セシムルモノトス

第三條　衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十一年十一月勅令第三百九十八號ヲ以テ「陸軍」ヲ「陸軍」ノ下ニ「若ハ一等軍醫正ノ七字ヲ加ヘ）

議長　陸軍軍醫若ハ一等軍醫正　一人

非常勤議員　一等軍醫若ハ二等軍醫　二人

書記官　若干人

第四條　議長ハ陸軍大臣ニ隷シ會議ノ事務ヲ總理シ會議ノ決スル所ニ依リ之ヲ公布セシム

第五條　議長ハ事故アルトキハ其ノ指名シタル議員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム

第六條　議長ハ會議ノ必要ニ應シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第七條　議長不在ノトキハ議員中高級ノ者ヲシテ會議ヲ總理セシム但議長ハ非常勤ニシテ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第八條　陸軍衛生會議ノ立案ニ係ル事項ハ陸軍大臣ニ建議スルモノニ在テハ議案ニ關シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ但輕易ノ事項ニシテ陸軍大臣ニ建議スルノ必要ナシト認ムルモノニ在テハ議案ニ關シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ（同上）

第九條　陸軍衛生會議ハ陸軍衛生ニ關スル事項ヲ議スル所トス

第十條　陸軍衛生會議ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十一條　總議員三分一以上出席スルニアラサレハ議決ヲ開キ議事ヲ決スルコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議決ヲ開キ議事ヲ決スルコトヲ得

第十二條　議長ハ議決ノ數ヲ擇ヒ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條　議長ハ議事ノ經過ヲ記載シ且會議ノ事務ヲ總理シ會議ノ決スル所ニ依リ之ヲ公布セシム

第十四條　輕易ノ事項ニシテ議事ニ關スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ直ニ之ヲ施行スルコトヲ得

第十五條　試驗ノ爲メ必要ト認ムルモノハ其種類ニ應シ陸軍戸山學校、陸軍野戰砲兵射撃學校ニ於テ實施セシムルモノトス

第十六條　砲工兵兩科ノ技術ニ跨カル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ於テハ陸軍大臣ハ會議ヲ總理スルノ必要アルトキハ會議ニ臨ミ又ハ其ノ代理者ヲシテ會議ヲ總理セシムルモノトス

第十七條　合同會議ニ於テハ開クモノトス此場合ニ在テハ議長ハ陸軍大臣之ヲ特設スル者ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條　合同會議ニ關スル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十九條　合同會議ニ關スル事項ハ第五條ノ事項ニ準ス

第二項ヲ議スルニ方リ醫務局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ各兵科並ニ監督部醫部上長官或ハ高等文官ニ臨時議員ヲ命セラレンコトヲ陸軍大臣ニ具申シ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命ス臨時議員ハ其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス（同上法令ニテ「陸軍教授陸軍技師」ヲ「高等文官」ニ改ム）

第五條　議事ヲ別テ二種トス

一　衛生部内又ハ醫學的ニ關スル事項

二　軍部一般ニ渉ル衛生ノ事項

第六條　議長ハ議事ヲ整理シ會議諸般ノ事務ヲ總理ス

第七條　事務官ハ會議ニ關スル事務ヲ分擔ス

第八條　議事ニ當リ議長不在ナルトキハ議員中衛生部上長官ニシテ高級ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ

第九條　議案ハ醫務局長ヨリ發スルモノ又ハ會議ノ立案ヨリ成ルモノトス但シ會議ノ立案ニ係ルモノハ豫メ醫務局長ノ承認ヲ受クヘシ

第十條　凡ソ議事ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十一條　議決ノ上ハ其議決書ヲ醫務局長ニ進逸スルモノトス

第十二條　物件ノ試驗又ハ模範等製造ノ爲メ費用ヲ要スルトキハ其理由ヲ悉シ豫算書ヲ添テ醫務局長ニ具申スヘシ

第十三條　會議常用ノ諸物品ハ醫務局ヨリ之ヲ支給ス

軍馬衛生會議條例

明治二十九年五月勅令第百九十七號

陸軍馬衛生會議條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　軍馬衛生會議ハ陸軍省軍務局長ノ管理ニ屬シ軍馬ノ衛生及陸軍獸醫ノ學術ニ關スル諸般ノ事項ニ就キ諮詢ニ應スル所トス

第二條　軍馬衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長　騎兵砲兵輜重兵科上長官衛生部上長官

議員　獸醫監、臨時議員　獸醫監一等獸醫

事務官　獸醫監一等獸醫

第三條　前條ノ職員ノ外事務官ノ下ニ下士、屬、技手ヲ置ク

第四條　議長ハ陸軍省軍務局長ニ隷シ議事ヲ整理シ會議ノ事務ヲ總理ス

第五條　事務官ハ會議ノ事務ヲ處理シ且審査ヲ分擔シ其分擔ノ事項ニ關シテハ議事ニ列シ說明答辯ノ任ニ當ル

第六條　議長及議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス臨時議員ハ議事上必要ニ應シ軍務局長ノ稟申ニ由リ陸軍大臣他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ命シ議事了レハ直チニ解任スルモノトス

第七條　議長不在ノトキ議事ニ關シテハ職員中會議ノ事務ニ關シテハ事務官中高級故參ノ者其代理ヲ爲スヘシ

第八條　軍馬衛生會議ハ軍馬ノ衛生及陸軍獸醫ノ學術ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍省軍務局長ニ建議スルコトヲ得

第九條　軍馬衛生會議ノ議事規則ヲ議定シ陸軍省軍務局長ノ認可ヲ請フヘシ

陸軍管區表

明治二十九年十二月勅令第三百八十一號

陸軍管區表改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍管區表左ノ通改正シ明治二十年四月一日ヨリ施行ス（明治三十一年四月勅令第三十四號ヲ以テ表中第三、第六、第七、第九、第十、第十二ノ區並ヲ改正シ尚備考中ニ在セシ「及沖繩ノ」四字ヲ削リ同年四月一日ヨリ施行シ尚同三十二年三月勅令第五十三號ヲ以テ本表ニ改正ヲ加フ）

師管	聯隊區	警備隊區	管轄府縣
麻布			麻布區麹町區神田區日本橋區京橋區芝區四谷區小石川區牛込區赤阪區四谷區豊多摩郡南多摩郡北多摩郡伊豆七島
	東京	東京	
		神奈川	神奈川縣

師管	聯隊區	警備隊區	管轄府縣
第一	横濱	横濱	神奈川縣中郡久良岐郡都筑郡三浦郡高座郡愛甲郡津久井郡足柄上郡足柄下郡
	高崎	高崎	群馬　入間郡比企郡秩父郡兒玉郡大里郡
	長野	長野	長野
	佐倉	千葉	水戸市東茨城郡西茨城郡那珂郡多賀郡茨城久慈郡鹿島郡行方郡新治郡筑波郡稻敷郡北相馬郡
	水戸	水戸	
	本郷	本郷	本郷區淺草區下谷區北足立郡南埼玉郡東京南葛飾郡本所區深川區埼玉郡北埼玉郡北豊島郡南足立郡北豊島郡北葛飾郡
	宇都宮	宇都宮	栃木　茨城　猿島郡結城郡
		小笠原島	東京小笠原島
第二	仙臺	仙臺	黒澤市宮城郡柴田郡刈田郡伊具郡亘理郡宮城仙川郡加美郡志田郡玉造郡遠田郡桃生郡牡鹿郡伊達郡
	福島	福島	福島　信夫郡安達郡岩瀬郡南會津郡北會津郡耶麻郡河沼郡大沼郡東白川郡石川郡田村郡石城郡雙葉郡西白河郡
	新發田	新潟	新潟市南蒲原郡北蒲原郡中蒲原郡西蒲原郡東蒲原郡岩船郡古志郡
	柏崎	新潟	刈羽郡三島郡北魚沼郡南魚沼郡中魚沼郡東頸城郡中頸城郡西頸城郡
		佐渡	新潟　佐渡郡
第三	豊橋	愛知	愛知　東加茂郡南設樂郡北設樂郡額田郡碧海郡　引佐郡
	静岡	静岡	静岡　周知郡富士郡庵原郡駿東郡小笠郡
	大阪	大阪	大阪　西區東區南區北區堺市北郡東成郡南河内郡中河内郡北河内郡泉北郡泉南郡
	和歌山	和歌山	和歌山　奈良　吉野郡宇智郡　兵庫津名郡三原郡
	大津	滋賀	三重　阿山郡名賀郡
第四	京都	京都	京都　上京區下京區愛宕郡葛野郡紀伊郡乙訓郡奈良添上郡生駒郡宇賀郡山邊郡北葛城郡南葛城郡
	姫路	兵庫	兵庫　神名郡
	鳥取	鳥取	鳥取　岩美郡八名郡賀露郡四加茂郡北設樂郡額田郡
	松江	島根	島根　周吉郡隱地郡
	岡山	岡山	岡山　小田郡後月郡哲多郡川上郡
	廣島	廣島	廣島　廣島市安藝郡加茂郡豊田郡高宮郡
		沼田	廣島　沼田郡山縣郡高田郡
第五	山口	山口	山口　大島郡玖珂郡熊毛郡都濃郡佐波郡吉敷郡厚狹郡美禰郡大津郡阿武郡
	濱田	濱田	島根　松江市八束郡能義郡仁多郡大原郡飯石郡簸川郡
		鳥取	鳥取　鹿足郡　邇摩郡安濃郡邑智郡那賀郡美濃郡
		隱岐	島根　海士郡知夫郡
	廣島	廣島	廣島　御調郡世羅郡甲奴郡神石郡沼隈郡安那郡深津郡蘆田郡品治郡阿賀郡上房郡賀陽郡下道郡都宇郡窪屋郡小田郡後月郡哲多郡川上郡
	尼道	尼道	岡山　邑久郡
		岡山	岡山　津高郡
		廣島	廣島　高宮郡
		福山	廣島　深安郡芦品郡
	小倉	福岡	福岡　京都郡築上郡企救郡田川郡
		小倉	福岡　遠賀郡鞍手郡宗像郡糟屋郡
	久留米	久留米	福岡　三潴郡三井郡山門郡三池郡生葉郡竹野郡上妻郡下妻郡
		福岡	福岡　福岡市博多
		佐賀	佐賀　佐賀郡小城郡神埼郡三根郡三養基郡東松浦郡西松浦郡北高來郡南高來郡
	熊本	熊本	熊本　熊本市飽託郡宇土郡玉名郡上益城郡下益城郡八代郡葦北郡球磨郡天草郡
	大村	長崎	長崎　長崎市西彼杵郡北彼杵郡北松浦郡南高來郡北高來郡壹岐郡
		鹿兒島	鹿兒島　鹿兒島市鹿兒島郡日置郡揖宿郡川邊郡出水郡伊佐郡薩摩郡
	宮崎	宮崎	宮崎　東諸縣郡北諸縣郡
		鹿兒島	鹿兒島　姶良郡

| | | |

第十四條　第三條第四條第五條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士ヲ置ク

附　則

第十五條　新設師團設置ニ至ルマテ近衛第一師團ヲ除クノ外師團監督部ノ管轄スヘキ區域ハ從前ノ管區ニ依ル但必要ノ場合ニ於テハ陸軍大臣ハ監督部ノ管轄スヘキ事務ノ區域ヲ指定スルコトヲ得

第十六條　本條例第四條ニ掲クル職員ハ都督部設置ニ至ルマテ第三條ノ例ニ依ル

第十七條　明治二十三年勅令第五十六號師團監督部條例同年勅令第百八十三號第七師團監督部條例ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

◉近衛師團監督部管轄區域

明治二十九年九月陸軍省達第百四十號

明治二十三年陸達第五十五號左ノ通改正シ來ル十月一日ヨリ施行ス

師團監督部條例第七條但書ニ依リ管轄スヘキ事務區域左ノ通定ム

近衛師團監督部管轄

一　近衛師團及其管轄ノ部隊
一　臨時陸軍建築部及同東京支部
一　憲兵司令部及第一憲兵隊
一　砲兵會議
一　軍馬衛生會議
一　砲兵第一方面本署及同東京、横須賀支署
一　東京砲兵工廠
一　軍馬補充部本部

第一師團監督部管轄

一　第一師團及其管轄ノ部隊
一　參謀本部及其管轄ノ官廳
一　監軍部及其管轄ノ官廳
一　都督部
一　工兵會議
一　東京防禦總督部
一　東京灣要塞司令部
一　工兵第一方面本署竝同横須賀支署及同東京材料廠
一　中央衛生材料廠
一　砲兵工科學校
一　經理學校
一　軍醫學校
一　獸醫學校

◉旅團司令部條例

明治二十九年三月勅令第五十四號

旅團司令部條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

旅團司令部條例

第一條　旅團長ハ少將ヲ以テ之ニ補シ部下ノ歩兵二聯隊ヲ統率ス

第二條　聯隊內ノ訓練、風紀、將校ノ教育、內務經理及動員計畫ノ事ハ聯隊長ノ責任ニシテ旅團長之ヲ統監ス

第三條　旅團長ハ旅團ヲ以テスル訓練ニ任シ又支隊演習ヲ統監ス

第四條　臨機變亂ノ事アル際シ地方長官ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ニシテ指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ直ニ之ニ應シテ後師團長ニ報告スヘシ

第五條　副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且ツ會計ノ事ヲ管理ス

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

附　則

第七條　本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

◉聯隊區司令部條例

明治二十九年三月勅令第五十六號

旅聯隊區司令部條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

聯隊區司令部條例

第一條　各聯隊區ニ司令部ヲ置ク其ノ職員左ノ如シ

司令官　佐官

副官　大(中)尉

軍醫

軍吏

書部

司令官以下ハ現役、豫備、後備ノモノヲ以テ充ツルコトヲ得其ノ豫備、後備ノモノノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二條　司令官ハ師團長ニ隷シ聯隊區內徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條　司令官ハ聯隊區內ニ現在スル在鄉陸軍軍人及各補充兵役ニ在ル者ノ身上異動其ノ他願届ニ關スル事ヲ掌ル

第四條　副官ハ司令部一般ノ事務ニ服ス

第五條　軍醫ハ徵兵、志願兵及諸生徒志願者ノ身體檢査ニ從事シ且之ニ關スル事務ヲ管理ス

第六條　軍吏ハ會計一般ノ事務ニ服ス

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

第八條　各聯隊區司令部ノ位地ハ左ノ如シ(明治三十一年三月勅令第三十五號ヲ以テ「根室」ヲ「釧路」ニ「十勝」ヲ「旭川」ニ「岡山」ヲ「鳥取」ニ改メ同年四月一日ヨリ施行ス)

本郷	宇都宮	佐倉	水戸
高崎	長野	仙臺	福島	新發田	横濱
名古屋	洋	豐橋	靜岡	大阪	柏崎
大津	京都	鹿兒島	尾道	山口	和歌山
熊本	大村	宮崎	札幌	函館	濱田
釧路	旭川	盛岡	秋田	山形
金澤	富山	岐阜	福知山	神戸
姫路	鳥取	德島	松山	高知
小倉	久留米	佐賀		

附　則

第九條　濱田、大村、弘前、敦賀、久留米各聯隊區司令部ハ當分其ノ區內ニ於テ從前ノ大隊區司令部所在地ニ置クコトヲ得

第十條　本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第十一條　大隊區司令部條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◉旭川聯隊區所管事務執行ノ件

明治三十一年三月
陸軍省令第五號

第七師管旭川聯隊區ニ司令部設置迄同聯隊區ニ係ル事務ハ札幌聯隊區司令部ニ於テ執行ス

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

◉衛戍條例

明治二十八年十月
勅令第百三十八號

旅衛戍條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

衛戍條例

第一條　陸軍軍隊ノ永久一地ニ配備駐屯スルヲ衛戍ト稱シ東京ニ在テハ東京防禦總督各要塞ニ在テハ要塞司令官其他ニ在テハ其地屯在ノ高級團隊長之ヲ司令官タルモノトス

衛戍司令官タル東京防禦總督各要塞司令官及團隊長ハ衛戍勤務上ニ於テモ亦其所屬上官ノ區處ヲ受クルモノトス

第二條　東京防禦總督部要塞司令部及團隊ノ副官ハ其總督司令官及團隊長衛戍司令官タルトキハ衛戍副官ヲ兼ヌ

第三條　各衛戍地ニハ所要ニ應シ監獄ヲ置キ衛戍司令官ノ管轄トス又其衛戍地ノ陸軍諸官廳及陸軍ノ建築物ニ關スル火災水害等ノ救防ハ衛戍勤務ニ屬ス(三十一年四月勅令第七十八號ヲ以テ本條改正)

第四條　衛戍司令官ハ衛戍地警備ノ責ニ任シ衛戍勤務ニ關シテハ其地駐屯ノ軍隊ヲ指揮シテ衛兵ノ部署及其人員ヲ定ム

但衛戍勤務ヲ以テ近衛師團ノ禁闕守衛勤務ヲ妨クルコトナシ(同二十九年勅令第三號ヲ以テ本條改正)

第五條　衛戍司令官ハ警備上必要ト認ムル時ハ衛戍上其管轄ニ屬セサル軍隊ト雖其衛戍地ニ駐在スル者ニ對シ援助ヲ請求シ又憲兵ヲシテ地方ノ情勢ヲ報告セシメ且次急ノ場合ニ際シテハ直ニ之ニ命令スルコトヲ得

第六條　前條ノ請求ヲ受ケタル團隊長ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條　衛戍地ニ駐在スル軍隊ハ衛戍司令官ノ管轄ニ屬セサルモノト雖衛戍司令官ノ定メタル衛戍上ノ諸規則ニ對シテハ總テ遵守ノ義務アルモノトス

第八條　衛戍司令官ハ有事ノ日ニ方リ住民公共ノ保安ニ關スル處置ニ就テハ當該地方官ト協議スルモノトス

衛戍司令官ハ衛戍線内ニ騷擾ノコトアルニ方リ地方官ヨリ請求アルトキハ兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得

第九條　憲兵隊ニ在テハ第五條第六條及第七條ヲ除クノ外衛戍勤務ニ干與セス（同上法令ニテ本條改正）

附　則

第十條　東京ノ衛戍ハ東京防禦總督部ノ設置ニ至ル迄第一師團長ヲ以テ之カ司令官ト爲ス又要塞ニシテ其司令官ヲ置カサルノ間ハ其地所在ノ高級隊長ヲ以テ司令官ト爲ス

◎要塞司令部條例

明治二十八年三月勅令第三十九號

廢要塞司令部條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

要塞司令部條例

第一條　永久ノ防禦工事ヲ以テ守備スル地ヲ要塞ト稱シ各要塞ニハ其地名ヲ冠シ某要塞ト稱ス

第二條　要塞ハ大小ニ從ヒ三等ニ區分シ各要塞ニ一ノ司令官ヲ置クヲ例トス其編制ハ別ニ定ムル所ニ據ル但其設置及要塞ノ等級ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　要塞勤務ハ分ツテ衛戍及防禦勤務トス衛戍勤務ハ衛戍條例同服務規則ニ據ル

第四條　要塞司令官ハ特ニ規定アルモノノ外通常要塞所在地所管ノ師團長ニ隷ス

第五條　要塞司令官ハ當該要塞砲兵隊ノ教育訓練ヲ監視シ意見アレハ之ヲ師團長ニ具申シ且之ヲ要塞砲兵監ニ告知スルヲ得（明治二十九年勅令二百九十一號ヲ以テ本條ヲ追加シ第五條ヲ第六條ニ繰下ク）

第六條　要塞司令官ハ平時專ラ要塞防禦ノ計畫竝ニ防禦用器材料建築物及兵器其他軍器諸品整備ノ責ニ任ス

第七條　要塞司令官ハ要塞防禦計畫書竝ニ要塞動員計畫訓令ニ基キ要塞動員計畫書ヲ作リ毎年三月東京灣要塞ニ在テハ東京防禦總督、吳、佐世保要塞ニ在テハ該地鎮守府司令長官其他ノ要塞ニ在テハ當該師團長ヲ經テ參謀總長及海軍軍令部長ニ進達シ且東京灣、吳、佐世保ノ要塞ニ在テハ同時ニ之ヲ當該師團長ニ報知スヘシ（同上法令ヲ以テ第六條ヲ第七條ト爲シテ其全條ヲ改メ以下順次繰下ク）

第八條　砲兵方面支署長工兵方面支署長ハ要塞司令官ノ指揮ニ從ヒ要塞防禦ノ調査ニ從事ス

第九條　各要塞ニ於テ要塞動員計畫ヲ策定スル爲メ防禦諮詢會議ヲ設置ス（同上法令ニテ本條改正）

議員ノ組織左ノ如シ

議長　要塞司令官

議員　要塞參謀（參謀ナキトキハ高級副官）要塞砲兵隊長（隊長要塞司令官ヲ兼ヌルトキハ其次級將校）砲兵方面支署長工兵方面支署長其他所在ノ高級古參衛生部上長官若クハ士官及軍吏（明治三十年八月勅令第二百六十八號ヲ以テ「其他」以下二十字ヲ加フ）

其他要スレハ所管長官ニ申請シ臨時議員トシテ陸海軍將校又ハ技師若干ヲ加フルコトヲ得

議員事故アリテ會議ニ列スル能ハサルトキハ次長ノ認可ヲ經テ其代理者ヲ出席セシムルコトヲ得

此會議ハ秘密會議トス

第十條　平戰兩時ニ於ケル兵器其他軍需品ノ貯藏保存及補給法ニ關シ軍需品調査委員ヲ設ケ其委員ノ組織左ノ如シ

首座　要塞司令官

委員　要塞參謀砲兵方面支署長工兵方面支署長師團監督部長其他所在ノ高級古參軍吏師團軍醫部長其他所在ノ高級古參衛生部上長官若クハ士官但戰時ニ在テハ師團監督部長同軍醫部長ヲ閲クコトアルヘシ

第九條終リノ二項ハ此委員ニモ亦適用ス（同上法令ニテ「八」ヲ「九」ニ改ム）

本條ノ事項ニ付必要アルトキハ郡市長又ハ町村長ヲシテ所要ノ調査ヲナサシムルコトヲ得

第十一條　要塞司令官ハ平時豫メ地方官ト協議シ臨戰若クハ合圍ノ日ニ方リ軍隊ノ宿營給與及住民公共ノ保安ニ關シ必要ナル諸件ヲ實行スルノ方法ヲ計畫スヘシ

第十二條　要塞司令部ニハ一ノ秘密文庫ヲ備ヘ要塞司令官自ラ之ヲ保管ス之ニ貯藏スヘキ圖書左ノ如シ

一　要塞防禦計畫書

二　要塞動員計畫書

三　兵器彈藥一覽表

四　公私軍需品ノ調査錄

五　防禦會議議事錄

六　軍需品調査委員議事錄

七　要塞防禦ノ一般圖（縮尺一萬分乃至二萬分ノ一）

八　保壘ノ平面及斷面圖（縮尺百分乃至千分ノ一）

九　戰時增設若クハ改修スヘキ工事ノ平面及斷面圖（縮尺百分乃至千分ノ一）

十　海岸要塞ニ在テハ其附近ノ海圖

此文庫ノ圖書ハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非レハ何人ト雖モ閲覽又ハ謄寫ヲ許サス

第十三條　本條例ニ規定スル要塞司令官ノ職務ハ皆ニ規定アルモノノ外要塞アル島嶼ノ警備隊司令官ニモ亦適用ス

附　則

第十四條　要塞ノ勤務中海軍ト直接關係ヲ有スル事項ハ別ニ定ムル所ニ據ル

◎要塞司令部設置及其等級

明治二十八年四月陸軍省達第二十六號

明治二十八年勅令第三十九號要塞司令部條例第二條ニ依リ東京灣及下ノ關ニ要塞司令部ヲ設置シ其要塞ノ等級ヲ左ノ通定ム

東京灣要塞　一等

下ノ關要塞　二等

◎陸軍常備團隊配備表及要塞砲兵配備表廢止ノ件

明治二十九年三月勅令第二十五號

陸軍常備團隊配備表及要塞砲兵配備表廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十一年勅令第三十一號陸軍常備團隊配備表及明治二十三年勅令第七十九號要塞砲兵配備表ヲ廢ス

◎警備隊條例廢止ノ件

明治二十九年十二月勅令第三百八十五號

陸警備隊條例廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治十九年勅令第七十五號警備隊條例ヲ廢止ス

◎警備隊司令部條例

明治三十一年七月勅令第二百三十九號

廃
第一條　陸軍兵器廠條例制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

勅令第三十號
明治三十二年三月

陸軍兵器廠條例

第二條　陸軍兵器廠ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ兵器、貯藏、保存、修理、支給及要塞ノ備砲彈藥、器具、材料ノ製造、檢査、試驗、修理、保存、支給及陸軍兵器支廠ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　陸軍兵器廠ニ廠長一人ヲ置キ陸軍大佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　陸軍兵器廠ニ副官一人ヲ置キ陸軍歩兵少佐又ハ陸軍砲兵少佐又ハ陸軍工兵少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中佐又ハ陸軍歩兵大中佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第三十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第四十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第五十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第六十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第七十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第八十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第九十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百三十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百四十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百五十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百六十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百七十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百八十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第百九十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十八條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十九條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百四十條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百四十一條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百四十二條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百四十三條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百四十四條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百四十五條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百四十六條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸軍歩兵大中少佐ヲ以テ之ニ充ツ

第二百四十七條　陸軍兵器廠ニ陸軍砲兵大中少佐又ハ陸

◎陸軍兵器廠條例、築城部條例製定ニ附キ職名換稱ノ件

明治三十一年九月陸軍省達第百五號

今般砲工兵方面條例臺灣武庫條例ヲ廢シ陸軍兵器廠條例築城部條例制定相成候ニ付テハ元砲工兵方面及臺灣武庫職員ニシテ別ニ命課セルモノハ元砲兵各方面及臺灣武庫職員ハ陸軍兵器廠編制表ニ元工兵方面本署職員ハ築城部編制表中本部ニ元同方面各支署職員ハ築城部編制表各支部ニ於ル相當職名ニ換稱ノ儀ト心得ヘシ

◎陸軍兵器廠條例、築城部條例製定ニ附キ現行令達中心得方

明治三十一年九月
陸軍省達第百六號

今般砲工兵方面臺灣武庫、同工兵廠條例廢セラレ陸軍兵器廠條例築城部條例制定セラレ候ニ付現行令達中左ノ通リ心得ヘシ

砲兵方面本署トアルハ兵器本廠
砲兵方面支署トアルハ兵器支廠
臺北武庫、臺北工兵廠トアルハ臺北兵器本廠（臺南）武庫、臺中（臺南）工兵廠トアルハ臺中（臺南）兵器支廠
武庫トアルハ兵器分廠
砲兵方面本署長トアルハ兵器本廠長
砲兵方面本署長トアルハ兵器支廠長
臺北武庫長、臺北工兵廠長トアルハ臺北兵器本廠長
臺中（臺南）武庫長、臺中（臺南）工兵廠長トアルハ臺中（臺南）兵器支廠長
工兵方面本署トアルハ築城部本部
工兵方面支署トアルハ築城部支部
工兵方面本署長トアルハ築城部本部長工兵方面支署長トアルハ築城部支部長

◎兵器廠及臺灣砲兵工廠設置ニ附キ署、庫名變換ノ件

明治三十年九月陸軍省達第百七號

今般砲兵方面、臺灣武庫及臺灣兵器修理所ヲ廢シ兵器廠及臺北砲兵工廠設置相成候ニ付各地砲兵方面本署及臺北武庫ハ兵器本廠ニ砲兵方面支署竝ニ臺中、臺南武庫ハ兵器支廠ニ武庫ハ兵器分廠ニ臺灣兵器修理所ハ臺北砲兵工廠ニ變換候儀ト心得ヘシ

◎砲兵工廠條例

明治三十年九月
勅令第三百五號

朕砲兵工廠條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

砲兵工廠條例

第一條　砲兵工廠ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所要ノ兵器、彈藥、器具材料ヲ製造修理シ及海軍所要ノ火藥ヲ製造スル所トス

第二條　砲兵工廠ハ之ヲ東京、大阪及臺北ニ置ク

東京及大阪砲兵工廠ニ在テハ製造所ヲ設クルコト左ノ如シ

東京砲兵工廠
小銃製造所
銃包製造所
砲具製造所
目黒火藥製造所
板橋火藥製造所
岩鼻火藥製造所
大阪砲兵工廠
火砲製造所
砲架製造所
彈丸製造所
火具製造所
字治火藥製造所
門司兵器製造所

第三條　兵器支廠所在地ニハ所要ニ應シ砲兵工廠ノ派出所ヲ置キ支廠長ヲシテ其業務ヲ管掌セシム但其位置及新設ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

東京及大阪砲兵工廠

提理　少將若クハ砲兵大佐
副提理　砲兵少佐
檢査官　砲兵中少佐大中尉
廠員　砲兵少佐大中尉
製造所長　砲兵中少佐大尉若クハ技師
所員　砲兵大中尉若クハ技師
軍醫
軍吏
技師

臺北砲兵工廠

提理　砲兵中少佐
檢査官　砲兵少佐大尉
廠員　砲兵少佐大中尉若クハ技師
軍醫
軍吏

右ニ揭クル職員ノ外衛生部下士及判任文官ヲ置ク但判任文官ニ代ユルニ砲兵上等監護及砲兵科下士ヲ用ユルコトヲ得

第五條　提理ハ陸軍大臣ニ隷シ工廠ノ業務ヲ總理シ特ニ工廠ノ建築ニ關スル事項ヲ管掌ス

東京砲兵工廠提理ハ砲兵工科學校ヲ管理ス

臺北砲兵工廠提理ハ戰時若クハ事變ニ際シテハ臺灣總督ノ命ヲ受クルコトアリ

第六條　副提理ハ提理ヲ補佐シ事務ヲ整理ス

第七條　檢査官ハ製造ノ兵器、彈藥、器具、材料及其材料薬品ノ檢査ヲ掌ル

第八條　廠員ハ提理ノ命ヲ受ケ技術上ノ調査ニ任ス但臺北砲兵工廠ノ廠員ニ在テハ尚ホ提理ヲ補佐シ業務ヲ分擔ス

第九條　製造所長ハ製造所ノ業務ヲ擔任シ所員ハ所長ノ命ヲ受ケ所務ニ服ス

東京砲兵工廠製造所長ハ砲兵工科學校ノ實業教授ヲ擔任ス

第十條　軍醫、軍吏、技師ハ提理ノ命ヲ受ケ各分擔ノ事務ニ服ス

第十一條　派出所ニハ陸軍屬ヲ分遣シ兵器支廠長ノ命ヲ受ケ兵器、器具材料ノ製造修理ニ關スル費用及材料薬品ノ出納ヲ掌ラシム

第十二條　軍用制式ノ兵器、彈藥、器具、材料ハ軍用ノ爲メ製造スルモノノ海陸軍大臣ノ裁可ヲ經ルニアラサレハ製造スルコトヲ得ス但砲工兵會議ヨリ試驗用ノ爲メ要求スルモノ竝海軍造兵廠ヨリ要求スル火薬火具ハ此限リニアラス

第十三條　官廳又ハ人民ヨリ物品ノ製造ヲ依頼スルトキハ軍用ノ製造事業ニ妨ケナキ限リ之ニ應スルコトヲ得

第十四條　砲兵工廠附近ノ地ニ隧道警戒ノ事アレハ提理ヨリ衞戍司令官ニ隧告シテ衞兵ノ派遣ヲ請フコトヲ得但門司兵器製造所ニ在テハ所長ヨリ直ニ衞戍司令官ニ衞兵ノ派遣ヲ請フコトヲ得

附　則

第十五條　本條例ハ明治三十年九月十五日ヨリ施行ス

第十六條　明治二十九年勅令第百九十八號臺灣兵器修理所條例ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

◎築城部條例

明治三十年九月
勅令第三百六號

朕築城部條例制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

築城部條例

第一條　築城部ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ國防用防禦營造物ノ建築修繕保

管及七之ニ關スル砲兵事業ノ調査竝ニ工兵事業ヲ掌リ且其所屬地ヲ管轄スル所トス

第二條　築城部ハ築城本部及築城支部ヨリ成ル

本部ハ之ヲ東京ニ置キ各支部ヲ統轄ス

支部ハ要塞所在地ニ置キ築城事業及守城器具材料ノ保管ニ任ス但シ支部ハ三等ニ區分シ其設置及等位ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　築城部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長　陸軍少將若クハ工兵大佐
部員　砲工兵佐官大中尉
軍吏
技師

支部
支部長　工兵中少佐大尉
部員　工兵大中尉
軍吏

右ニ揭クル職員ノ外本支部ニ准士官、下士、判任文官ヲ置ク

第四條　本部長ハ陸軍大臣ニ隷シ築城部ノ事務ヲ總理シ且要塞ノ新設若クハ補修ニ關スル砲工兵事業ノ調査ニ任ス

第五條　支部長ハ支部長ニ隷シ支部ノ事務ヲ整理ス

防禦營造物及守城器具材料ノ保管ニ關シテハ要塞司令官ノ區所ヲ受クルモノトス

第六條　部員及軍吏ハ本支部長ノ命ヲ承ケ各分擔ノ事務ニ服ス

第七條　技師ハ本部長ノ指揮ヲ承ケ技術上ノ調査ニ從事ス

第八條　本部長ハ業務ノ繁閑ニ應シ必要ト認ムルトキハ本支部ノ官僚ヲ是被應用スルコトヲ得

附則

第九條　本條例ハ明治三十年九月十五日ヨリ施行ス

第十條　明治二十九年三月勅令第百十號工兵方面條例ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

◎陸軍被服廠條例　明治二十三年三月勅令第五十八號

朕陸軍被服廠條例ヲ裁可シ竝ニ之ヲ公布セシム

陸軍被服廠條例

第一條　陸軍被服廠ハ東京ニ之ヲ置キ軍隊及各部ニ給スル被服地質ノ調辨分配竝演習備被服及地質ヲ貯藏スル所トス（二十六年十二月勅令第二百四十八號ニテ本條改正）

第二條　被服廠ニ左ノ職員ヲ置ク

主管	一等軍吏　一人
被服官	二三等軍吏　二人

第三條　主務ハ經理局長ニ隷シ廠務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス（同上）

第四條　被服官ハ主管ノ命ヲ承ケ事務ニ服行ス（同上）

第五條　第二條ニ揭クル職員ノ外軍吏部下士若クハ屬ヲ置ク（同上）

◎千住製絨所官制　明治二十六年十月勅令第百四十一號

朕千住製絨所官制ノ改正ヲ裁可シ竝ニ之ヲ公布セシム

千住製絨所官制

第一條　千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所用ノ絨布製造ノ事ヲ掌ル

官廳又ハ人民ヨリ絨布ノ製造ヲ依賴スルトキハ陸軍所用ノ絨布製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應スルコトヲ得

第二條　千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十二年三月勅令第七十九號ヲ以テ定員ヲ增ス）

所長	一人
技師	二人
屬	八人
技手	十二人

第三條　所長ハ奏任トス陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ製絨ノ事ヲ監理ス

第五條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絨ノ事ニ從フ

附則

第七條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

◎軍馬補充部條例　明治二十九年五月勅令第百九十三號

朕軍馬補充部條例ヲ裁可シ竝ニ之ヲ公布セシム

軍馬補充部條例

第一條　軍馬補充部ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ軍馬ノ供給、育成、購買竝ニ軍馬ノ資源ノ調査ヲ掌ル所トス

第二條　軍馬補充部ハ本部及支部ヨリ成リ本部ハ東京ニ支部ハ第一、第二、第六、第八及第十師管下ニ一箇若クハ二箇ヲ置キ軍馬補充部某地支部ト稱ス支部ハ三等ニ區分シ其設置及等位ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　軍馬補充部本部及支部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部
本部長　陸軍少將騎兵大佐
部員　騎兵中少佐大尉
軍吏
技師

支部
支部長　騎兵中少佐大尉
部員　騎兵大中少尉
獸醫
軍吏

前條ニ揭クル職員ノ外本部及支部ニ下士屬技手ヲ置ク

第四條　本部長ハ陸軍大臣ノ指揮ヲ承ケ本部ノ事務ヲ總理ス

第五條　本部長ハ陸軍大臣ニ隷シ軍馬補充部ノ業務ヲ總理ス

第六條　支部長ハ本部長ニ屬シ軍馬ノ供給及育成ニ關スル業務ヲ分擔シ牧場事業ノ整理ニ任ス

第七條　本部及支部ノ部員、獸醫及軍吏等ハ各其長ノ命ヲ承ケ本部又ハ支部ノ業務ヲ處理ス

第八條　陸軍大臣ハ所要ニ應シ支部ノ派出部及出張所ヲ設ケ支部ノ部員ヲ以テ派出部長ニ充ルコトヲ得

附則

第九條　明治二十六年勅令第二十七號軍馬補充業條例ハ廢止ス

◎陸軍糧餉部條例　明治二十五年十一月勅令第百三號

朕陸軍糧餉條例ヲ裁可シ竝ニ之ヲ公布セシム

陸軍糧餉部條例

第一條　陸軍糧餉部ハ師團監督部所在地ニ之ヲ置キ陸軍出師準備用糧秣ノ調辨貯藏新陳交換竝ニ平時所要糧米藁秣ノ調辨度支ノ事ヲ掌ル所トス但必要ニ依リ師團監督部所在地外ノ衝戞地ニ其支部ヲ置クコトヲ得（明治三十二年四月勅令第百三十號ニテ本條改正）

前項ノ外被服品調辨ノコトヲ掌ラシム（明治三十年十二月勅令第四百四十七號ヲ以テ本項追加）

第二條　陸軍糧餉部ハ近衞師團監督部在所地ニ在ルモノヲ近衞師團糧餉部ト稱シ他師團監督部所在地ニ在ルモノヲ其地陸軍糧餉部ト稱ス但支部ヲ置クトキハ某地陸軍糧餉部某地支部ト稱ス

第三條　糧餉部ニ左ノ職員ヲ置ク

主管　一等軍吏
糧餉官　二三等軍吏
第四條　糧餉部支部ニ左ノ職員ヲ置ク
糧餉官　一二三等軍吏

但所在地隊附軍吏ヲ以テ兼務セシム

第五條　主管ハ當該監督部長ニ隷シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第六條　糧餉部支部糧餉官ハ主管ノ命ヲ受ケ其部務ヲ管掌ス

第七條　糧餉部ハ主管ノ命ヲ承ケ其事務ニ服ス
第八條　第三條及第四條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士ヲ置ク
附　則
第九條　本條例ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

陸軍中央糧秣廠條例

明治三十年三月勅令第二十八號

陸軍軍中央糧秣廠條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍中央糧秣廠條例

第一條　陸軍中央糧秣廠ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省經理局長ノ管理ニ屬シ陸軍出師準備用糧秣ノ製造、調辨、度支、貯藏、新陳交換ノ事ヲ掌リ且糧秣ニ關スル試驗ヲ行フ所トス

第二條　陸軍衛生材料廠ハ本廠及支廠ヨリ成ル
本廠ハ之ヲ東京ニ置キ各支廠ヲ統轄ス
支廠ハ師團司令部所在地（東京ヲ除ク）ニ置キ衛生材料某地支廠ト稱ス

第三條　本廠及支廠ニ左ノ職員ヲ置ク
本廠
廠長　　一等藥劑監
廠員　　藥劑官、獸醫
軍吏　　二、三等軍吏
支廠
廠長　　一等藥劑官
廠員　　藥劑官、獸醫

前項ノ外下士判任文官ヲ置ク

第四條　本廠長ハ陸軍大臣ニ隷シ衛生材料廠ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事項ニ就テハ陸軍省軍事局長醫務局長ノ區處ヲ承クルモノトス
本廠長ハ前項ノ外本廠保管ノ戰用材料及近衛第一師管内ニ於ケル軍隊官衙學校（獸醫學校ニ於ケル獸醫材料ヲ除ク）ニ要スル通常材料ノ購買製造貯藏修理支給交換ヲ掌ル

第五條　支廠長ハ本廠長ニ隷シ支廠ノ事務ヲ整理シ支廠保管ノ戰用材料及所在地師管内ニ於ケル軍隊官衙（憲兵隊及軍馬補充部支部ハ除ク）學校ニ要スル通常材料ノ購買製造貯藏修理支給交換ヲ掌ル

第六條　廠長ハ師團長ノ主管ニ係ル動員計畫竝戰時要塞ニ要スル戰用材料ノ事ニ就テハ當該師團長、要塞司令官ノ命ヲ承ケ其ノ他特設部（師團長要塞司令官ノ命ヲ承ケ其ノ他特設部（師團長要塞司令官ノ主管ニ係ル獸醫ヲ除ク）ニ要スル戰用材料ノ事ニ就テハ當該師團長、

衛戍病院條例細則左ノ通定メ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
但明治二十一年陸達第二百二十三號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

衛戍病院條例細則

第一條　條例（衛戍病院條例ヲ云フ以下同シ）第四條ニ依リ病院勤務ニ服スヘキ軍隊官衙學校附軍醫ノ人員ハ事務ノ繁閑ヲ計リ病院長之ヲ定メ所管軍醫部長ニ報告スヘシ但師團司令部所在地外ノ病院ニ在テハ其地所在ノ軍隊官衙附軍醫總テ病院勤務ニ服スルモノトス

第二條　病院長ハ條例第四條ニ於ケル軍醫ノ材能其ノ他勤務上ニ係ル事項ヲ詳悉シ考科ノ用ニ供スル爲メ所管軍醫長ニ報告スヘシ

第三條　病院長不在ノトキハ所在地隊附軍醫及病院附軍醫中高級ノ者之カ代理ヲ爲スモノトス

第四條　病院勤務ニ服スル歩兵聯隊附三等軍醫正ハ若干ノ病室ヲ分擔シテ患者ノ治療其ノ他ノ事務ヲ掌理シ兼テ一等軍醫以下ノ勤務ヲ監視ス

第五條　一等軍醫ハ院務ヲ分擔ス其ノ掌務ノ概目左ノ如シ

一　患者ノ治療攝生及之ニ連繫スル事項
二　治病記事、衛生記事及衛生統計ノ調査總纂
三　患者入退ノ取扱及診斷證書ノ調製
四　外來患者ノ診斷
五　轉地療養ニ關スル事項
六　具申照會其ノ他文書ニ關スル事項
七　院內人事ニ關スル事項
八　病床日誌及處方錄其ノ他後證書類ノ保存
九　看護長ノ訓導看病人ノ教育及其ノ勤務行狀ノ監視
十　看護卒修業兵ノ教育ニ關スル事項

第六條　二三等軍醫ハ一等軍醫ヲ補佐シテ分擔ノ事務ニ服シ一等軍醫不在ノトキハ其ノ掌務ヲ代理ス

二三等軍醫ハ看護長以下ノ勤務ニ注意シ患者ヲシテ院內ノ規定ヲ遵守セシム

第七條　藥劑官ハ調劑及藥物、器械等ニ係ル事務ヲ整理ス其ノ掌務ノ概目左ノ如シ但師團司令部所在地外ニ在テハ兼テ所在地部隊ノ調劑及衛生材料ノ供給修理交換ノ事務ヲ掌ルモノトス

一　藥物、治療消耗品ノ出納及治療、調劑、研磨器械ノ保存修理
二　調劑、製藥及理化學的試驗
三　藥物、治療消耗品、治療器械等ニ關スル報告
四　見習藥劑官、藥劑生及調劑手ノ訓導、調劑手候補者ノ教育竝勤務行狀ノ監視

第八條　軍吏ハ概ネ左ノ事務ヲ掌ル

一　經理ニ係ル計算及報告
二　衛生材料廢支給外ノ衛生材料及消耗品器具器械用度等ノ買辨修理
三　糧食、被服其ノ他諸給與
四　厨夫、洗濯夫、裁縫職工等ノ使用

第九條　藥劑官、軍吏ヲ置カサル病院ニ於ケル其ノ分掌事務ハ軍醫及下士ナシテ扱ハシム

第十條　退院後ニ於ケル臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メニ宿直ヲ置ク其ノ人員ハ病院長之ヲ定ム

第十一條　條例第八條ニ據リ特ニ收容シ得ヘキ者左ノ如シ

一　軍人軍屬ニシテ演習其ノ他旅行途上發病シタルトキ
二　入院中現職若クハ現役常備後備役又ハ兵役又ハ候補生諸生徒ヲ免セラレ又ハ召集ヲ解除セラレタル者ニシテ現時ノ症狀ニ依リ退院セシメ難キトキ
三　特務曹長及下士兵卒ニシテ傷痍疾病ニ依リ現職若クハ現役常備後備役又ハ兵役ヲ免セラレタル者歸鄉途上其ノ症狀增進シ歸鄉シ得サルトキ
四　衛戍病院ヨリ他ノ病院ニ轉送スル途中收療ヲ要スルトキ
五　衛戍病院ヲ置カサル他ノ部隊患者ニシテ特ニ收療ヲ要スルトキ

◎臨時陸軍建築部官制

明治二十九年三月勅令第三十一號

臨時陸軍建築部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時陸軍建築部官制

第一條　臨時陸軍建築部ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ兵營其ノ他ノ新設ノ臨時工事ヲ掌リ且ツ所屬地ヲ管轄ス但砲臺ノ建設ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　臨時陸軍建築部ヲ東京ニ置キ各地ニ支部ヲ置ク其ノ位置管轄區域ハ陸軍大臣之ヲ定ム（明治三十一年十月勅令第二百四十一號ヲ以テ本條改正）

第三條　臨時陸軍建築部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	一人
副部長	一人
事務官	奏任五人
技師	奏任六人
技手	奏任十五人
書記	奏任十五人

第四條　臨時陸軍建築部各支部ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

支部長	六人
事務官	奏任十二人
技手	奏任百五人
書記	奏任八十二人

支部長ハ每支部一人トシ事務官技手及書記ノ每支部ノ定員ハ陸軍大臣之ヲ定ム（明治二十九年勅令第三百四十八號ヲ以テ本條改正）

第五條　部長及副部長ハ將官若クハ同相當官ヲ以テ之ニ任シ又ハ補ス

第六條　支部長及事務官ハ上長官、士官若クハ同相當官ヲ以テ之ニ任シ又ハ補ス

第七條　事務官ハ必要ノ場合ニ於テ他ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ文官任用令ノ規程ニ依ラス文官高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

他ヨリ任用スル事務官ハ奏任トス

第八條　部長ハ陸軍大臣ノ命ヲ承ケ部務ヲ管理ス

第九條　副部長ハ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十條　支部長ハ部長ノ命ヲ承ケ其ノ支部ノ事務ヲ管理ス

第十一條　事務官ハ各部長支部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ分掌ス

第十二條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ工事ニ從事ス

第十三條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ從事ス

第十四條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十五條　第四條ノ技手及書記ハ必要アル場合ニハ判任俸給表定額內ニ於テ雇員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十六條　書記ハ便宜下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十七條　他ヨリ任用スル事務官ノ官等俸給ハ別表ニ依ル

第十八條　本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

（別表ハ之ヲ畧ス）

◎臨時砲臺建築部官制

明治十九年十一月勅令第七十六號

臨時砲臺建築部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時砲臺建築部官制

第一條　臨時砲臺建築部ハ東京ニ置キ陸軍省ニ隷シ全國樞要ノ地ニ砲臺ヲ建築スルコトヲ掌ル

第二條　臨時砲臺建築部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	一人
事務官	若干員
技師	若干員
技手	若干員
書記	若干員

第三條　部長ハ陸軍將官ヲ以テ之ニ充テ事務官ハ陸軍上長官士官書記ハ陸軍下士官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　部長ハ砲臺建築ノ事務ヲ總理ス

第五條　事務官ハ部長ノ命ヲ承ケ其事ニ從ヒ書記ハ事務官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技師技手ハ技術上ノ事ニ任シ又各部ノ工事ニ從事ス
第七條　建設砲臺ノ位置竝其制式兵備ノ要領等ヲ陸軍大臣參謀總長協議決定ノ後之ヲ建築部ニ下シ工事ニ從事セシム（二十二年三月陸軍省令第五號ヲ以テ本條改正）
第八條　陸軍工兵方面ハ砲臺建築ノ工事ニ就テハ建築部ニ從屬シテ部長ノ指揮ヲ承クルモノトス
第九條　砲臺建築ノ事ニ係リ地方廳其他ニ往復スルハ建築部長ノ名ヲ以テスヘシ

◎臨時陸軍中央金櫃部條例

明治二十七年六月勅令第六十二號

廢臨時陸軍中央金櫃部條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臨時陸軍中央金櫃部條例

第一條　臨時陸軍中央金櫃部ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ東京ニ置キ臨時陸軍經費ニ關スル收入支出及其ノ計算報告ノ事ヲ掌ル所トス
第二條　臨時陸軍中央金櫃部ニ左ノ職員ヲ置ク

金櫃部長	一等軍吏　一人
計算官	二、三等軍吏　十人（二十八年五月勅令第六十號ニテ本項改正）

第三條　金櫃部長ハ陸軍省經理局長ニ隷シ其ノ指揮監督ヲ承ク金錢收支ニ就テハ經理局第三課長ノ命令ヲ承クヘシ
第四條　金櫃部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス
第五條　計算官ハ金櫃部長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ分掌ス
第六條　第二條職員ノ外ニ一、二、三等書記若クハ屬ヲ置キ其ノ定員ハ通シテ三十人トス上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス（同上）

◎臺灣總督府陸軍幕僚條例

明治三十年十月勅令第三百六十三號

廢臺灣總督府陸軍幕僚條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府陸軍幕僚條例

第一條　臺灣總督府陸軍幕僚ハ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル陸軍ニ關スル事ヲ掌ル處トス
第二條　幕僚ヲ分テ參謀部副官部トス
第三條　參謀長ハ總督ヲ補佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス
第四條　幕僚ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス
第五條　陸軍幕僚ノ編制ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

第六條　本條例ハ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス

◎臺灣守備混成旅團司令部條例

明治二十九年四月勅令第百二十一號

廢臺灣守備混成旅團司令部條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣守備混成旅團司令部條例

第一條　混成旅團長ハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ臺灣總督ニ隷シ部下軍隊ヲ統率シ所轄守備管區内ノ警備及匪徒鎮壓ノ事ニ任ス
第二條　混成旅團長ハ部下軍隊ノ出戰準備ヲ整理シ又部下軍隊ノ練成ニ就キ其責ニ任ス
第三條　混成旅團長ハ守備管區内ニ在ル陸軍各部各隊ノ軍紀風紀ヲ統監ス（明治三十一年十月勅令第二百三十四號ヲ以テ「統監」ノ下ニ在リシ「シ軍法會議ヲ管轄」ノ八字ヲ削ル）
第四條　混成旅團長ハ守備管區内ノ靜謐ヲ維持シ陸軍諸官廳諸建築物ヲ保護スル事ニ任ス
守備管區内ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ要スル時事急ナレハ直ニ之ニ應シテ後臺灣總督ニ報告スヘシ但其事所轄管區外ニ渉ル時ト雖モ鄰接地方ニシテ當該管區ノ團隊長若クハ民政官ヨリ援助ヲ請求スルトキ若クハ姑息ヲ以テ危害ニ陷ルコトヲ察スルトキ亦同シ
第五條　混成旅團長ハ守備管區内ノ警備及匪徒鎮壓ノ事ニ關シ要スレハ

臺灣總督府陸軍幕僚條例

第一條　臺灣總督府陸軍幕僚ハ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル陸軍ニ關スル事ヲ掌ル處トス
第二條　幕僚ヲ分テ參謀部副官部トス
第三條　參謀長ハ總督ヲ補佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス
第四條　幕僚ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス
第五條　陸軍幕僚ノ編制ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

第六條　本條例ハ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス

◎臺灣守備混成旅團司令部條例

明治二十九年四月勅令第百二十一號

廢臺灣守備混成旅團司令部條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣守備混成旅團司令部條例

第一條　混成旅團長ハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ臺灣總督ニ隷シ部下軍隊ヲ統率シ所轄守備管區内ノ警備及匪徒鎮壓ノ事ニ任ス
第二條　混成旅團長ハ部下軍隊ノ出戰準備ヲ整理シ又部下軍隊ノ練成ニ就キ其責ニ任ス
第三條　混成旅團長ハ守備管區内ニ在ル陸軍各部各隊ノ軍紀風紀ヲ統監ス（明治三十一年十月勅令第二百三十四號ヲ以テ「統監」ノ下ニ在リシ「シ軍法會議ヲ管轄」ノ八字ヲ削ル）
第四條　混成旅團長ハ守備管區内ノ靜謐ヲ維持シ陸軍諸官廳諸建築物ヲ保護スル事ニ任ス
守備管區内ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ要スル時事急ナレハ直ニ之ニ應シテ後臺灣總督ニ報告スヘシ但其事所轄管區外ニ渉ル時ト雖モ鄰接地方ニシテ當該管區ノ團隊長若クハ民政官ヨリ援助ヲ請求スルトキ若クハ姑息ヲ以テ危害ニ陷ルコトヲ察スルトキ亦同シ
第五條　混成旅團長ハ守備管區内ノ警備及匪徒鎮壓ノ事ニ關シ要スレハ其管區内ニ駐在セル憲兵隊長陸軍諸官廳ノ長官若クハ其派出員ニ命令スルノ權ヲ有ス
第六條　疾疫其他非常ノ時ニ際シ混成旅團長一時部下軍隊ヲ移轉セシメントスルトキ至急ヲ要スレハ之ヲ實行シ後臺灣總督ニ報告スヘシ
第七條　混成旅團長ハ守備管區内ニ在ル海軍官憲竝ニ民政官衙ト交通シ必要ニ際シテハ協議シテ事ヲ處スルヲ得但後直チニ之ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ
第八條　混成旅團長ハ臨時ニ部下軍隊ヲ檢閱シ其實況ヲ臺灣總督ニ報告スヘシ
第九條　混成旅團長ハ匪徒鎭壓ニ關スル兵器彈藥ノ事ニ就テハ兵器本廠長（支廠長）ニ命令スルノ權ヲ有ス（同上法令ヲ以テ本條以下ヲ改正シ尚第十三條及第十四條ヲ削ル）
第十條　混成旅團司令部ニ旅團長ノ外左ノ職員ヲ置ク

參謀	少佐、大尉
副官	大中尉
司令部附	二等軍醫正、軍吏
書記	下士

第十一條　司令部ノ各將校及同相當官ハ旅團長ノ區處ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ掌ル

附　則

第十二條　（明治三十二年一月勅令第十七號ヲ以テ本條ヲ削ル）

◎臺灣陸軍法官部條例

明治三十二年一月勅令第十六號

廢臺灣陸軍法官部條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍法官部條例

第一條　臺灣陸軍法官部ハ之ヲ臺北ニ置ク
第二條　法官部ハ臺灣總督ノ權限ニ屬スル軍事司法ニ關スル事項ヲ掌ル
第三條　法官部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	理事
部員	理事

前項ノ外錄事ヲ置ク
第四條　部長ハ臺灣總督ニ隷シ部務ヲ總理ス
第五條　部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘシ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘシ
第六條　部員ハ部長ノ命ヲ承ケ部務ニ服ス
第七條　法官部ノ職員ハ臺灣陸軍軍法會議ノ事務ニ服ス

◎臺灣陸軍監督部條例

明治三十一年十月勅令第二百三十五號

廢臺灣陸軍監督部條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍監督部條例

第一條　臺灣陸軍監督部ハ之ヲ臺北ニ置キ臺灣ニ於ケル軍隊ノ會計事務ヲ監督シ陸軍官衙ノ會計事務ヲ監視シ總テ官金ノ收支官有物ノ出納ニ關スル計算及物件（兵器、彈藥、馬匹ヲ除ク）ヲ檢査シ及臺灣在所ノ軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス
第二條　監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	一、二等監督
部員	三等監督、監督補、軍吏

前項ノ外下士竝判任文官ヲ置ク
第三條　部長ハ臺灣總督ニ隷シテ部務ヲ總理シ且臺灣陸軍經營部ヲ管理シ總テ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス
第四條　部長ハ官衙及軍隊ノ會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ其ノ辨明ヲ求ムルコトヲ得
第五條　部長ハ官衙及會計上ノ檢查ヲ行ヒ廢品（兵器、彈藥、馬匹ヲ除ク）ノ檢查及其ノ賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙軍隊ノ金櫃物件及帳簿ヲ檢查ス
第六條　部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸

軍幕僚參謀長ニ開陳スヘシ

第七條　部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌シ其ノ責ニ任ス

附　則

本條例ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

◎元臺灣守備混成旅團監督部職員換稱ノ件

明治三十年十月陸軍省達第百四十一號

今般臺灣監督部條例制定セラレ臺灣守備混成旅團司令部條例改正相成候ニ付テハ元臺灣守備混成旅團監督部ノ職員ニシテ別ニ命課セサルモノハ臺灣陸軍監督部編制表ニ依リ相當職名ニ換稱ノ儀ト心得ヘシ

◎臺灣陸軍經營部條例

明治三十一年十月勅令第二百三十六號

朕臺灣陸軍經營部條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍經營部條例

第一條　臺灣陸軍經營部ハ之ヲ臺北ニ置キ臺灣ニ於ケル陸軍所屬ノ陣營廨舍倉庫其ノ他ノ建造物竝地所ヲ管理シ建築修繕ノ事ヲ擔任シ且其ノ經理ヲ掌ル所トス

第二條　經營部ハ必要ニ應シ出張所ヲ設クルコトヲ得其ノ位置ハ臺灣總督陸軍大臣ニ裏議シテ之ヲ定ム

第三條　經營部ニ左ノ職員ヲ置ク

主管

一等軍吏

計算官

二、三等軍吏

前項ノ外例任文官ヲ置ク

第四條　主管ハ臺灣陸軍監督部長ニ隷シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス

計算官ハ主管ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

第五條　部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

附　則

本條例ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

◎臺灣陸軍軍醫部條例

明治三十一年十月勅令第二百三十七號

朕臺灣陸軍軍醫部條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍軍醫部條例

第一條　臺灣陸軍軍醫部ハ臺北ニ置キ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル軍隊官衙ノ衛生事務ヲ統轄スル所トス

第二條　軍醫部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長　一、二等軍醫正

部員　軍醫

前項ノ外下士竝判任文官ヲ置ク

第三條　部長ハ臺灣總督ニ隷シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第四條　部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘシ

第五條　部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

◎臺灣陸軍獸醫部條例

明治三十一年十月勅令第二百三十八號

朕臺灣陸軍獸醫部條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍獸醫部條例

第一條　臺灣陸軍獸醫部ハ之ヲ臺北ニ置キ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル獸醫ノ管掌スヘキ諸般ノ事項ヲ統轄スル所トス

第二條　獸醫部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員

獸醫監

獸醫

前項ノ外下士竝判任文官ヲ置ク

第三條　部長ハ臺灣總督ニ隷シ庶務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第四條　部長ヨリ臺灣總督ニ具申スヘキ事項ニ就テハ先ツ臺灣總督府陸軍幕僚參謀長ニ開陳スヘシ

第五條　部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

◎臺灣陸軍補給廠條例

明治三十一年十月勅令第二百四十六號

朕臺灣陸軍補給廠條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣陸軍補給廠條例

第一條　臺灣陸軍補給廠ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ在臺灣陸軍ニ要スル軍需品（兵器、彈藥、馬匹、衛生材料ヲ除ク）ノ供給及内地臺灣間竝臺灣海陸ノ運輸及輕便鐵道ノ事ヲ掌リ兼テ戰時若ハ事變ニ際シ一般軍隊ノ輸送ニ要スル補助物件ヲ整備ス（明治三十二年四月勅令第百四十九號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第二條　臺灣陸軍補給廠ハ本廠及支廠ヨリ成ル

補給廠ノ本廠ハ之ヲ臺北ニ置キ支廠ヲ宇品、基隆、臺中及臺南ニ置ク

第三條　廠長ハ必要ノ地ニ出張所及停車場ヲ置クコトヲ得

第四條　患者輸送竝收容ノ爲メ基隆支廠ノ下ニ病院船ヲ宇品支廠ノ下ニ患者集合所ヲ置ク

第五條　支廠及出張所竝停車場ハ所在ノ地名ヲ附シ臺灣陸軍補給廠某地支廠若クハ某地出張所又ハ某地停車場ト稱ス

第六條　補給廠ニ左ノ職員ヲ置ク

本廠　廠長　大佐

廠員　少佐、大中尉、三等監督、監督補、軍吏

支廠　支廠長　中少佐

前項ノ外下士竝判任文官ヲ置ク

第七條　廠長ハ陸軍大臣ニ隷シ廠務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第八條　廠長ハ臺灣總督ト連絡ヲ保チ相互ノ計畫ニ就キ協商ナカラシムルヲ要ス但事變ニ際シ必要ノ場合ニ在リテハ同總督ノ命ヲ受クルモノトス

第九條　支廠長ハ廠長ノ命ヲ受ケ各其廠務ヲ掌理ス

第十條　廠員ハ各其長ノ命ヲ受ケ分擔ノ事務ニ服ス

第十一條　補給廠業務ノ區域ハ補給廠長臺灣總督ニ裏議シ之ヲ定ム

附　則

第十二條　當分ノ内在清國諸部隊ニ於ケル人馬軍需品ノ海上輸送ハ臺灣陸軍補給廠ニ於テ之ヲ掌ル

第十三條　本條例ハ本年十一月一日ヨリ施行ス

◎臺北ニ設置ノ陸軍監獄ノ管理竝其監獄長所屬ノ件

明治三十二年一月勅令十八號

朕臺北ニ設置スル陸軍監獄ノ管理竝其ノ監獄長所屬ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺北ニ設置スル陸軍監獄ハ臺灣總督之ヲ管理シ其ノ監獄長ハ臺灣總督ニ隷ス

◎占領地總督部條例廢止ノ件

明治二十九年六月勅令第二百六十一號

朕占領地總督部條例廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十八年勅令第三十八號占領地總督部條例明治二十九年六月三十日限リ廢止ス

◉臨時陸軍運輸通信部官制廢止ノ件

明治三十年九月勅令第三百十五號

朕臨時陸軍運輸通信部官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年勅令第六十九號臨時陸軍運輸通信部官制ハ臺灣陸軍補給廠條例施行ノ日ヨリ廢止ス

◉臨時臺灣電信建設部官制廢止ノ件

明治三十年八月勅令第二百八十六號

朕臨時臺灣電信建設部官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十八年勅令第八十九號臨時臺灣電信建設部官制ハ明治三十年九月三十日限リ廢止ス

◉臨時臺灣燈臺建設部官制廢止ノ件

明治三十年三月勅令第四十一號

朕臨時臺灣燈臺建設部官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十八年勅令第九十號臨時臺灣燈臺建設部官制ハ明治三十年三月三十一日限リ廢止ス

◉臨時廣島軍用水道布設部官制廢止ノ件

明治三十一年八月勅令第百九十九號

朕臨時廣島軍用水道布設部官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十八年勅令第百五十七號臨時廣島軍用水道布設部官制ハ明治三十一年八月三十一日限リ廢止ス

◉教育總監部條例

明治三十一年一月勅令第七號

教育總監部條例

第一條　教育總監部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍中將若クハ陸軍少將ヲ以テ教育總監ニ補シ陸軍大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條　教育總監ハ各兵監ヲ總督シ部事ヲ總理シ教育ニ關スル諸條規典範ノ改正ヲ謀リ及陸軍砲工學校陸軍士官學校陸軍中央幼年學校地方幼年學校陸軍戸山學校陸軍教導團竝ニ陸軍將校生徒試驗委員ヲ管轄ス（明治三十一年十月勅令第二百二十四號ヲ以テ「各兵監ヲ總督シ」ノ七字ヲ加フ）

第三條　教育總監ハ教育上ニ關スル意見ヲ陸軍大臣ニ具申ス

第四條　教育總監部ニ本部及騎砲工輜重兵監部ヲ置ク

第五條　本部部長ハ教育總監ヲ輔佐シ本部部員及副官ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス

第六條　本部部員及副官ハ本部部長ノ區處ヲ受ケ事務ヲ分擔ス

第七條　騎兵監ハ各騎兵隊及教導團騎兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ及本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射撃學校ヲ管轄ス（同上法令ヲ以テ「乘馬」ノ二字ヲ「騎兵實施」ト改ム）

第八條　野戰砲兵監ハ各野戰砲兵隊及教導團砲兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射撃學校ヲ管轄ス（同上法令ヲ以テ「砲工學校學生」ノ六字ヲ削ル）

第九條　要塞砲兵監ハ各要塞砲兵隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍要塞砲兵射撃學校ヲ管轄ス（同上法令ヲ以テ本條改正）

第十條　工兵監ハ各工兵隊及教導團工兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌ル（同上）

第十一條　輜重兵監ハ各輜重兵隊及教導團輜重兵生徒隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌ル

第十二條　野戰砲兵監、要塞砲兵監及工兵監ハ砲工學校ヲ巡閲シ各本科學生ノ教育上ニ就キ意見アルトキハ之ヲ教育總監ニ具申スヘシ（同上法令ヲ以テ本條ヲ追加シ以下順次繰下ク）

第十三條　各兵監ハ陸軍軍隊檢閲條例ニ依リ臨時ニ當該兵隊ノ檢閲ヲ行フ

第十四條　各兵監部部員ハ各其兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス（同上法令ニテ本條改正）

第十五條　教育總監部ニ下士並ニ判任文官ヲ置ク

附　則

第十六條　監軍部條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◉陸軍地方幼年學校條例

明治三十一年十月勅令第二百二十九號

朕陸軍地方幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍地方幼年學校條例

第一條　陸軍地方幼年學校ハ陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ生徒トシ軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條　陸軍地方幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク

東京　仙臺　名古屋　大阪　廣島　熊本

第三條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第四條　生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ニ上申シ（東京陸軍地方幼年學校長ニ在テハ陸軍中央幼年學校長ヲ經由ス）以下倣之）教育總監之ヲ裁定ス

第五條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	一
副官	少佐
教官	中尉
生徒監	陸軍教授、陸軍助教
軍醫	大中尉
軍吏	下士、判任、文官

校長以下將校同相當官及下士ハ豫備後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第六條　校長ハ教育總監（東京陸軍地方幼年學校長ハ陸軍中央幼年學校長）ニ隷シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第七條　副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條　教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セシム

第九條　生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ日常其躬行ヲ監視シ自ラ模範ト爲リテ之ヲ指導シ其成蹟ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條　生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ第四年ノ八月下旬ニ至ル三十六箇月トシ之ヲ三學年ニ分チ各學年ハ每年九月一日ヨリ開始ス

第十一條　生徒ハ總テ校内ニ寄宿セシム

生徒ハ入學中被服、糧食其他ノ費用トシテ若干ノ納金ヲ爲スモノトス之ヲ自費生ト稱ス

第十二條　生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資產ヲ顧慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ全額ヲ免除スルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス

一　戰死及戰傷ニ依リ死沒シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死沒シタル陸海軍將校及同相當官竝ニ高等文官孤兒

二　現職中公務ノ爲ニ死沒シタル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

三　增加恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

四　恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

五　特ニ國家ニ功勞アル高等官ノ孤兒

第十三條　生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ顧慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ内大被服及精米料ヲ免除スルコトヲ得之ヲ半特待生ト稱ス但前條ノ各項ニ該ル者ノ内特待生ト爲ササル者ハ之ヲ半特待生ト爲スコトヲ得

一　現職ニ在ル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

二　思給權ヲ得タル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

三　陸海軍少佐及同相當官ニ名譽進級ヲ爲シタル者ノ兒子

第十四條　家督相續者タル養子ハ前二條中ノ孤兒或ハ兒子ニ準ス

第十五條　特待生、半特待生ト爲スヘキ人員及其區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十六條　本條例中孤兒及兒子ハ總テ同戸籍内ニ現在スルモノニ限ル又一家ヨリ重複シテ特待ヲ受クルヲ得サルモノトス

第十七條　特待生半特待生及自費生ノ納金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十八條　生徒中止ムヲ得サル事故アリテ退校ヲ願出ル者アルトキハ其事情ニ依リ之ヲ許スコトアルヘシ

第十九條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一　學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者

二　屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

三　傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

四　卒業試驗ニ落第セシ者

第二十條　生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試驗ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試驗ニ落第セシ者ト雖モ尚望ミアル者ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得

第二十一條　前三條ニ該ル者アルトキハ校長ハ其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第二十二條　生徒學修期末ニ至レハ校長ハ卒業試驗規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試驗ヲ行ハシム

第二十三條　卒業試驗ヲ終レハ校長ハ各教官生徒監ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十四條　教育總監ハ地方幼年學校長ヲシテ前條卒業者ニ中央幼年學校ヘ入學ヲ命セシム

第二十五條　前條ノ生徒ハ中央幼年學校ニ入校ノ期日ニ至ル迄休暇ヲ與ヘ歸省又ハ他行ヲ許スコトヲ得但此間ニ於ケル身分ハ地方幼年學校ニ屬ス

第二十六條　毎年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

◉陸軍中央幼年學校條例

明治三十一年十月勅令第二百二十八號

朕陸軍中央幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍中央幼年學校條例

第一條　陸軍中央幼年學校ハ陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ生徒ト爲シ地方幼年學校ノ教育ニ連繫シテ士官候補生タルニ必要ナル普通學科及軍人ノ豫備教育ヲ爲シ陸軍各兵科士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第三條　生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　大中佐

副官　大中尉

教官　大中尉、陸軍教授、陸軍助教

生徒隊中隊長　大尉

生徒隊中隊附　中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第五條　校長ハ教育總監ニ隷シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任シ東京陸熟方地幼年學校ヲ管轄ス

第六條　副官ハ校中一般ノ事務ヲ掌ル

第七條　馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第八條　文官教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セシム

第九條　中隊長ハ中隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ生徒ヲシテ軍紀ニ慣熟セシメ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條　中隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ自ラ模範ト爲リテ之ヲ指導シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス

第十一條　生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ翌年五月下旬ニ至ル二十一箇月トシ之ヲ二學年ニ分チ各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十二條　陸軍地方幼年學校條例第十一條乃至第十七條ノ規定ハ本校生徒ノ爲ニモ亦之ヲ適用ス

第十三條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十四條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一　學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者

二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

四　傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五　卒業試驗ニ落第セシ者

第十五條　生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試驗ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試驗ニ落第セシ者ト雖モ尚望ミアルモノハ滯學補修ヲ爲サシメタル後チ卒業セシメ又ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得但滯學日數ハ士官候補生教育ニ支障ナキヲ度トシ又延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十六條　生徒中卒業試驗ニ及第スルモ傷痍疾病等ニテ士官候補生ト爲スヲ得サル者ニハ單ニ卒業證書ヲ附與シテ退校セシム

第十七條　前三條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育監總之ヲ裁定處分ス

第十八條　生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試驗規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試驗ヲ行ハシム

第十九條　卒業試驗ヲ終レハ校長ハ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十條　教育總監ハ前條卒業者中士官候補生トナスヘキ者ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ士官候補生ヲ命シ各隊ニ配賦ス

前項士官候補生ヲ命セラレタル生徒ニハ入隊前ニ於テ一週間以内ノ休假ヲ與フルコトヲ得

第二十一條　滯學ヲ命セラレタル生徒補修終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十二條　毎年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十三條　教官、中隊長及中隊附士官ハ教官上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

第二十四條　明治三十二年前入學ノ本校生徒ハ其卒業ニ至ル迄本條例第十一條及第十二條ノ規定ハ左ノ各條ニ據リ取扱フ

第二十五條　生徒修學期ハ概子三箇年トシ各學年ハ毎年九月ニ始メ而シテ第三年ニ在リテハ五月ニ終ル

第二十六條　生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ

官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服賄料ノ經費自費生徒ハ被服、糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十七條　戰死又ハ公務ノ爲メ死亡シタル高等官ノ孤兒ハ官費生徒トス

第二十八條　前條ノ外官費、半官費、自費生徒ノ區分ハ教育總監之ヲ裁定ス

◉陸軍幼年學校條例廢止ノ件

明治二十九年五月勅令第二百十四號

陸軍幼年學校條例ヲ廢止ス

◉陸軍士官學校條例

明治三十一年十月勅令第二百二十六號

陸軍士官學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍士官學校條例

第一條　陸軍士官學校ハ陸軍各兵科士官候補生ヲ以テ生徒トナシ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第三條　生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　少將大佐

副官　大中尉

教官　中少佐、大中尉、軍醫、獸醫、陸軍教授、陸軍助教

生徒隊長　中少佐

生徒隊中隊長　大尉

生徒隊附　中尉

軍醫

獸醫

軍吏　准士官、下士、判任文官

第五條　校長ハ教育總監ニ隷シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ校長ノ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條　軍事學教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條　馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條　文官教官ハ外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條　生徒隊長ハ生徒隊ヲ統ヘ生徒ノ訓育ヲ監督シ各中隊長ヲシテ擔任ノ訓育ニ任セシメ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任ス

第十一條　中隊長ハ生徒隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十二條　生徒隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス

第十三條　生徒ノ修學期ハ每年十二月一日ヨリ翌年十一月下旬ニ至ル十二箇月トス

第十四條　生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十五條　生徒入校中ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十七條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一　學術ノ練習全カラスシテ實際修學ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

二　軍紀ヲ紊リ又ハ服法則ヲ犯ス者

三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

四　傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五　卒業試驗ニ落第セシ者

第十八條　前條第一第四及第五項ニ該當シ退校セシメシ士官候補生ニシテ尚望ミアル者ハ次ノ學期ニ於テ再ヒ入校セシムルコトヲ得

第十九條　生徒中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期内ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者又ハ卒業試驗ヲ受ケ得サル者ハ滯學ヲ命スルコトヲ得

第二十條　本條例第十七條及第十九條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第二十一條　生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試驗規格ヲ攝シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁可シ校長ヲシテ卒業試驗ヲ行ハシム

第二十二條　卒業試驗ヲ終レハ校長ハ各教官生徒隊長及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十三條　卒業證書ヲ附與シタル者ニハ校長直ニ歸隊ヲ命ス

第二十四條　滯學ヲ命セラレタル生徒修學ヲ終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十五條　生徒ニハ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十六條　教官、中隊長及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附動務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

◉陸軍戸山學校條例

明治三十一年十月勅令第二百二十七號

陸軍戸山學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍戸山學校條例

第一條　陸軍戸山學校ハ學生ニ戰術、射撃、體操竝騎術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且携帶火兵ノ研究及試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分テ左ノ三種トス

一　戰術科學生ハ歩兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ歩兵少尉或ハ築城砲兵及工兵士官ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

二　射撃科學生ハ歩兵士官及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ騎兵、輜重兵、砲兵、工兵及輜重兵士官及下士ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

三　體操騎術科學生ハ歩、騎、砲、工、輜重兵士官及下士ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　戰術及射撃研究ノ爲メ時トシテ佐官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ歩兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　大中佐

副官　大中尉

教官　中少佐、大中尉、軍醫

教導大隊長　中少佐

教導大隊副官　中尉

教導大隊中隊長　大尉

教導大隊附　中尉

軍醫

軍吏　准士官、下士、判任文官

第六條　校長ハ教育總監ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任シ陸軍軍樂學校ヲ管轄ス但携帶火兵ノ研究及試驗ニ關シテハ陸軍砲兵會議議長ノ指揮ヲ受ク

第七條　副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條　教官ハ戰術、射撃竝體操竝騎術ノ學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究竝携帶火兵ノ研究及試驗ニ任シ佐官ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第九條　教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十條　學生ノ修學期ハ各科共概子五箇月トシ每年二回ニ分テ入校セシム

第十一條　學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條　學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ戸山學校長ニ送達セシムヘシ

第十三條　學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム

第十四條　學生中ノ願届其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條　校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ教育總監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作リ署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條　教導大隊ヘ分遣ノ下士兵卒ハ現役尚一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選拔スヘシ

第十八條　教導大隊ヘ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第十九條　教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十條　演習上ノ必要ニ依リ砲工學校校馬ヲ使用スルコトヲ得

◎陸軍大學校條例

明治三十一年六月　勅令第百二十一號

朕陸軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大學校條例

第一條　陸軍大學校ハ高等兵學ヲ教授シ參謀其他樞要ノ職務ニ充ツヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　少將若クハ大佐

副官　大中尉

廐長　騎兵科大尉

軍醫

獸醫

軍吏

教頭　大佐

兵學教官　陸海軍佐官及陸海軍大尉

教官　陸海軍佐官若クハ陸海軍尉官

同　監督部上長官若クハ監督補

同　衛生部上長官若クハ一等軍醫

同　一等獸醫

同　陸軍教授

第三條　校長教頭及兵學教官ハ參謀官トス

第四條　第二條職員ノ外下士及屬若干ヲ置ク

第五條　校長ハ參謀總長ニ隷シテ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ事務ヲ分掌シ廐長ハ校廐ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス

第七條　教頭ハ校中一般ノ教育ヲ監督シ校長ニ對シ教育方法ヲ參畫スルノ責ニ任ス時トシテハ自ラ一部ノ教授ヲ擔任スルコトアルヘシ

第八條　兵學教官及教官ハ學術ノ教授ヲ分擔シ又時トシテハ翻譯ニ從事セシムルコトアリ

第九條　兵學教官ノ外武官教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十條　本校學生候補者ハ左ノ資格ヲ具フル者ヨリ選拔ス

各兵科ノ中少尉ニシテ二年以上(五月盡日調)隊務ニ服シ身體強健、勤務精勵氣節アツテ識量ニ富ミ且學術材幹卓越ニシテ判斷力ヲ有シ將來充分發達ノ見込アル者

第十一條　聯隊長(獨立隊ニ在テハ其隊長校團其他ニ在テハ其所屬長以下倣之)ハ前條ノ資格アルモノヲ選拔シ學生候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ所管長官ニ呈ス同長官ハ之ヲ取捨シテ候補者ヲ決定シ且ツ選拔順次名簿(兵科及階級ニ關セス)ヲ製シ候補名簿ヲ併セテ三月盡日迄ニ參謀總長ニ進達ス

第十二條　聯隊長ハ學生候補者ノ性行才能ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

第十三條　入學人員及學生候補者試驗課目竝ニ初審試驗開始ノ時日ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年二月陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條　參謀總長ハ候補者ノ學力ヲ檢定スル爲メニ試驗委員ヲ設ク校長ヲ委員長トナシ以テ左ノ試驗ヲ行フ

其一　初審試驗

初審試驗ハ候補者ノ學識如何ヲ檢定スルモノニシテ近衛及第一師管内ノ候補者ニ在テハ陸軍大學校、其他ノ師管(臺灣ニ在テハ旅團守備營區)ニ在テハ當該師團長(臺灣ニ在テハ旅團長以下之ニ倣フ)ノ定ムル場所ニ於テ各地同時ニ之ヲ行フ依テ各所屬長官ハ其時日ニ候補者ヲ試驗場ニ派遣スヘシ其試驗問題ハ試驗委員長ヲシテ毎年六月之ヲ封緘シ人名簿ヲ添ヘ關係アル師團長ニ送付セシム

前項ニ依リ陸軍大學校ニ集合スル者ノ爲メ試驗委員長ハ試驗委員各師團ニ於テスル者ノ爲メ當該師團長ハ參謀長若クハ參謀ヲシテ之ヲ監視セシメ候補者ヲシテ筆記ノ答解ヲナサシメ其書類ヲ七月二十日迄ニ試驗委員長ニ送付スルモノトス

其二　再審試驗

再審試驗ハ其學力ノ活用如何ヲ檢定スルモノニシテ參謀總長受驗人名ヲ陸軍大臣ニ侈ス陸軍大臣ハ各所管長官ヲシテ其受驗者ヲ大學校ニ派遣セシム

第十五條　參謀總長ハ前條ノ試驗及第十一條ノ書類ヲ參照シ入學者ヲ決定シ之ヲ陸軍大臣ニ侈牒ス陸軍大臣ハ之ニ入學ヲ命ス

第十六條　學生ノ名簿ハ原所管ヲ離ルルコトナシ但入學中願屆其他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條　本校ノ修學期限ハ三箇年トス但疾病ノ爲メニ缺課多キモノニ在リテハ校長ノ上申ニ由リ參謀總長更ニ一箇年滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條　校長ハ學生入學ノ後ニ其資格不適合ト認ムル者アルトキハ參謀總長ニ具狀ス參謀總長ハ之ヲ査覈シ陸軍大臣ハ移牒シ退學ヲ命シ原所管ニ復歸セシムルコトアルヘシ

第十九條　學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ圖書器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第二十條　學生ヲシテ毎年七八月ノ際ニ隊附服務セシム尚第二第三學年者ニアリテハ野戰及要塞砲兵射擊學校若クハ要塞砲兵聯隊ニ派遣シ野戰及要塞砲兵射擊術及其用法ヲ實地ニ研究セシム又時宜ニ依リ第二學年者ニ限リ其年附屬セシ軍隊ノ秋季演習ニ從事セシムルコトアルヘシ

學生ハ隊附服務中勤務上ニ關シテハ其隊長ニ隷シ野戰及要塞砲兵射擊學校竝ニ要塞砲兵聯隊派遣中研究ノ事項ニ關シテハ該校長若クハ該隊長ノ指揮ヲ受クルモノトス

當該隊長ハ學生隊附服務ヲ終リタル後砲兵射擊學校長竝ニ要塞砲兵聯隊長ハ學生研究ヲ終リタル後各其成績ヲ校長ニ申報ス

第二十一條　學生隊附服務中ハ當該隊長學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス

第二十二條　校長ハ各學期ノ終ニ於テ教頭及兵學教官ヲ會集シ學生ノ修學結果及技倆ヲ審査シ第一第二學年者ノ爲ニハ其修學結果報告ヲ第三學年者ノ爲ニハ技倆證明書竝ニ優劣順次名簿ヲ製シ參謀總長ニ呈ス

第二十三條　學生ノ卒業者ニハ卒業證書及之ヲ表彰スヘキ徽章ヲ付與シ隊附ノ者ニアリテハ直チニ原隊ニ復歸セシメ隊外ノ者ニアリテハ其所管ニ復歸ノ後直チニ隊附ヲ命ス

附則

第二十四條　本校學生ハ中少尉ノ外當分ノ内各兵科ノ大尉ニシテ第十條ニ掲クル所ノ資格ヲ具フル者ヲ選拔シテ入學セシムルコトヲ得

◎陸軍教導團條例

明治三十九年五月　勅令第二百十六號

朕陸軍教導團條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍教導團條例

第一條　陸軍教導團ハ生徒ニ歩兵、騎兵、砲兵(野戰砲兵)工兵、輜重兵科下士タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條　生徒ハ華士族平民中歩兵、騎兵、砲兵(野戰砲兵)工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス

第三條　本團ニ歩兵、騎兵、砲兵、工兵及輜重兵ノ生徒隊各一隊ヲ置ク

第四條　本團ニ左ノ職員ヲ置ク

團長　大中佐

副官　大中尉

生徒隊長　少佐大尉（明治二十九年十二月勅令第三百九十六號ヲ以テ「大尉」ノ二字ヲ追加ス）
生徒隊副官　中尉
生徒隊中隊長　大尉
生徒隊附　中尉
病院長　二等軍醫正
軍醫
藥劑官
獸醫
軍吏

准士官、下士及陸軍屆

第五條　團長ハ教育總監ニ隷シ團務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス（明治三十一年三月勅令第五十七號ヲ以テ「監軍」ヲ「教育總監」ニ改正）

第六條　副官ハ團中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條　各生徒隊長ハ其隊生徒ノ教育ヲ掌リ其成敗ニ就テハ責ニ任ス而テ騎兵、砲兵、工兵及輜重兵生徒ノ教育上各科專門ノ事ニ關シテハ當該兵監ノ區處ヲ受ク

第八條　生徒隊副官ハ隊中一般ノ庶務ヲ掌ル

第九條　生徒隊中隊長ハ其中隊生徒學術ノ教育ニ任シ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且軍隊內務、服裝、行狀ヲ監視ス

第十條　生徒隊附士官ハ生徒隊又ハ所屬中隊ニ在テ生徒教育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ朝行ニ就テハ日常注意シ分擔ノ教育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十一條　生徒修學期ハ步兵科ハ概子十四箇月騎兵及輜重兵科ハ概子十六箇月砲兵及工兵科ハ概子十八箇月トス

第十二條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ團長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム（同上）

第十三條　生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル（同上法令ニテ第十三條ヲ削リテ第十四條ヲ第十三條トシ以下順次ニ繰上ク）

第十四條　生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退團スルヲ許サス

第十五條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退團セシム

其一　學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者
其二　軍紀ヲ紊リ又ハ嚴法則ヲ犯ス者
其三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
其四　長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者
其五　卒業試驗ニ落第セシ者

第十六條　團長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試驗ヲ施行シ及第者ニハ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第十七條　生徒中疾病事故ニ依リ卒業試驗ヲ受クサル者又ハ卒業試驗ニ落第スルモ尙ホ望ミアル者ハ若干日間滯學セシムルコトアルヘシ

第十八條　滯學ヲ命シタル生徒修學ヲ終レハ第十六條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス（同上法令ニテ「第十七條」ヲ「第十六條」ニ改ム）

第十九條　中隊長及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

◉陸軍砲兵工科學校條例

明治二十九年四月勅令第百二十七號

陸軍砲兵工科學校條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵工科學校條例

第一條　陸軍砲兵工科學校ハ東京砲兵工廠ニ置キ提理ノ管理ニ屬シ砲兵諸工專門ノ工術ヲ教授シ火工下士及鞍工銃工木工鍛工諸長ニ任用スヘキモノヲ教成スル所トス

第二條　火工ハ砲兵隊上等兵中尙ホ現役二十箇月以上アル者ヲ選拔分遣シテ學生トナシ他ノ諸工ハ現役六箇月以上ヲ經タル各兵諸卒中志願者ヲ選拔シテ生徒トナス

但諸生徒ニ在テハ時宜ニ因リ一般人民ヨリ採用スルコトアルヘシ

第三條　學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　砲兵少佐
學校附　砲兵大中尉
軍醫

軍吏

第四條　前條ニ揭クル職員ノ外砲兵科衛生部軍吏部下士及陸軍助教ヲ置ク

第五條　校長ハ東京砲兵工廠提理ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第六條　學校附砲兵大中尉ハ教官ヲ兼ネ專ラ訓育ニ從事シ學術ノ教授ヲ分擔シ殊ニ學生及生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルモノトス

助教ハ專ラ副課授業ノ事ヲ擔任セシム

第七條　學期ハ學生ニ依テハ概子一箇年トシ生徒ニ在テハ概子二箇年トス但修業中疾病又ハ止ムヲ得サル事故アリテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ延期スルコトヲ得

第八條　學生及生徒各工科專門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス

學校ノ內務ハ概子軍隊內務ノ規定ニ依ル

第九條　生徒召募ノ方法及學生生徒ノ人員ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス

第十條　師團長ハ陸軍大臣ノ告達ニ依リ學生ニ在テハ砲兵隊長ヲシテ身體行狀學術等ヲ調查シ次工術ニ適當ノ者ヲ選拔セシメ入校期十日前マテニ其ノ兵籍ノ副本ヲ提理（東京砲兵工廠提理以下之ニ倣フ）ニ送達セシム

第十一條　諸卒ヨリ生徒ヲ命セラレタルモノノ兵籍ハ隊長ヨリ提理ニ送達スルモノトス

第十二條　學生所用ノ書籍器具機械雜具消耗品竝修業用ノ原料ハ貸與又ハ支給スルモノトス

第十三條　生徒修業ノ發用其ノ他被服食料旅費等ハ一切官給トシ且手當金ヲ給ス

第十四條　學生分遣及校中順屆等ニ關スル事件ハ總テ提理ノ管理ニ屬ス

第十五條　學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス然レトモ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ卒業ノ目途無キ者ハ退校セシム其ノ諸卒ヨリ入校ノ生徒ニ在テハ永久服役ニ堪ヘサル者ヲ除クノ外總テ原兵科ニ復シ苗所管ニ於テ前役（入校中ノ日數ヲ包含ス）ヲ通算シ定規ノ年限間現役又ハ豫備役又ハ後備役ニ服セシム

第十六條　學期末ニ於テ終末試驗ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ學生ニ在テハ其ノ試驗成績表ヲ提理ヨリ師團長ヲ經テ當該砲兵隊ニ移ス

第十七條　學生ハ卒業後原隊ニ復歸シ再服役ヲ許サレタル者ハ該隊ニ於テ缺員アル毎ニ火工二等軍曹ニ任シ生徒ハ卒業後直ニ工下長ニ任ス

附則

第十八條　學生及生徒ノ修學期限ハ當分ノ內補充上ノ都合ニ依リ短縮スルコトヲ得

◉陸軍砲工學校條例

明治三十一年十月勅令第二百二十五號

陸軍砲工學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲工學校條例

第一條　陸軍砲工學校ハ砲工兵科ノ少尉ヲ以テ學生トシ砲工兵各科ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス但少尉ニシテ入學シ得サル者ハ中尉又ハ大尉ニ進級ノ後ニ在テモ學生トシテ入學シ得ルコトヲ得

第二條　學生教育ノ綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ教育總監之ヲ定ム

第三條　學生教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　少將大佐
副官　大中尉
教官　大中少佐、大中尉、陸軍教授
軍醫
獸醫
軍吏
下士、判任文官

第五條　校長ハ教育總監ニ隷シ校務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條　砲工兵科教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ト科長トス

第八條　馬術教官ハ學生ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校廐一切事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條　文官教官ハ數學物理化學國學及外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條　學生ノ修學期ハ概子一箇年トシ之ヲ普通科ト稱ス

第十一條　前條修學ヲ終リタル學生中ヨリ各兵科毎ニ三分ノ一以内ヲ選拔シ更ニ一箇年在學セシム尚須要ナル學術ヲ修メシムル之ヲ高等科ト稱ス

第十二條　學生ノ人員及入校期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告逸ス

第十三條　學生分遣ノ告逸アレハ師團長ハ隊長ヲシテ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科褒寫ヲ添ヘテ砲工學校長ニ送達セシムヘシ

第十四條　學生ノ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ馬匹、馬具、書籍、器具ハ貸與スルコトヲ得

第十五條　學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十七條　學生中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十八條　普通科學生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命ス

一　疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期内ニ所有ノ學術ヲ修メ得サル者

二　卒業試驗ヲ受ケ得サル者

三　卒業試驗ニ落第セシ者

第十九條　高等科學生ニシテ前條第一第二項ニ該ル者アルトキハ校長ハ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命スルコトヲ得

第二十條　校長ハ修學期末ニ於テ學生ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十一條　高等科卒業者中學術優等ノ者若干名ヲ選ミ員外學生トシテ更ニ一箇年間必要ナル科學ヲ研究セシメ又ハ外國留學ヲ命スルコトヲ得

第二十二條　普通科卒業ノ學生ニシテ高等科ニ入ラサル者及高等科卒業ノ者ハ校長直ニ之ヲ歸隊セシム

第二十三條　普通科學生ニシテ退校ヲ命セラレタル者ニ隊長ノ上申ニ依リ教育ノ便宜ノ時期ニ於テ再ヒ入學ヲ命スルモノトス

第二十四條　滯學者ノ再ヒ入學ヲ命セラレタル學生修學ヲ終レハ第二十條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十五條　普通科學生ニシテ前條卒業試驗ニ落第セシトキハ歸隊自習ノ上隊長ノ上申ニ依リ更ニ試驗ヲ受ケシメ及第者ニハ卒業證書ヲ附與シ尚落第シタルモノハ特別ノ詮議ニ附ス

第二十六條　每年學生ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

◎陸軍野戰砲兵射擊學校條例

明治三十一年十月勅令第二百三十一號

改陸軍野戰砲兵射擊學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍野戰砲兵射擊學校條例

第一條　陸軍野戰砲兵射擊學校ハ學生ニ野戰砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ得但修學期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム

第二條　學生ハ野戰砲兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

第三條　前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ野戰砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　大中佐

副官　大中尉　中少佐、大中尉

教官　中少佐

教導大隊長　中尉

教導大隊副官　大尉

教導大隊中隊長　大尉

教導大隊附　中尉

獸醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第六條　校長ハ野戰砲兵監ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス但野戰砲兵材料ノ研究及試驗ニ關シテハ陸軍砲兵會議長ノ區處ヲ受ク

第七條　副官ハ校中一般ノ事務ヲ掌ル

第八條　教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔シ且野戰砲兵ニ關スル學術材料ノ調査研究及試驗ニ任ス

第九條　教導大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十條　學生ノ修學期ハ概子三箇月トシ每年二回ニ分テ入校セシム

第十一條　學生ノ人員及入校期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告逸ス

第十二條　學生分遣ノ告逸アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ野戰砲兵射擊學校長ニ送達セシムヘシ

第十三條　學生ノ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、馬匹、馬具、書籍、器具ハ貸與スルコトヲ得

第十四條　學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス且疾病及其他ノ事故ニ因リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條　校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ケ修得證明書ヲ作リ署名捺印シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條　教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ現役向一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選拔スヘシ

第十八條　教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第十九條　教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

◎陸軍要塞砲兵射擊學校條例

明治三十一年十月勅令第二百三十三號

改陸軍要塞砲兵射擊學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍要塞砲兵射擊學校條例

第一條　陸軍要塞砲兵射擊學校ハ學生ニ要塞砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ且要塞砲兵材料ノ研究竝試驗ヲ行ヒ又生徒ニ要塞砲兵下士タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條　學生ハ要塞砲兵大中尉及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

第三條　前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ要塞砲兵監案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第五條　生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第六條　學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置キ要塞砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第七條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　大中佐

副官　大中尉
教官　中少佐、大中尉
生徒隊長　大尉
生徒隊附　中尉
教導中隊長　大尉
教導中隊附　中尉
軍醫
軍吏
准士官、下士、判任文官

第八條　校長ハ要塞砲兵監ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス但要塞砲兵材料ノ研究及試驗ニ關シテ陸軍砲兵會議議長ノ區處ヲ受ク

第九條　副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第十條　教官ハ學生學術科ノ授業ヲ分擔シ且要塞砲兵ニ關スル學術、材料ノ調査研究及試驗ニ任ス

第十一條　生徒隊長ハ生徒隊一般ノ事ヲ管理シ生徒隊附士官ヲ指揮シ生徒ノ教育ヲ擔任シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十二條　生徒隊附士官ハ生徒教育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ教育ニ就テハ其責ニ任ス

第十三條　教導中隊ノ中隊長以下ノ服務ハ軍隊內務ノ定則ヲ適用ス

第十四條　學生ノ修學期ハ概ネ四箇月トシ毎年二回ニ分チ入校セシム

第十五條　學生ノ人員及入校期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十六條　學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表ヲ添ヘテ要塞砲兵射擊學校長ニ送達セシムヘシ

第十七條　學生士官ハ校外ニ同下士ハ校內ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム

第十八條　學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十九條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖トモ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ要塞砲兵監ノ認可ヲ受ケ退校セシム

第二十條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作リ署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送附シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第二十一條　生徒ノ修學期ハ毎年六月一日ヨリ翌年十一月下旬ニ至ル十八箇月トス

第二十二條　生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第二十三條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十四條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一　學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者
二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
四　傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者
五　卒業試驗ニ落第セシ者

第二十五條　生徒中疾病及其ノ他ノ事故ニ依リ卒業試驗ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試驗ニ落第スルモ尙望ミアル者ハ滯學ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　前二條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ之ヲ處分ス

第二十七條　生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試驗規格ヲ擇シ要塞砲兵監ニ上申ス要塞砲兵監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試驗ヲ行ハシム

第二十八條　卒業試驗ヲ終レハ校長ハ其成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十九條　滯學ヲ命セラレタル生徒修學ヲ終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス

第三十條　教導中隊ヘ分遣ノ下士兵卒ハ現役尙一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選拔スヘシ

第三十一條　教導中隊ヘ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器被服裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ニ附セシム

第三十二條　教官及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

◉陸軍砲兵工科學舍條例廢止ノ件

明治二十九年四月勅令第百二十六號

朕陸軍砲兵工科學舍條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵工科學舍條例ヲ廢止ス

◉陸軍砲兵射的學校條例廢止ノ件

明治二十九年五月勅令第二百十九號

朕陸軍砲兵射的學校條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵射的學校條例ヲ廢止ス

◉要塞砲兵幹部練習所廢止ノ件

明治二十九年五月勅令第二百二十一號

朕要塞砲兵幹部練習所條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

要塞砲兵幹部練習所ヲ廢止ス

◉陸軍騎兵實施學校條例

明治三十一年十月勅令第二百三十號

朕陸軍乘馬學校條例ヲ廢シ陸軍騎兵實施學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍騎兵實施學校條例

第一條　陸軍騎兵實施學校ハ學生ニ戰術及馬術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且乘馬具及馬匹器具ノ研究竝試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ヲ分テ左ノ二種トス

一　戰術科學生ハ騎兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

二　馬術科學生ハ騎兵中少尉及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ野戰砲兵輜重兵士官及下士ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

第三條　戰術研究ノ爲メ時トシテ佐官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置キ騎兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　大中佐
副官　大中尉
教官　中少佐、大中尉、獸醫
教導中隊長　大尉
教導中隊附　中尉
廐長　大尉
調馬手長　中尉
軍醫
獸醫
軍吏
准士官、下士、判任文官

第六條　校長ハ騎兵監ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス但乘馬具及馬匹器具ノ研究及試驗ニ關シテハ陸軍砲兵會議議長ノ區處ヲ置ク

第七條　副官ハ校中一般ノ事務ヲ掌ル

第八條　教官ハ戰術及馬術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究竝乘馬具及馬匹器具ノ研究及試驗ニ任シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第九條　廐長ハ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ニ任ス
第十條　調馬手長ハ廐長ニ隷シ馬匹ノ調教ヲ掌ル
第十一條　教導中隊ノ中隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス
第十二條　學生ノ修學期ハ各科トモ概ネ十一箇月トス
第十三條　學生ノ人員及入校期日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス
第十四條　學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ撰定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ騎兵實施學校長ニ送達セシムヘシ
第十五條　學生士官ハ校外ニ屬下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、馬匹、馬具、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム
第十六條　學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校内ノ管理ニ屬ス
第十七條　學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ騎兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム
第十八條　校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ騎兵監ノ認可ヲ請ク士官ニ在テハ修得證明書ヲ作リ署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序書ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム
第十九條　教導中隊ヘ分遣ノ下士兵卒ハ現役尚一箇年以上ノ期アル下士兵卒中ヨリ選拔スヘシ
第二十條　教導中隊ヘ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、馬具、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム
第二十一條　教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

第二十二條　當分ノ内必要ニ應シ學生ノ修學期ヲ短縮シ及戰術科學生ヲ一箇年二回召集スルコトヲ得
第二十三條　陸軍乘馬學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◎陸軍經理學校條例

明治二十九年五月勅令第六十三號

朕陸軍經理學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍經理學校條例

第一條　陸軍經理學校ハ陸軍監督補、陸軍軍吏及陸軍縫工下長靴工下長ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス
監督補ト爲スヘキ者ヲ監督學生、軍吏ト爲スヘキ者ヲ軍吏學生、縫工下長靴工下長ト爲スヘキ者ヲ生徒ト稱ス
第二條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長　一、二等監督
副官　一、二等軍吏
軍醫　一等軍醫
教官　參謀中、少佐騎兵大尉二、三等監督監督補一、二等軍吏陸軍教授陸軍技師
第三條　前條ニ掲クル職員ノ外下士屬及教員トシテ判任文官若クハ雇員並傭人ヲ置ク（明治三十年八月勅令第二百九十八號ヲ以テ本條改正）
第四條　校長ハ陸軍省經理局長ニ隷シ校務ヲ總理シ學生及生徒教育ノ責ニ任シ軍吏學生及生徒入學試驗ニ係ル事ヲ掌ル
第五條　副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
第六條　軍醫ハ衛生事務ヲ擔任ス
第七條　教官ノ内參謀官ハ監督學生、軍吏ハ軍吏學生、教員ハ生徒ノ教授ヲ擔任シ其他ノ教官ハ各學生及生徒ノ教授ヲ分擔ス
第八條　監督學生ハ年齡四十歲以下ノ現役（休職停職ヲ除ク）各兵科大尉一等軍吏及實役停年一箇年以上ノ各兵科中尉二等軍吏ノ志願者ニシテ試驗ニ合格シタル者ヲ選拔シテ採用ス但陸軍大學校卒業ノ者ハ試驗ヲ行ハス（同上）
前項ノ年齡及停年ヲ算スルハ七月一日ヲ以テス
第九條　監督學生志願者ハ六月三十日迄ニ願書ヲ聯隊長又ハ所屬長官ニ出スヘシ聯隊長又ハ所屬長官ハ之ヲ調査シ其ノ願書ニ自己ノ意見書及考科表寫ヲ添ヘ順序ヲ經テ之ヲ所屬長官ニ呈ス所管長官ハ七月三十一日迄ニ之ヲ經理局長ニ送附スヘシ但軍吏ヨリ志願スル者ノ願書ハ聯隊長又ハ所屬長官ヨリ當該監督長ニ送附シ監督部長ハ之ヲ調査シ自己ノ意見書及考科表寫ヲ添ヘ經理局ニ呈スヘシ
陸軍省及陸軍省經理局所屬官衙ノ軍吏ヨリ志願スル者ノ願書ハ所屬長官ヨリ經理局第一課長ニ移シ同課長前項願書ノ取扱ヲ爲スヘシ
第十條　經理局長ハ前項ノ書類ヲ審査シ受驗者名簿ヲ製シ陸軍大臣ニ進達ス
第十一條　陸軍大臣ハ監督學生志願者ノ學力ヲ檢定スル爲メ監督學生試驗委員ヲ設ケ經理局長ヲ委員長ト爲シ筆記及口述ノ試驗ヲ行ハシム
第十二條　筆記試驗ハ陸軍大臣其ノ時日ヲ定メ試驗委員長ヲシテ受驗者名籍及祕封問題ヲ所管長官ニ送附セシム所管長官ハ志願者ヲ集メ次席ノ將校相當官ノ監視ヲ以テ之カ答解ヲ筆記セシメ答解書ヲ直ニ試驗委員長ニ送附セシム
第十三條　試驗委員長ハ筆記試驗ノ成績ニ依リ口述試驗ヲ受クヘキ者ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ之ヲ各所管長官ニ通知ス所管長官ハ其ノ受驗者ヲ經理局ニ派遣ス
第十四條　口述試驗ハ學力應用ノ如何ヲ檢定スルモノニシテ試驗委員之ヲ行フ但時宜ニ依リ筆記試驗ヲモ併セ行フコトアルヘシ（同上法令ニテ本條追加）
第十五條　試驗委員長ハ筆記口述兩試驗ノ成績ニ依リ監督學生ニ採用スヘキ者ヲ定メ陸軍大臣ニ上申ス陸軍大臣ハ之ヲ裁定シ經理學校監督學生ヲ命ス
第十六條　軍吏學生ハ年齡三十二歲以下ノ現役（休職停職ハ除ク）步騎砲工輜重兵特務曹長及一箇年以上現官ニアル現役各兵科曹長一年志願者ニシテ試驗ニ合格シタル者ヲ選拔シテ採用ス（同上法令ニテ本條改正）
前項ノ年齡及停年ヲ算スルハ七月一日ヲ以テス
第十七條　軍吏學生志願者ハ五月三十一日迄ニ願書ヲ聯隊長又ハ所屬長官ニ出スヘシ聯隊長又ハ所屬長官ハ之ヲ調査シ其ノ願書ニ考科表寫ヲ添ヘ之ヲ當該監督部長ニ送附スヘシ但陸軍省及陸軍省經理局所屬官衙ノ書記ヨリ志願スル者ノ願書ハ經理局第一課長ニ送附スヘシ
第十八條　經理局第一課長及各監督部長ハ前條ノ書類ヲ審査シ受驗者名籍ヲ製シ六月三十日迄ニ經理局長ニ進達ス經理局長ハ之ヲ經理學校長ニ下附ス
第十九條　軍吏學生採用試驗ハ經理局長其ノ時日ヲ定メ經理學校長ヲシテ試驗問題ヲ作リ之ヲ經理局長第一課長及各監督部長ニ送附セシム經理局第一課長及各監督部長ハ試驗委員ヲ設ケ試驗ヲ施行ス
監督部所在地外ニアル者ハ監督部長ヨリ試驗施行ヲ本人ノ所屬長官ニ依託スルコトヲ得
第二十條　經理局長第一課長及各監督部長ハ前條試驗ノ答解書ヲ審査シ優等者ノ答解書ニ得點表及受驗者ニ係ル自己ノ意見書ヲ添ヘ經理局長ニ呈ス經理局長ハ之ヲ經理學校長ニ下附ス
第二十一條　經理學校長ハ前條ノ書類ヲ審査シ優劣人名簿ヲ製シ之ニ自己ノ意見書ヲ添ヘ經理局長ニ呈ス經理局長ハ之ヲ審査シ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケテ軍吏學生ニ採用スヘキ者ヲ定メ各其ノ所管長官ニ通知ス所管長官ハ本人ニ經理學校軍吏學生ヲ命ス但經理局所屬官衙ノ者ハ經理局長之ヲ命ス
第二十二條　生徒ハ現役豫備役ノ兵卒ヨリ採用ス
第二十三條　各學生及生徒ノ人員入校時日及其採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定メ告達ス
第二十四條　各學生及生徒入學ノ告達アレハ聯隊長、直屬長官、聯隊區司令又ハ警備隊司令官ハ本人ノ兵籍寫ヲ經理局長ハ監督學生ノ考科表寫ヲ經理學校長ニ送附スヘシ
第二十五條　修學期ハ監督學生ハ概ネ二箇年、軍吏學生及生徒ハ概ネ一箇年トス
第二十六條　各學生ハ校外ニ生徒ハ校内ニ住居セシメ修學ニ所要ノ書籍器具及消耗品ハ貸與又ハ支給ス
豫備役後備役ノ籍ニアル生徒ニハ被服糧食及手當金ヲ支給ス
第二十七條　各學生及生徒ノ名籍ハ原所管ニ存置シ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
第二十八條　各學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第二十九條　校長ハ期ヲ定メテ各學生及生徒ノ試驗ヲ施行シ其終末試驗ヲ終レハ其ノ成績ヲ審査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ經理局長ニ進達シ其認可ヲ請ケテ卒業證書ヲ附與シ原所管ニ復歸セシム

第三十條　校長ハ各學生及生徒中傷痍疾病ノ爲メ終末試驗ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ詮議ノ上尚若干月間修學ヲ許シ又ハ特ニ本人ノ爲メニ試驗ヲ施行スルコトアルヘシ

第三十一條　各學生中疾病其他ノ事故ニテ卒業ノ目途無キ者ハ退校ノ上原所管ニ復歸セシム

第三十二條　生徒中左ノ事項ノ一ニ該ル者ハ退校ヲ命シ現所管ニ復歸セシム

其一　學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者
其二　軍紀ヲ紊リ又ハ風法則ヲ犯ス者
其三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
其四　自己ノ不攝生ヨリ疾病シ久シク休業スル者
其五　長病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者
其六　終末試驗ニ落第セシ者

第三十三條　校長ハ生徒中優等ノ者ハ學期未滿ト雖モ臨時試驗ヲ施行シ經理局長ノ認可ヲ請ケテ卒業證書ヲ附與スルコトヲ得

前項ノ者ハ時宜ニ依リ第二十五條ノ學期中教員ノ助手ニ充ツルコトヲ得

第三十四條　第三十一條第三十二條ニ該ル者アルトキハ校長ハ事由ヲ悉シ經理局長ニ上申シ其認可ヲ請ケテ退校ヲ命ス

附　則

第三十五條　明治二十三年勅令第二百六十五號陸軍經理學校條例同年勅令第三十號陸軍被服工長學舍條例ハ本條施行ノ日ヨリ廢止ス但明治二十九年三月三十一日以前入校及入舍ノ監督講習生軍吏學生及工長學生ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

第三十六條　各學生及生徒ノ修學期ハ補充上ノ都合ニ依リ當分ノ内短縮スルコトヲ得

◎陸軍軍醫學校條例

明治二十九年五月勅令第百九十四號

陸軍軍醫學校條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍醫學校條例

第一條　陸軍軍醫學校ハ學生ノ練習、生徒ノ教成及兵衣、兵食、兵營、兵器等ノ軍陣衛生ニ關スル試驗ヲ行フ所トス

第二條　學生ハ各部隊附ノ衛生部士官ヲ分遣シテ之ニ先テ其特科ヲ練習セシム但シ時宜ニ依リ二等軍醫正ニ練習ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　生徒ハ醫術開業免狀又ハ藥劑師免狀ヲ所持シ衛生部現役士官ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス（明治三十年二月勅令第二十號ヲ以テ本條改正）

第四條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　軍醫監（一等軍醫正）
副官　一等軍醫
教官　衛生部上長官、士官

第五條　校長ハ陸軍省醫務局長ニ隷シ校務ヲ掌理シ教育及衛生試驗ニ關シテ其責ニ任ス

第六條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第七條　教官ハ各專門學科ノ教授及衛生試驗ヲ分擔ス但シ一等軍醫以下ノ教官ハ高級教官ヲ補佐シテ生徒ノ教成及衛生試驗ニ從事スルモノトス

第八條　學生ノ練習期ハ四箇月以内トシ生徒ノ教成期ハ一箇年以内トス

第九條　學生及生徒ノ人員、入校時日竝ニ生徒採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス

第十條　學生分遣ノ告達アレハ師團軍醫部長ハ入校期十日前ニ本人ノ兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘ軍醫學校長ヘ送達スルモノトス

第十一條　學生及生徒ハ校外ニ住居セシメ其科業ニ關シ所要ノ書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十二條　學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトナシト雖分遣中ノ願屆其他

業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十三條　學生ノ練習ヲ終ルトキハ校長ハ原所管ニ復歸ヲ命シ練習中ノ成績ヲ醫務局長ニ報告シ且所管ノ師團軍醫部長ニ之ヲ通知ス

第十四條　生徒ノ教成ヲ終ルトキハ校長ハ卒業試驗ヲ行ヒ其成績ニ據リ列序ヲ定メ考科表ヲ製シテ醫務局長ニ進達シ其認可ヲ請ケ卒業證書ヲ附與ス

第十五條　學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十六條　學生中疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ練習ヲ終ルノ目途ナキ者ハ原所管ニ復歸セシム

第十七條　生徒中左ノ事項ノ一ニ該ル者ハ退校セシム

其一　學力乏クシテ卒業ノ目途ナキ者
其二　軍紀ヲ紊リ又ハ風法則ヲ犯ス者
其三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
其四　疾病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者
其五　卒業試驗ニ落第セシ者

第十八條　第十六條第十七條ニ該タル者アルトキハ校長其事由ヲ悉シ醫務局長ニ上申シ其認可ヲ請ケ復歸若クハ退校ヲ命ス

第十九條　現役豫備役後備役ニ在ル者ニシテ生徒トナリタル者前條ノ處分ヲ受クタルトキハ原所管ニ復歸セシメ前役ヲ通算（入校中ノ日數ヲ合有ス）シテ現役豫備役後備役ニ編入ス

◎陸軍獸醫學校條例

明治二十九年五月勅令第百九十六號

陸軍獸醫學校條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍獸醫學校條例

第一條　陸軍獸醫學校ハ生徒ニ獸醫部初級士官タルニ必要ノ教育ヲ爲シ士官學生下士學生ニ各專門ノ學術ヲ練習セシメ兵卒學生ニ蹄鐵工下長タルニ必要ノ教育ヲ爲ス所トス

第二條　生徒ハ獸醫免許規則第二條第二項第三項若クハ第四項ニ該ル者ニシテ獸醫部現役士官ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス

第三條　士官學生ハ獸醫部士官、下士學生ハ騎兵砲兵輜重兵蹄鐵工長同下長、兵卒學生ハ騎兵野戰砲兵輜重兵隊ノ蹄鐵工卒ヲ分遣シテ之ニ先ツ

第四條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　騎兵中少佐
副官　騎兵大中尉
教官　獸醫監、騎兵大尉、一等獸醫、騎兵中尉
軍醫
軍吏

第五條　前條ニ揭ケル職員ノ外下士屆技手ヲ置ク

第六條　校長ハ陸軍省軍務局長ニ隷シ校務ヲ總理シ教育及練習ノ責ニ任ス

第七條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌ル

第八條　教官ハ學術ノ教授生徒ノ訓育及學生、生徒ノ取締ヲ分擔ス

第九條　學生ノ學期ハ士官ニ在テハ概子五箇月下士ニ在テハ概子三箇月兵卒ニ在テハ概子九箇月トス

生徒ノ學期ハ十八箇月トス但帝國大學農科大學獸醫學科卒業者ニ在テハ其學期ヲ三箇月トス

第十條　學生及生徒ノ人員、學生入校時日及生徒採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定メ告達ス

第十一條　前條ノ告達アルトキハ師團長ハ士官學生ニ在テハ獸醫部長、下士學生及兵卒學生ニ在テハ當該隊長ヲシテ入校者ヲ選定セシメ入學期十日前迄ニ士官學生ニ在テハ兵籍、下士學生及兵卒學生ニ在テハ兵籍及考科表ヲ校長ニ送達セシム但兵卒學生ニ下士志願ノ蹄鐵工卒中適當ノ者ヲ選定スルモノトス

第十二條　士官學生ハ校外ニ下士學生、兵卒學生及生徒ハ校内ニ居住セシム

第十三條　學用品ハ士官學生ニ在テハ自辨トシ下士學生、兵卒學生ニハ之ヲ貸與又ハ支給ス但士官學生下士學生ト雖モ授業ノ種類ニ由リ之ヲ貸與又ハ

支給スルコトアルヘシ

第十四條　生徒ノ賭給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十五條　學生ノ願屆其他業務ニ關スル件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條　學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十七條　學生ニシテ疾病其他ノ事ニヨリ修得若クハ卒業ノ目途ナキ者ハ原所管ヘ復歸セシム

第十八條　生徒ニシテ左ニ揭クル事項ノ一ニ該ル者ハ退校セシム

其一　學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四　疾病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

但自己ノ不攝生ヨリ生セサル長病ニシテ尚ホ卒業ノ見込アル者ハ詮議ノ上若干月間修學ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條　第十七條及第十八條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ悉シ陸軍省軍務局長ノ認可ヲ請ケテ退校ヲ命ス

第二十條　現役豫備役後備役ニ在ル者ニシテ生徒トナリタル者前條ノ處分ヲ受ケタルトキハ原所管ニ復歸セシメ前役ヲ通算（入學中ノ日數ヲ含有ス）シテ現役豫備役後備役ニ編入ス

第二十一條　校長ハ士官學生及下士學生ニ在テハ學期ノ末ニ於テ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學中ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ修得證明書ヲ付與シ兵卒學生及生徒ニ在テハ學期ノ末ニ於テ終末試驗ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ付與ス

各學生修學ヲ終レハ校長ハ原所管ニ復歸ヲ命シ且其成績ヲ軍務局長ニ報告シ所管師團獸醫部長及隊長ニ通知ス

第二十二條　治療術及蹄鐵術ニ所要ノ馬匹ハ陸軍乘馬學校飼養ノ馬匹ヲ以テ之ニ充ツ時宜ニヨリ他ノ學校及軍隊飼養ノ馬匹ヲモ之ニ充ツルコトヲ得

將校及同相當官飼養ノ馬匹ハ本人ノ希望ニ依リ前項ノ所要ニ供スルコトヲ得

附則

第二十三條　現今營外居住ノ蹄鐵工長同下長ニシテ學生トナリタル者ニ限リ校外ニ居住セシムルコトヲ得

第二十四條　明治二十七年五月勅令第五十五號陸軍獸醫部現役士官補充條例ニ依リ入校スル者ハ從前ノ規程ニ從フモノトス

第二十五條　明治三十二年三月三十一日迄ハ補充上ノ都合ニ依リ學生及生徒ノ學期ヲ短縮スルコトヲ得

◎陸軍軍樂學校條例

明治三十一年三月勅令第六十二號

朕陸軍軍樂學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍樂學校條例

第一條　陸軍軍樂學校ノ各軍樂隊ハ樂生ヲ補充スル爲メ生徒ヲ養成シ又諳調學生ニ皷譜喇叭譜ノ訓練ヲ爲シ且軍樂學術ノ進歩ヲ計ル所トス

第二條　生徒ハ華士族平民中軍樂部ニ出身志願ノ者ヲ撰拔シテ採用ス

第三條　普調學生ハ歩兵隊ノ皷手長及騎砲工輜重兵隊ノ喇叭長ヲ分遣セシメテ之ニ充ツ

第四條　本校ニ生徒隊一隊ヲ置ク

第五條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　一等軍樂長

生徒隊長　一、二等軍樂長

准士官下士

第六條　校長ハ陸軍戸山學校長ニ隷シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第七條　生徒隊長ハ學生ノ訓練及生徒ノ教育ヲ掌リ其成績ニ就キ責ニ任ス

第八條　修學期ハ學生ニ在テハ概子二箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシメ生徒ニ在テハ概子十二箇月トス

第九條　學生ノ人員及入校時日ハ其時時教育總監ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條　學生分遣ノ告達アレハ隊長ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添エテ戸山學校長ニ送達スヘシ

第十一條　學生及生徒ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給シ學生ニ在テハ武器被服裝具ヲ携帶セシム

生徒ノ賭給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十二條　學生ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ軍樂學校長ノ管理ニ屬ス

第十三條　學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十四條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一　學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四　傷痍疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者

第十五條　校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ修學ノ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ戸山學校長ニ具申シ戸山學校長ハ師團長ヲ經テ之ヲ當該隊長ニ交付シ又修學ノ成績ヲ教育總監ニ報告ス

第十六條　校長ハ生徒ノ修學期末ニ於テ卒業試驗ヲ施行シ考科列序ヲ定メ戸山學校長ニ具申シ戸山學校長ハ其及第者ニハ卒業證書ヲ附與シ樂生ヲ命ス

第十七條　生徒中疾病事故ニ依リ卒業試驗ヲ受ケサル者又ハ卒業試驗ニ落第シタル者ハ尚ホ滯學セシメ更ニ前條ニ準シ卒業試驗ヲ施行スルコトヲ得

◎陸軍及海軍諸學校ニ於ケル文官教官

明治十九年十月勅令第六十八號

朕茲ニ陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス

陸軍及海軍教官

第一條　陸軍及海軍諸學校ニ武官教官ノ外文官教官ヲ置ク左ノ如シ

教授　奏任

助教　判任

第二條　教授ノ官等俸給ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ助教ノ官等俸給ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

武官ヲ以テ教官ニ充ツルトキハ本條ノ限ニアラス

第三條　教授助教ノ人員ハ其需要ニ從ヒ陸軍大臣若クハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

◎陸軍將校生徒試驗委員條例

明治三十一年十月勅令第二百四十五號

朕陸軍將校生徒試驗委員條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍將校生徒試驗委員條例

第一條　陸軍將校生徒試驗委員ハ將校生徒ノ召募試驗ニ任スルモノニシテ之ヲ分テ常置委員及臨時委員ノ二トス

第二條　常置委員ハ士官候補生地方幼年學校生徒及一年志願兵志願者ノ召募試驗格並ニ試驗問題ヲ起案シ且士官候補生及地方幼年學校生徒ノ志願書類及試驗ノ成績ヲ調査スルモノニシテ其組織左ノ如シ

常置委員長　少將大佐

常置委員　佐官、大尉同相當官並陸軍教授

常置委員主事　佐官、大尉同相當官並陸軍教授

第三條　常置委員長、委員及主事ハ他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ兼子シム

第四條　常置委員長ハ教育總監ニ隷シ委員以下ヲ統督シ試驗ノ事ニ關シテハ教育總監ニ對シ責ニ任ス

第五條　常置委員ハ試驗問題ノ起案並ニ試驗成績ノ調査ヲ分擔ス

第六條　常置委員主事ハ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ處理シ委員長ニ對シ事務整理ノ責ニ任ス

第七條　常置委員ノ下ニ書記若干ヲ置キ教育總監部所管ノ判任文官ヲシテ兼勤セシメ主事ノ命ヲ受ケ事ニ從ハシム

第八條　教育總監ハ常置委員長ノ具申ニ依リ常置委員ノ外所管ノ將校同相當官陸軍教授判任文官ヲシテ試驗事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第九條　臨時委員ハ各檢査場ニ就キ試驗ヲ實施スルモノニシテ其都度各師團長部下將校團長若クハ佐官中ヨリ所要ノ人員ヲ選ンテ之ヲ命ス

臨時委員ハ試驗實施ノ事ニ關シテハ師團長ニ對シ責ニ任ス

第十條　師團長ハ前條臨時委員ノ外受驗者ノ數ニ應シ部下大中尉ニ命シ試驗ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十一條　臨時委員ハ書記トシテ准士官下士若干ヲ使用スルコトヲ得

第十二條　師團長ハ試驗實施ノ事ニ關シテハ陸軍大臣ニ對シ責ニ任ス

第九章　海軍省所管

◎海軍省官制　明治三十年三月勅令第五十九號

朕海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省官制

第一條　海軍大臣ハ海軍軍政ヲ監理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條　海軍大臣官房ニ主事二人ヲ置ク

主事ハ海軍上長官ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ノ命ヲ承ケ海軍大臣官房ノ事務ヲ掌ル（明治三十一年十一月勅令第三百三十四號ヲ以テ本項改正）

第三條　海軍大臣祕書官ハ二人トシ一人ハ主事ヲ以テ之ヲ兼子シメ一人ハ海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌ル

事務祕書官ハ命ヲ承ケ海軍大臣官房ノ事務ニ服ス

第四條　海軍省ニ專任參事官一人ヲ置ク

海軍省ニ參與官書記官ヲ置カス（明治三十一年十月勅令第二百七十七號ヲ以テ本項ヲ改メ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第五條　海軍大臣官房ニ人事課ヲ置ク

人事課長ハ海軍大佐ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス（明治三十一年十一月勅令第三百三十四號ヲ以テ本項改正）

人事課ニ專務課僚二人ヲ置キ海軍中少佐若クハ士官ヲ以テ之ニ補ス（明治三十年十二月勅令第四百二十二號ヲ以テ本項改正）

第六條　人事課ニ於テハ高等武官、候補生、准士官及文官ノ進退、任免、非職、命課、增俸其ノ他ノ人事、軍人軍屬ノ叙位、叙勳、記章、褒章、賞與竝恩給ニ關スル事項ヲ管掌ス

第七條　海軍省ニ軍務局、醫務局、經理局及司法部ヲ置キ軍務局長ハ海軍將官、醫務局長ハ海軍軍醫總監、經理局長ハ海軍主計總監ヲ以テ之ニ補シ司法部長ハ主理ヲ以テ之ニ充ツ

第八條　軍務局ニ於テハ建制、編制、役務、教育、訓練、演習、檢閱、高等武官ノ補充、下士卒ノ任用進級、兵員ノ徵募、軍記、風紀、戒嚴、徵發、儀式、禮式、服制、旗章、海上保安、水路、望樓、運輸通信、艦船、兵器艦營需品及測器ニ關スル事項ヲ管掌シ軍事課、機關課、造船課及兵器課ヲ置キ其ノ事項ヲ分掌セシム

第九條　軍務局軍事課長ハ海軍大佐機關課長ハ海軍機關總監若ハ機關大監、造船課長ハ海軍造船總監若ハ造船大監、兵器課長ハ海軍大佐若クハ造兵大監ヲ以テ之ニ補ス（同上法令ニテ本項改正）

各課ヲ通シ專務課僚十三人ヲ置キ海軍造船大監中佐同相當官少佐同相當官大尉同相當官ヲ以テ之ニ補ス（同上）

第十條　醫務局ニ就テハ醫務、衛生、恩給診斷、治療品、軍人體格及軍醫官ノ教育補充ニ關スル事項ヲ管掌シ第一課及第二課ヲ置キ其ノ事項ヲ分掌セシム

第十一條　醫務局各課長ハ海軍軍醫大監ヲ以テ之ニ補ス

各課ヲ通シ事務課僚四人ヲ置キ海軍軍醫中少監、藥劑監藥劑正大軍醫ヲ以テ之ニ補ス（同上）

第十二條　經理局ニ於テハ豫算、決算、出納、給與、被服、糧食、通常物品、官有財產、建築、用度及主計官ノ教育補充ニ關スル事項ヲ管掌シ金錢及物品ノ收支ヲ監督シ第一課、第二課及第三課ヲ置キ其ノ事項ヲ分掌セシム

第十三條　經務局各課長ハ海軍主計大監ヲ以テ之ニ補ス

各課ヲ通シ事務課僚七人ヲ置キ海軍主計中少監大主計ヲ以テ之ニ補シ及技師ヲ以テ之ニ充ツ（同上）

第十四條　司法部ニ於テハ軍事司法、懲罰、監獄及主理、錄事竝監獄ノ人員ニ關スル事項ヲ管掌ス

第十五條　司法部ニ部員三人ヲ置キ主理ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　各局長及司法部長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ各其ノ主務ヲ掌理ス（明治三十一年十月勅令第二百七十七號ヲ以テ本條ヲ改メ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第十七條　各局ノ課長ハ局長ノ命ヲ承ケ各其ノ課務ヲ掌ル

第十八條　課僚ハ課長ノ命ヲ承ケ各其ノ事務ニ服ス

第十九條　司法部ノ部員ハ部長ノ命ヲ承ケ其ノ事務ニ服ス

第二十條　海軍省ニ海軍兵曹長若ハ上等兵曹五人、海軍機關兵曹長若ハ上等機關兵曹一人、海軍船匠長若ハ船匠師一人、屬八十五人、技手十八人及錄事三人ヲ置キ海軍大臣官房各局部課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム（明治三十年十月勅令第四百二十二號ヲ以テ本條改正）

第二十一條　司法部ノ職員ハ海軍高等軍法會議ノ事務ニ服ス

附則

第二十二條　本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

◎海軍省處務細則　明治三十年四月海軍省達第四十一號

海軍省處務細則左ノ通改ム

海軍省處務細則

第一章　總則

第一條　局長又ハ課長不在ノ爲代理ヲ要スルトキハ局長ニ在テハ大臣ヨリ課長ニ在テハ局長ヨリ特ニ代理ヲ命スルモノトス

局長ハ一時ノ病氣事故不在ニ際シテハ前項ノ例ニ依ラス課長ニ委任シテ便宜當務ヲ處務セシムルコトヲ得課長亦此例ニ依ル

第二條　局長ハ判任官ノ分課ヲ定メ人事課長ニ報告スヘシ

第三條　局長課長ハ各其ノ主務ニ屬スル法規ノ疑義質問等ニ對シテハ之カ解釋ヲ與フルモノトス

第四條　各局課分掌事項中ニ明記セサル事件アルトキハ其ノ事ニ關係ヲ有スルコト最モ大ナルノ局課ノ管掌事項トシテ該局課ノ掌理ニ對シ各局課ニ全ク關係ナキ事件ハ官房ニ於テ掌理スルモノトス

第五條　本則ニ於テ各局ノ爲ニ規定シタル條項ハ司法部及人事課ニ各局長ノ爲ニ規定シタル條項ハ司法部長及人事課長ニ適用ス

第二章　事務分課

第六條　大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密文書ニ關スルコト

二　公文書類ノ接受發送ニ關スルコト

三　成案文書ノ調査及起案ニ關スルコト

四　大臣次官ノ官印及省印ノ管守ニ關スルコト

五　統計及年報ニ關スルコト

六　公文書類ノ編纂及保存ニ關スルコト

七　將官會議ニ關スルコト

八　各局部課ノ所掌ニ屬セサルコト

第七條　祕書官ハ大臣ニ專屬シテ機密事務及差使ヲ掌ル

第八條　參事官ハ大臣官房ニ在テ法規ニ係ル公文ノ審査及立案ヲ掌ル

第九條　人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　高等武官、候補生、准士官及文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸、分限其ノ他ノ人事ニ關スルコト

二　豫備後備退役高等武官、准士官及非職文官ノ人事ニ關スルコト

三　軍人軍屬ノ叙位、叙勳、記章、及賞與ニ關スルコト

四　高等武官、候補生、准士官、文官ノ名簿、職員錄停年名簿履歷簿ニ關スルコト

五　高等武官、候補生、准士官ノ考課表、試用報告ニ關スルコト

六　武文官人事ニ關スル上奏書、親裁書及諸辭令書褒狀取扱ニ關スルコト

七　進級會議ニ關スルコト

八　拜謁、參賀、參拜、御倍宴及之ニ等シキ儀式祭典ニ關スルコト

九　外國旅行券ニ關スルコト

十　軍人軍屬ノ恩給、遺族扶助、退官賜金ニ關スルコト

第十二條　前條ノ規定ハ造兵監督官、造兵監督官補、造兵監督官試補、造兵監督官練習生、造兵監督官練習生試補、造兵監督官練習生見習、造兵監督官練習生試補見習、造兵監督官練習生練習生、造兵監督官練習生練習生試補、造兵監督官練習生練習生見習、造兵監督官練習生練習生試補見習、造兵監督官練習生練習生練習生、造兵監督官練習生練習生練習生試補、造兵監督官練習生練習生練習生見習、造兵監督官練習生練習生練習生試補見習ニ之ヲ準用ス

第十三條　造兵監督官ハ造兵ニ關スル事務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵ニ關スル事務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第十四條　造兵監督官ハ造兵ニ關スル職務ヲ以テ造兵ニ關スル職務ヲ掌ル造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第十五條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第十六條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第十七條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第十八條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第十九條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十一條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十二條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十三條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十四條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十五條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十六條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十七條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十八條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第二十九條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第三十條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第三十一條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生試補ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生見習ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生ハ造兵監督官練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生ハ造兵監督官練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生試補ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生練習生練習生練習生見習ハ造兵監督官練習生練習生練習生練習生ノ職務ヲ練習ス

第三十二條　造兵監督官ハ兵器及船舶ノ製造、兵器及船舶ノ修理、兵器及船舶ノ檢査、兵器及船舶ノ試驗、兵器及船舶ノ保管、兵器及船舶ノ修繕、兵器及船舶ノ廢棄、兵器及船舶ノ保存、兵器及船舶ノ補充、兵器及船舶ノ補給、兵器及船舶ノ運搬、兵器及船舶ノ運用、兵器及船舶ノ研究、兵器及船舶ノ調査、兵器及船舶ノ試驗ニ關スル職務ヲ掌ル

造兵監督官補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官試補ハ造兵監督官ノ職務ヲ補佐ス

造兵監督官練習生ハ造兵監督官ノ職務ヲ練習

五　土地建物ノ取扱ニ關スルコト
六　建築工事ノ計畫及施行ニ關スルコト
七　建築工事請負ニ關スルコト
八　東京所在各廳ノ建築工事ヲ爲スコト
九　本省及省内各廳ノ備人ヲ管スルコト
十　本省及省内各廳ノ運輸通信取扱及船舶車馬儲入ニ關スルコト
十一　本省及省内各廳ノ用度ニ關スルコト
十二　前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

第十三條　司法部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　海軍刑法、海軍治罪法、違警罪處分例、讐通刑法、訴訟法及諸罰則ニ關スルコト
二　海軍懲罰令、官吏懲戒例、海軍監獄則、軍事警察及捕獲審檢ニ關スルコト
三　各軍法會議ノ裁判檢察ニ關スルコト
四　訴訟ニ關スルコト
五　主理、錄事、監獄官ノ補充及監獄人員ニ關スルコト
六　軍法會議、監獄ノ新築、改建ニ關スルコト
七　前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

第十四條　各局課ニ於テ調理スヘキ豫算ノ分掌ハ別ニ之ヲ定ム

第三章　文書取扱

第十五條　大臣次官又ハ本省ニ宛テ到來スル公文ハ大臣官房ニ於テ接受スルモノトス但大臣親展書類ハ祕書官ニ於テ接受ス

第十六條　前條ニ依リ接受シタル公文中各局ノ主務ニ屬スルモノハ指定ノ印ヲ捺シ直ニ之ヲ各局ニ配付ス

第十七條　各局課長ハ各主務ノ公文ヲ審査シ大臣次官ノ閱覽ニ供スルニ止マルモノハ供覽ノ印ヲ捺シ自己ノ認印ヲ紙端ニ捺シ其ノ閣議命令（達訓令指令等ヲ云フ以下同シ）照會回答ヲ要スルモノハ各其ノ案ヲ付シ局長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ官房ニ送付スヘシ

官房ノ主務ニ屬スル事項ニ關シテハ前項ノ例ヲ準用ス

第十八條　閣議命令照會回答案ヲ付シ大臣次官ノ決裁ヲ受クルニハ所定ノ罫紙ヲ用ヒ局長課長主任課僚部員之ニ檢印スヘシ但關係者ハ主務者ノ次ニ列記スヘシ

第十九條　他局ニ關係アル文書ハ主務局長課長等捺印ノ後主務局ヨリ關係ノ局ニ送付シ關係局ノ主務課長ハ調査捺印シ局長ノ捺印ヲ受ケ之ヲ官房ニ送付スヘシ

官房ノ主務ニシテ他局ニ關係アルモノハ亦前項ノ例ニ依ル

第二十條　官房ニ於テハ主務局ヨリ公文ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ大臣次官ノ閱覽ニ供シ又ハ決裁ヲ經テ其ノ文案ニ依リ發付ヲ要スルモノハ直ニ淨書發付ノ手續ヲ爲スヘシ但計算書類其ノ他文書ニ附屬ノ表圖又ハ別紙別冊アルトキハ主務局ニ於テ淨書校合シ官房ニ送付スルモノトス

前項閱覽濟及發付濟ノ書類ニシテ主務局ニ送付ヲ要スルモノハ官房ヨリ直ニ之ヲ主務局ニ送付スヘシ

第二十一條　上申伺ニシテ當分又ハ到底詮議ニ及ヒ難キモノハ各局若クハ官房ニ於テ其ノ理由ヲ附記シ大臣次官ノ査閱ヲ經テ之ヲ差出ノ廻ニ返却スヘシ但時宜ニ依リ該書類ハ參考トシテ主務局若クハ官房ニ留置キ其ノ事由ヲ差出ノ廻ニ通牒スルコトアルヘシ

第二十二條　本則第三條ニ揭クル事項ニシテ重要ナルモノ又ハ一般ニ渉ルモノハ大臣又ハ次官ノ閱覽ニ供スルモノトス

第二十三條　本省公文ハ件名簿ニ登記シ以テ處分ノ終始ヲ明ナラシム件名簿ハ官房機密號ノ二種トシ官房ニ備置クモノトス

件名簿ニハ公文ノ接受發送月日件名（原番號アルモノハ原番號ヲモ記入ス）等ヲ記入シ各一貫ノ番號ヲ附シ同時ニ該番號ヲ公文ニ附點スヘシ

第二十四條　前條ニ揭クル外本省公文ニ對シ各局ニ於テハ別ニ件名簿ヲ置カス只受領發送簿ヲ備ヘ以テ文書ノ出入ヲ明ナラシム

受領發送簿ニハ公文件名番號（原番號アルモノハ原番號ヲモ記入ス）及ノ罫紙ヲ用ヒ局長課長主任課僚部員之ニ檢印スヘシ但關係者ハ主務者ノ次ニ列記スヘシ

第十九條　他局ニ關係アル文書ハ主務局長課長等捺印ノ後主務局ヨリ關係ノ局ニ送付シ關係局ノ主務課長ハ調査捺印シ局長ノ捺印ヲ受ケ之ヲ官房ニ送付スヘシ

官房ノ主務ニシテ他局ニ關係アルモノハ亦前項ノ例ニ依ル

第二十條　官房ニ於テハ主務局ヨリ公文ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ大臣次官ノ閱覽ニ供シ又ハ決裁ヲ經テ其ノ文案ニ依リ發付ヲ要スルモノハ直ニ淨書發付ノ手續ヲ爲スヘシ但計算書類其ノ他文書ニ附屬ノ表圖又ハ別紙別冊アルトキハ主務局ニ於テ淨書校合シ官房ニ送付スルモノトス

前項閱覽濟及發付濟ノ書類ニシテ主務局ニ送付ヲ要スルモノハ官房ヨリ直ニ之ヲ主務局ニ送付スヘシ

第二十一條　上申伺ニシテ當分又ハ到底詮議ニ及ヒ難キモノハ各局若クハ官房ニ於テ其ノ理由ヲ附記シ大臣次官ノ査閱ヲ經テ之ヲ差出ノ廻ニ返却スヘシ但時宜ニ依リ該書類ハ參考トシテ主務局若クハ官房ニ留置キ其ノ事由ヲ差出ノ廻ニ通牒スルコトアルヘシ

第二十二條　本則第三條ニ揭クル事項ニシテ重要ナルモノ又ハ一般ニ渉ルモノハ大臣又ハ次官ノ閱覽ニ供スルモノトス

第二十三條　本省公文ハ件名簿ニ登記シ以テ處分ノ終始ヲ明ナラシム件名簿ハ官房機密號ノ二種トシ官房ニ備置クモノトス

件名簿ニハ公文ノ接受發送月日件名（原番號アルモノハ原番號ヲモ記入ス）等ヲ記入シ各一貫ノ番號ヲ附シ同時ニ該番號ヲ公文ニ附點スヘシ

第二十四條　前條ニ揭クル外本省公文ニ對シ各局ニ於テハ別ニ件名簿ヲ置カス只受領發送簿ヲ備ヘ以テ文書ノ出入ヲ明ナラシム

受領發送簿ニハ公文件名番號（原番號アルモノハ原番號ヲモ記入ス）及

受領發送月日等ヲ記入スヘシ

第二十五條　左ニ揭クル公文ハ處分結了後直ニ官房ニ於テ編纂保存シ其ノ他ハ主務各局ニ於テ保管スヘシ

一　上奏案允裁案竝親裁書
二　法律勅令案
三　省令訓令告示達内令案
四　官房號掛物案
五　指令通報ニ戻セタル指令案
六　將官會議書類
七　統計及年報材料

第二十六條　各局ニ於テ保管スル公文中未結了ノモノヲ除クノ外ハ每年六月ニ於テ必ス其ノ前年分ヲ官房ニ送致スヘシ官房ニ於テハ之ヲ査閱シ編纂保存ヲ要スヘキモノハ編纂保存ス

第二十七條　各局ニ於テ處務參照ノ爲メ官房記錄庫ニ在ル文書ノ閱覽ヲ要スルトキハ庫内ニ於テ之ヲ閱覽スルヲ例トス若シ各局ニ携帶スルヲ要スルモノアルトキハ必ス其ノ日ノ中ニ還付スヘシ

◎海軍軍人ヲ定員外ト爲スノ件

明治二十七年九月
勅令第百七十二號

陸海軍軍人ニシテ戰時特設部隊附ヲ命セラレタル者ヲ定員外ト爲スノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍軍人ニシテ本職ノ儘戰時特設部隊附ヲ命セラレタル者ハ本屬官衙及艦團隊ノ必要ニ應シ之ヲ定員外トシ其ノ補缺ヲ爲スコトヲ得

◎海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置ク

明治二十四年四月
勅令第四十三號

陸海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ更ニ書記ヲ置ク

第二條　書記ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十六號別任官官等俸給令ニ依ル

第三條　書記ノ定員ハ從來定ムル屬ノ定員ニ同シ

◎海軍各軍法會議主理錄事服務竝定員

明治二十三年十月
勅令第二百四十六號

陸海軍各軍法會議主理錄事服務竝定員ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　各軍法會議ノ上席主理ハ海軍治罪法ニ依リ處刑及治罪ニ關スル諮問アルトキハ其意見ヲ述フ

第二條　各軍法會議ノ上席主理ハ長官ヨリ處刑及治罪ニ關スル諮問アルトキハ其意見ヲ述フ

第三條　各軍法會議ノ主理ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ執行スルノ外上席主理ノ指揮ヲ受ケ軍法會議ノ庶務ニ從事ス

第四條　各軍法會議ノ錄事ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ執行スルノ外主理ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事シ又書類保存ノ事ヲ掌ル

第五條　主理錄事ノ定員左ノ如シ

東京軍法會議	主理	四	錄事 四
横須賀鎭守府軍法會議	主理	三	錄事 五
吳鎭守府軍法會議	主理	三	錄事 四
佐世保鎭守府軍法會議	主理	三	錄事 四

第六條　（明治三十年九月勅令第三百一號ヲ以テ本條ヲ削ル）

㊞臺灣總督府海軍幕僚條例

明治三十年十月勅令第三百六十四號

廢臺灣總督府海軍幕僚條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府海軍幕僚條例

第一條　臺灣總督府海軍幕僚ハ臺灣總督ノ所轄内ニ於ケル海軍ニ關スルコトヲ掌ル

第二條　臺灣總督府海軍幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長
參謀
副官
機關長
軍醫長
主計長

前項ノ外海軍造船技士主理及通譯官ヲ置ク

幕僚ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

第三條　參謀長ハ臺灣總督ノ統轄ニ屬スル海軍軍政及軍令ニ關シ總督ヲ補佐シ又幕僚ノ事務ヲ監理ス

第四條　參謀長ハ參謀長ノ命ヲ承ケ出師ノ準備作戰ノ計畫沿岸ノ防禦警備演習檢閱及機報等ニ關スルコトヲ掌理ス

第五條　副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌理ス

第六條　機關長ハ參謀長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌理ス

第七條　軍醫長ハ參謀長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌理ス

第八條　主計長ハ參謀長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌理シ又副官ノ事務ヲ助ク

第九條　造船技士主理及通譯官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　臺灣總督府海軍幕僚附トシテ海軍下士竝例任文官ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附　則

第十一條　本令ノ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス

別表

臺灣總督府海軍幕僚定員表

參謀長	海軍少將	一		
參謀	海軍大佐	一	一等看護手	一
	海軍中少佐	二	一等筆記	一
副官	海軍大尉	一	一等廚宰	一
	海軍中少佐	一	參謀ヲ以テ兼補ス	
機關長	海軍機關中少監	一		
軍醫長	海軍軍醫中少監	一	書記	八
主計長	海軍主計中少監	一		
小計		十一人		十一人
合計		二十二人		

備考　一本表ノ外海軍造船技士一人主理（高等官五等若ハ六等）一人通譯官一人ヲ置ク

二本表及前項ノ人員ハ當分其ノ幾分ヲ置カサルコトヲ得

㊞常設海軍軍法會議ニ海軍警察ヲ置ク之ノ件

明治三十二年四月勅令第百四十五號

廢常設海軍軍法會議ニ海軍警察ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　常設海軍軍法會議ニ海軍警察ヲ置ク

海軍警察ハ判任官待遇トス

第二條　海軍警察ハ軍法會議及法廷ノ警衛、令狀ノ執行、書類ノ送達、被告人ノ護送及看守ニ任シ且主理ノ命ニ依リ犯罪搜索ニ從事ス

第三條　海軍警察其ノ職務ニ服スル時ハ制服ヲ着シ帶劍スヘシ但シ事急速ヲ要スルトキ又ハ主理ノ命アルトキハ此ノ限ニ非ス

第四條　海軍警察ノ定員ハ各軍法會議五人以内トス

第五條　海軍警察ノ俸給ハ別表ニ依ル

第六條　海軍警察採用ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

別表

海軍警察俸給表

等級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
月俸	十五圓	十四圓	十三圓	十二圓	十一圓	十圓	九圓

但シ一級ヲ受ケ三年ヲ經ヘ事務練熟ナル者ハ漸次月俸二十圓迄增給スルコトヲ得

㊞海軍監獄官官制

明治二十六年五月勅令第四十三號

廢海軍監獄官官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍監獄官官制

第一條　海軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

海軍監獄長
海軍監獄書記
海軍監獄看守長
海軍監獄看守

第二條　監獄長ハ奏任トシ書記看守長ハ判任待遇トス其官等俸給ハ別表ニ依ル

監獄長ハ三人書記ハ六人看守長ハ十人ヲ以テ定員トス

第三條　監獄長ハ海軍士官及主理ヨリ之ヲ選任ス

書記看守長ハ海軍准士官竝服役滿期下士及錄事ヨリ之ヲ選任ス

第四條　看守ニシテ職務ニ勉勵シ相當ノ學識アリ五年以上其職ヲ奉シタル者ハ書記若クハ看守長ニ任スルコトヲ得但惠通試驗ヲ經ルニ非レハ他ノ例任官ニ任スルコトヲ得ス

第五條　看守採用ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第六條　監獄長ハ鎭守府司令長官ノ命ヲ受ケ所屬員ヲ指揮監督シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第七條　監獄長ハ必要ノ場合ニ於テ看守長若クハ看守ヲシテ書記ノ事務ヲ取扱ハシメ又書記ヲシテ看守長ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第八條　書記ハ庶務會計及給與ノ事務ニ服ス

第九條　看守長ハ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮ス

第十條　看守ハ在監人ノ看守護送門衛ニ任シ其他監獄ノ事務ニ服ス

第十一條　看守長看守職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ヒ制服ヲ着スヘシ

附　則

第十二條　書記看守長ハ本令施行ノ際ニ限リ第四條ノ規定ニ拘ハラス海軍監獄ニ在テ書記ヲ勤メ獄務ニ經驗アル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

（別紙海軍監獄官官等俸給表略之）

㊞造船造兵監督官條例

明治三十一年三月勅令第六十四號

廢造船造兵監督官條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

造船造兵監督官條例

第一條　海軍ニ於テ艦船兵器ノ製造ヲ外國ノ工場ニ委託シ及造船造兵用ノ材料物品其ノ他工場用器具機械ヲ外國ニテ購入スルトキハ左ノ職員ヲシテ監督檢製造事業ノ監督及購入物品ノ檢査ニ從事セシメ又會計ノ事務ヲ整理セシム

造船監督官
造兵監督官
造船造兵監督會計官
造船監督助手
造兵監督助手
造船造兵監督書記

前項職員ノ外必要ニ應シ造船造兵監督長ヲ置クコトヲ得

第二條　造船造兵監督長造船監督官造兵監督官及造船造兵監督會計官ハ海軍將校及同相當官ヲ以テ之ニ補ス

造船監督官造兵監督官ハ必要ニ應シ技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

監督助手ハ海軍准士官、下士者ハ技手ヲ以テ之ニ充テ監督書記ハ海軍

書記ヲ以テ之ニ充ツ
第三條　造船造兵監督長ハ海軍省軍務局長ニ隷シ所轄監督事務ヲ總理ス
第四條　造船監督官造兵監督官及造船造兵監督會計官ハ海軍省軍務局長ノ指揮ヲ承ケ、造船造兵監督長ノ指揮ヲ承ケ監督助手及監督書記ハ上官ノ命ヲ承ケ各其事務ニ服ス
第五條　第一條ニ定ムル職員ノ定員ヲ定メス豫算定額内ニ於テ事業ノ程度ニ應シ須要ノ人員ヲ置ク

臨時海軍建築部官制

明治三十年七月勅令第二百四十七號

廢臨時海軍建築部官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臨時海軍建築部官制

第一條　臨時海軍建築部ヲ東京ニ置キ其ノ支部ヲ舞鶴ニ置ク
第二條　臨時海軍建築部ハ海軍大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル
一　新ニ設置スヘキ鎮守府ニ屬スル建築工事竝ニ其ノ計畫及監督
二　新ニ設置スヘキ鎮守府ニ屬スル諸機械ノ購買及其ノ据附
三　既設鎮守府ニ屬スル建築ノ計畫及其ノ工事ノ監督竝ニ其要約ノ審査
四　鎮守府所屬ニアラサル建築工事竝ニ其ノ計畫及監督
第三條　臨時海軍建築部ニ左ノ職員ヲ置ク
部長
部員
工務監
工務員
第四條　支部ニ左ノ職員ヲ置ク
支部長
支部員
工務員
第五條　部員ハ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理ス
第六條　部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス
第七條　工務監ハ部長ノ命ヲ承ケ建築工事ヲ統理ス
第八條　第三條ニ揭ケル工務員ハ部長又ハ工務監ノ命ヲ承ケ服務ス
第九條　支部長ハ部長ノ命ヲ承ケ支部ノ事務及工事ヲ管理ス
第十條　支部員ハ支部長ノ命ヲ承ケ服務ス
第十一條　第四條ニ揭ケル工務員ハ支部長又ハ工務監ノ命ヲ承ケ服務ス
第十二條　第三條第四條ニ揭ケル職員ノ外海軍下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
第十三條　臨時海軍建築部ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル
（別表ハ之ヲ略ス）

海軍將官會議條例

明治二十二年五月勅令第七十五號

廢海軍將官會議條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍將官會議條例

第一條　海軍將官會議ハ東京ニ置キ海軍ニ於ケル重要ノ事項ヲ審議スル所トス（二十四年十一月勅令第二百三十四號ヲ以テ改正ス）
第二條　海軍將官會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ議員若干人ヲ置キ海軍將官ヲ以テ之ニ補ス（明治三十二年二月勅令第二七號ニテ本條改正）
第三條　海軍大臣ハ必要ニ依リ臨員ニアラサル將官竝將官相當官ニ臨時議員ヲ命シ又上長官ヲシテ議事ニ參與セシムルコトヲ得（同上）
第四條　海軍大臣事故アルトキハ上席將官ヲ以テ議長トス
第五條　議案ハ議長ヨリ下付ス臨員ニ於テ議案ヲ提出セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ
第六條　海軍將官會議ノ事務ハ海軍大臣官房ニ於テ之ヲ處理ス

海軍技術會議條例

明治二十六年五月勅令第五十三號

廢海軍技術會議條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍技術會議條例

第一條　海軍技術會議ハ東京ニ置キ海軍大臣ノ諮問ニ對シ軍艦ノ構造兵器及其諸機關竝ニ砲銃水雷彈藥劇藥ノ設計考案其他技術ニ關スル事項ヲ審議スル所トス
第二條　海軍技術會議議長ハ木職アル海軍將校ヲ以テ之ニ兼補スル但事宜ニ依リ本職アル海軍大佐ヲ以テ兼補スルコトヲ得
議長ハ海軍大臣ニ隷シ會議ノ事務ヲ總理ス
第三條　議長ハ議事ノ質性ニ依リ議員ノ一部ヲ以テ議事ヲ開クコトヲ得
第四條　海軍技術會議ニ幹事一人ヲ置キ海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ兼補ス
幹事ハ議案ノ調査及會議ノ事務ヲ管掌ス
第五條　議員ハ定數ナシ木職アル海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ兼補ス
第六條　海軍技術會議ニ書記二人技手二人ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム（明治三十二年三月勅令第七號ヲ以テ本條ヲ改ム）

海軍衛生會議條例廢止ノ件

明治三十年三月勅令第六十號

廢海軍衛生會議條例廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍衛生會議條例ハ明治三十年三月勅令第八十三號

水路部條例

第一條　水路部ハ之ヲ東京ニ置ク
第二條　水路部ハ水路ノ測量水路圖誌ノ調製其ノ他航海ノ保安ニ關スル事ヲ掌ル所トス
第三條　水路部ニ部長ヲ置キ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理セシム（明治三十年十一月勅令第四百二十六號ヲ以テ本條ヲ改ム）
第四條　水路部長ハ其ノ名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國水路部ト直接通信スルコトヲ得
第五條　水路部ニ測量科及圖誌科及會計課ヲ置ク
第六條　測量科ニ於テハ測量原圖及水路記事ノ調製ニ關スル事ヲ掌ル
第七條　圖誌科ニ於テハ水路圖誌ノ調整配備及保管ニ關スル事ヲ掌ル
第八條　會計課ニ於テハ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス
第九條　測量科及圖誌科ニ科長及科僚ヲ置キ課長ヲ置ク（同上）
第十條　科長課長ハ水路部長ノ命ヲ承ケ其ノ科課ノ事務ヲ掌理ス
第十一條　科僚及海軍編修ハ所屬科長ノ命ヲ承ケ服務ス
第十二條　前諸條ニ揭ケル職員ノ外海軍編修書記及書記、技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
第十三條　水路部ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル
（別表略之）

水路部處務細則

明治三十年四月海軍省達第四十五號

水路部處務細則左ノ通改正ス

水路部處務細則

職課

第一條　水路部長ハ編修書記ヲ圖誌科ニ書記ヲ測量科圖誌科會計課ニ技手ヲ測量科圖誌科ニ分屬セシムヘシ
第二條　部長事故アルトキ若クハ缺員中ハ特ニ代理ヲ命スルトキノ外其ノ次席ノ佐官、科長事故アルトキ若クハ缺員中ハ其ノ首席ノ科僚其ノ事務ヲ代理スヘシ但水路告示及各國水路部トノ通信ハ代理者部長ノ名ヲ以テ之ヲ發スヘシ
第三條　測量科長ハ左ノ事項ヲ掌ルヘシ
一　科僚及技手ヲ部署シ測量教令ヲ下シ一方面ノ測量ニ從事セシムル事但須要ナル方面ノ測量ニハ科僚及技手ヲ指揮シ自ラ之ニ從事スル

コトアルヘシ
二　測量艦ニ對スル測量教令ヲ起案スル事
三　測量艦ニ於テ使用スヘキ測量用器具等ニ關スル事
四　測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事
五　水路記事ノ調査ニ關スル事
六　測量經費豫算ニ關スル事
七　測量ニ係ル報告統計整理ニ關スル事

第四條　測量科長ハ科僚ノ内一名ヲ指定シ科中一切ノ事務ヲ監セシメ測器其ノ他測量科ニ屬スル物品ノ保護及修覆等ヲ監督セシムヘシ

第五條　測量科長ハ技手ノ内一名ヲ指定シ測器其ノ他測量科ニ屬スル物品ノ保護及修覆等ニ從事セシムヘシ

第六條　測量科僚ハ科長ノ部署ニ從ヒ一方面ノ測量ニ從事シ測量原圖ヲ調製シ其ノ水路記事及報告書ヲ記述スヘシ

前項科員中首席ノ者ハ其ノ測量事業ヲ主管スヘシ

第七條　測量科ニ屬スル書記ハ其ノ科ノ事務ニ服ス

第八條　測量科ニ屬スル技手ハ一方面ノ測量事業ニ服ス

第九條　第五條ニ揭クル技手ノ執務時間ハ七月十一日ヨリ九月十日マテ十一月一日ヨリ翌年二月盡日マテ及其ノ他ノ土曜日ニ於テハ一般ノ執務時間ニ一時間ヲ增加ス

第十條　圖誌科ニ左ノ五掛ヲ置ク
一　編修掛　編修及編修書記ヲ以テ之ニ充ツ
二　圖書掛　書記ヲ以テ之ニ充ツ
三　製圖掛　技手ヲ以テ之ニ充ツ
四　彫刻掛　技手ヲ以テ之ニ充ツ
五　印刷掛　技手ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條　編修掛ハ左ノ事項ヲ掌ルヘシ
一　水路誌燈臺表其ノ他水路ニ緊要ノ書類ヲ編述譯若クハ改正スル事
二　水路告示ヲ起案スル事
三　内外圖ヨリ送付セル水路雜誌ヲ校正スル事

第十二條　圖書掛ハ左ノ事項ヲ掌ルヘシ
一　圖誌ノ購買準備及拂下ニ關スル事
二　圖誌ヲ各鎭守府ニ配賦シ及新舊圖誌ヲ交換スル事
三　外國ト圖誌ヲ交換スル事
四　圖誌ヲ保管スル事
五　圖誌ノ目錄ヲ調製スル事
六　圖誌ノ經費豫算ニ關スル事
七　圖誌ニ係ル報告統計整理ニ關スル事
八　兵備品出納ニ關スル事

第十三條　製圖掛ハ左ノ事項ヲ掌ル
一　測量原圖又ハ外國ノ海圖ニ依リ海圖及航海ニ必要ナル圖類ヲ調整若クハ改正スル事
二　寫眞ニ關スル事

第十四條　彫刻掛ハ銅、石、亞鉛各版ノ彫刻及版下ニ關スル事ヲ掌ル

第十五條　印刷掛ハ左ノ事項ヲ掌ル
一　銅、石、亞鉛各版ノ印刷ニ關スル事
二　活字版印刷ニ關スル事
三　鍍版ニ關スル事
四　圖書原版ヲ保存スル事

第十六條　製圖掛彫刻掛印刷掛ノ執業時間ハ第九條ニ依ル

第十七條　圖誌科長ハ其ノ科ニ屬スル技手ヲ製圖掛彫刻掛及印刷掛ニ配置スヘシ

第十八條　圖誌科僚ハ左ノ事項ヲ掌ルヘシ
一　内外諸圖誌ヲ調査シ及圖誌ノ改正ヲ監査スル事
二　製圖掛彫刻掛及印刷掛ヲ指揮スル事
三　科中一切ノ事務ヲ監督スル事

第十九條　製圖掛彫刻掛及印刷掛ノ各上席技手ハ各掛ノ長トナリ掛中ノ庶務ヲ取扱フヘシ

第二十條　會計課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌理スヘシ
一　歲入歲出ノ豫算ヲ編製スル事

二　收入支出ニ關スル事務ヲ調理スル事
三　物品ノ購買及不用品拂下ニ關スル事務ヲ整理スル事
四　部内各所修繕ニ關スル事
五　通常物品ノ出納ニ關スル一切ノ事務ヲ調理スル事
六　部内取締ニ關スル事
七　守衛使丁給仕ノ使役及監督ニ關スル事
八　通信運搬ニ關スル事
九　各科ノ主務ニ屬セサル事務ヲ處理スル事

文書取扱

第二十一條　部長又ハ水路部宛ノ書類ハ會計課ニ於テ之ヲ受領シ件名簿ニ登記シ部長ノ査閲ニ供スヘシ但部長宛親展書類ハ部長直ニ接手スルモノトス

第二十二條　部長ハ文書ヲ査閲シ其ノ主務ノ科課ニ送附スヘシ

第二十三條　科課長ハ部長ヨリ下附ノ文書ヲ審査シ即日之ヲ處辨スヘシ若シ即日處辨シ難キモノハ五日以内ニ處辨シ尚其ノ期日内ニ處辨シ難キモノハ事由ヲ附箋シ部長ノ檢印ヲ受クヘシ

第二十四條　事ノ連帶ニ涉ル文書ハ主務ノ科課ニ於テ立案シ連帶科課長ニ送附シ同科課長檢印ノ後之ヲ部長ニ出スヘシ

第二十五條　各科課ニ於テ立案スル文書ヲ發送スルニハ主務科課ニ於テ淨書シ會計課ニ送附スヘシ會計課ニ於テハ之ニ番號ヲ附シ件名ヲ簿册ニ登記シ成ルヘク其ノ日ノ内ニ發送シ該原案ニ番號及發送月日ヲ記入シ主務科課ニ返付スヘシ

第二十六條　諸文書ハ其ノ主務科課ニ於テ保存スヘシ但別ニ成規アルモノハ此ノ限ニアラス

第二十七條　處務參照ノ爲メ各主務科課ニ於テ保存スル文書ヲ閲覽セントスルトキハ其ノ室ニ就テ之ヲ見ルヘシ若シ必要ニ依リ他室ニ携帶スルトキハ必ス其ノ日ノ内ニ返付スヘシ

海軍下瀨火藥製造所條例

明治三十二年四月勅令第百四十四號

朕海軍下瀨火藥製造所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍下瀨火藥製造所條例

第一條　海軍下瀨火藥製造所ハ之ヲ東京ニ置キ下瀨火藥ヲ製造スル所トス

第二條　海軍下瀨火藥製造所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
主幹

第三條　所長ハ海軍大臣ニ隷シ所務ヲ總理ス

第四條　主幹ハ所長ヲ助ケ擔任ノ事務ヲ掌理ス

第五條　本所ノ醫務衛生ニ關スル事務ハ東京海軍造兵廠軍醫長ヲシテ管掌セシメ之ニ該廠附看護手及看護ヲ附ス

第六條　製造火藥ノ檢査ハ東京海軍造兵廠檢査科員ヲシテ之ヲ行ハシム

第七條　第二條ニ揭クル職員ノ外書記及技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第八條　海軍下瀨火藥製造所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

（別表ハ之ヲ畧ス）

鎭守府條例

明治三十年九月勅令三百十九號

朕鎭守府條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎭守府條例

第一條　各軍港ニ鎭守府ヲ置ク

鎭守府ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　鎭守府ハ出師ノ準備、海軍區ノ警備、軍港、要港、防禦港ノ防禦ニ關スル事ヲ掌リ竝所轄諸部ノ行務ヲ監督スル所トス

第三條　鎭守府ニ司令長官ヲ置ク

司令長官ハ天皇ニ直隷シ麾下ノ軍艦團隊ヲ統率シ又軍港、要港、防禦港ノ防禦計畫ヲ統理ス又海軍大臣ノ命ヲ承ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第四條　司令長官ハ陛下ノ軍紀風紀ヲ統監ス

第五條　司令長官ハ陛下ノ艦船ヲ所管港軍區及鎭區内ニ派遣シ又軍隊ヲ所管港軍區内ニ派遣スルコトヲ得

第六條　司令長官ハ軍港内ニ在ル他官ノ艦船ヲ指揮スル他ノ將旗代將旗現在スルトキ其ノ隊下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス但シ他ノ將旗代將旗現在スルトキ其ノ隊下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス

第七條　司令長官ハ戰時若ハ事變ニ際シテハ軍港内ニ在ル他官ノ艦船兵員ヲ以テ軍港ノ守備ニ供スルコトヲ得但シ他ノ將旗代將旗現在スルトキ其ノ隊下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス

前項ノ艦船ハ軍港守備ノ爲メ其ノ本務ノ動作ヲ妨クラルルコトナシ

第八條　司令長官ハ緊急ノ他緊急ノ場合ニ方リ一時陛下ノ兵員ヲ移轉スルノ必要アルトキハ之ヲ陛下大臣ニ報告スヘシ

第九條　司令長官ハ部下ノ巡察艦及船小蒸汽船等ニ乘員ヲ要スルトキハ部下人員ヲ臨時乘組ヲ命スルコトヲ得

第十條　司令長官ハ陛下ノ候補生及准士官以下ヲ陛下艦船其ノ他各部ニ轉勤セシムルコトヲ得

第十一條　司令長官ハ陛下ノ職員非役アルトキ若ハ缺員中ハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得但シ艦船ノ職員ニ此ノ限ニアラス

第十二條　鎭守府ニ司令官ヲ置キ司令長官ヲ佐ク所管諸部ヲ監督シ府務ヲ整理セシム

第十三條　司長官ハ必要ノ場合ニ於テ司令長官ノ命ヲ承ケ軍艦團隊ヲ指揮ス

第十四條　鎭守府ノ幕僚トシテ職員ヲ置ク

參謀長
參謀副官
參謀

第十五條　參謀長ハ司令長官若ハ司令官ノ命ヲ承ケ出師ノ準備、港内ノ守備、軍港、要港、防禦港ノ防禦ニ關スル事ヲ掌ル

第十六條　參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條　副官ハ司令長官若ハ司令官ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌理ス

第十八條　祕書ハ司令長官若ハ司令官ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又副官ノ事務ヲ佐ク

第十九條　鎭守府ニ軍港部兵器部機關部醫務部經理部司法部及測量庶務ヲ置ク但シ鎭守府ニハ兵器部ヲ置カス

第二十條　軍港部ニ於テハ艦艇ノ繫留、保安其ノ他設備準備ヲ掌リ軍港維持シ其ノ港内ニ於ケル艦船ノ繫留出入港、土砂船ノ使用、海軍標、巡航、救難、防火及司令長官ノ指定スル軍港防禦ノ一部ニ關スル事ヲ掌ル（明治三十一年五月勅令第八十九號ヲ以テ本條改正）

第二十一條　兵器部ニ於テハ兵器ノ濟備保存修給備裝及小修理ニ關スル事ヲ掌リ砲銃庶水雷及工場ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシム但シ必要ノ場合ニ於テハ海軍大臣ノ命ニ依リ兵器製造ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　機關部ニ於テハ機關ニ關スル事ヲ掌リ又艦船庶ヲ置キ艦船ノ濟備保存修給ヲ掌ラシム

所要ノ港灣ニ艦船庶ヲ置キ艦船ノ一部ヲ配有シ艦船庶ノ艦用ニ供セシム

第二十三條　醫務部ニ於テハ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第二十四條　經理部ニ於テハ會計經理、造兵造船ノ材料物件ニ屬スル物品ノ購買供給、鎭守府所管各部竝其ノ在艦艦船及軍港内ニ在ル其ノ他ノ諸官廳ノ會計事務ノ監督、管庫内ニ在ル艦船關係其ノ他各部ノ金額、物件及帳簿ノ檢査ニ關スル事ヲ掌リ第一課第二課ヲ置キ其ノ分掌ヲ定メ衣糧庶ヲ置キ被服糧食ノ準備保存修給ニ關スル事ヲ掌ル

艦艇ノ建築及主木ニ關スル事ヲ掌ル

第二十五條　司法部ニ於テハ軍事司法、懲罰及監獄事務ニ關スル事ヲ掌ル

第二十六條　測量庶ニ於テハ測量及航海ニ關スル圖書ノ準備修給ヲ掌リ及氣象ノ觀測ヲ爲スヘシ

第二十七條　軍港部兵器部機關部醫務部經理部司法部及測量庶ニ左ノ職員ヲ置ク（同上法律ヲ以テ軍港部「部長」ノ次ニ「副官」ノ二字ヲ追加ス）

軍港部
副官
參謀
祕書

兵器部
部長
副官
部員

水雷庶主管
工場主管
砲銃庶主管
醫務部
部長
部員
藥品庶主管
機關部
部長
部員
主計部長
經理部
部員
第一課長
第一課員
第二課員
衣糧庶主管
建築官
建築官員

司法部
長
副官
部員
測量庶
主管
測量員

前項ノ外艦艇關係ノ藥品庶ヲ主計ヲ置ク（明治三十年十一月勅令第四百二十七號ヲ以テ本項ヲ改ム）

本條ノ職員ハ鎭守府ノ組織上其ノ一部ヲ置カサルコトアリ

第二十八條　部長及測量庶主管ハ司令長官若ハ司令官ノ命ヲ承ケ其ノ庶務ヲ掌理ス但シ經理部長ハ會計庶務ノ監督ヲ掌リ及金庫物件帳簿ノ檢查ヲ爲シ各庶ノ事務ヲ整理セシム

第二十九條　部員ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ兵器部員ハ必要ニ應シ所屬部長ノ指定ニ依リ砲銃庶水雷庫及工場ニ分屬シ各主管ノ命ヲ承ケ服務スルコトアルヘシ

軍港部副官ハ軍港部長ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ庶務ヲ掌理ス（明治三十一年五月勅令第八十九號ヲ以テ本項ヲ追加ス）

第三十條　軍醫長ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第三十一條　砲銃庶主管ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ砲銃彈藥及其ノ屬員ノ準備保存修給ニ關スル事ヲ掌ル

第三十二條　水雷庶主管ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ水雷及其ノ屬員ノ準備保存修給ニ關スル事ヲ掌ル

第三十三條　工場主管ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ兵器ノ備裝製造及小修理ニ關スル事ヲ掌ル

第三十四條　主計長ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第三十五條　藥品庶主管ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ藥品庶ニ關スル事ヲ掌ル

第三十六條　第一課長ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ金錢ノ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第三十七條　第二課長ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ物品會計及通常物品ノ購買供給ニ關スル事ヲ掌ル

第三十八條　第一課員ハ第二課員ハ第二課長ノ命ヲ承ケ服務スルノ外艦艇關係ノ藥品庶主管ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ艦艇庶ニ關スル事ヲ掌ル

第三十九條　艦艇關係ノ藥品庶主管ハ所屬部長ノ命ヲ承ケ藥品ノ購買保存修給ニ關スル事ヲ掌ル

第四十條　鎮守府ニ海岸砲臺ノ建築修理ノ為必要アルトキハ陸軍大臣ハ海軍大臣ノ意見ヲ聞キ勅裁ヲ経テ之ヲ定ム

第四十一條　鎮守府ニ海岸砲臺ノ建築修理ノ為必要アルトキハ陸軍大臣ハ海軍大臣ノ意見ヲ聞キ勅裁ヲ経テ之ヲ定ム

第四十二條　第三十七條第二項ニ掲クル主計ハ所屬庶主管ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第四十三條　鎮守府ニ海岸砲臺建築官ヲ置キ參謀官ノ命ヲ承ケ海岸砲臺建築ニ關スル事ヲ掌ラシム

海岸砲臺ハ海岸ノ諸設所ニ臨時設置シ海上見張ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第四十四條　鎮守府ニ臨時艦艇委員ヲ置キ參謀官ノ命ヲ承ケ海岸砲臺艦艇ニ關スル事務ニ服セシム（前段）

第四十五條　前條ニ掲クル委員ハ海軍兵曹長同相當官並准士官下士ノ中ヨリ鎮守府ノ定員ニ依リ海軍大臣之ヲ命ス（後段）

第四十六條　各鎮守府ノ定員ノ増減ヲ要スルトキハ各上官ノ意見ヲ具シ海軍大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ（同上）

第四十七條　本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス

第四十八條　鎮守府ニ關スル從前ノ諸規則ハ本令ニ抵觸セサル限リ仍從前ノ例ニ依ルヘシ

第四十九條　從前ノ諸規則ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士ノ所屬ニ關スル事務ハ本令施行ノ日ヨリ鎮守府定員ニ依リ之ヲ處理スヘシ

鎮守府定員表

| 備考 | 合計 | 小計 | 司令官 | 參謀 | 部局 | 部員 | 部員 | 部員

六　横須賀鎮守府上等兵曹中五人吳鎮守府上等兵曹中三人佐世保鎮守府上等兵曹中五人ハ兵曹長、各鎮守府上等機關兵曹中二人ハ機關兵曹長、各鎮守府船匠師中二人ハ船匠長、各鎮守府上等筆記ハ筆記長ヲ以テ其ノ職ニ充ツルコトヲ得

◎鎮守府處務細則

明治三十年海事省達第百十六號

鎮守府處務細則左ノ通定ム

鎮守府處務細則

職課

第一條　鎮守府司令長官鎮守府條例第六條ニ依リ軍港内ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルハ艦船ノ外部ニ顯ルル動作及軍港内一般ニ關スルコトニ限ルモノトス

第二條　司令長官ハ麾下ノ候補生及准士官ニ轉勤轉乘ヲ命スルトキハ之ヲ海軍省ニ報告スヘシ若シ海軍省ヨリ發スル辭令ト牴觸シ同時ニ同一ノ職ニ二人ヲ補シ若クハ同一ノ人ヲ以テ數職ニ補スル場合ニ於テハ海軍省ノ辭令ニ從フヘシ

第三條　司令長官ハ別表ニ依リ判任官ヲ鎮守府部内ニ分配シ其ノ准士官及判任文官ニ關スルモノハ之ヲ海軍省ニ報告スヘシ

第四條　司令長官ハ鎮守府全般ニ關連スル事件其ノ他事體稍重キモノニ關シテハ軍政會議ヲ開キ其ノ意見ヲ徵スヘシ

軍政會議ハ司令長官ヲ以テ議長トシ司令官參謀長各部長及測器庫主管ヲ以テ議員トス但シ議事ノ事項ニ依リ司令長官ハ議員ノ一部ヲ以テ開議ヲナシ又必要ト認ムルトキハ本文ノ外麾下職員ニ臨時議員ヲ命シ若ハ事實ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條　司令官ハ時時所轄諸部ヲ歷巡シ防備竝ニ業務ノ實況ヲ監視シ府務ノ整備ヲ圖ルヘシ

第六條　參謀長及參謀ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　軍港要港及防禦港ノ防禦計畫ニ關スル事
二　艦船及軍隊ノ進退役務ニ關スル事
三　兵力ノ增減ニ關スル事
四　海岸望樓ニ關スル事
五　出師準備ノ計畫ニ關スル事
六　演習及檢閱ニ關スル事
七　教育訓練ニ關スル事但シ別ニ規定アルモノヲ除ク
八　軍紀風紀ニ關スル事
九　戒嚴及徵發ニ關スル事
十　信號通信竝戰時上輸送ニ關スル事
十一　諜報ニ關スル事

前項ノ外參謀ハ訪問勤務ニ服スルモノトス

第七條　副官(祕書ヲ含ム以下同シ)ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　儀式禮式ニ關スル事
二　服制服裝ニ關スル事
三　旗章ニ關スル事
四　召集ニ關スル事
五　軍人軍屬其ノ他ノ人事ニ關スル事
六　考課表及候補生試用報告ニ關スル事
七　叙位叙勳記章褒章賞與ニ關スル事
八　恩給遺族扶助退官賜金ニ關スル事
九　機密文書ニ關スル事
十　公文書類ノ接受發送ニ關スル事
十一　成案文書ノ調査及起案關スル事
十二　司令長官司令官ノ官印ノ管守ニ關スル事
十三　祕密圖書ノ管理貸與展覽ニ關スル事
十四　軍政會議ニ關スル事
十五　前記ノ外參謀長參謀及各部庫ノ所掌ニ屬セサル事

第八條　軍港部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　第三豫備艦ノ保管ニ關スル事
二　海上ニ繫維スル未成艦ノ保護ニ關スル事
三　他ノ所屬ニアラサル鎮守府所轄船艇ノ保管ニ關スル事
四　豫備艦倉庫ニ關スル事
五　豫備艦ノ裝備手續ニ關スル事
六　軍港境域内海上ノ取締竝整頓ニ關スル事
七　船渠ニ艦船ヲ出入スル事
八　陸岸ニ艦船ヲ繫止スル事
九　繫船用錨鎖ノ配置及檢査ニ關スル事
十　軍港内船船ノ錨地轉換及繫泊ヲ監視若ハ指示スル事
十一　軍港内水路標導ニ關スル事
十二　海軍所屬ノ浮標礁標里標其ノ他海標ヲ管理スル事
十三　海軍所用ノ土浚船ヲ以テ直營スル港内浚渫ニ關スル事
十四　軍港内ノ海運ニ關スル事
十五　艦船ニ清水ヲ供給スル事
十六　難破船等ノ救助ニ關スル事
十七　消防具ヲ管理シ消防ニ從事スル事

第九條　兵器部砲銃庫ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　砲銃彈藥火具軍樂器及其ノ屬具ノ準備保管供給ニ關スル事
二　砲銃彈藥火具軍樂器及其ノ屬具ノ運搬ニ關スル事
三　艦船其ノ他各部ニ供用スル砲銃彈藥火具及其ノ屬具ノ數量竝保存ノ適否ニ關スル事
四　艦船其ノ他各部ニ於テ消費セル砲銃彈藥火具及其ノ屬具ノ調定ニ關スル事

第十條　兵器部水雷庫ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　水雷及其ノ屬具ノ準備保管供給ニ關スル事
二　水雷及其ノ屬具ノ運搬ニ關スル事
三　艦船其ノ他各部ニ供用スル水雷及其ノ屬具ノ數量竝保存ノ適否ニ關スル事
四　艦船其ノ他各部ニ於テ消費セル水雷及其ノ屬具ノ調定ニ關スル事

第十一條　兵器部工場ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　艦船等ノ兵器備裝ニ關スル事
二　兵器ノ小修理ニ關スル事
三　兵器及其ノ附屬品ノ輕易ナル改造製造ニ關スル事
四　兵器ノ試驗檢査及調整ニ關スル事
五　所屬工場及其ノ機械物品等ヲ整備保管スル事
六　所屬工場機械物品等ノ入費概算ニ關スル事

第十二條　兵器部主計長ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　造兵材料物件ノ購買貯藏出納ニ關スル事
二　工費ノ整理職工ノ給與其ノ他會計事務ニ關スル事
三　兵器ノ保管運搬ニ屬スル人夫舟車ノ傭役ニ關スル事
四　砲銃庫、水雷庫、工場ノ所掌ニ屬セサル事

第十三條　兵器部長ハ部下諸員ヲ各部ニ配付スヘシ

第十四條　機關部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機關ノ改造修理等ノ調査ニ關スル事
二　機關ノ使用保存ニ關スル事
三　機關構造ノ適否及其ノ改良ノ調査ニ關スル事
四　機關ノ試驗檢査及現狀査定ニ關スル事
五　機關官以下ノ教育訓練ニ關スル事

第十五條　機關部需品庫ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　艦營需品ノ購買運搬其ノ他準備ニ關スル事
二　艦營需品ノ保管配備供給ニ關スル事
三　艦船其ノ他各部ニ供用スル艦營需品ノ數量竝保存ノ適否ニ關スル事
四　艦船其ノ他各部ニ於テ消費セル艦營需品ノ調定ニ關スル事
五　各地需品支部ノ管理ニ關スル事
六　艦營需品ノ保管運搬ニ屬スル人夫舟車ノ傭役ニ關スル事

第十六條　機關部長ハ部下ノ判任官ヲ各部ニ配付スヘシ

第十七條　醫務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　鎮守府一般ノ醫務衛生ニ關スル事
二　艦船、建築、被服、糧食、給水ノ衛生ニ關スル事
三　軍人ノ體格ニ關スル事
四　恩給ニ係ル診斷書ノ調査ニ關スル事
五　海軍病院ニ關スル事
六　軍醫官以下ノ教育訓練ニ關スル事

第十八條　經理部第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　所管歳入歳出（特別會計ニ屬スルモノヲ除ク）ノ收支及之ニ關スル事
二　俸給諸給族費諸手當扶助金其ノ他金錢給與ニ關スル事
三　所管歳入歳出ノ豫算決算ニ關スル事
四　出納官吏ノ身元保證金ニ關スル事
五　金錢會計ノ監督ニ關スル事
六　金櫃及帳簿ノ檢査ニ關スル事
七　主計官以下ノ教育訓練ニ關スル事

第十九條　經理部第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　造兵造船材料物件ニアラサル通常物品（特ニ委任仕拂命令官ヲ置キタル各廳ニ屬スルモノヲ除ク）ノ購買供給ニ關スル事
二　運輸（軍港内海運ヲ除ク）通信取扱及他ノ所掌ニ屬セサル船舶車馬人夫ノ傭入其ノ他庶務ニ關スル事
三　工事請負及物件ノ賃貸借運搬裝縫等各般ノ契約ノ調査ニ關スル事
四　物品會計ノ監督ニ關スル事
五　物品及帳簿ノ檢査ニ關スル事

第二十條　經理部衣糧廠ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　被服糧食ノ購買配備ニ關スル事但シ各地衣糧庫ニ於テ購買配備スヘキ被服糧食ノ品種ハ別ニ定ムル所ニ依ル
二　被服糧食ノ保管運搬出納供給ニ關スル事
三　被服糧食ノ保管運搬ニ屬スル人夫舟車ノ傭役ニ關スル事

第二十一條　經理部建築科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　官有財産ニ關スル事
二　土地建物ノ取扱ニ關スル事
三　建築及土木工事ノ計畫及施行ニ關スル事
四　直營工事ニ屬スル職工人夫舟車ノ傭役ニ關スル事
五　建築材料物件ノ購買保管出納ニ關スル事
六　海軍所用ノ土浚船ヲ以テ直營スル工事ニアラサル港内浚渫ニ關スル事

第二十二條　經理部長ハ會計上ニ付必要アルトキハ所轄長又ハ主任官吏ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得又他ノ官廳ト往復スルコトヲ得

第二十三條　經理部長ハ檢査ノ事實ニ依リ正當ナラスト認メタル事項ニ付テハ主任官吏ニ推問シ辯明又ハ更訂セシムルコトヲ得

第二十四條　經理部長ハ出納官吏ニ於テ計算書及證憑書類ノ提出ヲ怠リタルモノアルトキハ所轄長若ハ主任官吏ニ通告シ期限ヲ定メ提出セシムルコトヲ得

第二十五條　經理部長ハ金櫃物件帳簿ノ檢査ヲ行フトキハ豫メ其ノ期日ヲ當該所管長官ニ通知スヘシ

第二十六條　經理部長ハ部下ノ判任官ヲ各部ニ配付スヘシ

第二十七條　司法部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　海軍刑法海軍治罰法違警罪處分例普通刑法訴訟法及諸罰則ニ關スル事
二　海軍懲罰令官吏懲戒例海軍監獄則軍事警察及捕獲審檢ニ關スル事
三　軍法會議ニ關スル事
四　訴訟ニ關スル事
五　監獄事務ニ關スル事

第二十八條　測器廠ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　測器ヲ試驗修理及整頓スル事
二　海圖水路誌等ヲ補正整頓スル事
三　測器ノ購買契約其ノ他ノ準備ニ關スル事
四　海圖水路誌等ノ準備ニ關スル事
五　測器海圖水路誌等ノ保管供給ニ關スル事
六　氣象ノ觀測及通報ニ關スル事
七　測覘ノ保管運搬ニ屬スル人夫舟車ノ傭役ニ關スル事

第二十九條　望樓監督官ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　各海岸望樓ヲ監督スル事
二　各海岸望樓及鎭守府ノ連絡ニ關スル事

第三十條　艤裝委員ハ海軍造船廠ト協議シ經費ノ艤裝ニ關スル事ヲ掌ル

第三十一條　各地需品支庫在勤書記ハ石炭其ノ他ノ需品出納保管ニ關スル事ヲ掌ル

第三十二條　望樓長望樓手ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　海面上ノ出來事ニ注意スル事
二　號標電報ニ關スル事
三　艦船通過報告電報ニ關スル事
四　測候ニ關スル事
五　天氣豫報及暴風警報揭示ニ關スル事
六　水難報告電報ニ關スル事

望樓備品ノ都合ニ依リ前項業務ノ一部ヲ行ハサルコトヲ得

第三十三條　望樓長若ハ望樓長ヲ置カサル首席望樓手ハ望樓ノ事務ヲ主掌ス

文書取扱

第三十四條　司令長官司令官又ハ鎭守府ニ宛テ到來スル公文ハ副官ニ於テ接受シ其ノ各部（參謀長測器庫及鎭守府各部ヲ謂フ以下同シ）ノ主務ニ屬スルモノハ指定ノ印ヲ捺シ直ニ之ヲ各部ニ配付ス

前項ノ事項ニシテ各部ニ關係ヲ有スルトキハ其ノ關係ノ最大ナル部ヲ主務トス

第三十五條　各部長ハ各主務ノ公文ヲ審査シ司令長官司令官ノ閲覽ニ供スルニ止マルモノハ司令長官司令官ノ印ヲ捺シ自己ノ認印ヲ紙端ニ捺シ其ノ命令指令照會囘答等ヲ要スルモノハ各其ノ案ヲ附シ之ヲ副官ニ送附スヘシ

副官ノ主務ニ屬スル事項ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第三十六條　命令指令照會囘答等ノ案ヲ附シ司令長官司令官ノ決裁ヲ受クルニハ所定ノ罫紙ヲ用ヒ各部長及主任官之ニ捺印スヘシ但シ關係者ハ主務者ノ次ニ列記スヘシ

第三十七條　他部ニ關係アル文書ハ主務部長捺印ノ後主務部ヨリ關係部ニ送附シ關係部長ハ調査捺印シ之ヲ副官ニ送附スヘシ

副官ノ主務ニシテ他部ニ關係アルモノハ前項ノ例ニ依ル

第三十八條　副官ハ他部ヨリ公文ノ送附ヲ受クタルトキハ之ヲ審査シ司令長官司令官ノ閲覽ニ供シ又ハ決裁ヲ經テ發付ヲ要スルモノハ其ノ文案ニ依リ直ニ淨書發付ノ手續ヲ爲スヘシ但シ計算書類其ノ他文書ニ附屬ノ表圖又ハ別紙別冊アルトキハ主務部ニ於テ淨書校合シ副官ニ送附スルモノトス

前項閲覽濟及發付濟ノ書類ニシテ主務部ニ送附ヲ要スルモノハ副官直ニ之ヲ其ノ部ニ送附スヘシ

第三十九條　上申伺ニシテ當分又ハ到底詮議ニ及ヒ難キモノハ主務ノ各部ニ於テ其ノ理由ヲ附記シ司令長官司令官ノ査閲ヲ經テ之ヲ差出ヘニ返却スヘシ但シ時宜ニ依リ該書類ハ參考トシテ主務部ニ留置キ其ノ事由ヲ差出ヘニ通牒スルコトアルヘシ

副官ノ主務ニ屬スルモノハ前項ノ例ニ依ル

第四十條　鎭守府公文ハ件名簿ニ登記シ處分ノ終始ヲ明カナラシム

件名簿ハ某鎭號（横鎭、吳鎭ノ類）機密號ノ二種トシ副官之ヲ保管スルモノトス

件名簿ニハ公文ノ接受發送月日件名（原番號アルモノハ原番號ヲモ記入ス）等ヲ記入シ各一頁ノ番號ヲ附シ同時ニ該番號ヲ公文ニ對照スヘシ

第四十一條　前條ニ掲クル外鎭守府公文ニ對シ各部ニ於テハ別ニ件名簿ヲ置カス只受領發送簿ヲ備ヘ以テ文書ノ出入ヲ明カナラシ受領發送簿ニハ公文ノ接受發送月日件名番號（原番號アルモノハ原番號ヲモ記入ス）等ヲ記入スヘシ

第四十二條　處分結了ノ公文ハ各主務部若ハ副官ニ於テ保存スヘシ

第四十三條　處務參照ノ爲メ副官及各主務部ニ於テ保存スル文書ノ閲覽ヲ要スルトキハ其ノ室ニ就テ之ヲ見ルヲ例トス若シ必要ニ依リ室外ニ携帶スルヲ要スルモノアルトキハ必ス其ノ日ノ中ニ還付スヘシ

第四十四條　本則ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス

附則

（別表）

横須賀、吳、佐世保鎭守府兵曹長同相等官、准士官、下士、判任文官及卒定員配置表

	横須賀鎮守府	呉鎮守府	佐世保鎮守府	舞鶴鎮守府
兵曹長（上等兵曹）	一	一	一	一
上等兵曹	二	二	二	一
一等兵曹	二	二	二	一
二等兵曹	二	二	一	一
三等兵曹	一	一	一	一
兵曹長（上等兵曹）	一	一	一	一
上等兵曹	二	二	二	一
一等兵曹	二	二	二	一
二等兵曹	三	二	二	一
三等兵曹	二	二	一	一
兵曹長（上等兵曹）	二	二	一	一
上等兵曹	三	二	一	一
一等兵曹	三	三	一	一
二等兵曹	三	三	二	一
三等兵曹	一	一	一	一
兵曹長（上等兵曹）	二	二	一	一
上等兵曹	三	二	一	一
一等兵曹	三	三	一	一
二等兵曹	三	三	二	一
三等兵曹	一	一	一	一
兵曹長（上等兵曹）	二	二	一	一
上等兵曹	三	二	一	一
一等兵曹	四	三	一	一
二等兵曹	三	三	二	一
三等兵曹	一	一	一	一
兵曹長（上等兵曹）	二	二	一	一
上等兵曹	三	二	一	一
一等兵曹	三	三	一	一
二等兵曹	三	三	二	一
三等兵曹	一	一	一	一

	書記	二等看護手	一等看護手	二等機關兵曹	一等機關兵曹	上等機關兵曹	機關兵曹長（上等兵曹）	船匠長（船匠師）	上等兵曹	兵曹長（上等兵曹）
書記	一									
二等看護手	一									
一等看護手	一									
二等機關兵曹	一									
一等機關兵曹	一									
上等機關兵曹	一									
機關兵曹長（上等兵曹）	一									
船匠長（船匠師）	一									
上等兵曹	二									
兵曹長（上等兵曹）	二								

ノ將旗代將旒現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス（同上）

司令官ハ戰時若ハ事變ニ際シテハ要港内ニ在ル他管ノ艦船兵員ヲ以テ要港ノ守備ニ供スルコトヲ得但シ他ノ將旗代將旒現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス

第六條　司令官ハ部下ノ職員事故アルトキ若クハ缺員中ハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得但艦船ノ職員ハ此限ニアラス

第七條　副官ハ司令官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第八條　知港事ハ司令官ノ命ヲ承ケ所屬諸船ヲ統轄シ港則ヲ維持シ海運、海標及救難、防火等ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　機關長ハ司令官ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器竝ニ其ノ修理ニ關スル事ヲ掌ル（同上）

第十條　第三條第二項ニ揭クル機關士ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十一條　軍醫長ハ司令官ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第十二條　第三條第二項ニ揭クル軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十三條　主計長ハ司令官ノ命ヲ承ケ會計給與及軍器品配給ニ關スル事ヲ掌ル

第十四條　第三條第二項ニ揭クル主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

要港部ニ水雷敷設隊及水雷艇隊ヲ置ク

第十五條　水雷敷設隊及水雷艇隊ノ任務竝ニ職員及其ノ職務ニ關シテハ水雷團條例ノ規程ヲ適用ス但水雷團長ノ職權ハ司令官之ヲ行フ

第十六條　要港部ニハ第三條及第十六條ニ揭クル職員ノ外海軍准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

第十七條　軍港要港ニアラサル港灣ニシテ水雷防禦ヲ要スル所ニハ必要ニ應シ附近要港部ヨリ水雷敷設隊水雷艇隊ヲ分置シ其ノ所在地名ヲ冠稱セシム

前項ノ水雷敷設隊、水雷艇隊ハ平時ニ在テハ之ヲ所轄要港部中ニ置クコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ該港灣防禦ハ要港部司令官之ヲ掌ル

附則

第十九條　本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

海兵團條例

明治二十九年三勅令第六十號

朕海兵團條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海兵團條例

第一條　各軍港ニ海兵團ヲ置ク

海兵團ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　海兵團ハ鎮守府ニ屬シ海軍下士卒ノ教育訓練艦船團其ノ他各部下士卒定員補缺軍港ノ守衛兵員ノ徵募召集ヲ掌ル所トス

第三條　艦船團其ノ他各部ノ勤務若クハ練習等ヲ免シタル海兵下士卒ハ海兵團ニ入團セシメ艦船團其ノ他各部定員ノ補缺ニ充ツルヲ補缺員ト稱ス

補缺員ハ臨時ノ業務ニ服セシムルコトヲ得

第四條　海兵團ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十年十一月勅令第四百五號ヲ以テ本條改正）

團長
副長
徵募官
機關長
分隊長
軍醫長
主計長

前項ノ外必要ニ應シ海軍中尉、少尉、中機關士、少機關士、軍醫及主計ヲ置ク

第五條　團長ハ鎮守府司令長官ニ隷シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ團務ヲ總理ス

第六條　團長ハ部下ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第七條　副長ハ團長ヲ補佐シ團長ノ命令ヲ執行シ團内ノ定則ヲ維持シ團長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第八條　徵募官ハ團官ノ命ヲ受ケ兵籍ヲ主管シ徵兵豫備兵及艦船團其他各部定員ノ補缺竝ニ整備兵後備兵ノ召集簡閱點呼ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　將校分隊長ハ團隊ノ命ヲ承ケ各部署ノ長ト爲リ隊員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ兵器及要具ヲ整頓シ及教育訓練ニ關スル事ヲ掌ル又先任將校分隊長ハ副長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス（同上）

第十條　將校分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ當直士官ト稱シ團長ノ命ヲ承ケ團務ヲ掌理ス（同上）

第十一條　中尉及少尉ハ團長ノ指定ニ依リ將校分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十二條　中尉及少尉ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此ノ場合ニ於テハ副直士官ト稱シ當直士官ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十三條　機關長ハ團長ノ命ヲ承ケ部下ノ紀律ヲ維持シ又教育訓練ニ任シ及機關ニ關スル事ヲ掌ル

第十四條　機關官分隊長ハ團長ノ指定ニ依リ機關長ノ命ヲ承ケ各部署ノ長ト爲リ隊員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ諸機械ヲ整頓シ及教育訓練ニ關スル事ヲ掌ル（同上）

第十五條　少機關士ハ團長ノ指定ニ依リ機關長若クハ機關官分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十六條　軍醫長ハ團長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第十七條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十八條　主計長ハ團長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌理ス

第十九條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第二十條　第四條ニ揭クル職員ノ外海軍兵曹長及同相當官准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

附則

第二十一條　本令ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

水雷團條例

明治二十九年一月勅令第二號

朕水雷團條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水雷團條例

第一條　各軍港ニ水雷團ヲ置ク

水雷團ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　水雷團ハ鎮守府ニ屬シ水雷防禦ノ事ヲ掌ル所トス

第三條　水雷團ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十一年十一月勅令第四百三號ヲ以テ本條ヲ改ム）

團長
副官
機關長
軍醫長
主計長

前項ノ外必要ニ應シ海軍機關士、軍醫及主計ヲ置ク

團長ハ本條ノ機關官軍醫若ハ主計ヲ水雷艇ニ乘組マシムルコトヲ得

第四條　團長ハ鎮守府司令長官ニ隷シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ團務ヲ總理ス

第五條　團長ハ部下ノ職員事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第六條　副官ハ團長ノ命ヲ承ケ團務ヲ掌理ス

第七條　機關長ハ團長ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スル事ヲ掌ル（同上法令ヲ以テ「船體及兵器」ノ五字ヲ加フ）

第八條　第三條第二項ニ揭クル機關士ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上法令ヲ以テ「大機關士及少機關士」ヲ「機關士」ト改ム）

第九條　軍醫長ハ團長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル（同上）

第十條　第三條第二項ニ揭クル軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上法令ニテ「大軍醫及少軍醫」ヲ「軍醫」ト改ム）

第十一條　主計長ハ團長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第十二條　第三條第二項ニ揭クル主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上

法令ニテ「大主計及少主計」ヲ「主計」ト改ム）

第十三條　水雷團ニハ水雷敷設隊及水雷艇隊ヲ置ク

第十四條　水雷敷設隊ハ水雷固定防禦ノ事ヲ掌ル

第十五條　水雷艇隊ハ水雷移動防禦ノ事ヲ掌ル

第十六條　水雷敷設隊及水雷艇隊ニ左ノ職員ヲ置ク（同上法令ニテ本條改正）

水雷敷設隊

司令

分隊長

水雷艇隊

司令

艇長

前項ノ外水雷艇隊ニハ海軍尉官ヲ置キ又必要ニ應シ機關士ヲ置ク（明治三十一年六月勅令第百二十六號ヲ以テ本條改正）

第十七條　水雷敷設隊司令ハ團長ノ命ヲ承ケ水雷敷設隊ヲ指揮シ部下ヲ統督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ及隊務ヲ掌理ス

第十八條　分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ各部署ノ長トナリ部署員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ防備ヲ整頓シ及教育訓練ニ關スル事ヲ掌ル又先任分隊長ハ司令事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十九條　水雷艇隊司令ハ團長ノ命ヲ承ケ水雷艇隊ヲ指揮シ部下ヲ統督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ近海水路ノ狀況ヲ熟知シ及隊務ヲ掌理ス

第二十條　艇長ハ司令ノ命ヲ承ケ乘員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ誘掖訓練シ兵備ヲ整頓シ艇ノ保安ニ任シ艇務ヲ掌理ス又先任艇長ハ司令事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第二十一條　第十六條第二項ニ掲クル尉官ハ司令ノ指定ニ依リ艇長ノ命ヲ承ケ服務シ艇長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス（同上）

第二十二條　第十六條第二項ニ掲クル機關士ハ司令若クハ艇長ノ命ヲ承ケ其ノ機關部職及兵器ニ關スル事ヲ掌ル（明治三十年十一月勅令第四百三號ヲ以テ「大機關士及少機關士」ヲ「機關士」ト改メ尚「船舶及兵器」ノ五字ヲ加フ）

第二十三條　水雷團ニハ第三條及第十六條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長及同相當官准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上法令ニテ「兵曹長及同相當官」ノ八字ヲ加フ）

第二十四條　軍港要港ニアラサル港灣ニシテ水雷防禦ヲ要スル所ニハ必要ニ應シ附近水雷團ヨリ水雷敷設隊、水雷艇隊ヲ分置シ其所在地名ヲ冠稱セシム

前項ノ水雷敷設隊、水雷艇ハ平時ニ在テハ之ヲ其ノ所轄水雷團中ニ置クコトヲ得

第二十五條　前項ノ水雷敷設隊、水雷艇隊ニハ第十六條ニ掲クル職員ノ外必要ニ應シ機關士軍醫主計ヲ置キ司令ノ命ヲ承ケ服務セシム

第二十六條　艦隊其ノ他ニ水雷敷設隊、水雷艇隊ヲ附屬セシムルトキハ其ノ隊ノ任務竝ニ職員及其ノ職務ニ關シテハ本令ヲ適用ス但水雷團長ノ職權ハ直屬長官之ヲ行フ

附則

第二十七條　本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十八條　明治二十二年勅令第四十七號水雷隊條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◎水雷隊配備表廢止ノ件

明治二十九年三月勅令第二十號

明治廿二年勅令第百七十九號ノ廢止ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治廿三年勅令第百七十九號ハ明治二十九年三月三十一日限リ廢止ス

◎海軍造兵廠條例

明治三十年五月勅令第百五十一號

朕海軍造兵廠條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍造兵廠條例

第一條　吳軍港及東京ニ海軍造兵廠ヲ置ク

海軍造船廠ハ兵器ノ製造修理購買其ノ他造兵事業ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第三條　海軍造兵廠ニ廠長ヲ置キ吳造兵廠長ハ吳鎮守府司令長官ニ隷シ東京造兵廠長ハ海軍大臣ニ隷シ廠務ヲ總理セシム（明治三十年十二月勅令第四百二十五號ヲ以テ本條改正）

第四條　海軍造兵廠ニ製造科檢查科及會計課ヲ置ク

第五條　製造科ニ於テハ兵器ノ計畫製造及修理ニ關スル事ヲ掌ル

前項ノ外吳海軍造兵廠製造科ニ於テハ兵器ノ備製ニ關スル事ヲ掌ル

第六條　檢查科ニ於テハ兵器ノ檢查試驗保管供給及輸送ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第七條　會計課ニ於テハ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第八條　製造科及檢查科ニ科長及主幹、會計課ニ課長及課員ヲ置ク（同上）

第九條　科長課長ハ廠長ノ命ヲ承ケ其ノ科課ノ事務ヲ掌理ス

第十條　主幹及課員ハ所屬科課長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十一條　海軍造兵廠ニ軍醫長ヲ置キ廠長ノ命ヲ承ケ醫務衞生ニ關スル事ヲ掌ラシム（同上）

前項ノ外必要ニ應シ海軍造兵廠ニ海軍軍醫ヲ置キ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十二條　前諸條ニ揭クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

第十三條　各海軍造兵廠ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

附則

第十四條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十五條　明治二十六年勅令第四十四號海軍造兵廠條例及明治二十九年勅令第六十一號假吳兵器製造所條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表ハ之ヲ畧ス）

◎海軍造船廠條例

明治三十一年九月勅令第三百二十號

朕海軍造船廠條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍造船廠條例

第一條　各軍港ニ海軍造船廠ヲ置ク

海軍造船廠ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　海軍造船廠ハ鎮守府ニ屬シ船艦ノ製造修理艤裝其ノ他造船事業ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第三條　海軍造船廠ニ廠長ヲ置キ鎮守府司令長官ニ隷シ廠務ヲ總理セシム

第四條　海軍造船廠ニ造船科造機科會計課及材料庫ヲ置ク

第五條　造船科ニ於テハ船體ニ關スル事ヲ掌ル

第六條　造機科ニ於テハ機關ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　會計課ニ於テハ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第八條　材料庫ニ於テハ造船材料ノ購買寶知貯藏出納ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　造船科造機科會計課及材料庫ニ左ノ職員ヲ置ク

造船科
　科長
　主幹
造機科
　科長
　主幹
會計課
　課長
材料庫
　主管

第十條　科長課長及主管ハ廠長ノ命ヲ承ケ其ノ科課庫ノ事務ヲ掌理ス

第十一條　主幹ハ所屬長科長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　海軍造船廠ニ軍醫長ヲ置キ廠長ノ命ヲ承ケ醫務衞生ニ關スル事ヲ掌ラシム

前項ノ外必要ニ應シ海軍軍醫長ノ命ヲ承ケ服務セシム（明治三十一年十一月勅令第四百二十八號ヲ以テ本條改正）

第十三條　海軍造船廠ニハ前諸條ニ揭ケル職員ノ外海軍兵曹長同相當官竝准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

（別表）

海軍造船廠定員表

		須賀	吳	佐世保		須賀	吳	佐世保
廠長	造船大監							
造船科長	造船中少監							
造船科主幹	造船少監、造船大技士							
	造船技士、技師	二	四	二				
造機科長	機關大中監、造船大中監							
	機關中少監、造船中少監	一	一	一				
造機科主幹	機關少監、大機關士、造船少監、造兵技士、技師	三	三	一				
	造船大技士	一	一	一				
會計課長	主計中少監							
材料庫主管	主計少監、大主計	二	二	一				
軍醫長	軍醫少監、大軍醫							
	中少軍醫	一	一	一				
小計		一一	一三	一一		一一	一一	一一
合計	二百四十四人	二〇人	一八人	一三人		八五人	六〇人	四八人

考備　一横須賀海軍造船廠長ハ造船總監ヲ以テ之ニ補スルコトヲ得
二上等兵曹ハ兵曹長船匠師ハ船匠長上等機關兵曹ハ機關兵曹長ヲ以テ其ノ職ニ充ツルコトヲ得

◉吳鎭守府造船支部條例

明治二十六年五月勅令第四十號

朕吳鎭守府造船支部條例ヲ裁可シ並ニ之ヲ公布セシム

吳鎭守府造船支部條例

第一條　小野浦ニ吳鎭守府造船支部ヲ置キ艦船ヲ製造修理及艤裝スル所トス

第二條　吳鎭守府造船支部ニ左ノ職員ヲ置ク

造船支部長	海軍少技監	一人
造船主幹	海軍技士	三人
會計課長	主計中少監	一人
會計課長	主計少監	一人
會計課長	主計	二人
會計課長	書記	四人
材料庫主管	主計少監	一人
材料庫主管	主計	二人
材料庫主管	書記	四人
軍醫長	軍醫少監	一人
軍醫長	軍醫	二人
造船技士	海軍技士	二人
造船技士	海軍少技士	二人
造船技士	海軍大技手	二人
造船技士	海軍中技手	二人
造船技士	海軍小技手	二人
造船技士	海軍大工長	二人
造船技士	海軍中工長	二人
造船技士	海軍小工長	二人
造船技士	海軍大工	二人
造船技士	海軍中工	二人
造船技士	海軍小工	二人
造船技士	海軍大工見習	二人
造船技士	海軍中工見習	二人
造船技士	海軍小工見習	二人
造船技士	海軍大工手	二人
造船技士	海軍中工手	二人
造船技士	海軍小工手	二人
造船技士	海軍大工徒弟	二人
造船技士	海軍中工徒弟	二人
造船技士	海軍小工徒弟	二人

第三條　支部長ハ吳鎭守府司令長官ノ命ヲ受ケ工場ヲ總理シ製造主管ハ支部長ヲ助ケ工事ヲ分擔ス

第四條　會計課長ハ金錢及物品會計ヲ掌理ス

第五條　造船材料支庫主管ハ支部長ノ命ヲ承ケ造船材料ノ出納ヲ經理ス

第六條　第二條ニ揭ケル職員ノ外海軍大軍醫一人海軍看護手一人書記八人技手九人看病夫一人ヲ置ク

海軍大軍醫ハ工場ノ醫務衞生ヲ掌リ海軍看護手書記及技手看病夫ハ各上官ノ命ヲ受ケ其主務ニ服ス

第七條　臨時須要ニ從ヒ海軍上等兵曹海軍機關師及海軍船匠師各一人ヲ置キ吳鎭守府職員ヨリ兼務セシムルコトヲ得

◉海軍病院條例

明治三十年九月勅令第三百二十一號

朕海軍病院條例ヲ裁可シ並ニ之ヲ公布セシム

海軍病院條例

第一條　各軍港ニ海軍病院ヲ置ク

海軍病院ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　海軍病院ハ鎭守府ニ屬シ治療竝ニ治療品ノ準備供給、被服糧食藥品等ノ衞生試驗及看護手看護ノ教育ヲ掌ル所トス

第三條　海軍病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
副長

前項ノ外必要ニ應シ軍醫官藥劑官ヲ置ク（明治三十一年十一月勅令第四百二十九號ヲ以テ本條改正）

第四條　院長ハ鎭守府司令長官ニ隷シ院務ヲ總理ス

第五條　副長ハ院長ノ命ヲ承ケ院長ヲ補佐シ院務ヲ整理ス

第六條　第三條第二項ニ揭ケル軍醫官藥劑官ハ院長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上法令ニテ本條改正）

第七條　海軍病院ニ療品庫及試驗所ヲ置ク

第八條　療品庫ニ於テハ治療品ノ準備供給ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　試驗所ニ於テハ被服糧食藥品等ノ衞生試驗ニ關スル事ヲ掌ル

第十條　療品庫及試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

療品庫　主管
試驗所　所長
　　所員

第十一條　主管ハ院長ノ命ヲ承ケ療品庫ニ關スル事ヲ掌ル

第十二條　所長ハ院長ノ命ヲ承ケ試驗所ニ關スル事ヲ掌ル

第十三條　所員ハ所長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　海軍病院ニハ第三條及第十條ニ揭ケル職員ノ外海軍看護長竝准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

第十五條　各海軍病院ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

附則

第十六條　本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス

（別表ハ之ヲ略ス）

◉海軍病院規則

明治三十年十二月海軍省達第百七十七號

海軍病院規則左ノ通定ム

海軍病院規則

第一章　院長

第一條　院長ハ患者ノ治療ヲ掌リ院内諸員ニ職務ノ分擔及掛ヲ命シ專心其職務ヲ服行セシムヘシ

第二條　院長ハ其院ノ内規ヲ制定シ所管長官ノ承認ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

第三條　院長ハ軍醫官藥劑官ノ職務ヲ監督シ其ノ性行才幹技能ヲ詳知シ學術技藝ノ發達ヲ圖リ且看護長及准士官以下服務ノ現況業務ノ能否ニ注意シ其ノ考課褒等ヲ考査シ其ノ人ト爲リヲ詳知スヘシ

第四條　院長ハ少軍醫候補生及少藥劑士候補生ニ實務ヲ訓練シ學術ヲ研究セシムヘシ

第五條　院長ハ定員下士卒ヲ各部ニ配置シ各部ヲ管スル軍醫官若ハ藥劑官ニ屬セシメ其指揮ニ從ヒ服務セシムヘシ

第六條　院長ハ軍醫官及藥劑官中ヨリ教官ヲ指定シ又看護長（看護師）若ハ看護手ニ教員ヲ命シ看護術練習生及五等看護ノ教育ヲ施行セシムヘシ

第七條　院長ハ院内一般ノ衛生ニ注意シ又院内諸建築物ノ增築改造修繕等ヲ要スルトキハ司令長官ニ具申シ又醫務局長ニ報告スヘシ

第八條　院長ハ各主務者ヲ從ヘ時々院内部ヲ巡檢シ衛生ノ狀況及治療品病用品等ノ保存及貯藏ノ整否ヲ點檢スヘシ

第九條　院長ハ每月院内ノ治療品ニ要スル藥品消耗品及通常消耗品等ノ消費額ヲ實査シ勉メテ冗費ヲ省クコトニ注意スヘシ

第十條　院長ハ定員下士卒中傳染性生殖器病ニ罹リタル者アルトキハ病中ハ勿論癒後七日間外出ヲ止ムヘシ

第十一條　院長ハ入院患者中兵役ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ診斷ヲ行ヒ其ノ診斷證書ヲ患者ノ所屬長ニ移スヘシ

第十二條　院長ハ死狀疑渾ニ渉リ局部剖見ヲ要スル者アルトキハ司令長官ニ具申シ其ノ命ニ從ヒ之ヲ施行シ其實況ヲ詳記シ司令長官及醫務局長ニ出スヘシ

刑事ニ關係ノ嫌疑アル死者ヲ剖檢スルトキハ主理立會ノ上執行スヘシ

第十三條　院長ハ非常呼集内外火災院内警戒等ノ諸配置ヲ作リ適宜之ヲ實習セシメ熟練ノ度ニ逮セシムヘシ

第十四條　院長ハ藥品庫主管ノ職務ヲ監督シ治療品ノ準備供給ニ遺算ナカラシムヘシ

第十五條　院長ハ試驗所長ノ職務ヲ監督シ其ノ成績ノ精確ヲ圖ルヘシ

第十六條　院長ハ試驗所長ヨリ出ス所ノ試驗成績表ヲ調査シ生理上及軍陣衛生上ニ照シテ考査シ常規ノモノハ試驗所長ヲシテ處理セシメ其ノ常規ニアラサルモノハ意見ヲ附シテ醫務部長ニ出スヘシ

第十七條　院長ハ軍醫少監及大軍醫ナシテ交番當直ノ勤務ニ服セシメ當直軍醫ト稱シ其ノ規定ニ依リ院務ヲ掌理セシメ又中軍醫及少軍醫ヲシテ交番當直ノ勤務ヲ服セシメ副直軍醫ト稱シ當直軍醫官ノ命ヲ承ケ服務セシムヘシ

第十八條　院長ハ當直軍醫官ノ任ニ當ルヘキ者三名ニ滿タサル場合ニ於テハ中軍醫及少軍醫ヲシテ當直軍醫官ノ勤務ヲ爲サシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ全數ヲ三名ヨリ超過セシムヘカラサルモノトス

第十九條　院長ハ副直軍醫ノ任ニ當ルヘキ者三名ニ滿タサル場合ニ於テハ少軍醫候補生ヲシテ副直軍醫ノ勤務ヲ爲サシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ全數ヲ三名ヨリ超過セシムヘカラサルモノトス

第二十條　院長ハ當直軍醫官及副直軍醫官ノ任ニ當ルヘキ軍醫官ノ總數六名ニ滿タサルトキハ夜間ハ當直軍醫官及副直軍醫中一名ノミ在院セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ少軍醫候補生ニシテ副直軍醫タル者ハ除外トス

第二章　副長軍醫官及藥劑官

第一條　副長ハ常ニ院内全般ノ行動ニ注意シ醫務ノ整頓ヲ圖リ患者ノ治療ニ從事シ院長不在ノトキハ其代理ヲナス

第二條　副長ハ定員下士卒ノ勤怠ヲ監督シ主任者ノ調製セル考課表ヲ查閱シ平生ノ行爲ニ注意シ其ノ性行伎倆ヲ詳知シ又下士卒ニ係ル諸般ノ事務ヲ監視スヘシ

第三條　副長ハ院長ノ命ヲ受ケ定員下士卒ノ配置ヲ掌リ且看護手看護ヨリ出ス所ノ勤務報告ニ意見ヲ記入シ之ヲ院長ニ出スヘシ

第四條　副長ハ入院患者アルトキハ受持軍醫官ヲ指定シ其ノ病室ニ入ラシムヘシ

第五條　副長ハ患者日誌處方錄疾病要略ヲ調査シ之ニ捺印スヘシ

第六條　副長ハ每日病室日報及醫事日誌ヲ調査シ之ヲ院長ニ出スヘシ

第七條　副長ハ一週一回院内各室ヲ點檢シ洒掃通氣其ノ他衛生上ノ實況及治療品病用品保管補充ノ適否ヲ視察スヘシ

第八條　軍醫官ハ院長ノ命ヲ受ケ各病室ヲ分擔シ配置下士卒ヲ統御シ在室患者ノ治療ニ從事スヘシ

第九條　軍醫官ハ每日定時ニ擔當患者ヲ週診シ院長及副長週診ノ際隨從シ患者日誌處方錄ヲ整理（處方錄ハ每週一回之ヲ改記スヘシ）シ之ニ捺印スヘシ

第十條　軍醫官ハ入院患者アルトキハ速ニ之ヲ診察シテ其ノ病症ヲ副長ニ開陳スヘシ

第十一條　軍醫官ハ病症危篤ニ陷リ或ハ至急手術ヲ要スル患者アルトキハ速ニ院長若ハ副長ニ開陳シ危篤患者ニ在テハ其ノ報告ヲ患者ノ所屬長ニ發送スヘシ

第十二條　軍醫官ハ傳染病患者アルトキハ速ニ院長若ハ副長ニ開申スヘシ

第十三條　軍醫官ハ受持病室ノ衛生ニ注意シ換氣氣溫洒掃及消毒等ノ施行ヲ監督スヘシ

第十四條　軍醫官ハ受持病室附看護手看護ヲ誘掖奬勵シテ誠實ニ看護ノ實務ニ從事セシメ且其ノ伎倆行狀等ヲ熟知スヘシ

第十五條　軍醫官ハ受持病室附看護手看護ノ黜陟進退ニ關シテハ案ヲ具シ副長ヲ經テ院長ニ呈出シ且其ノ議ニ參與スルモノトス

第十六條　軍醫官ハ每月受持病室備付治療品ヲ檢査シ其ノ保存補充ニ注意スヘシ

第十七條　軍醫官ハ患者ニ係ル書類ヲ起案調製スヘシ

第十八條　軍醫官ハ院長ノ命ヲ受ケ看護術練習ニ關スル教育ヲ擔任シ又五等看護ノ教育ヲ監督シ下士卒ニ依ル事務ヲ處理スヘシ

第十九條　副長次席軍醫官ハ筆記廚宰ノ人事ヲ掌理シ其ノ黜陟進退ニ關シテハ案ヲ具シ副長ヲ經テ院長ニ呈出シ且其ノ議ニ參與スルモノトス

第二十條　軍醫少監及大軍醫ハ交番一名宛二十四時間ノ當直ヲ爲シ左ノ事務ヲ掌理スヘシ

一　日課ノ施行

二　外來事務ヲ接受シ各主務者ニ傳達スル事

三　院内ノ警察

四　患者ノ臨時診察

五　醫事日誌及病室日報ノ記入

六　院内巡檢下士卒點檢及食餌點檢

七　患者運動及面會人ニ係ル事務

八　患者入退院ニ係ル事務

九　定員下士卒及外來患者ノ診察

第二十一條　當直軍醫官ハ副直員以下ノ職務ヲ監督シ在院患者ノ狀況ニ注意シ至急ヲ要スル事故アルトキハ院長若ハ副長ニ報告スヘシ

第二十二條　少軍醫候補生ハ院長ノ命ヲ受ケ軍醫官ノ助手トナリ其ノ藥務ヲ實習スヘシ

第二十三條　少軍醫候補生ハ實務ヲ練習スルノ外勉メテ其ノ學術ヲ研究スヘシ

第二十四條　中少軍醫ハ副直トシテ交番一名二十四時間當直シ當直軍醫官ノ事務ヲ補助スヘシ

第二十五條　少軍醫候補生ハ交番一名若ハ若干名宛二十四時間當直シ副直軍醫ノ事務ヲ實習スヘシ

第二十六條　先任藥劑官ハ院長ノ命ヲ受ケ藥劑官ヲ指揮シ左ノ事項ヲ掌理スヘシ

一　病院用治療品ノ保管出納

二　病院用治療品ニ關スル報告書類及帳簿ノ整理

三　調劑事務

四　藥室整備

第二十七條　先任藥劑官ハ部屬看護手看護ヲ誘掖奬勵シテ其ノ職務ヲ誠實ニ施行セシメ且其ノ伎倆行狀等ヲ熟知スヘシ

第二十八條　先任藥劑官ハ部屬看護手看護ノ黜陟進退ニ關シテハ案ヲ具シ副長ヲ經テ院長ニ呈出シ且其ノ議ニ參與スルモノトス

第二十九條　各藥劑官ハ部屬看護手看護ヲ指揮シテ處方錄ニ據リ調劑セシメ之ニ捺印スヘシ

第三十條　各藥劑官ハ院長ノ命ヲ受ケ看護術練習ニ關スル教育ヲ擔任スヘシ

第三十一條　先任藥劑官ハ每月備付治療品ヲ調査シ貯藏保管ニ注意シ又修補等ヲ要スルモノアルトキハ速ニ之ヲ處分シ常ニ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第三十二條　少藥劑士候補生ハ院長ノ命ヲ受ケ藥劑官ノ助手トナリ其ノ

業務ヲ實習スヘシ

第三十三條　少藥劑士候補生ハ實務ヲ練習スルノ外勉メテ學術ヲ研究スヘシ

第三章　療品庫主管

第一條　療品庫主管ハ院長ノ命ヲ受ケ治療品出納規程ニ依リ左ノ事項ヲ掌理スヘシ

一　治療品ノ貯藏保管

二　治療品供給ニ關スル事務

三　治療品購買契約及購買ニ關スル事務

四　治療品ニ關スル報告書類及帳簿ノ整理

五　供用品トシテ供給スル療用品ノ調査

六　療品庫主管ハ部屬看護手看護ヲ誘掖督勵シテ其ノ職務ヲ誠實ニ施行セシメ且其ノ技術行狀ヲ熟知スヘシ

第二條　療品庫主管ハ部屬看護手看護ノ勤陟進退ニ關シテハ案ヲ具シ副長ヲ經テ院長ニ呈出シ且其ノ議ニ參與スルモノトス

第三條　療品庫主管ハ器械手ヲシテ保管療用品及器械ノ研磨修補ヲナサシメ常ニ供給ニ支障ナカラシムヘシ

第四條　試驗所長

第一條　試驗所長ハ院長ノ命ヲ受ケ左ノ事項ヲ掌理スヘシ

一　藥品ノ適否判別試驗

二　療用品ノ檢查

三　被服ノ地質及染色ニ關スル理化學的檢查

四　飲食品ノ適否判別試驗

五　食器類ノ衞生上ニ關スル理化學的檢查

六　斷識化學ニ關スル試驗

七　以上諸項ノ外一般衞生上ニ關スル理化學的試驗

第二條　試驗所長ハ部屬看護手看護ヲ誘掖督勵シテ其ノ職務ヲ誠實ニ施行セシメ且其ノ伎倆行狀等ヲ熟知スヘシ

第三條　試驗所長ハ部屬看護手看護ノ勤陟進退ニ關シテハ案ヲ具シ副長ヲ經テ院長ニ呈出スヘシ

第四條　試驗所長ハ療品庫主管ヲシテ療用品及器械ノ研磨修補ヲナサシメ常ニ供給ニ支障ナカラシムヘシ

第五條　試驗所長ハ藥劑室附ヲシテ藥劑官ノ職務ヲ補助セシムヘシ

第六條　試驗所長ハ藥劑官ノ學術實地ノ教導ニ從事スヘシ

第七條　試驗所長ハ藥劑官ノ命ヲ承ケ調劑ニ從事シ治療品及調劑器具ヲ整頓シ實用ニ支障ナカラシムヘシ

第八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第十條　試驗所長ハ其ノ室ノ療品庫主管ノ命ヲ承ケ治療品ノ貯藏保存ニ注意シ常ニ庫內ヲ整頓シ且賤々貯藏ノ治療品ヲ調査シ缺乏ヲ告クルモノアルトキハ其ノ品名數量ヲ主管ニ報告シ又緩急其ノ他各部ニ供給スル現品ノ取扱ヲナスヘシ

第十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第二十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第二十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第二十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第二十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第二十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第二十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第二十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第二十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第二十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第二十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第三十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第三十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第三十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第三十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第三十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第三十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第三十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第三十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第三十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第三十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第四十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第四十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第四十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第四十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第四十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第四十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第四十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第四十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第四十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第四十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第五十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第五十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第五十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第五十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第五十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第五十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第五十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第五十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第五十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第五十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第六十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第六十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第六十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第六十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第六十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第六十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第六十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第六十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第六十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第六十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第七十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第七十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第七十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第七十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第七十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第七十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第七十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第七十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第七十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第七十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第八十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第八十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第八十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第八十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第八十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第八十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第八十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第八十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第八十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第八十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第九十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第九十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第九十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第九十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第九十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第九十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第九十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第九十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第九十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第九十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百二十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百二十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百二十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百二十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百二十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百二十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百二十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百二十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百二十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百二十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百三十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百三十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百三十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百三十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百三十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百三十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百三十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百三十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百三十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百三十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百四十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百四十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百四十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百四十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百四十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百四十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百四十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百四十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百四十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百四十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百五十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百五十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百五十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百五十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百五十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百五十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百五十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百五十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百五十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百五十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百六十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百六十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百六十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百六十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百六十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百六十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百六十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百六十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百六十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百六十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百七十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百七十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百七十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百七十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百七十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百七十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百七十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百七十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百七十八條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百七十九條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百八十條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百八十一條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百八十二條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百八十三條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百八十四條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百八十五條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ軍醫官ノ承認ヲ經テ藥劑官ニ申出ヘシ

第百八十六條　試驗所長ハ其ノ室ノ備品ヲ管理シ其ノ請求及交換ヲ要スルモノアルトキハ看護長（看護師）ニ申出ヘシ

第百八十七條　試驗所長ハ其ノ室ノ療用品ヲ管理シ其

第六條　本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス
（別表海軍監獄定員表略之）

◎海軍監獄處務細則

明治三十年十一月海軍省達第百五十九號

海軍監獄處務細則左ノ通定ム

海軍監獄處務細則

職　課

第一條　海軍監獄長ハ監獄諸員ノ分掌ヲ定ム

第二條　海軍監獄書記ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　文書ノ接受發送及保存ニ關スル事
二　被服糧食其他物品ノ給與ニ關スル事
三　在監人ノ沒收領置ノ金錢物品取扱ニ關スル事
四　囚人ノ使用及在監人用ノ物品取扱ニ關スル事
五　在監人ノ刑期特赦假出獄及訓誡ニ關スル事
六　賞罰決算及金錢ノ收支ニ關スル事
七　監獄官其他吏員ノ履歷ニ關スル事
八　諸報告ニ關スル事
九　雇員傭人ニ關スル事

第三條　海軍看守長ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　監獄ノ警守及在監人ノ戒護ニ關スル事
二　在監人ノ行狀賞罰及訓誡ニ關スル事
三　刑ノ執行及役業ニ關スル事
四　在監人ノ出入名籍ニ關スル事
五　在監人ノ願訴信書接見及差入品ニ關スル事
六　監房ノ點檢開閉鎗鍵及戒具ニ關スル事
七　在監人ノ體量及糧食配當ニ關スル事
八　看守ノ勤務ニ關スル事

第四條　監獄勤務ノ軍醫ハ左ノ事務ヲ掌ル
一　在監人ノ治療ニ關スル事
二　囚人ノ體力ニ依テ服役ノ程度ニ關スル事
三　被服糧食減食閉室役法及浴法等ノ衞生上ニ關スル事
四　各監房及役場等ノ衞生上ニ關スル事
五　看護手看護ノ勤務ニ關スル事

文書取扱

第五條　海軍監獄長又ハ海軍監獄宛ノ書類ハ書記之ヲ受領シ件名簿ニ登記シ監獄長ノ査閱ニ供スヘシ但監獄長親展書類ハ監獄長直ニ接手スルモノトス

第六條　監獄長ハ文書ヲ査閱シ其主務ニ送付ス可シ

第七條　主務ノ先任者ハ監獄長ヨリ下付ノ文書ヲ審査シ即日之ヲ處辨スヘシ若シ即日處辨シ難キモノハ五日以內ニ處辨シ尙ホ其期日ニ處辨シ難キモノハ事由ヲ付記シ監獄長ノ檢印ヲ受ク可シ

第八條　事ノ連帶ニ渉ル文書ハ主務ニ於テ立案シ連帶主務官ニ送付シ雙方檢印ノ後之ヲ監獄長ニ出スヘシ若シ雙方ノ意見相合セサルトキハ監獄長ノ指揮ニ從フ可シ

第九條　文書ヲ發送スルニハ主務ニ於テ淨書シ書記ニ送付ス可シ書記之ニ番號ヲ付シ件名ヲ簿冊ニ登記シ成ルヘク其日ノ中ニ發送スヘシ該原案ハ番號及發送月日ヲ記入シ保存ス可シ

第十條　文書ヲ閱覽セントスルトキハ其室內ニ就テ之ヲ見ルヘシ若シ必要ニ依リ他室ニ携帶スルトキハ其日ノ中ニ還付ス可シ

◎新原採炭所官制

明治二十六年五月勅令第五十五號

朕新原採炭所官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

新原採炭所官制

第一條　新原採炭所ハ海軍豫備炭山ヲ管轄シ海軍需用ノ石炭ヲ採掘スル所トス

第二條　新原採炭所ニ所長一人ヲ置ク海軍機關少監ヲ以テ之ニ補ス

第三條　所長ハ佐世保鎭守府司令長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ整理ス（同上）

第四條　新原採炭所ニ技師一人ヲ置ク所長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第五條　新原採炭所ニ書記三人技手二人ヲ置ク上官ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

◎海軍兵學校條例

明治三十年九月勅令第三百二十七號

朕海軍兵學校條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍兵學校條例

第一條　海軍兵學校ハ海軍將校トナスヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條　海軍兵學校ニ於テ教授スヘキ學科ハ砲術水雷術運用術航海術機關術及普通學トス

第三條　海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
砲術教官
水雷術教官
運用術教官
航海術教官
機關術教官
普通學教官
監事長
軍醫長
主計長

前項ノ外海軍大軍醫少軍醫及大主計ヲ置ク

第四條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第五條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第六條　教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監理ス

第七條　教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第八條　監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ紀律ヲ維持シ又體育ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衞生ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條　第三條第二項ニ揭ク軍醫官ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス（明治三十年十一月勅令第四百三十一號ヲ以テ本條改正）

第十二條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第十三條　第三條第二項ニ揭ク大主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條　海軍兵學校ニハ第三條ニ揭ク職員ノ外、海軍兵曹長同相當官竝准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

第十五條　生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十年以下ニシテ海軍將校タラントヲ志願スル者ニ就キ檢查ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス（明治三十一年八月勅令第百九十五號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第十六條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一　有妻ノ者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
三　復權ヲ得サル家資分散者破產者若ハ其ノ相續人
四　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

第十七條　生徒ノ召集及檢查格例ハ每年海軍大臣之ヲ告示ス

第十八條　生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第十九條　生徒ノ入學ハ三箇年トス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十條　卒業試驗ニ及第シタル生徒ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十一條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十二條　生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム

一　將校タルヘキ器量ニ乏キ者（同上法令ニテ本項ヲ追加シ以下三項順次ニ繰下ク）
二　品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
三　試驗ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

四　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十三條　海軍兵學校ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

附　則

第二十四條　本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス

第二十五條　本令施行ノ際三箇年以上在學ノ生徒ハ本令施行ノ日ヲ以テ卒業セシム

（別表海軍兵學校定員表畧之）

海軍大學校條例

明治三十年九月勅令第三百二十六號

陸海軍大學校條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍大學校條例

第一條　海軍大學校ハ海軍將校及機關官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條　海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
主計長

第三條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ校務ヲ總理ス

第四條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第五條　教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス

第六條　教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第七條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第八條　海軍大學校ニハ第二條ニ揭ケル職員ノ外判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第九條　海軍大學校ニ於テ教授スル海軍將校及機關官ヲ海軍大學校學生ト稱ス

第十條　海軍大學校學生ヲ左ノ五種ニ區別ス（明治三十二年三月勅令第八十五號ヲ以テ「機關科學生」ヲ「機關科長期學生」及「機關科短期學生」

ノ二種ト爲シ同時ニ「改正法令施行ノ際ニ在學ノ機關科學生ハ機關科長期學生ト爲ス」旨ヲ規定シタリ）

將校科甲種學生
將校科乙種學生
機關科長期學生
機關科短期學生
運科學生

第十一條　將校科甲種學生ニハ樞要ノ職員若ハ高級指揮官ノ素養ナラシメ高等ノ兵學及其ノ他ノ學術ヲ教授ス

第十二條　將校科乙種學生ニハ砲術水雷術若ハ航海術ノ學理ヲ教授ス

第十三條　機關科長期及短期學生ニハ機關ニ關スル高等ノ學術ヲ教授ス（同上）

第十四條　運科學生ニハ各自ノ選擇スル學術ヲ修メシム

第十五條　將校科甲種學生ハ左ノ資格ヲ有シ所管長官ノ推薦ヲ受ケタル海軍大尉ニシテ入學試驗ニ合格シタル者ニ尤キ海軍大學校學生經術委員ノ檢定ヲ經テ海軍大臣之ヲ命ス

身體強健實務ノ成績優等ニシテ氣節アリ且判斷力ニ富ミ後來充分發達スヘキ才學ト識量トヲ有スト認メタル者（明治三十一年十二月勅令第十二號ヲ以テ本條改正）

第十六條　將校科乙種學生ハ海軍大尉ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ス（同上）

一　砲術水雷術若ハ航海術ヲ專修セシムルニ適當ト認メタル者

二　入學試驗ニ合格シタル者但シ從前大學校ヲ卒業シタル者ニハ入學試驗ヲ省畧スルコトヲ得

第十七條　機關科長期學生ハ海軍大臣之ヲ命ス

一　實務ノ成績優等ニシテ後來充分發達スヘキ才能ヲ有スト認メタル者

二　機關科短期學生中優等ナル成績ヲ以テ卒業シタル者若ハ入學試驗ニ合格シタル者

機關科短期學生ハ海軍大機關士、中機關士若ハ少機關士ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ス

一　機關ニ關スル高等ノ學術ヲ修メシムルニ適當ト認メタル者

二　機關學校ニ於テ良好ナル成績ヲ以テ卒業シタル者若ハ入學試驗ニ合格シタル者

第十八條　選科學生ハ海軍佐官機關監若ハ貳役停年三箇年以上ヲ經タル海軍大尉大機關士ニシテ其ノ學生タランコトヲ志願スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ス

第十九條　海軍大學生錄衝委員ハ海軍將官會議職員海軍大學校長及海軍大臣ノ特ニ命スル海軍佐官以上ヲ以テ編成シ委員長ハ錄衝委員中先任將官ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條　入學試驗ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十一條　學生卒業試驗ニ及第シタルトキハ之ニ卒業證書ヲ授與ス但シ將校科乙種學生ニハ砲術若ハ水雷術學理修業證書ヲ授與ス

第二十二條　將校科甲種學生ニ卒業證書ヲ授與スルトキハ其ノ卒業ヲ表彰スヘキ徽章ヲ併與ス

第二十三條　將校科乙種學生卒業スルトキハ其ノ專修學科ニ應シ海軍砲術練習所學生若ハ海軍水雷術練習所學生ヲ命ス

第二十四條　校長ハ學生中不適合ト認ムル者アルトキハ海軍大臣ニ稟申ス海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアルヘシ但シ將校科甲種學生ニ於テハ海軍大學校學生錄衝委員ノ檢定ヲ經ルヲ要ス

第二十五條　大學校學生在學中高級ノ官等ニ進級スル場合ニ在テハ卒業マテ滯學セシムルコトヲ得

第二十六條　海軍大學校ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

附　則

第二十七條　現今在學ノ將校科學生ニハ第二十三條及第二十五條ヲ適用スル外凡テ從來ノ條例ヲ適用ス但シ同條例第三條將校科學生ノ學年一箇年半ヲ一箇年ニ短縮スルコトヲ得

第二十八條　軍醫科敎官及學生ニ關シテハ明治三十一年三月三十一日マテ從來ノ條例ヲ適用ス

（別表海軍大學校定員表畧之）

海軍醫學校條例

明治三十年十月勅令第三百七十六號

陸海軍軍醫學校條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍軍醫學校條例

第一條　海軍軍醫學校ハ軍醫ノ敎練及小軍醫候補生ノ講習竝ニ被服糧食等ノ衛生試驗ヲ行フ所トス

第二條　海軍軍醫學校ニ於テ敎授スル軍醫ヲ海軍軍醫學校學生ト稱シ少軍醫候補生ヲ海軍軍醫學校講習生ト稱ス

第三條　學生及講習生ハ海軍大臣之ヲ命ス

第四條　學生及講習生ノ學期ハ各一箇年トス

第五條　海軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
敎官
主計官

第六條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ校務ヲ統理ス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　敎官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ敎授ヲ擔任ス

第九條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ヲ掌ル

第十條　卒業試驗ニ及第シタル學生ニハ卒業證書ヲ授與シ講習生ニハ修學證書ヲ授與ス

第十一條　學生及講習生ノ學用品ハ自辨トス但シ授業ニ要スル書籍及器械等ハ其種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第十二條　海軍軍醫學校ニ書記ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十三條　海軍軍醫學校ノ定員ハ別表ニ定ムル所ニ依ル

附　則

第十四條　本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

（別表海軍軍醫學校定員表畧之）

◎海軍機關學校條例

明治三十年九月勅令第三百二十三號

廢海軍機關學校條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍機關學校條例

第一條　海軍機關學校ハ海軍機關官ト爲スヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條　海軍機關學校ニ於テ教授スヘキ學科ハ機關術水雷術及普通學トス

第三條　海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
副官
教頭
教官
監事長
監事
軍醫長
主計長

前項ノ外海軍中少軍醫及中少主計ヲ置ク（明治三十一年十一月勅令第四百二十二號ヲ以テ本項改正）

第四條　校長ハ海軍大臣ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第五條　副長ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第六條　教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス

第七條　教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第八條　監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ紀律ヲ維持シ又體育ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衞生ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條　第三條第二項ニ揭ケル中少軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十二條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第十三條　第三條第二項ニ揭ケル中少主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十四條　海軍機關學校ニハ第三條ニ揭ケル職員ノ外海軍機關兵曹長竝准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

第十五條　生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十一年以下ニシテ海軍機關官タランコトヲ志願スル者ニ就キ檢查ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス（明治三十一年八月勅令第百九十六號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第十六條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一　有妻ノ者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
三　復權ヲ得サル家資分散者破產者若ハ其ノ相續人
四　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

第十七條　生徒ノ召募及檢查格例ハ每年海軍大臣之ヲ告示ス

第十八條　生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第十九條　生徒ノ學年ハ三年四箇月トス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十條　卒業試驗ニ及第シタル生徒ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十一條　生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム

一　海軍機關官タルヘキ器量ニ乏キ者（同上法令ニテ本號ヲ追加シ以下順次繰下ク）
二　品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
三　試驗ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
四　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十三條　海軍機關學校ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

附則

第二十四條　本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス

第二十五條　本令施行ノ際三年四箇月以上在學ノ生徒ハ本令施行ノ日ヲ以テ卒業セシム

（別表海軍機關學校定員表略之）

◎海軍機關術練習所條例

明治三十年九月勅令第三百二十四號

廢海軍機關術練習所條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍機關術練習所條例

第一條　海軍機關術練習所ハ之ヲ橫須賀軍港ニ置ク

第二條　海軍機關術練習所ハ橫須賀鎭守府ニ屬シ機關術ノ教授ヲ掌リ且機關術ノ改良進步ヲ圖ル所トス

第三條　海軍機關術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
教官
分隊長
軍醫長
主計長

前項ノ外海軍中少軍醫及中少主計ヲ置ク（明治三十年十一月勅令第四百三十五號ヲ以テ本項改正）

第四條　所長ハ鎭守府司令長官ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ總理ス

第五條　教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任シ又機關術ノ研究調査ニ關スル事ヲ掌ル

先任教官ハ前項ノ外所長ヲ輔佐シ所長ノ命令ヲ執行シ所內ノ定則ヲ維持ス

第六條　分隊長ハ所長ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ直接訓練ス

第七條　軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衞生ニ關スル事ヲ掌ル

第八條　第三條第二項ニ揭クル中少軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第九條　主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第十條　第三條第二項ニ揭クル中少主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十一條　海軍機關術練習所ニハ第三條ニ揭クル職員ノ外海軍機關兵曹長並准士官下士卒現任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

第十二條　海軍機官術練習所ニ於テ教授スヘキ者ハ海軍上等機關兵曹、機關兵曹、機關兵、船匠師、船匠手、木工、鍛冶手及鍛冶トス

第十三條　海軍機關術練習所ニ於テ教授スル海軍機關兵曹及機關兵ヲ機關術練習生ト稱シ海軍船匠手及木工ヲ船匠練習生ト稱シ海軍鍛冶練習生ト稱ス

第十四條　機關術練習生ヲ左ノ四種ニ區別ス

一　機關術ヲ練磨セシムル者
二　掌機工トシ爲スヘキ者
三　掌艤工トシ爲スヘキ者
四　機關術ノ教員トシ爲スヘキ者

第十五條　船匠術練習生ヲ左ノ二種ニ區別ス

一　船匠術ヲ練磨セシムル者
二　船匠工トシ爲スヘキ者

第十六條　鍛冶練習生ヲ左ノ二種ニ區別ス

一　鍛冶術ヲ練磨セシムル者
二　兵器工トシ爲スヘキ者

第十七條　機關術船匠術若ハ鍛冶術ヲ練習セシムル者ハ其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ採拔スヘシ

一　海軍一等機關兵曹以下三等機關兵以上海軍一等船匠手以下三等木工以上及海軍一等鍛冶手以下三等鍛冶以上ノ者
二　身體強健品行方正ナル者
三　年齡三十五年未滿ノ者
四　卒業後五箇年以上現役ニ服スヘキ者
五　入學試驗ニ合格シタル者

第十八條　掌機工若ハ掌艤工船匠工若ハ兵器工トシ爲スヘキ者ハ各其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ所長之ヲ選拔スヘシ

一　掌機工若ハ掌艤工トシ爲スヘキ者ハ海軍一等機關兵曹以下三等機關兵以上船匠工トシ爲スヘキ者ハ海軍一等船匠手以下三等木工以上兵器

工ト爲スヘキ者ハ海軍一等鍛冶手以下三等鍛冶以上ノ者

二　掌機工若ハ掌艤工ト爲スヘキ者ハ第二十二條ニ規定スル機關術卒業證書、船匠工ト爲スヘキ者ハ船匠術卒業證書、兵器工ト爲スヘキ者ハ鍛冶術卒業證書ヲ有スル者

三　卒業後五箇年以上現役ニ服スヘキ者

第十九條　機關術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌機工證狀若ハ一等掌艤工證狀ヲ有スル海軍一等機關兵曹以下一等機關兵以上ニシテ卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第二十條　海軍機關術練習所ニ於テ教授スル上等機關兵曹及船匠師ハ海軍大臣之ヲ選定ス

第二十一條　入學試驗ノ規格ハ所長之ヲ定ム

第二十二條　機關術船匠術若ハ鍛冶術ヲ練習セシムル練習生卒業シタルトキハ之ニ機關術卒業證書若ハ鍛冶術卒業證書ヲ授與ス

第二十三條　掌機工ト爲スヘキ練習生卒業シタルトキハ之ニ掌機工證狀ヲ授與シ掌艤工ト爲スヘキ練習生卒業シタルトキハ之ニ船匠工證狀ヲ授與シ船匠工ト爲スヘキ練習生卒業シタルトキハ之ニ兵器工證狀ヲ授與ス

掌機工證狀掌艤工證狀船匠工證狀及兵器工證狀ハ試驗ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

第二十四條　機關術教員ト爲スヘキ練習生卒業シタルトキハ之ニ機關術教員適任證書若ハ機關術教員教程卒業證書ヲ授與ス但シ機關術教員ノ資格ヲ有スルハ適任證書ヲ授與セシ者ニ限ル

第二十五條　掌機工證狀ヲ有スル下士卒ヲ掌機工、掌艤工證狀ヲ有スル下士卒ヲ掌艤工、船匠工證狀ヲ有スル下士卒ヲ船匠工、兵器工證狀ヲ有スル下士卒ヲ兵器工ト稱ス

第二十六條　掌機工證狀掌艤工證狀船匠工證狀兵器工證狀若ハ機關術教員適任證書ヲ有スル者ニハ賢章ヲ付與ス

第二十七條　上等機關兵曹卒業シタルトキハ機關術卒業證書ヲ授與シ船匠師卒業シタルトキハ之ニ船匠術卒業證書ヲ授與ス

第二十八條　所長ハ海軍機關術練習所ニ於テ教授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官ニ在テハ鎭守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ稟申シ海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒ニ在テハ所長之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

第二十九條　海軍機關術練習所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

附　則

第三十條　本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス

（別表海軍機關術練習所定員表略之）

海軍砲術練習所條例

明治三十年九月勅令第三百二十八號

廢海軍砲術練習所條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍砲術練習所條例

第一條　海軍砲術練習所ハ之ヲ橫須賀軍港ニ置ク

第二條　海軍砲術練習所ハ橫須賀鎭守府ニ屬シ砲術ノ敎授ヲ掌リ且砲術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

第三條　海軍砲術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

敎官

分隊長

軍醫長

主計長

前項ノ外海軍中少尉軍醫及中少主計ヲ置ク（明治三十年十一月勅令第四百三十三號ヲ以テ本項改正）

第四條　所長ハ鎭守府司令長官ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ總理ス

第五條　敎頭ハ所長ノ命ヲ承ケ敎授ヲ擔任シ又砲術ノ研究調査ニ關スル事ヲ掌ル

先任敎官ハ前項ノ外所長ヲ輔佐シ所長ノ命令ヲ執行シ所內ヲ維持ス

第六條　分隊長ハ所長ノ命ヲ承ケ職員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ監督訓練ス

第七條　第三條第二項ニ揭ケル中少尉ハ所長ノ指定ニ依リ敎官若ハ分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第八條　軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　第三條第二項ニ揭ケル軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十條　主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第十一條　第三條第二項ニ揭ケル中少主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　海軍砲術練習所ニハ第三條ニ揭ケル職員ノ外海軍兵曹長准士官及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

第十三條　海軍砲術練習所ニ於テ敎授スヘキ者ハ海軍佐官大尉上等兵曹長及下士卒竝商船學校學生トス

第十四條　海軍砲術練習所ニ於テ敎授スル大尉ヲ海軍砲術練習所學生ト稱シ下士ヲ砲術練習生ト稱ス

第十五條　海軍砲術練習所學生ヲ命スルニハ海軍大學校條例第二十三條ニ依ル

第十六條　砲術練習生ハ左ノ三種ニ區別ス

一　掌砲兵ト爲スヘキ者

二　砲術敎員ト爲スヘキ者

三　砲術ノ復習ヲ爲ス者

第十七條　掌砲兵ト爲スヘキ者ハ其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔スヘシ

一　海軍一等兵曹以下三等水兵以上ノ者

二　身體强健視力完全品行方正ナル者

三　氣力アツテ掌砲兵タルニ適スル者

四　卒業後五箇年以上現役ニ服スヘキ者

五　入學試驗ニ合格シタル者

第十八條　砲術敎員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲證狀ヲ有スル海軍兵曹長若ハ一等水兵ニシテ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第十九條　砲術ノ復習ヲ爲ス者ハ既ニ修得シタルモノヲ復習セシコトヲ志願シ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔スヘシ

一　身體强健視力完全品行方正ナル者

二　卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者

第二十條　海軍砲術練習所ニ於テ敎授スル佐官及上等兵曹ハ海軍大臣之ヲ命ス

第二十一條　入學試驗ノ規格ハ所長之ヲ定ム

第二十二條　海軍砲術練習所ニ於テ敎授スル佐官及上等兵曹ハ海軍大臣之ヲ命ス

第二十三條　海軍砲術練習所學生竝商船學校學生卒業試驗ニ及第シタルトキハ之ニ砲術卒業證書ヲ授與ス

第二十四條　砲術敎員ト爲スヘキ砲術練習生卒業シタルトキハ其ノ成績ニ應シ砲術敎員適任證書及掌砲證狀若ハ掌砲證狀ヲ授與ス但シ砲術敎員ノ資格ヲ有スルハ證書證狀ヲ併授セシ者ニ限ル

第二十五條　復習ヲ爲ス砲術練習生卒業シタルトキハ砲術敎員適任證書及掌砲證狀若ハ掌砲證狀ヲ授與ス

第二十六條　掌砲證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ二等ニ分ツ

第二十七條　掌砲證狀ヲ有スル下士卒ヲ掌砲兵ト稱ス

第二十八條　掌砲證狀若ハ砲術敎員適任證書ヲ有スル者ニハ賢章ヲ附與ス

第二十九條　掌砲證狀ノ有效期限ハ五箇年トシ砲術敎員適任證書ノ有效期限ハ三箇年トス其ノ期滿レハ賢章ヲ除去ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ其ノ有效期限ヲ延スコトヲ得

第三十條　佐官及上等兵曹試驗ニ及第シタルトキハ砲術修業證書ヲ授與ス

第三十一條　所長ハ海軍砲術練習所ニ於テ敎授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官以上ニ在テハ鎭守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ稟申シ海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒竝商船學校學生ニ在テハ所長之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

第三十二條　海軍砲術練習所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

（別表海軍砲術練習所定員表署之）

◎海軍水雷術練習所條例

明治三十年九月勅令第三百二十九號

廢海軍水雷術練習所條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍水雷術練習所ニ於テ教授スヘキ者ハ海軍佐官大尉機關士上等兵曹及下士卒トス（同上）

第一條　海軍水雷術練習所ハ之ヲ横須賀軍港ニ置ク

第二條　海軍水雷術練習所ハ横須賀鎮守府ニ屬シ水雷術ノ教授ヲ掌リ且水雷術ノ改良進歩ヲ圖ル所トス

第三條　海軍水雷術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
教官
分隊官
軍醫長
主計長

前項ノ外海軍中少尉中少軍醫及中少主計ヲ置ク（明治三十年十一月勅令第四百三十四號ヲ以テ本項改正）

第四條　所長ハ鎮守府司令長官ニ隷シ軍紀風紀ヲ維持シ所務ヲ總理ス

第五條　教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任シ又水雷術ノ研究調査ニ關スル事ヲ掌ル

先任教官ハ前項ノ外所長ヲ輔佐シ所長ノ命令ヲ執行シ所内ノ定則ヲ維持ス

第六條　分隊長ハ所長ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ監督訓練ス

第七條　第三條第二項ニ揭ケル中少尉ハ所長ノ指定ニ依リ教官若ハ分隊長ニ屬シ其ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第八條　軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　第三條第二項ニ揭ケル中少軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十條　主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス

第十一條　第三條第二項ニ揭ケル中少主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス（同上）

第十二條　海軍水雷術練習所ニハ第三條ニ揭ケル職員ノ外海軍兵曹長相當官或准士官下士及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム（同上）

第十三條　海軍水雷術練習所ニ於テ教授スヘキ者ハ海軍佐官大尉機關士上等兵曹及下士卒トス（同上）

第十四條　海軍水雷術練習所ニ於テ教授スル大尉機關士ヲ海軍水雷術練習所學生ト稱ス

第十五條　大尉ニ海軍水雷術練習所學生ヲ命スルハ海軍大學校條例第二十三條ニ依ル

第十六條　機關士タル海軍水雷術練習所學生ハ海軍大臣之ヲ命ス

第十七條　水雷術練習生ハ左ノ四種ニ區別ス

一　掌水雷兵ト爲スヘキ者
二　水雷工ト爲スヘキ者
三　水雷術教員ト爲スヘキ者
四　水雷術ノ復習ヲ爲スヘキ者

第十八條　掌水雷兵若ハ水雷工ト爲スヘキ者ハ各其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔スヘシ但シ當分ノ内海軍一等兵曹ヲ選拔シテ之ニ練習生ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四ノ規程ヲ適用セス

一　掌水雷兵ト爲スヘキ者ハ海軍一等兵曹以下三等水兵以上水雷工ト爲スヘキ者ハ海軍一等機關兵曹以下三等機關兵以上及海軍一等鍛冶手以下三等鍛冶以上ノ者
二　身體强健品行方正ナル者
三　氣力アツテ掌水雷兵タルニ適スル者
四　卒業後五箇年以上現役ニ服スヘキ者
五　入學試驗ニ合格シタル者

第十九條　水雷術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌水雷兵若ハ有スル海軍兵曹

若ハ一等水兵ニシテ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第二十條　水雷術復習ヲ爲ス者ハ既ニ修得シタルモノヲ復習センコトヲ志願シ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔スヘシ

一　身體强健品行方正ナル者
二　卒業後三箇年以上現役ニ服スヘキ者

第二十一條　海軍水雷術練習所ニ於テ教授スル佐官上等兵曹及上等機關兵曹ハ海軍大臣之ヲ命ス

第二十二條　入學試驗ノ規格ハ所長之ヲ定ム

第二十三條　海軍水雷術練習所學生卒業試驗ニ及第シタルトキハ之ニ水雷術卒業證書ヲ授與ス

第二十四條　掌水雷兵ト爲スヘキ水雷術練習生卒業シタルトキハ之ニ掌水雷證狀ヲ授與シ水雷工ト爲スヘキ水雷術練習生卒業シタルトキハ之ニ水雷工證狀ヲ授與ス

第二十五條　水雷術教員ト爲スヘキ水雷練習生卒業シタルトキハ其ノ成績ニ應シ水雷術教員適任證書及掌水雷證狀若ハ掌水雷證狀ヲ授與ス但シ水雷術教員ノ資格ヲ有スルハ證書證狀ヲ併授セシ者ニ限ル

第二十六條　復習ヲ爲ス水雷術練習生卒業シタルトキハ水雷術教員適任證書及掌水雷證狀若ハ掌水雷證狀ヲ授與ス

第二十七條　掌水雷證狀及掌水雷工證狀ハ卒業ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

第二十八條　掌水雷證狀ヲ有スル下士卒ヲ掌水雷兵ト稱シ水雷工證狀ヲ有スル下士卒ヲ水雷工ト稱ス

第二十九條　掌水雷證狀水雷工證狀若ハ水雷術教員適任證書ヲ授與シタル者ニハ賢章ヲ付與ス

第三十條　掌水雷證狀ノ有效期限ハ四箇年トシ水雷術教員適任證書ノ有效期限ハ三箇年トス其ノ期滿レハ賢章ヲ除去ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ其ノ有效期限ヲ延スコトヲ得

第三十一條　佐官上等兵曹及上等機關兵曹試驗ニ及第シタルトキハ水雷術修業證書ヲ授與ス

第三十二條　所長ハ海軍水雷術練習所ニ於テ教授スル者ノ中不適合ト認ムル者アルトキハ准士官以上ニ在テハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ稟申シ海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアリ又下士卒ニ在テハ所長之ヲ退學ヲ命スルコトヲ得

第三十三條　海軍水雷術練習所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

（別表海軍水雷術練習所定員表署之）

◎海軍造船工練習所條例

明治三十年九月勅令第三百二十五號

廢海軍造船工練習所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造船工練習所ハ横須賀海軍造船廠ニ屬シ海軍造船職工ヲ教育スル所トス

第一條　海軍造船工練習所ハ横須賀海軍造船廠ニ屬シ海軍造船職工ヲ教育スル所トス

第二條　造船工練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
教官

第三條　所長ハ造船廠長ニ隷シ紀律ヲ維持シ所務ヲ總理ス

第四條　教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第五條　海軍造船工練習所ニハ第二條ニ揭ケル職員ノ外判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第六條　海軍造船工練習所ニ於テ教授スル職工ヲ練習職工ト稱ス

第七條　練習職工ハ其ノ志願者ニ就キ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ選拔ス

一　年齡滿二十一年以上滿三十年未滿ノ者
二　海軍造船職工トシテ引續キ滿三箇年以上現業ニ服シ居ル者
三　品行方正ニシテ將來技藝熟達ノ見込アル者
四　身體檢査及學術試驗ニ合格シタル者
五　卒業後十箇年以上海軍ノ業務ニ從事スヘキ者

第八條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ練習職工ニ採用セス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

二　復權ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人
三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

第九條　入學試驗ノ規格ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十條　卒業試驗ニ及第シタル練習職工ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十一條　前條ノ卒業證書ヲ有スル者ハ海軍技手ト爲ルヘキ資格アルモノトス

第十二條　練習職工ハ情願ヲ以テ退學スルコトヲ得ス

第十三條　練習職工ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退學セシム

一　品行不良或ハ怠惰ナル者
二　試驗ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
三　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者

第十四條　海軍造船工練習所ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

附　則

第十五條　本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス

（別表海軍造船工練習所定員表要之）

第十章　大藏省所管

㊀大藏省官制

明治三十一年十月勅令第二百六十九號

廢大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大藏省官制

第一條　大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス

第二條　大藏省專任參事官ハ二人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス

第三條　大藏省ニ左ノ三局ヲ置ク

主計局
主稅局
理財局

第四條　主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　總豫算決算ニ關スル事項
二　特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
三　仕拂豫算ニ關スル事項
四　主計簿ノ登記ニ關スル事項
五　歲入歲出現計書ノ調製ニ關スル事項
六　諸計算書ノ下檢査ニ關スル事項
七　出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
八　豫備金支出ニ關スル事項
九　定額繰越ノ承認及定額以外年度開始前支出ニ關スル事項
十　收入支出ノ科目ニ關スル事項
十一　金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項
十二　府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ歲計ニ關スル事項

第五條　主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
二　稅務ノ管理監督ニ關スル事項
三　民有地地租目錄換ニ關スル事項
四　土地臺帳ニ關スル事項
五　稅關輸出輸入ノ調査ニ關スル事項
六　外國貿易ノ船舶及輸出輸入品ノ監督ニ關スル事項
七　保稅倉庫ニ關スル事項
八　大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
九　府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項

第六條　理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國資ノ運用出納ニ關スル事項
二　國庫ノ出納管理ニ關スル事項
三　國庫ノ出納計算書ニ關スル事項
四　國債ノ募集借入償還及利拂ニ關スル事項
五　國債簿及國庫簿ノ登記ニ關スル事項
六　貨幣ニ關スル事項
七　紙幣、國債證券、大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
八　國債計算書ノ調製ニ關スル事項
九　年金恩給及賠償ノ給與ニ關スル事項
十　備荒儲蓄ニ關スル事項
十一　金庫ノ監督ニ關スル事項
十二　銀行ノ管理監督ニ關スル事項
十三　國立銀行紙幣交換基金ニ關スル事項
十四　預金保管物及供託物ニ關スル事項
十五　地方財務ノ監督ニ關スル事項
十六　會社債券ニ關スル事項
十七　一般金融ニ關スル事項
十八　府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項

第七條　大藏省ニ專任鑑定官二人技師一人ヲ置ク奏任トス鑑定官ハ主稅局ニ技師ハ必要ニ依リ官房其ノ他ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

第八條　大藏省ニ鑑定官補技手各二人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定建築ニ關スル事務ニ從事ス

第九條　大藏省屬ハ二百四十人ヲ以テ定員トス

附　則

第十條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第百九十八號ヲ廢止ス

㊀大藏省分課規程

明治三十一年十一月二日官報掲示

大臣官房分課規程

第一條　大臣官房ニ第一課、第二課、第三課、第四課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密文書ニ關スルコト
二　機密事務ニ關スルコト
三　官吏ノ進退身分ニ關スルコト
四　大臣次官ノ官印及省印ノ保管ニ關スルコト

第三條　第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　大臣ノ命ヲ承ケ審議立案スルコト
二　訴訟及訴願ニ關スルコト

第四條　第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　公文書類ノ編纂保存ニ關スルコト
二　公文書類及成案文書ノ接受發遞ニ關スルコト
三　公文書類ノ淨書ニ關スルコト
四　官報ノ報告ニ關スルコト
五　外國文書ノ翻譯ニ關スルコト
六　公文書類ノ外國語翻譯ニ關スルコト
七　年報書及本省事務統計ノ調製ニ關スルコト
八　本省各局課ニ屬セサル庶務ニ關スルコト

第五條　第四課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算及會計ニ關スルコト
二　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スルコト
三　本省所管出納官吏ノ身元保證ニ關スルコト
四　印紙類ノ出納保管ニ關スルコト
五　本省所管造營物ノ監督ニ關スルコト
六　省中取締ニ關スルコト

主計局分課規程

第一條　主計局ニ豫算決算課司計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　豫算決算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　總豫算決算ニ關スルコト
二　特別會計ノ豫算決算ニ關スルコト
三　豫備金ノ支出ニ關スルコト
四　收入支出ノ科目ニ關スルコト
五　會計ノ規程ニ關スルコト
六　物品會計ニ關スルコト
七　出納官吏ノ監督及身元保證金ニ關スルコト

八　府縣郡市町村其他公共組合ノ歳計及補助金ニ關スルコト

第三條　司計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　仕拂豫算ニ關スルコト

二　定額繰越過年度支出定額戻入及年度開始前支出ニ關スルコト

三　主計簿ノ登記ニ關スルコト

四　歳入歳出現計書調製ニ關スルコト

五　諸計算書ノ下檢査ニ關スルコト

主稅局分課規程

第一條　主稅局ニ內國稅課、關稅課、經理課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　內國稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　內國稅ノ賦課ニ關スルコト

二　內國稅務ノ管理監督ニ關スルコト

三　民有地地租目錄換ニ關スルコト

四　土地臺帳ニ關スルコト

五　間接國稅犯則者處分ニ關スルコト

六　府縣郡市町村其他公共組合ノ諸收入ニ關スルコト

第三條　關稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　關稅及稅關諸收入ノ賦課ニ關スルコト

二　關稅事務ノ管理監督ニ關スルコト

三　外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スルコト

四　官私設保稅倉庫及稅關倉庫ノ管理監督ニ關スルコト

五　外國貿易ノ狀況調査ニ關スルコト

六　從量稅率ノ調査ニ關スルコト

七　輸入品原價ノ換算ニ適用スル內外國貨幣比較表ニ關スルコト

八　萬國同盟關稅誌ニ關スルコト

第四條　經理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國稅其他諸收入徵算決算ノ調査ニ關スルコト

二　租稅ノ徵收ニ關スルコト

三　大藏省所管稅外諸收入ニ關スルコト

四　府縣郡市町村其他公共組合ノ公債ニ關スルコト

五　內國稅徵收費稅關經費稅務管理局及稅關營繕費ノ調査及配賦ニ關スルコト

六　內國稅徵收費稅關經費ノ經理上特殊ノ支給方法ニ關スルコト

七　內國稅徵收費稅關經費稅務管理局及稅關營繕費ノ支出計算書ノ調査ニ關スルコト

理財局分課規程

第一條　理財局ニ國庫課、國債課、銀行課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　國庫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國費ノ運用出納ニ關スルコト

二　金庫ノ監督ニ關スルコト

三　國庫ノ出納管理ニ關スルコト

四　國庫簿ノ登記ニ關スルコト

五　國庫ノ出納計算書ニ關スルコト

六　預金保管物及供託物ニ關スルコト

七　償金特別資金ニ關スルコト

八　貨幣ニ關スルコト

九　金融ニ關スルコト

第三條　國債課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國債ノ募集借入及償還ニ關スルコト

二　國債簿ノ登記ニ關スルコト

三　紙幣國債證券大藏省證券借入及證書ノ出納整理ニ關スルコト

四　國債計算書ノ調製ニ關スルコト

五　國債元利金國債取扱手數料紙幣交換基金整理公債金ノ仕拂ニ關スルコト

六　年金恩給及賠償ノ給與ニ關スルコト

七　備荒儲蓄金ニ關スルコト

八　中央備荒儲蓄金收支ニ關スルコト

九　國立銀行紙幣交換基金ニ關スルコト

十　府縣郡市町村其他公共組合ノ公債ニ關スルコト

十一　地方財務ノ監督ニ關スルコト

第四條　銀行課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　日本銀行及兌換銀行券ニ關スルコト

二　橫濱正金銀行ニ關スルコト

三　臺灣銀行ニ關スルコト

四　日本勸業銀行及其補給金ニ關スルコト

五　農工銀行及補助金ニ關スルコト

六　勸業債券農工債券其他會社債券ニ關スルコト

七　國立銀行及其紙幣ノ處分ニ關スルコト

八　私立銀行及貯蓄銀行ニ關スルコト

造幣局官制

明治二十六年十月勅令第百三十六號

朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

造幣局官制

第一條　造幣局ハ大阪市ニ置キ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣ノ鑄造、瑞貨幣ノ鑄潰、貨牌ノ製造、地金銀ノ精製分析及諸讀物ノ試驗ヲ掌ル

第二條　造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　一人(勅任)

技師　四人　(明治三十一年十月勅令第二百七十號ヲ以テ「奏任」ヲ「勅任」ニ改メ同年十一月一日ヨリ施行ス)

屬　二十人(判任)

技手　二十一人

第三條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理ス

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第七條　東京市ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ買入及代リ貨幣拂渡ノ事務ヲ分掌セシム

造幣支局長ハ大藏書記官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

稅關官制

明治三十二年四月勅令第六十一號

朕稅關官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

稅關官制

第一條　稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　關稅、噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項

二　保稅倉庫其ノ他ノ倉庫ニ關スル事項

三　船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項

四　關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項

五　酒類造石稅、醬油稅下戻及製造煙草輸出奬勵金ニ關スル事項

六　關稅通路ノ取締ニ關スル事項

第二條　左ノ六港ニ稅關ヲ置ク

武藏國橫濱

攝津國神戶

攝津國大阪

肥前國長崎

渡島國函館

越後國新潟

第三條　稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス

滿三年以上高等官三等ニ在リテ功績顯著ナル者ハ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

第四條　稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

事務官	奏任	八人
監視官	奏任	四人
鑑定官	奏任	十二人
事務官補	奏任	判任　三百十二人
監視	奏任	判任　七十七人
鑑定官補	奏任	判任　百十七人

監吏　事任　判任　六百八十人
技手　奏任　三十六人

第五條　稅關長ハ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第六條　事務官ハ稅關支署長タル者ノ外稅關ニ分屬シ稅關長ノ事務ヲ助ク

第七條　監視官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八條　鑑定官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九條　事務官補ハ稅關支署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　監視ハ稅關監視部長若ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十一條　鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢査鑑定ニ從事ス

第十二條　監吏ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十三條　稅關ニ稅關監視部ヲ置ク

稅關監視部ニ部長一人ヲ置キ監視官又ハ監視ヲ以テ之ヲ充ツ

稅關監視部長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十四條　稅關管轄區域內必要ナル場所ニ稅關支署及稅關監視署ヲ置クコトヲ得

稅關監視署ノ位置ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十五條　稅關支署ニ支署長一人ヲ置ク事務官若ハ事務官補ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　稅關監視署ニ署長一人ヲ置ク監視若ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條　稅關支署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ管轄內ノ稅關事務ヲ掌理ス

第十八條　稅關監視署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

附則

第十九條　本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ施行ス

◉稅關支署ノ名稱位置及管轄區域ノ件

明治三十二年四月勅令第百六十九號

脫稅關支署ノ名稱位置及管轄區域ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

稅關支署ノ名稱位置及管轄區域別表ノ通之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第百三十九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

稅關支署名稱位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
清水	駿河國清水	駿河國　遠江國
四日市	伊勢國四日市	三河國　尾張國　伊勢國　志摩國
濱田	石見國濱田	石見國
境	伯耆國境	出雲國　伯耆國
宮津	丹後國宮津	因幡國　但馬國　丹後國
門司	豐前國門司	周防國　長門國　豐前國　豐後國　日向國
博多	筑前國博多	筑前國
唐津	肥前國唐津	肥前國東松浦郡、西松浦郡、北松浦郡、小城郡
口ノ津	肥前國口ノ津	肥前國南高來郡、北高來郡
三角	肥後國三角	大隅國　薩摩國　肥後國　筑後國
厩原	對馬國厩原	對馬國下縣郡
佐須奈	對馬國佐須奈	對馬國上縣郡　芋村、舟志村　佐護川以北
鹿見	對馬國鹿見	對馬國上縣郡　蔭見村、中原村　佐護川以南
那覇	琉球國那覇	琉球國
小橙	後志國小樽	後志國　石狩國　天鹽國　北見國
釧路	釧路國釧路	根室國　釧路國　十勝國　千島國
室蘭	膽振國室蘭	日高國　膽振國
敦賀	越前國敦賀	若狹國　越前國
七尾	能登國七尾	加賀國　能登國
伏木	越中國伏木	越中國
夷港	佐渡國夷	佐渡國
屏風浦	武藏國屏風浦	武藏國屏風浦稅關監視署
浦賀	相模國浦賀	相模國浦賀稅關監視署
上宮田	相模國上宮田	相模國上宮田稅關監視署
下田	伊豆國下田	伊豆國下田稅關監視署
父島	小笠原島父島	小笠原島父島稅關監視署
羽	志摩國島羽	志摩國島羽稅關監視署
新宮	紀伊國新宮	紀伊國新宮稅關監視署
欵山	紀伊國和欵山	紀伊國和欵山稅關監視署
堺	和泉國堺	和泉國堺稅關監視署
西宮	攝津國西宮	攝津國西宮稅關監視署
洲本	淡路國洲本	淡路國洲本稅關監視署
宇和島	伊豫國宇和島	伊豫國宇和島稅關監視署
今治	伊豫國今治	伊豫國今治稅關監視署
土庄	讃岐國土庄	讃岐國土庄稅關監視署
明石	播磨國明石	播磨國明石稅關監視署
玉島	備中國玉島	備中國玉島稅關監視署
尾道	備後國尾道	備後國尾道稅關監視署
宇品	安藝國宇品	安藝國宇品稅關監視署
西郷	隱岐國西郷	隱岐國西郷稅關監視署
德山	周防國德山	周防國德山稅關監視署
萩	長門國萩	萩稅關監視署
平戸	肥前國平戸	平戸稅關監視署
島原	肥前國島原	島原稅關監視署
福江	肥前國福江	福江稅關監視署
大分	豐後國大分	大分稅關監視署
大島	大隅國大島	大島稅關監視署
鹿兒島	薩摩國鹿兒島	鹿兒島稅關監視署
勝本	壹岐國勝本	勝本稅關監視署
入亘山	琉球國入亘山	入亘山稅關監視署
龍代	羽後國龍代	龍代稅關監視署

◉稅關監視署設置ノ件

明治三十二年九月大藏省令第十四號

左ノ各地ニ稅關監視署ヲ設置ス但新設稅關監視署ハ漸次之ヲ開廳ス

本令ハ明治三十二年四月二十五日ヨリ施行ス

陸前國石卷	石卷稅關監視署
下總國銚子	銚子稅關監視署
安房國館山	館山稅關監視署
武藏國東京	築地稅關監視署

陸奥國　青森　青森税關監視署
根室國　根室　根室税關監視署
千島國　紗那　紗那税關監視署
北見國　稚内　稚内税關監視署
北見國　鶯泊　鶯泊税關監視署
後志國　壽都　壽都税關監視署

◎税務管理局官制

明治二十九年十月
勅令第三百三十七號

改税務管理局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

税務管理局官制

第一條　税務管理局ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ內國税ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　税務管理局ノ名稱位置及管轄區域ハ別表ニ依ル

第三條　税務管理局管轄內須要ノ地ニ税務署ヲ置ク其ノ位置及管轄區域ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　税務管理局ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十一年十月勅令第二百七十二號ヲ以テ本條ヲ改メ尙同三十二年二月勅令第三十四號ヲ以テ「税務屬」ノ次ニ「技手」ヲ加フ）

局長
司税官
税務屬
技手

第五條　各局ニ局長一人ヲ置キ司税官ヲ以テ之ニ充ツ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ税務ニ關スル法律命令ヲ執行シ其ノ管轄內ノ事務ヲ管理ス（明治三十一年八月勅令第百八十五號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第六條　局長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ判任官ノ任免ヲ大藏大臣ニ具狀ス（明治三十二年三月勅令第七十四號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第七條　（明治三十一年八月勅令第百八十五號ヲ以テ本條削除）

第八條　司税官ハ奏任トシ各局各署ヲ通シテ百人ヲ以テ定員トス第十條ニ依リ署長タル者ノ外各局ニ分屬シ局長ノ指揮ヲ承ケ税務ノ監督ニ從事ス（同上法令ニテ本條改正）

第九條　税務屬及技手ハ判任トシ税務屬ハ五千八百十九人技手ハ三百七十五人ヲ以テ定員トス

税務屬及技手ハ税務管理局若ハ税務署ニ分屬シ税務屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ酒類ノ鑑定其ノ他技術ニ關スル事務ニ從事ス（明治三十二年二月勅令第三十四號ヲ以テ本條ヲ改メ尙同年三月勅令第七十四號ヲ以テ更ニ定員ヲ增ス）

第十條　各税務署ニ署長一人ヲ置キ司税官若クハ税務屬ヲ以テ之ニ充ツ（明治三十一年八月勅令第百八十五號ヲ以テ本條ヲ改ム）

税務署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

附　則

第十一條　本令ハ明治二十九年十一月一日ヨリ施行ス但シ北海道ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第百二十二號各省官制通則及同年勅令第百六十二號地方官官制中收税屬收税部收税署ニ係ル條項ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

税務管理局名稱位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域	
東京税務管理局	武藏國　東京	東京府	埼玉縣　千葉縣
		群馬縣	
京都税務管理局	山城國　京都	京都府	滋賀縣
大阪税務管理局	攝津國　大阪	大阪府	奈良縣　和歌山縣
横濱税務管理局	武藏國　横濱	神奈川縣	靜岡縣
神戸税務管理局	攝津國　神戸	兵庫縣	
長崎税務管理局	肥前國　長崎	長崎縣	佐賀縣

新潟税務管理局	越後國　新潟	新潟縣
宇都宮税務管理局	下野國　宇都宮	栃木縣　茨城縣
名古屋税務管理局	尾張國　名古屋	愛知縣　三重縣　岐阜縣
松本税務管理局	信濃國　松本	長野縣　山梨縣
仙臺税務管理局	陸前國　仙臺	宮城縣　巖手縣　山形縣
郡山税務管理局	岩代國　郡山	福島縣
青森税務管理局	陸奥國　青森	青森縣
秋田税務管理局	羽後國　秋田	秋田縣
金澤税務管理局	加賀國　金澤	石川縣　福井縣　富山縣
松江税務管理局	出雲國　松江	島根縣　鳥取縣
廣島税務管理局	安藝國　廣島	廣島縣　岡山縣　山口縣
丸龜税務管理局	讃岐國　丸龜	香川縣　德島縣　高知縣
松山税務管理局	伊豫國　松山	愛媛縣
熊本税務管理局	肥後國　熊本	熊本縣　福岡縣　大分縣
鹿兒島税務管理局	薩摩國　鹿兒島	鹿兒島縣　宮崎縣
那覇税務管理局	琉球國　那覇	沖繩縣
函館税務管理局	渡島國　函館	渡島國一圓 後志國ノ內　瞭茶郡　磯谷郡　歌棄郡　瀧澗郡　久遠郡 太櫓郡　奥尻郡　島牧郡 膽振國ノ內　山越郡
札幌税務管理局	石狩國　札幌	石狩國　日高國　天鹽國　一圓 後志國ノ內　小樽郡　高島郡　余市郡 胆振國ノ內　有珠郡　虻田郡　室蘭郡 北見國ノ內　枝幸郡　利尻郡　宗谷郡
根室税務管理局	根室國　根室	根室國　一圓 千島國　一圓 北見國ノ內　紋別郡　常呂郡　網走郡 斜里郡

◎税務管理局税務署及其管轄區域ニ關スル件

明治二十九年十月
勅令第三百四十六號

税務管理局税務署及管轄區域別表ノ通定ム

附　則

本令ハ明治二十九年勅令第三百三十七號實施ノ日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第百六十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表番之）

◎税務管理局見習員ニ關スル件

明治三十二年三月
勅令第五十五號

改税務管理局見習員ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　酒類ノ鑑定事務ヲ練習セシムル爲税務管理局ニ見習員ヲ置クコトヲ得

見習員ノ數ハ各税務管理局ヲ通シテ百五十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　見習員ハ高等小學校ヲ卒業シ又ハ尋常中學校二年以上ノ課程ヲ修メタル者及之ト同等以上ノ學科ヲ修メタル者ヨリ之ヲ採用ス

第三條　二箇年以上見習員トシテ勤續シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ稅務管理局ノ技手ニ任用スルコトヲ得

第四條　見習員ニハ月額十五圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

第五條　本令施行ノ後二箇年間ハ本令第三條ノ年限ニ拘ラス見習員ヨリ技手ニ任用スルコトヲ得

專賣局官制

明治三十二年勅令第百七十號

廢專賣局官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

專賣局官制

第一條　專賣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ葉煙草ノ檢查、收納、輸入、保存、製造、營業免許及專賣取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　專賣局ハ之ヲ東京ニ置ク

各地方ニ專賣支局ヲ置キ專賣局ノ事務ヲ分掌セシム

第三條　專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	勅任
事務官	專任三十五人	奏任
鑑定官	專任三人	奏任
事務官補	專任二十四人	判任
屬	專任千八十八人	判任
鑑定官補	專任三百五十人	判任
監視	專任二百二十八人	判任
技手	專任三人	

第四條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ管理ス

第五條　事務官及事務官補ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第六條　鑑定官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草ノ鑑定保存ニ從事ス

監視ハ上官ノ指揮ヲ承ケ葉煙草專賣ノ取締ニ從事ス

第九條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ從事ス

第十條　各專賣支局ニ支局長一人ヲ置キ專賣局事務官又ハ事務官補ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條　專賣支局長ハ專賣局長ノ指揮ヲ承ケ支局一切ノ事務ヲ掌理ス

第十二條　大藏大臣ハ必要ト認ムル地ニ專賣支局出張所ヲ設クルコトヲ得

第十三條　專賣支局ノ名稱位置ハ別表ニ依ル其ノ管轄區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十四條　本令ハ明治三十二年五月一日ヨリ施行ス

附　則

明治三十年勅令第百二十一號葉煙草專賣所官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

專賣支局名稱位置

名稱	位置
吉井專賣支局	群馬縣多野郡吉井町
岩井專賣支局	茨城縣猿島郡岩井村
水戸專賣支局	茨城縣水戸市大字上市
大宮專賣支局	茨城縣那珂郡大宮町
太田專賣支局	茨城縣久慈郡太田町
茂木專賣支局	栃木縣芳賀郡茂木町
烏山專賣支局	栃木縣那須郡烏山町
馬頭專賣支局	栃木縣那須郡馬頭町
大田原專賣支局	栃木縣那須郡大田原町
須賀川專賣支局	福島縣岩瀨郡須賀川町
三春專賣支局	福島縣田村郡三春町
若松專賣支局	福島縣若松市
千住專賣支局	岩手縣東磐井郡千住村
大迫專賣支局	岩手縣稗貫郡大迫町
增田專賣支局	秋田縣平鹿郡增田町
東根專賣支局	山形縣北村山郡東根町
關原專賣支局	新潟縣三島郡關原村
小出專賣支局	新潟縣中頸城郡小出雲村
松本專賣支局	長野縣東筑摩郡松本町
飯野專賣支局	山梨縣中巨摩郡飯野村
橫濱專賣支局	神奈川縣橫濱市花咲町九町目十町目
秦野專賣支局	神奈川縣中郡秦野町
富士專賣支局	靜岡縣富士郡大宮町
見付專賣支局	靜岡縣磐田郡見付町
名古屋專賣支局	愛知縣名古屋市古渡町
山田專賣支局	三重縣度會郡宇治山田町
和歌山專賣支局	和歌山縣和歌山市大字湊通町北一町目
高田專賣支局	奈良縣北葛城郡高田町
八日市專賣支局	滋賀縣神崎郡八日市町
勝山專賣支局	福井縣大野郡勝山町
鳥來專賣支局	石川縣石川郡鳥來町
大阪專賣支局	大阪府大阪市南區難波
神戶專賣支局	兵庫縣神戶市兵庫南邊瀨川町
久世專賣支局	岡山縣大庭郡久世町
高梁專賣支局	岡山縣上房郡高梁町
府中專賣支局	廣島縣蘆品郡府中町
三原專賣支局	廣島縣御調郡三原町
米子專賣支局	鳥取縣西伯郡米子町
貞光專賣支局	德島縣美馬郡貞光村
池田專賣支局	德島縣三好郡池田村
琴平專賣支局	香川縣仲多度郡榎井村
三島專賣支局	愛媛縣宇摩郡三島村
松山專賣支局	愛媛縣松山市大字出淵町一町目
後免專賣支局	高知縣長岡郡長岡村
志波專賣支局	福岡縣朝倉郡志波村
長崎專賣支局	長崎縣長崎市大黑町
熊本專賣支局	熊本縣飽託郡黑髮村

高森專賣支局	熊本縣阿蘇郡高森町
臼杵專賣支局	大分縣北海部郡臼杵町
竹田專賣支局	大分縣直入郡豐岡村
高千穗專賣支局	宮崎縣西臼杵郡高千穗村
國分專賣支局	鹿兒島縣始良郡國分村
出水專賣支局	鹿兒島縣出水郡上出水村
鹿兒島專賣支局	鹿兒島縣鹿兒島市長田町
垂水專賣支局	鹿兒島縣肝屬郡垂水村
指宿專賣支局	鹿兒島縣揖宿郡指宿村

◎葉煙草專賣局見習員ニ關スル件

明治三十一年六月勅令第百七十八號

朕葉煙草專賣局見習員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　葉煙草ノ鑑定保存ヲ練習セシムル爲メ專賣局ニ見習員ヲ置クコトヲ得（明治三十二年四月勅令第百七十七號ヲ以テ本條ヲ改ム）

見習員ノ數ハ百人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　見習員ハ高等小學校ヲ卒業シ若ハ尋常中學校二年以上ノ課程ヲ修メタル者又ハ之ト同等以上ノ學科ヲ修メタル者若ハ相當ノ教育ヲ受ケ葉煙草ノ取扱ニ經驗アル者ヲ以テ之ニ充ツ（同上）

第三條　二箇年以上見習員トシテ葉煙草ノ鑑定保存ニ從事シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ專賣局鑑定官補ニ任用スルコトヲ得（同上）

第四條　見習員ニハ毎月十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

第五條　葉煙草專賣法施行ノ後二箇年間ハ本官ニ缺員アルトキニ限リ本令第三條ノ年限ニ拘ハラス見習員ヨリ任用スルコトヲ得

◎專賣局出張所名稱位置

明治三十二年四月大藏省令第十五號

專賣局出張所名稱位置左ノ通相定ム

專賣局及專賣支局	專賣局出張所	同上位置
專賣局	北條出張所	千葉縣安房郡北條町
	秋元出張所	千葉縣君津郡秋元村
	一宮出張所	千葉縣長生郡一宮町
	野田出張所	千葉縣東葛飾郡野田町
	大宮出張所	埼玉縣秩父郡大宮町
	小鹿野出張所	埼玉縣秩父郡小鹿野町
吉井專賣支局	沼田出張所	群馬縣利根郡沼田町
水戸專賣支局	石塚出張所	茨城縣東茨城郡石塚村
	長倉出張所	茨城縣那珂郡長倉村
	助川出張所	茨城縣多賀郡高鈴村
烏山專賣支局	北高根澤出張所	栃木縣鹽谷郡北高根澤村
馬頭專賣支局	大子出張所	茨城縣久慈郡大子町
太田原專賣支局	東那須野出張所	栃木縣那須郡東那須野村
須賀川專賣支局	小野新町出張所	福島縣田村郡小野新町
	石川出張所	福島縣石川郡石川町
若松專賣支局	豐成出張所	福島縣南會津郡楢原村
	阪下出張所	福島縣河沼郡阪下町
千厩專賣支局	狼河原出張所	宮城縣登米郡米川村

大迫專賣支局	人首出張所	厳手縣江刺郡米里村
	三戸出張所	青森縣三戸郡三戸町
	藏館出張所	青森縣南津輕郡藏館村
	扇田出張所	秋田縣北秋田郡扇田町
増田專賣支局	矢島出張所	秋田縣由利郡矢島町
東根專賣支局	鶴岡出張所	山形縣西田川郡鶴岡町
	米澤出張所	山形縣米澤市南堀端町
關原專賣支局	新潟出張所	新潟縣新潟市大字營所通
	赤塚出張所	新潟縣西蒲原郡赤塚村
	十日町出張所	新潟縣中魚沼郡十日町
小出雲專賣支局	安塚出張所	新潟縣東頸城郡安塚村
	小布施出張所	長野縣上高井郡小布施村
松本專賣支局	生阪出張所	長野縣東筑摩郡生阪村
	坂北出張所	長野縣東筑摩郡坂北村
	池田出張所	長野縣北安曇郡池田町村
	飯田出張所	長野縣下伊那郡上飯田村
	清内路出張所	長野縣下伊那郡清内路村
横濱專賣支局	長井出張所	神奈川縣三浦郡長井村
秦野專賣支局	松田出張所	神奈川縣足柄上郡松田村
見付專賣支局	和地出張所	靜岡縣濱名郡和地村
名古屋專賣支局	蒲郡出張所	愛知縣寶飯郡蒲郡町
	岩村出張所	岐阜縣惠那郡岩村町
	御嵩出張所	岐阜縣可兒郡御嵩町
	小牧出張所	愛知縣東春日井郡小牧町
	高須出張所	岐阜縣下石津郡高須町
	阿下喜出張所	三重縣員辨郡阿下喜村
山田專賣支局	上野出張所	三重縣阿山郡上野町
	八知出張所	三重縣一志郡八知村
	四日市出張所	三重縣四日市市北納屋町
和歌山專賣支局	妙寺出張所	和歌山縣伊都郡妙寺村
	松原出張所	和歌山縣日高郡松原村
	田邊出張所	和歌山縣西牟婁郡田邊町
	新宮出張所	和歌山縣東牟婁郡新宮町
高田專賣支局	松山出張所	奈良縣宇陀郡松山町
	大淀出張所	奈良縣吉野郡大淀村
八日市專賣支局	西津出張所	福井縣遠敷郡雲濱村
鶴來專賣支局	山中出張所	石川縣江沼郡山中村
	城端出張所	富山縣東蠟波郡城端町
	小泉出張所	富山縣上新川郡堀川村
	大久保出張所	富山縣上新川郡大久保村
	上市出張所	富山縣中新川郡上市町
	愛本出張所	富山縣下新川郡愛本村
大阪專賣支局	福田出張所	大阪府泉北郡東陶器村
	龜岡出張所	京都府南桑田郡龜岡町
	周山出張所	京都府北桑田郡周山村
	世木出張所	京都府船井郡世木村
	上和知出張所	京都府船井郡上和知村
	曾我井出張所	京都府天田郡曾我井村
神戸專賣支局	姫路出張所	兵庫縣飾磨郡國衙村
	三日月出張所	兵庫縣佐用郡三日月村
	葛野出張所	兵庫縣氷上郡葛野村
	市村出張所	兵庫縣三原郡市村
	八鹿出張所	兵庫縣養父郡八鹿町
久世專賣支局	弓削出張所	岡山縣久米南條郡弓削村
	津山出張所	岡山縣西北條郡津山町
	中福田出張所	岡山縣大庭郡縣村
高梁專賣支局	草間出張所	岡山縣阿賀郡草間村
	中津井出張所	岡山縣阿賀郡中津井村
	布賀出張所	岡山縣川上郡富家村
	地頭出張所	岡山縣川上郡手莊村
	加茂出張所	岡山縣津高郡加茂村
	岡山出張所	岡山縣御野郡伊島村
府中專賣支局	井原出張所	岡山縣後月郡井原町
	油木出張所	廣島縣神石郡油木村
	福永出張所	廣島縣神石郡福永村
	稻草出張所	廣島縣甲奴郡稻草村

三原專賣支局	竹原出張所	廣島縣賀茂郡竹原町
	吉田出張所	廣島縣高田郡吉田町
	廣島出張所	廣島縣廣島市段原町
	大田出張所	山口縣美禰郡大田村
米子專賣支局	郡家出張所	鳥取縣八頭郡賀露村
	江尾出張所	鳥取縣日野郡江尾村
	三刀屋出張所	島根縣飯石郡三刀屋村
	山口出張所	島根縣簸川郡山口村
呉光專賣支局	一宇出張所	德島縣美馬郡一宇村
	木屋平出張所	德島縣那賀郡木屋平村
池田專賣支局	三野出張所	德島縣三好郡三野村
	東祖谷山出張所	德島縣美馬郡東祖谷山村
	西祖谷山出張所	德島縣三好郡三名村
	山城谷出張所	德島縣三好郡山城谷村
琴平專賣支局	安原出張所	香川縣香川郡安原村
三島專賣支局	新立出張所	愛媛縣宇摩郡新立村
松山專賣支局	來見出張所	愛媛縣周桑郡中川村
	唐田出張所	愛媛縣伊豫郡廣田村
	大洲出張所	愛媛縣喜多郡大洲町
後免專賣支局	西豐永出張所	高知縣長岡郡西豐永村
	東豐永出張所	高知縣長岡郡東豐永村
志波專賣支局	豆田出張所	大分縣日田郡豆田町
長崎專賣支局	御廚出張所	長崎縣北松浦郡御廚村
	南串山出張所	長崎縣南高來郡南串山村
	島原出張所	長崎縣南高來郡島原村
	南鹿島出張所	佐賀縣藤津郡南鹿島村
熊本專賣支局	大津出張所	熊本縣菊池郡大津町
	人吉出張所	熊本縣球磨郡人吉町
高森專賣支局	南小國出張所	熊本縣阿蘇郡南小國村
	坂梨出張所	熊本縣阿蘇郡坂梨村
臼杵專賣支局	犬飼出張所	大分縣大野郡犬飼村
	三重出張所	大分縣大野郡三重村
	四日市出張所	大分縣宇佐郡四日市町
	岬出張所	大分縣西國東郡岬村
竹田專賣支局	今市出張所	大分縣大野郡今市村
高千穗專賣支局	宮崎出張所	宮崎縣宮崎郡宮崎町
	北出張所	宮崎縣兒湯郡上穗北村
國分專賣支局	大口出張所	鹿兒島縣伊佐郡大口村
	五拾町出張所	鹿兒島縣囎唹郡岩川村
	都ノ城出張所	宮崎縣北諸縣郡都ノ城町
出水專賣支局	水俣出張所	熊本縣葦北郡水俣村
垂水專賣支局	志布志出張所	鹿兒島縣囎唹郡東志布志村
	小根占出張所	鹿兒島縣肝屬郡小根占村

專賣支局管轄區域

明治三十二年四月大藏省令第十六號

專賣支局管轄區域左ノ通相定ム

（專賣支局管轄區域表略之）

臺灣鹽務局官制

明治三十二年三月勅令第五十一號

臺灣鹽務局官制

明治三十一年七月勅令第四十四號

廢臺灣鹽務局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　臺灣鹽務局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ食鹽ノ取納竝檢查其ノ他食鹽專賣ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第二條　臺灣鹽務局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
事務官
屬

第三條　局長ハ各局一人事務官ヲ以テ之ニ充ツ事務官ヲ置カサル局ニ於テハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

事務官ハ奏任トス各局ヲ通シテ專任二人ヲ以テ定員トス

第四條　屬ハ判任トシ各局ヲ通シテ專任八十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第五條　臺灣總督ハ前二條定員ノ外須要ニ應シ俸給定額內ニ於テ臺灣鹽務局ニ技師及技手ヲ置クコトヲ得

第六條　技師ハ奏任トス局長ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　技手ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事ニ從フ

第八條　臺灣鹽務局ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

鹽務局ノ名稱位置及其管轄區域

明治三十二年四月臺灣總督府令第二十五號

明治三十一年（四月）勅令第五十一號臺灣鹽務局官制第八條ニ依リ鹽務局ノ名稱位置及其管轄區域ヲ左ノ通相定ム

（鹽務局ノ稱名位置及其管轄區域ハ記載ヲ省ス）

臨時沖繩縣土地整理事務局官制

明治三十一年七月勅令第四十四號

廢臨時沖繩縣土地整理事務局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　臨時沖繩縣土地整理事務局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ沖繩縣土地整理ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條　臨時沖繩縣土地整理事務局ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十二年二月勅令第二十四號ヲ以テ本條改正）

長官	勅任	一人
事務官	奏任	專任一人
技師	奏任	專任一人
書記	判任	專任三十六人
技手	判任	五十人

第三條　長官ハ沖繩縣知事ヲシテ之ヲ兼ネシム

第四條　長官ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ內務省ノ主務ニ就テハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第五條　長官ハ判任官定員ニ缺員アルトキハ判任官俸給總算定額內ニ於テ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得

第六條　長官ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ進退ハ大藏大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第七條　長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其ノ奏任官ニ係ルモノハ大藏大臣ニ具狀シ判任官以下ノ之ヲ專行ス

第八條　（同上法令ニテ本條ヲ削ル）

第九條　那覇稅務管理局長沖繩縣參事官及那覇稅務管理局ニ在勤スル司稅官ハ事務官ヲ兼任ス（同上法令ニテ本條改正）

第十條　事務官ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ニ從事ス長官事故アルトキハ首席ノ事務官之ヲ代理ス（同上）

第十一條　書記ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條　技手ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ土地測量ニ關スル事務ニ從事ス

㊞沖繩縣土地整理事務ニ從事セシムル爲ニ助手ヲ置クヲ得ル件

明治三十一年七月
勅令第百四十六號

朕沖繩縣土地整理事務ニ要スル臨算定額内ニ於テ助手ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣土地整理事務ニ從事セシムル爲其ノ事務ニ要スル臨算額内ニ於テ助手ヲ置クコトヲ得

助手ハ判任官ノ待遇ヲ受ク

㊞臨時秩祿處分調査委員會規則

明治三十一年四月
勅令第六十九號

朕臨時秩祿處分調査委員會規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臨時秩祿處分調査委員會規則

第一條　大藏省ニ臨時秩祿處分調査委員會ヲ設ク大藏大臣ノ指揮監督ニ屬シ明治三十年法律第十號家祿賞典祿處分法ノ執行ニ關スル事項ヲ調査セシム

第二條　臨時秩祿處分調査委員會ハ委員長一人委員九人ヲ以テ組織ス

第三條　委員長ハ大藏次官ヲ以テ委員ハ内閣高等官二人内務省高等官一人大藏省高等官四人司法省高等官二人ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　委員長ハ調査ニ關スル議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ大藏大臣ニ具申ス

委員長事故アルトキハ委員中首班ノ高等官ヲシテ事務ヲ代理セシム

第五條　委員長ハ調査事項ニツキ必要アルトキハ各官廳ニ照會スルコトヲ得

第六條　臨時秩祿處分調査委員會ニ幹事一人ヲ置ク委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

幹事ハ委員中ヨリ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條　臨時秩祿處分調査委員會ニ書記三人ヲ置ク委員長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ハ大藏屬ヲ以テ之ニ充ツ

㊞貨幣制度調査會規則廢止ノ件

明治二十八年十二月
勅令第百六十二號

朕貨幣制度調査會規則廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十六年勅令第百十三號貨幣制度調査會規則ヲ廢止ス

第十一章　司法省所管

㊞司法省官制

明治二十六年十月
勅令第百四十三號

朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

司法省官制

第一條　司法大臣ハ各裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ恩赦及復權ニ關スル事項其他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一　裁判所ノ設立廢止及管轄區域其ノ變更ニ關スル事項

二　裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事項

第三條　司法省專任參事官ハ二人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス（明治三十一年十月勅令第二百七十八號ヲ以テ本條ヲ改メ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第四條　司法省ニ民刑局ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム（明治三十一年七月勅令第百四十七號ヲ以テ「及」字ヲ削リ「復權」ノ下ニ「及戶籍」ノ三字ヲ加ヘ同年七月十六日ヨリ施行ス）

一　民事、刑事及其ノ他ノ法律命令ニ關スル事項

二　裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項

三　恩赦復權及戶籍ニ關スル事項

第五條　（明治三十一年十月勅令第百四十三號ヲ以テ本條ヲ削リ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第六條　司法省ニ左ノ七十八人ヲ以テ定員トス（同上法令ニテ本條改正施行期同上）

第七條　司法省ニ專任技師一人專任技手四人ヲ置ク（明治三十一年三月勅令第七十四號ヲ以テ本條改正）

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

㊞司法省事務分掌規定

明治二十六年十一月八日官報公示

司法省文書課規程

第一條　大臣官房ニ秘書課、職員課、庶務課、會計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密文書ニ關スルコト

二　機密事務ニ關スルコト

三　大臣次官ノ官印及省印ノ管守ニ關スルコト

四　屬外國人ノ身分ニ關スルコト

第三條　職員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官吏ノ進退身分ニ關スルコト

二　裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スルコト

三　判事檢事登用試驗、文官普通試驗、裁判所書記登用試驗、辯護士公證人及執達吏ノ試驗ニ關スルコト

四　判事檢事ノ出張ニ關スルコト

五　裁判所ノ設立廢止及管轄區域竝其變更ニ關スルコト

第四條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スルコト

二　文書ノ淨寫ニ關スルコト

三　官報揭載ニ關スルコト

四　公文書類ノ編纂保存ニ關スルコト

五　各局課ノ主掌ニ屬セサルコト

六　備人採用解雇ニ關スルコト

第五條　會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スルコト

二　本省所管ノ管有財產及物品ニ關スルコト

三　保管金雜部器ノ收支及領置物品ノ出納ニ關スルコト

四　雇人使役監督ニ關スルコト

民刑局

第六條　民刑局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　民法、民事訴訟法及民事ノ裁判所構成ニ關スルコト

二　刑法、刑事訴訟法及刑事裁判所構成ニ關スルコト

三　商法、登記法、辯護士公證人執達吏ニ關スル規則其他諸般ノ法令ニ關スルコト

四　內外交涉事件非常上告再審ノ訴其他裁判及檢案ニ附キテノ實務取扱ニ關スルコト

五　死刑執行、恩赦、復權、假出獄、免除閉、監視假免ニ關スルコト

六　統計報告ノ調製ニ關スルコト

七　犯罪人名簿調製ニ關スルコト

八　雜務ニ關スルコト

㊞裁判所書記司法屬ニ兼任ノ件

明治二十九年十二月
勅令第四百號

朕大審院東京控訴院及東京地方裁判所竝其ノ管內區裁判所ノ書記司法屬

ニ兼任ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
大審院東京控訴院及東京地方裁判所竝其ノ管内區裁判所ノ書記ヨリ司法
屬ニ兼任スル場合ニ於テ其ノ兼任者ハ同省屬定員外トス

◎裁判所構成法

明治二十三年二月
法律第六號

朕裁判所構成法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキ事ヲ命ス

第一編　裁判所及檢事局

第一章　總則

第一條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス
第一　區裁判所
第二　地方裁判所
第三　控訴院
第四　大審院
第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス
第三條　地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
第四條　裁判所ノ設立廢止及管轄區域竝ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第五條　各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク
第六條　各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルルヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ
檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ
檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ
若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件ノ猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得
第七條　檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク
第八條　各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ
裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限リ別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但シ合議裁判所ノ檢事局ニ限ル
司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲特別官吏ヲ裁判所ニ置クコトヲ得
第九條　區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス
前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職權ヲ行フ
第十條　法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス
第一　權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ
第二　裁判所轄管區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ
第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ
第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章　區裁判所

第十一條　區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ
判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス
此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム
區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ効力ヲ失フコトナシ
判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政事務ヲ委任ス
第十二條　事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十三條　區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス、
一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同シク毎年前以テ之ヲ定ム
第十四條　區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル
第一　百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求
第二　價額ニ拘ラス左ノ訴訟
(イ)　住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ取受明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟
(ロ)　不動産ノ經界ノミニ關ル訴訟
(ハ)　占有ノミニ關ル訴訟
(ニ)　雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟
(ホ)　左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟
(一)　賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料
(二)　旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物
第十五條　區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス
第一　未成年者瘋癲者白癡者失踪者其ノ他法律若ハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事
第二　不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事
第三　商業登記及特許局ニ登錄シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事
第十六條　區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス
第一　違警罪
第二　本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪
第三　刑法第二編第一章ヲ除キ其ノ他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若ハ其ノ支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ
前項ノ手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ言渡ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲適當ノ手當ヲ爲ス
第十七條　前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル
第十八條　各區裁判所ノ檢事局ニ檢事局ニ檢事ヲ置ク
區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章　地方裁判所

第十九條　地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第二十條　各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條　司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條　各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年前以テ之ヲ定ム

前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

第二十三條　或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條　第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ休暇中ヲ除キ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二　第二審トシテ

（イ）區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條　地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限竝ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二　第二審トシテ

（イ）區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條　地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

第二十九條　地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條　地方裁判所ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條　司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用ヰルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條　地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條　各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章　控訴院

第三十四條　控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條　各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第三十六條　事務ノ分配及結了竝ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一　前項ニ掲ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二　控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用ヰルコトヲ得ス

第三十七條　控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三　地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條　皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條　控訴院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條　控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條　第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ五人又ハ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

第四十二條　各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五章　大審院

第四十三條　大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第四十四條　大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四十五條　大審院ノ事務ノ分配竝ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條　大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

第四十七條　大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキ

ハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條　大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ綱束ス

第四十九條　大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條　大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

(イ)第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スル上告

(ロ)控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ揭ケタル重罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判

第五十一條　前條第二ニ揭ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲シ、爲控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十二條　大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條　大審院ニ於テ訟訴法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立タル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條　第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ二分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長トス大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條　大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付大審院ノ外事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條　大審院ノ檢事局ニ檢事總長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編　裁判所及檢事局ノ官吏

第一章　判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ第六十五條ニ揭ケタル場合ヲ除キ二回ノ競爭試驗ヲ經ルコトヲ要ス

第五十七條　判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ必要ナル準備及資格ヲ

第五十八條　志願者前條ノ競爭試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格竝ニ此ノ試驗ニ關ル細則ハ判事檢事登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回試驗ニ及第シタル者ハ第二回試驗ヲ受クルノ前試補トシテ裁判所及檢事局ニ於テ三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ修習ニ關ル細則モ亦試驗規則中ニ之ヲ定ム

第五十九條　司法大臣ハ試補ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得此ノ罷免ニ關ル細則モ亦試驗規則中ニ之ヲ定ム

第六十條　一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條　試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一　訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二　證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三　登記ヲ爲ス事

第六十二條　第二回ノ競爭試驗ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ要ス

ラルルコトヲ得

第六十三條　新任ノ判事又ハ檢事ハ國位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ國位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法官又ハ區裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ヰ

第六十四條　區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用ヰラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ス且通常代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ニ一時國位アル間ハ此ノ法律ノ範圍內ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充ツスコトヲ得

第六十五條　三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ揭ケタル試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得

帝國大學法科卒業生ノ第一回試驗ヲ經スシテ試補ヲ命セラルルコトヲ得

第六十六條　左ニ揭ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二　定役ニ服スヘキ經罪ヲ犯シタル者

第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第二章　判事

第六十七條　判事ハ勅任又ハ奏任トシ其ノ任官ヲ終身トス

第六十八條　大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條　五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

第七十條　十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

第七十一條　第六十九條及第七十條ニ揭ケタル年限ヲ算スニハ補ノ時マテ各其ノ條ニ判記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十二條　判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一　公然政事ニ關係スル事

第二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四　商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條　第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラルルコトナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラルルハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ

第七十四條　判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第七十五條　法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ閑位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

第七十六條　判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十七條　判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク

第七十八條　判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴追ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ラス引續キ之ヲ給ス

第三章　檢事

第七十九條　檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ノ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

第七十六條及第七十七條　檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十條　檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

第八十一條　檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條　檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條　檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域內ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域內ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條　司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域內ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及內務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所檢事ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章　裁判所書記

第八十五條　裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各列事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第八十六條　地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク

書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス

監督書記及書記長ハ各其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

第八十七條　書記其ノ職務ノ範圍內ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

第八十八條　書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス

書記長ハ奏任トス

書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十九條　書記ニ任セラルルニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試驗ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格竝ニ此ノ試驗及試驗ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條　書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セラルルコトヲ得

第九十一條　書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記錄ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ其ノ調製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得

前四項ニ揭ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十二條　合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十三條　豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五章　執達吏

第九十四條　各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十五條　執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄區域內ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラルルニ必要ナル資格竝ニ試驗ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條　執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十七條　執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域內ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

第九十八條　裁判所ロリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲシテ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前二項ニ揭ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條　執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス

執達吏ノ職務細則竝ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百條　執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章　廷丁

第百一條　廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

第百二條　廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰサルコトヲ得ルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用ヰルコトヲ得

第三編　司法事務ノ取扱

第一章　開廷

第百三條　開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域內ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第百四條　訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第百五條　裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第百六條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第百七條　裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記錄ニ記入ス

第百八條　開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百九條　裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ揭ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ拘引シ開廷ノトキマテ之ヲ拘留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス開廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以內ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スコトヲ得

第百十條　前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一　裁判所ハ開廷ヲ待タスシテ本條ノ違犯者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

第二　違犯者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人寃枉ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第百十一條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十二條　裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百

十一條ヲ以テ典ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以內ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第百十三條　第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ典ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第百十四條　判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章　裁判所ノ用語

第百十五條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヰルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

第百十六條　通事ノ任命及使用竝ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百十七條　通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラルルコトヲ得

第百十八條　外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章　裁判ノ評議及言渡

第百十九條　合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第百二十條　九日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十一條　判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末竝ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十二條　評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第百二十三條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ其ノ說各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三說以上ニ分レ各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百二十四條　判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程

第百二十五條　裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及檢事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域內ノ裁判所及檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及檢事局ノ開廷時間及開廷ノ時日ニ付訓令ヲ發ス大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章　司法年度及休暇

第百二十六條　司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第百二十七條　裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

第百二十八條　休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ着手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ着手セス

第一　爲替手形若ハ約束手形其ノ他ノ流通證書ニ關ル請求

第二　船舶又ハ運送貸又ハ積荷ニ對スル請求

第三　財產差押事件

第四　住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ貸借人ノ家具若ハ所持品ヲ貸借人ノ差押ヘタルコトニ關シ貸借人ト貸借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五　養料ノ請求

第六　保證ヲ出サシムルノ請求

第七　取掛リタル建築ノ繼續ニ關ル事件

第八　前數項ニ揭ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ休暇部若ハ休暇部長ニ於テ直ニ着手スヘキ緊急ノモノト認メタル請求若ハ事件

第百二十九條　休暇中ニ拘ラス刑事訴訟非訟事件判決執行破產事件竝ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ヘキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

第百三十條　合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若ハ二以上ノ部ヲ設ク休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス

二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第六章　法律上ノ共助

第百三十一條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百三十二條　檢事局モ亦各自ノ管轄區域內ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第百三十三條　裁判所書記課モ亦其ノ權內ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權內ノ事件ニ付テ法律上ノ補助ヲ爲ス

第百三十四條　本編ニ揭ケタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百三十五條　司法行政ノ職務及監督權

第百三十四條　合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第百三十五條　司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第一　大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第二　控訴院長ハ控訴院及其ノ管轄區域內ノ下級裁判所ヲ監督ス

第三　地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域內ノ區裁判所ヲ監督ス

第四　區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第五　檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第六　檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域內ノ檢事局ヲ監督ス

第七　檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域內ノ檢事局ヲ監督ス

第八　官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ竝ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二　官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事

但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第百三十七條　第十八條及第八十四條ニ揭ケタル官吏ハ第百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第百三十八條　裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第百三十六條ヲ適用スルコトヲ能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第百三十九條　前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ滿足セシムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第百四十條　司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滯若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第百四十一條　裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第百四十二條　司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第百四十三條　此ノ編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附　則

第百四十四條　此ノ法律ノ施行ニ關ル規程竝ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ抵觸スト雖モ當分ノ內仍ホ效力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

◉裁判所構成法施行條例

明治二十三年三月法律第二十二號

裁判所構成法施行條例

第一條　從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條　始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ檢事局トス控訴院大審院ノ檢事局モ亦同シ

第三條　區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモノトス

第四條　裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條　裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖モ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事刑事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條　裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條　裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル郡長區長戶長又ハ市長町長村長ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條　裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ

第九條　明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十條　明治十八年第十二號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法變更ノ件處分法ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十一條　明治二十一年勅令第六十四號ハ仍效力ヲ有ス

區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委任シテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十二條　東京地方裁判所管內小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條　沖繩縣ニ於テ「民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ」但シ控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ長崎控訴院ノ管轄トス

第十四條　樺戶空知釧路ノ集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ノ裁判ニ關ル明治十五年第十六號第四十一號及明治十八年第十二號布告ハ仍效力ヲ有ス

前項ノ裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第十五條　明治二十一年勅令第七十一號清國竝ニ朝鮮國駐在領事裁判規則ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十六條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ必要トセス

第十七條　裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件ヲ必要トセス

第十八條　裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得

「明治十七年太政官達第百二號判事登用規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試驗ヲ要セスシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得」

第十九條　裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條　三年以上裁判官又ハ檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法省高等官（會計局ノ高等官ヲ除ク）ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法省高等官（會計局ノ高等官ヲ除ク）ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條　裁判所構成法第二編第二章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

◉小笠原島裁判事務權限及控訴裁判管轄

明治十四年十月布告第五十六號

小笠原島裁判事務當分當島東京府出張所ニテ「治安裁判所」（即チ違警罪裁判所）「始審裁判所（即チ輕罪裁判所）」ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事非訟及重罪裁判ハ「東京控訴裁判所」ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

◉伊豆七島裁判事務及管轄

明治十四年十月布告第五十七號

伊豆七島裁判事務當分該島東京府出張所ニテ「民事ハ百圓以下及勸解竝ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ「東京始審裁判所」ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

◉小笠原島裁判官檢察官ノ職務

明治二十一年五月勅令第三十五號

「沖繩縣」及小笠原島ニ於テハ當分ノ內同縣官吏ヲシテ裁判官檢察官ノ職務ヲ行ハシム

◉判事試補ニ書記ノ事務ヲ取扱シムル件

明治二十二年三月司法省訓令第百五十八號

「始審裁判所長」又ハ「治安裁判所」上席判事ハ其屬諸判事試補ニ書記ノ事務ヲ取扱ハシムルコト事務練習上必要ナリト認ムルトキハ之ヲシテ一時書記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

◉裁判官檢察官會同巡視規程廢止ノ件

明治二十四年九月司法省訓令第十號

明治二十年一月第四號訓令裁判官檢察官會同巡視規程ヲ廢ス

第十二章　文部省所管

◉文部省官制

明治三十一年十月勅令第二百七十九號

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

第一條　文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一　公立學校職員ニ關スル事項

二　文部省ニ於テ施行スル教員檢定ニ關スル事項

三　圖書及圖書館ニ關スル事項

四　海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項

五　高等教育會議ニ關スル事項

六　學校衛生顧問會議ニ關スル事項

七　美術ニ關スル事項

八　博覽會及博物館ニ關スル事項

九　褒賞ニ關スル事項

第三條　文部省專任參事官及專任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス

第四條　文部省ニ左ノ二局ヲ設ク

專門學務局

普通學務局

第五條　專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　帝國大學及高等學校ニ關スル事項

二　專門學校及實業學校ニ關スル事項

三　中學校ニ關スル事項

四　美術學校及音樂學校ニ關スル事項

五　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

六　天文臺氣象臺及測候所ニ關スル事項

七　學術技藝ノ保護奬勵ニ關スル事項

八　褒賞ニ關スル事項

九　測地學委員會及震災豫防調査會ニ關スル事項

十　學士會院ニ關スル事項

十一　學術會ニ關スル事項

十二　學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項

第六條　普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　師範教育ニ關スル事項

二　小學校及幼稚園ニ關スル事項

三　高等女學校ニ關スル事項

四　盲啞學校ニ關スル事項

五　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

六　教育博物館ニ關スル事項

七　通俗教育及教育會ニ關スル事項

八　學齡兒童ノ就學ニ關スル事項

第七條　文部省ニ專任視學官五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察ヲ掌リ又各局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

第八條　文部省ニ專任圖書審査官三人ヲ置ク奏任トス圖書ノ審査ヲ掌ル

第九條　文部省ニ專任技師四人ヲ置ク建築ニ關スル事務ヲ掌ル（明治三十二年四月勅令第百四十一號ヲ以テ本條改正）

文部省ニ專任技手十人ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク

第十條　文部省ニ學校衛生主事一人ヲ置ク奏任トス大臣次官又ハ各局長ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條　文部省屬ハ六十人ヲ以テ定員トス

附　則

第十二條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

◉文部省分課規程

明治三十一年十一月一日官報公示

文部省分課規程

第一條　大臣官房ニ秘書課文書課會計課圖書課美術課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密文書ニ關スルコト

二　機密事務ニ關スルコト

三　大臣次官ノ官印及省印ヲ管守スルコト

四　職員ノ進退身分ニ關スルコト

五　職員ノ恩給及退官賜金ニ關スルコト

六　公立學校職員ノ進退身分ニ關スルコト

七　雇外國人ニ關スルコト

八　海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スルコト

九　高等教育會議ニ關スルコト

十　學校衛生顧問會議ニ關スルコト

十一　褒賞ニ關スルコト

十二　本省及所轄各部ノ處務規程ニ關スルコト

文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スルコト

二　公文書類ノ編纂及保存ニ關スルコト

三　文部省ニ於テ施行スル教員檢定ニ關スルコト

四　統計報告ノ調製竝官報揭載ニ關スルコト

五　報告書年報等ノ編纂配賦ニ關スルコト

六　文書ノ翻譯ニ關スルコト

七　各局課ノ主管ニ屬セサル事務

會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スルコト

二　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スルコト

三　公立學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スルコト

四　建築營繕ニ關スルコト

五　本課主管ニ屬スル事件ニ就キテノ訴訟等ニ關スルコト

圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　教科用圖書ニ關スルコト

二　教育上必要ナル圖書ノ編纂ニ關スルコト

三　參考圖書ノ管理ニ關スルコト

四　圖書館ニ關スルコト

美術課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　美術及文學ノ奬勵保護ニ關スルコト

二　博覽會ニ關スルコト

三　博物館ニ關スルコト

第二條　專門學務局ニ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　帝國大學及高等學校ニ關スルコト

二　專門學校ニ關スルコト

三　美術學校及音樂學校ニ關スルコト

四　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スルコト

五　天文臺氣象臺及測候所ニ關スルコト

六　測地學委員會及震災豫防調査會ニ關スルコト

七　學士會院及學術會ニ關スルコト

八　學位稱號及學術技藝ノ保護奬勵ニ關スルコト

九　他課ニ屬セサル事務

第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　中學校及之ニ準スヘキ各種學校ニ關スルコト

二　文官任用令徵兵令陸軍補充條例ニ依ル學校ノ等位認定等ニ關スルコト

第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　實業學校ニ關スルコト

二　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スルコト

三　實業補習學校及徒弟學校ニ關スルコト

四　實業教育費國庫補助ニ關スルコト

第三條　普通學務局ニ第一課第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　師範學校小學校高等女學校實業學校其他以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ノ教則教員ノ資格設備及生徒ニ關スルコト

二　學齡兒童ノ就學及家庭教育ニ關スルコト

三　幼稚園ニ關スルコト

四　通俗教育及教育博物館ニ關スルコト

五　他課ニ屬セサル事務

第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　師範學校小學校高等女學校實業學校其他以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ノ設置廢止經費職員ノ俸給及處分ニ關スルコト

二　地方視學郡視學及市町村學務委員及學校醫ニ關スルコト

三　教育會ニ關スルコト

四　本局ノ主管ニ屬スル事項ニ就キ府縣郡市町村ノ行政ニ關スルコト

五　本局ノ主管ニ屬スル事項ニ就キテノ訴願等ニ關スルコト

第四條　學校衛生顧問會議幹事ハ學校衛生顧問ト同一ノ資格ヲ以テ會議ニ參列ス（全上）

文部大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ學校衛生顧問ノ會議ニ參列セシムルコトヲ得但可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第六條　學校衛生顧問ノ會議ニ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條　學校衛生顧問ニハ一箇年三百圓以内學校衛生顧問會議幹事ニハ一箇年千二百圓以内ノ手當ヲ給ス

文部省ニ學校衛生顧問及學校衛生主事ヲ置クノ件

明治二十九年五月勅令第百八十五號

勝文部省ニ學校衛生顧問及學校衛生顧問會議幹事ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（明治二十一年三月勅令第六十五號ヲ以テ本則改正）

第一條　文部省ニ學校衛生顧問九人以内及學校衛生顧問會議幹事一人ヲ置ク（全上）

第二條　學校衛生顧問ハ文部大臣ノ諮詢ニ應シテ學校衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第三條　學校衛生顧問會議幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ學校衛生顧問會議ニ關スル庶務ヲ整理ス（全上）

第四條　學校衛生顧問及學校衛生顧問會議幹事ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス（全上）

高等教育會議規則

明治三十一年六月勅令第百五號

廢高等教育會議規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　高等教育會議ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第二條　高等教育會議ハ文部大臣ノ諮詢ニ應シテ左ノ事項ノ要領ヲ審議ス

一　帝國大學及文部省直轄諸學校圖書館ノ設置廢止ニ關スル事項

二　文部省直轄諸學校公立私立學校ノ教育ノ目的竝ニ其ノ學科課程設備及管理ニ關スル事項

三　學齡兒童ノ就學義務及小學校授業料ニ關スル事項

四　學事監督ニ關スル事項

五　教科用圖書ニ關スル事項

六　文部省直轄諸學校竝ニ公立私立學校職員ノ資格ニ關スル事項

七　文部大臣ニ於テ必要ト認ムル事項

第三條　高等教育會議ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　學習院長、華族女學校長、帝國博物館總長

二　陸軍及海軍教育主任將校各一人

三　帝國大學總長

四　帝國大學分科大學長各科每ニ一人

五　文部省各局長及視學官二人

六　高等師範學校長、女子高等師範學校長

七　高等商業學校長、東京工業學校長、東京美術學校長、高等師範學校附屬音樂學校主事、帝國圖書館長

八　高等學校長一人

九　商船學校長

十　師範學校長二人

十一　公立實業學校長二人

十二　公立高等女學校長一人

十三　高等師範學校附屬尋常中學校主事、女子高等師範學校附屬高等女學校主事

十四　私立學校長二人

十五　東京學士會院會長

十六　文部省學校衛生顧問會議議長

十七　學識アル者又ハ教育事業ニ閲歴アル者七人以内

此ノ他臨時ノ須要ニ應シ臨時議員若干人ヲ置クコトヲ得

職務上當然議員タル者ヲ除ク外議員及臨時議員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス但シ第一項第十乃至第十二ノ議員ハ當該各學校長ニ於テ二倍ノ數ヲ互選セシメ其ノ中ニ就キ文部大臣奏請シ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　文部大臣ハ必要ニ依リ前條ノ外部下高等官ヲ高等教育會議ニ臨時出席セシムルコトヲ得但可否ノ數ニ加ハラス

第六條　高等教育會議ニ議長及副議長ヲ置キ議員中ニ就キ文部大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

議長副議長共ニ事故アルトキハ議長ヨリ議員中ノ人ヲ指名シテ事務ヲ代理セシム

第七條　議員ノ任期ハ三箇年ヲ以テ一期トス但シ職務上當然議員タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　議長ハ規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ文部大臣ニ開申ス

第九條　高等教育會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　高等教育會議ハ每年一回之ヲ開ク但シ必要ニ依リ臨時會議ヲ開クコトヲ得

高等教育會議ノ開會及開期ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條　議員ニハ一箇年五百圓以内臨時議員ニハ事項ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ第四條第一項第一乃至第十三ニ該當スル者ニハ之ヲ給セス

第十二條　高等教育會議ニ幹事一人ヲ置キ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ書記ハ議長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

幹事ニハ一箇年二百圓以内書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

第十三條　明治二十九年勅令第三百九十號ニ依リ辭令ヲ用ヒテ任命セラレタル議員ハ本規則施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

帝國圖書館官制

明治三十年四月勅令第百十號

廢帝國圖書館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國圖書館官制

第一條　帝國圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ内外古今ノ圖書記錄ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ閲覽參考ノ用ニ供スル所トス

第二條　帝國圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十一年十月勅令第二百八十條ヲ以テ本條ヲ改メ同年十一月一日ヨリ施行ス）

館長	一人　奏任
司書	七人　判任
書記	二人　判任

第三條　館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　（同上法令ニテ本條ヲ創ル施行期同上）

第五條　司書ハ上官ノ命ヲ承ケ圖書記錄ノ整理保存及閱覽ニ關スル事務ニ從事ス

第六條　書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第七條　圖書記錄ノ選定若ハ分類等ニ關シ必要アルトキハ館長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ囑託員ヲ置クコトヲ得

第八條　文部大臣ハ館務上ノ組織ニ依リ帝國圖書館ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附　則

第九條　明治二十四年勅令第百三十八號東京圖書館官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◉測地學委員會官制

明治三十一年四月勅令第八十四號

廢測地學委員會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

測地學委員會官制

第一條　測地學委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ萬國測地學協會ニ關スル事務ヲ整理シ及測地學ニ關スル事項ヲ攻究ス

第二條　測地學委員會ハ測地學ニ關シ主任各省大臣ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ開申スヘク又主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　測地學委員會ノ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第四條　測地學委員會ハ委員長一人幹事一人委員十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　委員長及委員ハ測地學ニ關係アル官廳ノ高等官中ヨリ幹事ハ委員中ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條　臨時必要アルトキハ測地學委員會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條　委員長ハ測地學委員會一切ノ事務ヲ總理シ萬國測地學協會ニ對シテ帝國委員ヲ代表ス

第八條　幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條　委員ニハ一箇年三百圓以內臨時委員ニハ事項ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條　測地學委員會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ議事ヲ筆記シ及庶務ニ從事ス

第十一條　書記ハ一箇年百圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條　臨時必要ノ場合ニ於テハ委員長ハ傭員ヲ使用スルコトヲ得

◉震災豫防調查會官制

明治二十五年六月勅令第五十五號

廢震災豫防調查會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

震災豫防調查會官制

第一條　震災豫防調查會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ震災豫防ニ關スル事項ヲ攻究シ其施行方法ヲ審議ス

第二條　震災豫防調查會ハ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第三條　震災豫防調查會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　會長　一人

二　幹事　一人

三　委員　二十五人

第四條　會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ理學及工學專門ノ者ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ委員ノ內ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　調查上必要アルトキハ震災豫防調查會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得

臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條　會長ハ震災豫防調查ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第七條　幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　震災豫防調查會ノ職員ニハ一箇年三百圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第六條　技手ハ事任十四人列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ中央氣象臺又ハ附屬測候所ノ事務ニ從事ス（明治三十二年四月勅令第百四號ヲ以テ本條改正）

第七條　書記ハ專任三人列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス（同上）

第八條　事務ノ分課ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條　中央氣象臺ニ附屬測候所ヲ置ク其ノ位置ハ鹿兒島縣下大島沖繩縣下石垣島トス

第十條　附屬測候所ニ所長ヲ置キ中央氣象臺技手ヲ以テ之ニ充ツ所長ハ臺長監督ノ下ニ於テ測候ノ事務ヲ掌理ス

◉氣象臺官制

明治三十一年七月勅令第百四十八號

廢中央氣象臺官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

中央氣象臺官制

第一條　中央氣象臺ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ氣象ニ關スル事項ヲ攻究シ氣象事業ヲ統轄ス

第二條　中央氣象臺ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　全國氣象ノ調查及報告

二　暴風警報

三　天氣豫報

四　氣象通報

五　氣象器械檢定

六　氣象、地磁氣、空中電氣、地震等ノ觀測

第三條　中央氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク

臺長

技師

技手

書記

第四條　臺長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ臺務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條　技師ハ專任三人奏任トス臺長ノ指揮ヲ承ケ臺務ヲ分掌ス

◉氣象臺測候所條例

明治二十年八月勅令第四十一號

廢氣象臺測候所條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

氣象臺測候所條例

第一條　東京ニ中央氣象臺ヲ置キ地方便宜ノ場所ニ地方測候所ヲ置ク其位置ハ文部大臣之ヲ指定ス（二十六年十月勅令第百三十四號ヲ以テ「內務大臣」ヲ「文部大臣」ニ改メ二十七年四月一日ヨリ施行スヘキコトヲ令シタルモ二十七年三月勅令第二十五號ヲ以テ二十八年四月一日マテ延期ス）

第二條　前條ノ外測候所ヲ設置セントスル者アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ（同上）

第三條　中央氣象臺ハ文部大臣之ヲ直轄シ地方測候所ハ地方長官之ヲ管理シ文部大臣之ヲ監督ス其他ノ測候所ハ地方長官之ヲ監督ス（同上）

第四條　地方測候所ノ費用ハ該測候所所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ

第五條　中央氣象臺及各測候所ハ非業上五ニ氣源ヲ通シ通信ヲ爲ス可シ

第六條　本條例施行ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム（同上）

◉地方測候所職員ノ名稱待遇及等級配當ニ關スル件

明治二十八年十月勅令第百四十九號

朕地方測候所職員ノ名稱待遇任免及等級配當等ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　明治二十年勅令第四十一號氣象臺測候所條例ニ揭ケル地方測候所ノ職員ノ名稱左ノ如シ

所長
技手

第二條　地方測候所長ハ縣府縣官吏高等學校府縣立師範學校公立中學校ノ職員若クハ地方測候所技手ヲ以テ之ニ充ツ

地方測候所技手ハ判任文官ノ待遇ヲ受ク其ノ任免ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ行フ

第三條　地方測候所技手ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ任用スヘシ

一　尋常中學校ヲ卒業シタル者若クハ之ト相當ノ學力ヲ有スル者

二　滿三年以上中央氣象臺若クハ地方測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シタル者

第四條　地方測候所技手ノ等級ハ其ノ俸給額ニ應シ左表ニ依リ文武判任官等級ニ配當ス但同等級內ニ於テハ文武判任官ノ次席タルヘシ

（地方測候所技手等級配當表略之）

文部省直轄諸學校官制

明治二十六年八月勅令第八十六號

朕文部省直轄諸學校官制改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制

第一條　文部省直轄諸學校ハ高等師範學校女子高等師範學校札幌農學校高等商業學校第一高等學校第二高等學校第三高等學校第四高等學校第五高等學校東京工業學校東京外國語學校東京美術學校東京音樂學校大阪工業學校及東京盲啞學校トス（明治二十七年勅令第七十五號同文部省告示第八號ニ依リ高等中學校ハ高等學校ト改稱シ尙同年勅令第二百二十六號同勅令第二百九十八號及同三十二年四月勅令第百十七號ヲ以テ改正）

第二條　高等師範學校ニ附屬尋常中學校及附屬小學校ヲ置キ東京教育博物館ヲ附設ス（明治三十二年四月勅令第百十七號ヲ以テ本條改正）

第三條　女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク（同上法令ニテ本條ヲ削ル）

第四條　東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク

第六條　文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
教授
助教授
書記

第七條　校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス（同上法令ニテ本條改正）

第八條　教授ハ勅任又ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル（同上）

助教授ハ判任トス教授ノ職務ヲ助ク

第九條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十條　高等師範學校及女子高等師範學校ニ舍監ヲ置ク他ノ學校ニ於テ舍監ヲ置クノ必要アルトキハ教官ヨリ兼任セシム

舍監ハ奏任トス校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條　高等師範學校及女子高等師範學校ニ第五條及第九條職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教諭
助教諭
訓導

第十二條　教諭ハ奏任トス附屬高等中學校及附屬高等女學校ノ生徒ヲ教授シ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

助教諭ハ判任トス教諭ノ職務ヲ助ク

第十三條　訓導ハ判任トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十四條　高等師範學校ニ助手ヲ置ク判任トス教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス（同上法令ニテ本條ヲ追加シ以下順次繰下ク）

第十五條　女子高等師範學校ニ保姆ヲ置ク判任トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十六條　東京盲啞學校ニ教授助教授ヲ置カス訓導ヲ置ク判任トス生徒ノ授業ヲ掌ル

第十七條　專任教官中其ノ學校所設ノ業學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十八條　文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校及東京工業學校教官中ヨリ各其ノ附屬學校主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得（明治三十年勅令第百八號及同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム）

第十九條　文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附　則

第二十條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

文部省直轄諸學校職員定員

明治二十六年八月勅令第八十七號

朕文部省直轄諸學校職員定員ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄學校職員定員

第一條　文部省直轄諸學校職員ノ定員ハ左ノ如シ但兼任ハ此ノ限ニアラス（明治三十二年四月勅令第百十八號ヲ以テ本條ヲ改ム）

高等師範學校	
校長	一人
教授	四十四人
助教授	九人
書記	二十人
助手	七人
教諭	九人
助教諭	十八人
訓導	三人
舍監	十二人
書記	女子高等師範學校
校長	一人
教授	十五人
助教授	五人
教諭	七人
助教諭	十二人
訓導	十一人
舍監	一人
保姆	七人
書記	六人
札幌農學校	
校長	一人
教授	八人
助教授	十人
書記	六人
高等商業學校	
校長	一人
教授	十四人
助教授	十二人
書記	七人
第一高等學校	
校長	一人
教授	四十八人

助教授	十六人	
書記	十二人	
第二高等學校		
校長	一人	
教授	三十四人	
助教授	十三人	
書記	七人	
第三高等學校		
校長	一人	
教授	三十八人	
助教授	二十人	
書記	十二人	
第四高等學校		
校長	一人	
教授	三十人	
助教授	十五人	
書記	八人	
第五高等學校		
校長	一人	
教授	四十五人	
助教授	十九人	
書記	十三人	
山口高等學校		
校長	一人	
教授	十四人	
助教授	六人	
書記	五人	
東京工業學校		
校長	一人	
教授	十七人	

助教授	三十二人	
書記	六人	
東京外國語學校		
校長	一人	
教授	十五人	
助教授	八人	
書記	二人	
東京美術學校		
校長	一人	
教授	十八人	
助教授	二十三人	
書記	六人	
東京音樂學校		
校長	一人	
教授	五人	
助教授	六人	
書記	二人	
大阪工業學校		
校長	一人	
教授	七人	
助教授	十四人	
書記	四人	
東京盲唖學校		
校長	一人	
訓導	八人	
書記	三人	

附則

第二條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

第三條　明治二十四年勅令第百四十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス（明治二十七年勅令第四十一號ハ直轄學校教官定員ノ件ナリ）

文部省直轄諸學校校長職務規程

明治二十六年十月文部大臣訓令

校長職務規程左ノ通改正ス

校長職務規程

第一條　校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ申稟スルコトヲ得

第二條　校所屬職員ノ除服出仕暇願ノ許可ハ文部大臣ノ委任ニ依リ校長之ヲ判行ス

校所屬ノ職員ヲ各地ニ出張セシムルハ校長ノ判行ニ任ス但シ高等官ノ出張ヲ判行スルハ學術研究ノ場合ニ限ル

第三條　講師ヲ囑託スルハ文部大臣ノ許可ヲ得ルヲ要ス（明治二十九年八月同三十年十二月文部大臣訓令ヲ以テ本條ヲ改ム）

雇員ノ進退ハ其俸給月額十五圓ヲ超ユル者ハ文部大臣ノ許可ヲ得ルヲ要シ十五圓以下ノ者ハ之ヲ判行スルコトヲ得

囑託醫師及雇員ノ各地出張及除服出仕暇願ハ前條ノ例ニ依ル

第四條　校長ハ教官ノ學科擔任ヲ定メ事務員ノ分課ヲ命ス

第五條　校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條　左ノ事項ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ後施行スヘシ

第一　學科課程ヲ定ムル事

第二　規則ヲ定ムル事

但シ既定規則ノ範圍内ニ在テ其ノ細則ヲ設クルハ此ノ限ニアラス

第三　授業料、試驗料其他諸收入金ノ定率ヲ定ムル事

第四　外國人ヲ雇入レ其ノ條約ヲ定メ若クハ條約期限内ニ雇ヲ止ムル事

第五　雇外國人ヲ各地ニ派遣スル事

第六　地所建物ヲ增減スル事

第七　歲入歲出豫算ニ依ルノ外新ニ義務ヲ負擔シ及權利ヲ棄却スル事

第八　圖書ヲ印行スル事

但シ規則書其ノ他例規アルモノハ此ノ限ニアラス

第九　經費中ノ日ヲ流用スル事

第十　臨時休業スル事

但シ急速ノ場合ニ在テハ臨時處分シテ後報申スルコトヲ得

第十一　右ノ外例規ナキ重大ノ事件ヲ處置スル事

第七條　校長ハ每會計年度ノ終ニ於テ前年ノ功程ヲ具ヘ文部大臣ニ報告スヘシ

第八條　校長ハ醫學部ノ事務ニ付文部大臣ヨリ委任シタル事項ノ範圍内ニ於テ便宜之ヲ主事ニ委任スルコトヲ得

帝國大學及文部省直轄諸學校雇外國人使用方

明治二十六年九月勅令第九十六號

歐帝國大學及文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於ケル學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

帝國大學令

明治十九年三月勅令第三號

歐帝國大學令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

帝國大學令

第一條　帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攻究スルヲ以テ目的トス

第二條　帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攻究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス

第三條　分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試驗ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四條　分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入リ學術技藝ノ蘊奥ヲ攻究シ定規ノ試驗ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス

第五條　帝國大學總長ハ帝國大學ヲ總轄シ帝國大學內部ノ秩序ヲ保持ス（明治二十六年勅令第八十二號ヲ以テ本條以下改正）

第六條　帝國大學ニ評議會ヲ設ク

評議會ハ各分科大學長及各分科大學教授各一名ヲ以テ會員トス

帝國大學總長ハ評議員ヲ召集シ其議長トナル

第七條　教授ニシテ評議員タルモノハ各分科大學每ニ教授ノ互選ニ依リ文部大臣之ヲ命ス

前項ノ評議員ハ三箇年ヲ以テ任期トス但滿期ノ後再選セラルルコトヲ得

第八條　評議員ハ左ノ事項ヲ審議ス

第一　各分科大學ニ於ケル學科ノ設置廢止ノ件

第二　講座ノ種類ニ付諮詢ノ件

第三　大學內部ノ制規但勅令又ハ省令ヲ發スルノ必要アルモノハ其ノ建議案

第四　學位授與ノ件

第五　其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件

評議會ハ高等教育ニ關スル事項ニ付其ノ意見ヲ文部大臣ニ建議スルコトヲ得

第九條　分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學文科大學理科大學農科大學トス

第十條　分科大學長ハ分科大學ノ學務ヲ統理ス

第十一條　各分科大學ノ教官ハ教授及助教授トス

第十二條　必要アル場合ニ於テハ帝國大學總長ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條　帝國大學ニ功勞アリ又ハ學術上效績アル者ニ對シ勅旨ニ由リ又ハ文部大臣ノ奏宣ニ由リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ

第十四條　各分科大學ニ教授會ヲ設ケ教授ヲ以テ會員トス

分科大學長ハ教授會ヲ召集シ議長トナル

教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

第十五條　第一　分科大學ノ學科課程ニ關スル件

第二　學生試驗ノ件

第三　學位授與資格ノ審査

第四　其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件

第十六條　分科大學長ハ必要アリト認ムルトキハ教授ノ外助教授又ハ囑託講師ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得

第十七條　各分科大學ニ講座ヲ置キ教授ヲシテ之ヲ擔任セシム

教授ヲ缺ク場合ニ於テハ助教授又ハ囑託講師ヲシテ講座ヲ擔任セシムルコトアルヘシ

第十八條　講座ノ種類及其ノ數ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

㊞帝國大學改稱

明治三十年六月勅令第二百八號

朕帝國大學ヲ改稱ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

帝國大學ヲ東京帝國大學ト改稱ス

㊞京都帝國大學設置ノ件

明治三十年六月勅令第二百九號

朕京都帝國大學ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　京都ニ帝國大學ヲ置キ京都帝國大學ト稱ス

第二條　京都帝國大學ノ分科大學ハ帝國大學令第九條ニ依ラス法科大學醫科大學文科大學及理工科大學トス

第三條　京都帝國大學ノ分科大學中ノ各學科開設ノ期日ハ文部大臣之ヲ定ム

㊞東京帝國大學官制

明治三十年六月勅令第二百十號

朕東京帝國大學官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

東京帝國大學官制

第一條　東京帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長
書記官
舍監
書記

第二條　總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ東京帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條　書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條　舍監ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

東京帝國大學及分科大學書記ハ通計專任五十三人ヲ以テ定員トス（明治三十一年七月勅令第百七十一號ヲ以テ本條改正）

第六條　各分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授
助教授
助手
書記

第七條　教授ハ專任九十一人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス（明治三十二年三月勅令第百二號ヲ以テ本條ヲ改ム）

教授ニシテ分科大學長及醫科大學附屬院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條　助教授ハ專任四十二人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス（同上）

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外ニ置クモノトス但シ講座ヲ分擔スル助教授ハ此ノ限ニアラス

第九條　助手ハ專任百四人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス（同上）

第十條　第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條　醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス（同上）

第十二條　理科大學附屬東京天文臺ニ天文臺長ヲ置キ理科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

天文臺長ハ總長監督ノ下ニ於テ東京天文臺ノ事務ヲ掌理ス（同上）

第十三條　理科大學附屬臨海實驗所ニ臨海實驗所長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス（同上法令ヲ以テ第十三條及第十四條ヲ削リ新ニ本條以下四條ヲ追加ス）

臨海實驗所長ハ總長監督ノ下ニ於テ臨海實驗所ノ事務ヲ掌理ス

第十四條　理科大學附屬植物園ニ植物園長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

植物園長ハ總長監督ノ下ニ於テ植物園ノ事務ヲ掌理ス

第十五條　農科大學附屬演習林ニ演習林長ヲ置キ農科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

演習林長ハ總長監督ノ下ニ於テ演習林ノ事務ヲ掌理ス

第十六條　東京帝國大學附屬圖書館ニ圖書館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

附則

第十七條　明治二十六年勅令第八十三號帝國大學官制ハ本令施行ノ日ヨ

ヲ廢止ス

◎東京帝國大學ニ於テ度量衡副原器保管方

明治二十五年三月文部大臣訓令
帝國大學

明治二十四年三月法律第三號度量衡法第六條ニ依リ本大臣ニ於テ保管スヘキ副原器ノ保管ノ事ヲ掌ラシム

◎東京帝國大學總長職務規程

明治二十六年九月文部大臣訓令

帝國大學總長職務規程左ノ通改正ス

帝國大學總長職務規程

第一條　勅任官ノ除服出仕暇願ハ總長ヨリ文部大臣ニ具申シ其奏任官ニ於テハ文部大臣ノ委任ニ依リ之ヲ判行スルコトヲ得

第二條　總長ハ高等官ヲ內地ニ出張セシムルハ總長ノ判行ニ任ス

第三條　總長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四條　左ノ事項ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ後施行スヘシ

第一　學科課程ヲ定ムル事

第二　規則ヲ定ムル事

但附屬ノ院館場園ノ內部規則ヲ定メ及既定規則ノ範圍內ニ在テ其ノ細則ヲ設クルハ此ノ限ニ在ラス

第三　授業料試驗料其他諸收入金ノ定率ヲ定ムル事

第四　外國人ヲ雇入レ其ノ條約ヲ定メ若クハ條約期限內ニ雇ヲ止ムル事

第五　地所及建物ヲ增減スル事

第六　歲入歲出豫算ニ依ルノ外新ニ義務ヲ負擔シ及權利ヲ棄却スル事

第七　圖書ヲ印行スル事

但規則書其他例規アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八　經費中ノ目ヲ流用スル事

第九　八日以外臨時休業スル事

第十　右ノ外例規ナキ重大ノ事件ヲ處置スル事

第五條　總長ハ每會計年度ノ終ニ於テ前年ノ功程ヲ具ヘ文部大臣ニ報告スヘシ

◎東京帝國大學評議會規程

明治十九年六月文部大臣訓令

第一　帝國大學評議會ハ文部大臣若クハ大學總長必要ト認ムルトキ又ハ評議官三名以上ノ要求アルトキハ之ヲ開クモノトス

第二　議案ハ大學總長ヨリ之ヲ會議ニ付スルモノトス

第三　文部大臣ハ本省吏員ヲシテ評議會ニ列セシムルコトアルヘシ

第四　大學總長ハ內外ノ教官及吏員ヲ評議會ニ出シテ其意見ヲ陳述セシムルコトアルヘシ

第五　議題ハ評議官半數以上出席シ其多數ニ依テ之ヲ可否スルコトヲ得

第六　議事ノ顚末ハ書記官筆記シテ大學總長ヨリ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

◎京都帝國大學官制

明治三十一年六月勅令第二百十一號

京都帝國大學官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　京都帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長
書記官
舍監
書記

第二條　總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ京都帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條　書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條　舍監ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第五條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

京都帝國大學及分科大學書記ハ通計專任二十七人ヲ以テ定員トス

第六條　分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授
助教授
助手
書記

第七條　教授ハ專任五十七人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ分科大學長及醫科大學附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條　助教授ハ專任十七人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

（明治三十二年四月勅令第百三號ヲ以テ定員ヲ增ス）

第九條　助手ハ專任二十八人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス

第十條　第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條　醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十二條　京都帝國大學附屬圖書館ニ館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

館長ハ總長監督ノ下ニ圖書館ノ事ヲ掌理ス

◎京都帝國大學總長職務規程

明治三十年七月文部大臣訓令

京都帝國大學總長職務規程左ノ通相定ム

京都帝國大學總長職務規程

第一條　勅任官ノ除服出仕請暇ハ總長ヨリ文部大臣ニ具申シ其奏任官ニ於テハ文部大臣ノ委任ニ依リ之ヲ判行スルコトヲ得

第二條　總長ハ內地ニ出張シ又ハ總長ノ判行スルコトヲ得

第三條　授業料試驗料其他諸收入金ノ定率ヲ定ムル事

第四條　外國人ヲ雇入レ其ノ契約ヲ定メ若クハ契約期限內ニ雇ヲ止ムル事

第五條　地所及建物ヲ增減スル事

第六條　歲入歲出豫算ニ依ルノ外新ニ義務ヲ負擔シ及權利ヲ棄却スル事

第七條　圖書ヲ印行スル事

但規則書其他例規アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條　經費中ノ目ヲ流用スル事

第九條　八日以外臨時休業スル事

第十條　右ノ外例規ナキ重大ノ事件ヲ處置スル事

第五條　總長ハ每會計年度ノ終ニ於テ前年ノ功程ヲ具ヘ文部大臣ニ報告スヘシ

スヘシ

◎師範教育令　明治三十年十月勅令第三百四十六號

朕師範教育ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

師範教育令

第一條　高等師範學校ハ師範學校尋常中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良信愛威重ノ德性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ

第二條　高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ各一校若ハ數校ヲ設置ス

第三條　高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス

第四條　師範學校ノ經費(北道及沖繩縣ヲ除ク)ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

第五條　師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條　高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條　高等師範學校及師範學校生徒ノ學資ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ私費生ヲ置クコトヲ得

第八條　高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度竝教科書ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條　師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ得

附則

第十條　本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條　他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト改正セラレタルモノト看做ス

◎師範學校官制　明治二十四年十一月勅令第二百十七號

朕師範學校官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

師範學校官制(明治三十年十月勅令第三百四十六號第十一條ノ規定ニ依リ尋常師範學校」ハ「師範學校」ト改メラル)

第一條　師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
教諭
助教諭
舍監
訓導
書記　三名以內

第二條　教諭助教諭舍監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條　學校長ハ縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ承理シ所屬職員ヲ統督シ兼テ其府縣內ニ於ケル小學教育ニ屬スル學事ヲ視察ス(三十一年二月勅令第三十一號ヲ以テ本條改正)

第四條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條　助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條　舍監ハ學校長ノ命ヲ承ケ寄宿舍ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　訓導ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル

第八條　書記ハ學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條　教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員俸額ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

附則

第十一條　本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

◎札幌農學校職員定員　明治二十六年十一月勅令第二百八號

札幌農學校ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　札幌農學校ハ文部省直轄學校トス

第二條　文部大臣ハ便宜北海道廳長官ニ委任シテ札幌農學校ヲ監督セシムルコトヲ得

第三條　札幌農學校職員ノ定員ハ左ノ如シ但兼任ハ此ノ限ニアラス

(明治三十二年四月勅令第百七號ヲ以テ定員ヲ增ス)

校長　一人
教授　十一人
助教授　十五人
書記　六人

附則

第四條　本令ハ明治二十七年[四月一日]ヨリ施行ス(二十七年三月勅令第二十六號ヲ以テ明治二十八年四月一日マテ施行期ヲ延ス)

第五條　明治二十四年勅令第百四十二號同年勅令第百四十三號及明治二十六年勅令第九十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◎北海道廳府縣ニ地方視學ヲ置ク之ノ件　明治三十年五月勅令第百四十號

朕北海道總府縣ニ地方視學ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　北海道總府縣ニ地方視學ヲ置キ判任トシ六級俸以上ノ月俸ヲ給ス

地方視學ハ北海道總府縣ヲ通シテ百人ヲ以テ定員トシ其ノ道廳及各府縣ニ於ケル定員ハ文部大臣之ヲ定ム

第二條　地方視學ハ地方長官ノ指揮ヲ承ケ小學教育ニ關スル學事ノ視察

第三條　視學ニ任スル者ハ左項ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　高等師範學校ノ本科ヲ卒業シタル者ニシテ教員又ハ郡視學タリシ經歷アル者

二　高等小學校本科正教員タルノ資格ヲ有シ五箇年以上官立公立小學校正教員又ハ郡視學タリシ經歷アル者

三　三學科目以上ニ就キ尋常師範學校教員タルノ資格ヲ有シ三箇年以上官立公立學校教員又ハ郡視學タリシ經歷アル者

第四條　文部大臣ハ地方視學ノ職務規程及本令施行ノ爲必要ナル規則ヲ定ムルコトヲ得

◎地方視學職務規程　明治三十年五月文部省令第五號

明治三十年勅令第百四十號第四條ニ基キ地方視學職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

地方視學職務規程

第一條　地方視學ハ內務部ニ屬シ小學校及其他小學校令ニ據ル學校等ノ視察ニ從事ス

第二條　地方視學視察ノ要項左ノ如シ

一　教育ニ關スル勅語ノ主旨ノ實際ニ行ハルル情況
二　教授及管理ノ方法
三　學級ノ編制教員ノ配置學科課程及試驗ノ情況
四　設備ノ整否
五　學事ニ關スル表簿ノ整否
六　學齡兒童就學及出席ノ情況
七　生徒ノ成績及風儀
八　學校衛生ノ情況
九　學校長教員其他學事關係職員ノ執務
十　學事ニ關スル會計及經濟ノ情況
十一　學事集會ノ情況

十二　學事ニ於ル市町村一般ノ感情
十三　學事法令施行ノ情況
十四　其他特ニ必要ト認ムル件
第三條　地方視學ハ左ニ列記スル事項ニ關シ當事者ニ指示スルコトヲ得
一　法令ノ明文ニ抵觸スル事項
二　授業法及學校管理法ニ關スル事項
三　其他特ニ地方長官ノ指令ヲ受クタル事項
第四條　地方視學ハ學校及郡市役所町村役場ノ帳簿ヲ査閲スルコトヲ得
第五條　地方視學ハ視察ノ際授業時間ヲ變更セシメ時間外ニ授業ヲ爲サシメ又ハ授業ヲ休止セシムルコトヲ得
第六條　地方視學ハ視察ノ際當事者ノ參席ヲ求ムルコトヲ得
第七條　地方視學ハ當事者ニ對シ說明ヲ求ムルコトヲ得
第八條　地方視學ハ生徒ノ學業ヲ試補スルコトヲ得
第九條　地方視學ハ視察ノ情況ヲ具シ意見ヲ附シテ地方長官ニ復命スヘシ

㊞地方視學ニ關スル訓令

明治三十年六月文部省訓令第六號

地方視學ニ關シ訓令スルコト左ノ如シ
一　地方視學ヲシテ他ノ官職ヲ兼ヲシムヘカラス
二　地方視學ハ務メテ定員ヲ常置スヘク其缺員ヲ生シタル場合ニ於テモ補缺員ニ充ツルニ足ルヘキ俸給額ヲ存置スヘシ
三　地方視學ノ經費豫算ハ俸給旅費雜費ノ各費目ヲ互ニ流用スルコトヲ得但特別ノ事情アルモノハ其事由ヲ具シテ本大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

㊞公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件

明治三十一年一月勅令第二號

府縣公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
第一條　北海道廳府縣郡市町村ノ設置ニ係ル學校ニ學校醫ヲ置ク
地方長官ハ特別ノ事情アルトキハ村立學校及人口五千未滿ノ町立學校ニハ當分ノ內學校醫ヲ置カサルコトヲ得
第二條　學校醫ハ地方長官之ヲ囑託ス
第三條　學校衛生事務ニ關シ學校醫ハ地方長官郡市町村長ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ述フヘク又之ニ建議スルコトヲ得
第四條　學校醫ニハ其ノ學校經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スヘシ
第五條　學校醫ノ囑託就務及其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附　則

第六條　本令ニ於テハ北海道沖繩縣ノ區ノ設置ニ係ル學校ハ町立學校ト同視シ沖繩縣ノ間切及島ノ設置ニ係ル學校ハ村立學校ト同視ス
第七條　市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本令中市町村長ニ關スル規定ハ島司郡長（北海道ニ在テハ支廳長）區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者ニ適用ス
第八條　本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

㊞學校醫ノ資格

明治三十一年二月文部省令第七號

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫ノ資格ヲ定ムルコト左ノ如シ
第一條　學校醫ヲ囑託スルニハ左ニ揭ケル各項中ノ一ニ該當シ且醫術開業免狀ヲ有スル者ノ中ニ於テスヘシ
一　帝國大學醫科大學醫學部醫學科卒業ノ者
二　元東京大學醫學部醫學科本科又ハ別課卒業ノ者
三　高等學校醫學部醫學科卒業ノ者
四　元高等中學校醫學部醫學科卒業ノ者

五　大阪府京都府愛知縣醫學校醫學科卒業ノ者
六　元府縣立甲種醫學校卒業ノ者
第二條　第一條ノ資格ヲ具ヘル者ヲ得難キ場合ニ於テハ帝國大學醫科大學國家醫學講習科修了ノ者又ハ明治十六年布告第三十五號醫師免許規則第二條又ハ第四條ニ依リ醫術開業免狀ヲ有スル者ニ囑託スルコトヲ得

㊞學校醫職務規程

明治三十一年二月文部省令第六號

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　學校醫ハ此規程ノ定ムル所ニ依リ學校衛生ニ關スル職務ニ從事ス
第二條　學校醫ハ每月少クトモ一回教授時間內ニ於テ當該學校ニ到リ衛生上ノ事項ヲ視察スヘシ
學年ノ終及學期ノ始ニ於テハ特ニ當該學校ニ到リ視察スルコトヲ要ス
第三條　學校醫ハ學校視察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ視察簿ニ記入スヘシ
一　換氣ノ良否
二　採光ノ適否
三　机腰掛ノ適否
四　前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離
五　煖爐ノ有無及煖爐ト最近生徒トノ距離
六　室內ノ溫度
七　圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否
八　學校清潔方法實行ノ情況
九　飮料水ノ良否
第四條　學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其病症ニ依リ缺課休學又ハ療治ヲ爲サシムヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ
第五條　學校醫ハ明治三十年文部省訓令第二號學生生徒身體檢査規程ニ準據シ各生徒ノ身體ヲ檢査スヘシ
第六條　學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校內ニ於テ傳染病ノ發生シタルトキハ數次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒法ヲ施行シ倘其情況ニ依リ學校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ
通學生徒ノ所在地ニ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ其通學生徒ノ昇校ヲ禁スヘキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ
第七條　學校醫ハ衛生上必要ト認メタル事項ニ就テハ管理者及學校長ニ申告スヘシ
第八條　此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

㊞東京學士會院規程

明治二十三年十月勅令第二百六十四號

勝東京學士會院規程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
第一條　東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ敎化ノ裨助ヲ謀ランカ爲ニ設クル所ニシテ文部大臣ノ管轄ニ屬ス
第二條　東京學士會院ハ普徳碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其選出ノ方法及人員左ノ如シ
一　帝室ノ特選ニ依ル會員十五名
二　會員ノ推選ニ依ル會員二十五名
會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス
會員ハ終身トス
第三條　東京學士會院ハ各自專攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及敎化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス
第四條　東京學士會院ハ學藝及敎化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得

第五條　東京學士會院滿六十歲以上ノ者十名以內ヲ撰リ特ニ各年金三百圓ヲ賜フコトアルヘシ

第六條　東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ク
會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セラルルコトヲ得

第七條　會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ總理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルトキハ幹事ノ內一人ヲ指定シテ其職務ヲ代理セシム
幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ代理ス

第八條　（削除）

第九條　東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長及幹事ニ屬シテ庶務ニ從事ス

第十條　東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ經テ會則ヲ設クルコトヲ得

東京學士會院規程補則

明治二十八年三月勅令第十七號

廢東京學士會院規程補則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

東京學士會院規程補則

外國ノ學德碩學ニシテ特ニ帝國ニ對シ功勞アル者ハ會員ノ推選ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ經テ之ヲ名譽員ト爲スコトヲ得

博士會規則

明治三十一年十二月勅令第三百四十五號

廢博士會規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

博士會規則

第一條　博士會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條第一項第二號及第三條ニ規定セル學位ノ授與竝審査ニ關スル事項ヲ審査ス

第二條　博士會ハ法學博士會醫學博士會藥學博士會工學博士會文學博士會理學博士會農學博士會林學博士會及獸醫學博士會ノ九種トシ當該博士ヲ以テ組織ス

第三條　博士會ハ文部大臣ニ於テ必要アリト認メタルトキ又ハ會長ヨリ具申アリタルトキ文部大臣之ヲ召集ス
博士會ハ會員ノ過半數出席スルニアラサレハ議決スルコトヲ得ス

第四條　學位授與ノ議事ハ出席會員三分ノ二以上學位授與ノ議事ハ出席會員四分ノ三以上ノ多數ニ依リ之ヲ決ス
前項ノ議決ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第五條　博士會會長ハ會員中ヨリ之ヲ互選シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
會長ハ會務ヲ總管シ議事ヲ整理シ其ノ議決ヲ文部大臣ニ具申ス

第六條　各博士會ヲ通シテ幹事一人ヲ置キ文部省高等官中ニ就キ文部大臣之ヲ命ス
幹事ハ各會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第七條　各博士會ヲ通シテ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ
書記ハ各會長及幹事ノ命ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

第八條　博士會會員ニハ旅費日當等ヲ給與セス

第九條　博士會ノ議事規則ハ各博士會ニ於テ之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

第十條　同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ

第十三章　農商務省所管

農商務省官制

明治三十一年十月勅令第二百八十二號

廢農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

農商務省官制

第一條　農商務大臣ハ農、商、工、水產、林野、鑛山、發明、意匠、商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外內外博覽會及褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　農商務省專任參事官專任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス

第四條　農商務省ニ左ノ局所ヲ置ク
農務局
商工局
山林局
鑛山局
特許局
水產局
地質調查所

第五條　農務局ニ於テハ農事、蠶、茶、畜產、家畜衛生及狩獵ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條　商工局ニ於テハ商事、工業及度量衡ニ關スル事務ヲ掌ル
商工局ニ商品陳列館ヲ置キ內外ノ商品見本ヲ蒐輯陳列シ衆庶ノ觀覽參考ニ供セシム

第七條　山林局ニ於テハ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　鑛山局ニ於テハ鑛業ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條　特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル
特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書、見本及雛形ヲ保管セシム

第十條　水產局ニ於テハ水產ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條　地質調查所ニ於テハ地質、土性、地形及分析ニ關スル事務ヲ掌ル
所長ハ農商務省高等官ヲシテ之ヲ兼ヲシム

第十二條　特許局ニ專任審判官二人專任審査官十人審査官補十五人ヲ置ク
審判官ハ奏任トス審判ヲ掌ル
審査官ハ奏任トス審査ヲ掌ル
審査官補ハ判任トス審査ヲ助ク

第十三條　商品陳列館ニ技師一人書記四人ヲ置ク
書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十四條　農商務省ニ專任技師二十七人專任技手三十九人ヲ置ク

第十五條　農商務屬ハ百十七人ヲ以テ定員トス

附　則

第十六條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

農商務省分課規程

明治三十一年十一月一日官報公示

農商務省分課規程

第一條　大臣官房ニ秘書課文書課統計課及會計課ヲ置ク

第二條　秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　機密文書ニ關スル事項
二　機密事務ニ關スル事項
三　官吏ノ進退身分ニ關スル事項
四　大臣ノ官印及省印ヲ管守スル事項
五　褒賞ニ關スル事項
六　內外博覽會共進會ニ關スル事項

第三條　文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　各局成案ノ進退及點查ニ關スル事項
二　公文書類ノ接受發送ニ關スル事項
三　公文書ノ編纂及保管ニ關スル事項
四　圖書及統計報告書類ノ刊行竝保管ニ關スル事項
五　官有財產ノ異動報告ニ關スル事項
六　各局課ノ主管ニ屬セル事項

第四條　統計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　統計ノ調查編纂ニ關スル事項
二　米麥及蠶繭ノ豫想報告ニ關スル事項

第五條　會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項
二　外國貿易ニ關スル事項
三　商業會議所及商業組合ニ關スル事項
四　他課ノ主掌ニ屬セサル事項

第六條　農務局ニ農政課農產課畜產課及牧馬課ヲ置ク

第七條　農政課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　農政上諸般ノ調查ニ關スル事項
二　農會及農業組合ニ關スル事項
三　土地整理及農業水利ニ關スル事項
四　農事講習及巡廻敎師ニ關スル事項
五　他課ノ主掌ニ屬セサル事項

第八條　農產課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　農產物ノ改良ニ關スル事項
二　病蟲害ノ豫防驅除ニ關スル事項
三　開墾ニ關スル事項
四　蠶絲業茶業ノ改良ニ關スル事項
五　種苗檢查ニ關スル事項

第九條　畜產課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　畜產ノ改良ニ關スル事項
二　家畜衞生ニ關スル事項
三　種畜檢查ニ關スル事項
四　獸醫及蹄鐵工ニ關スル事項
五　狩獵ニ關スル事項

第十條　牧馬課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　馬匹改良ニ關スル事項
二　種馬檢查ニ關スル事項
三　種馬牧場及種馬所ノ監督ニ關スル事項

第十一條　商工局ニ商事課會社課工務課權度課及商品陳列館ヲ置ク

第十二條　商事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　商業ニ關スル事項
二　外國貿易ニ關スル事項
三　商業會議所及商業組合ニ關スル事項
四　他課ノ主掌ニ屬セサル事項

第十三條　會社課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　會社及其債券ニ關スル事項
二　取引所ニ關スル事項
三　仲立人及其組合ニ關スル事項
四　保險營業ニ關スル事項

第十四條　工務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　工業組合ニ關スル事項
二　工場ノ位置構造及煙突等ノ取締ニ關スル事項
三　職工徒弟ノ扶助、使役、衞生及敎育等ニ關スル事項
四　工業及工藝品ノ改良試驗ニ關スル事項

第十五條　權度課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　度量衡原器、副原器ノ保管竝地方原器、製作修復原器及檢定用具ノ製作交付修理ニ關スル事項
二　度量衡器ノ檢定取締及其製作、修復販賣ノ免許ニ關スル事項
三　度量衡ノ比較調查及改良試驗ニ關スル事項
四　「メートル」條約ニ關スル事項

第十六條　商品陳列館ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　內外國產陳列品ニ關スル事項
二　公報通信及圖書ニ關スル事項
三　陳列館ノ會計及陳列室ノ取締ニ關スル事項

第十七條　山林局ニ林政課林業課及調查課ヲ置ク

第十八條　林政課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　公有林、社寺林及私有林ノ營林監督ニ關スル事項
二　大小林區署事務及事業ノ監督ニ關スル事項
三　保安林及國土保安ニ關係アル森林ニ關スル事項
四　國土保安上必要ナル土地買上ニ關スル事項
五　保安林臺帳ニ關スル事項
六　地方森林會ニ關スル事項
七　林業組合ニ關スル事項
八　林業ノ奬勵ニ關スル事項
九　國有林野ノ臺帳ニ關スル事項
十　國有林野ノ貸下拂下讓與組替ニ關スル事項
十一　不要存置國有林野ノ整理ニ關スル事項
十二　國有林野ノ交換ニ關スル事項
十三　主副產物ノ拂下及無料採收ニ關スル事項
十四　社寺上地林ノ委託ニ關スル事項
十五　國有林野ノ編入除却ニ關スル事項
十六　小林區及保護區ノ設置變更ニ關スル事項
十七　盜伐侵墾盜害其他被害處分ニ關スル事項
十八　森林原野ノ爭議及訴訟ニ關スル事項
十九　物品竝器具書籍保管ニ關スル事項
二十　他課ノ主掌ニ屬セサル事項

第十九條　林業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　國有林野ノ施業案編成及檢閱ニ關スル事項
二　國有林野ノ諸事業豫定案ニ關スル事項
三　國有林野ノ收入豫算ニ關スル事項
四　國有林野ノ實況調查ニ關スル事項
五　國有林野ノ造林事業ニ關スル事項
六　國有林野ノ伐木事業ニ關スル事項
七　國有林野ノ防火線及木材運搬ノ道路水路ノ工事ニ關スル事項
八　國營調製竝保管ニ關スル事項
九　國有林野地ノ境界調查ニ關スル事項
十　國有林野地ノ測量及地圖ニ關スル事項
十一　地圖謄寫竝測量製圖器械保存ノ事項
十二　林業標木類ノ保管ニ關スル事項
十三　林業ノ試驗ニ關スル事項

第二十條　調查課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　林野及立木竹ノ官民有區分ノ審理立案ニ關スル事項

第二十一條　鑛山局ニ調查課及監督課ヲ置ク

第二十二條　調查課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　鑛業ノ許否竝取消ニ關スル事項
二　鑛山監督署事務ノ監督ニ關スル事項
三　法令ノ編制竝解釋ニ關スル事項
四　訴訟、訴願裁定竝諮順ニ關スル事項
五　他課ノ主掌ニ屬セサル事項

第二十三條　監督課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　鑛業ノ保護監督ニ關スル事項
二　鑛山ノ元簿ニ關スル事項
三　測量竝製圖ニ關スル事項
四　臨時鑛區調查ニ關スル事項
五　圖書竝諸器械類ノ取扱ニ關スル事項

第二十四條　特許局ニ審判課發明審查課意匠審查課商標審查課庶務課圖書館及外事掛ヲ置ク

第二十五條　審判事ニ於テハ審判ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十六條　發明審查課ニ於テハ機械化學及化氣工業ノ發明ノ審查再審查及抵觸審查ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十七條　意匠審查課ニ於テハ意匠ノ審查及再審查ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十八條　商標審查課ニ於テハ商標ノ審查及再審查ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十九條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　特許願書及意匠商標登錄願書檢閱ニ關スル事項
二　原簿登錄ニ關スル事項
三　登錄通知ニ關スル事項
四　讓渡、共有及質入ノ登錄ニ關スル事項
五　特許證及登錄謄發行ニ關スル事項
六　公文通信ニ關スル事項

第三十條　調查課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

製鐵所官制

明治三十九年三月勅令第百十二號

第一條　製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事ヲ掌理ス

第二條　製鐵所ニ所長一人ヲ置キ勅任トス所長ハ農商務大臣ノ指揮ヲ承ケ署中諸般ノ事務ヲ掌理ス

第三條　所長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　製鐵所ニ技師ヲ置キ奏任トス技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　製鐵所ニ書記ヲ置キ判任トス書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　製鐵所ニ技手ヲ置キ判任トス技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第七條　製鐵所ニ雇員ヲ置キ判任トス雇員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　製鐵所ニ技手見習ヲ置キ判任トス技手見習ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第十一條　製鐵所ニ書記見習ヲ置キ判任トス書記見習ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條　製鐵所ニ職工見習ヲ置キ判任トス職工見習ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第十三條　製鐵所ニ傭員見習ヲ置キ判任トス傭員見習ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十四條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十五條　製鐵所ニ職工見習ヲ置キ判任トス職工見習ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第十六條　製鐵所ニ傭員見習ヲ置キ判任トス傭員見習ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十七條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第十九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二十二條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十三條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十四條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二十五條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十六條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十七條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二十八條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十九條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第三十一條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十二條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十三條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第三十四條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十五條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十六條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第三十七條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十八條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十九條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第四十條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十一條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十二條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第四十三條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十五條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第四十六條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十七條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第四十九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十一條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第五十二條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十三條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十四條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第五十五條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十六條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十七條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第五十八條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五十九條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第六十一條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十二條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十三條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第六十四條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十五條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十六條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第六十七條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十八條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六十九條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第七十條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十一條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十二條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第七十三條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十四條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十五條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第七十六條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十七條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七十八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第七十九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十一條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第八十二條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十三條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十四條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第八十五條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十六條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十七條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第八十八條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八十九條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第九十一條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十二條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十三條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第九十四條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十五條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十六條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第九十七條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十八條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九十九條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百一條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百二條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百三條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百四條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百五條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百六條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百七條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百十條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百十一條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百十二條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百十三條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百十四條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百十五條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百十六條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百十七條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百十八條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百十九條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百二十條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百二十一條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百二十二條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百二十三條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百二十四條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百二十五條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百二十六條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百二十七條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百二十八條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百二十九條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百三十條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百三十一條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百三十二條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百三十三條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百三十四條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百三十五條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百三十六條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百三十七條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百三十八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百三十九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百四十條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百四十一條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百四十二條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百四十三條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百四十四條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百四十五條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百四十六條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百四十七條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百四十八條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百四十九條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百五十條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百五十一條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百五十二條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百五十三條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百五十四條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百五十五條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百五十六條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百五十七條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百五十八條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百五十九條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百六十條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百六十一條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百六十二條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百六十三條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百六十四條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百六十五條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百六十六條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百六十七條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百六十八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百六十九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百七十條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百七十一條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百七十二條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百七十三條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百七十四條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百七十五條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百七十六條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百七十七條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百七十八條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百七十九條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百八十條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百八十一條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百八十二條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百八十三條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百八十四條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百八十五條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百八十六條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百八十七條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百八十八條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百八十九條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百九十條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百九十一條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百九十二條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百九十三條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百九十四條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百九十五條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百九十六條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百九十七條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百九十八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第百九十九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百一條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百二條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百三條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百四條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百五條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百六條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百七條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百八條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百九條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百十條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百十一條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百十二條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百十三條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百十四條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百十五條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百十六條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百十七條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百十八條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百十九條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百二十條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百二十一條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百二十二條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百二十三條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百二十四條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百二十五條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百二十六條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百二十七條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百二十八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百二十九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百三十條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百三十一條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百三十二條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百三十三條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百三十四條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百三十五條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百三十六條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百三十七條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百三十八條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百三十九條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百四十條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百四十一條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百四十二條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百四十三條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百四十四條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百四十五條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百四十六條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百四十七條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百四十八條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百四十九條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百五十條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百五十一條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百五十二條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百五十三條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百五十四條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百五十五條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百五十六條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百五十七條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百五十八條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百五十九條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百六十條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百六十一條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百六十二條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百六十三條　製鐵所ニ雇ヲ置キ判任トス雇ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百六十四條　製鐵所ニ職工ヲ置キ判任トス職工ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工業ニ從事ス

第二百六十五條　製鐵所ニ傭員ヲ置キ判任トス傭員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二百六十六條　製鐵所ニ雇

第四條　鑛山監督官ハ奏任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ十二人ヲ以テ定員トス鑛山監督ニ分屬シテ署務ニ從事ス

第五條　鑛山監督官補ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ六十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第六條　書記ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　鑛山監督署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

（別表鑛山監督署名稱位置管轄區域裁署之）

◎廣島鑛山官制

明治二十六年十月勅令第百四十號

改廣島鑛山官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

廣島鑛山官制

第一條　廣島鑛山ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ廣島鑛山ノ事業經營ニ關スル事務ヲ掌ル（明治三十一年十月勅令第二百九十四號ヲ以テ本條ヲ改メ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第二條　廣島鑛山ニ左ノ職員ヲ置ク

管理長

理事

技師

技手

第三條　管理長ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廣島鑛山一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　理事ハ管理長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル

第五條　管理長ハ廣島縣知事、理事ハ廣島縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　技師ハ一人ヲ以テ定員トス管理長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理ス

第七條　技手ハ十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス（同上）

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

◎貿易品陳列館官制廢止

明治三十年六月勅令第百八十四號

貿易品陳列館官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

貿易品陳列館官制ハ本年勅令第百八十三號農商務省官制廢止ノ日ヨリ廢止ス

◎農事試驗場官制

明治二十六年四月勅令第十八號

改農事試驗場官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

農事試驗場官制

第一條　農事試驗場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　農產ノ增殖改良ニ關スル試驗

二　巡回講話

三　土壤、肥料、農產物、農產製造品其他農業上ニ關係アル物料ノ分析鑑定（明治二十九年三月勅令第五十一號ヲ以テ本號改正）

第二條　農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

技師

技手

書記

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル專任技師ハ三十八人ヲ以テ定員トス（明治三十二年三月勅令第八十八號ヲ以テ本條改正）

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス專任技手ハ二十五人ヲ以テ定員トス（同上）

第六條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス專任書記ハ九人ヲ以テ定員トス（同上）

第七條　農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ農事試驗支場ヲ置キ農事試驗場職員ヲ派シ本場ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條　農事試驗場及支場ノ名稱位置及管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

◎大林區署官制

明治三十年六月勅令第百八十六號

大林區署官制

第一條　大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル（明治三十年十二月勅令第四百五十四號ヲ以テ一、二ノ二項ヲ改ム）

一　國有林野ノ保管經營及利用ニ關スル事項

二　部分林ニ關スル事項

三　森林ノ監督ニ關スル事項

第二條　大林區署ニ左ノ職員ヲ置ク

林務官

林務官補

營林主事

書記

營林主事補

森林監守

第三條　各大林區署長ハ一人林務官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　林務官ハ奏任トシ各大林區署ヲ通シテ三十二人ヲ以テ定員トス

大林區署ニ分屬シ署務ニ從事ス（明治三十一年十月勅令第二百八十三號ヲ以テ定員ヲ減シ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第五條　林務官補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ八十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第六條　營林主事ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ二百五十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ營林事務及森林調查ニ從事ス（同上）

第七條　書記ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ百五十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス（同上）

第八條　營林主事補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ七百三十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事シ營林事務及森林調查ヲ分掌ス

第九條　森林監守ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ四百八十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事ス（同上）

第十條　大林區署ノ事務ヲ分掌スル爲メ管轄內緊要ノ地ニ小林區署ヲ置ク

各小林區署長ハ一人營林主事ヲ以テ之ニ充テ大林區署長若ハ大林區支署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第十一條　（明治三十年十二月勅令第四百五十四號ヲ以テ本條ヲ削ル）

第十二條　大林區署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十三條　小林區署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル（同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム）

附則

第十四條　明治二十六年勅令第百四十七號大小林區署官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表大林區署名稱位置管轄區域裁署之）

◎大林區署長監督事務取扱心得

明治三十一年六月農商務省訓令第十號

大林區署長森林監督事務取扱心得左ノ通定ム

大林區署長森林監督事務取扱心得

第一條　大林區署長ハ森林法第三條第七條第二十一條乃至第二十三條第五十五條ノ施行ヲ要スルモノト認メ又ハ第四條第五條第二十三條第二十四條ノ指定ニ適當シタル者ヲ發見シタルトキハ其旨ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第二條　大林區署長ハ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認ムルトキハ森林法施

行細則第二條及第三條ニ依リ其ノ旨ヲ府縣知事ニ通知スヘシ
第三條　大林區署長ハ左ノ事項ニ對シ意見アルトキハ農商務大臣ニ稟申スヘシ
一　保安林ニ對スル營林保護ノ指定使用收益ノ制限
二　國土保安ニ關係アル林野ノ開墾
三　公有林、社寺林、私有林ノ營林方法
第四條　大林區署長ハ國土保安上保安林トシテ民有地ノ買上ヲ必要ト認メタルトキハ府縣知事ニ通知スヘシ

◎小林區監督規程

明治三十一年六月農商務省訓令第十一號

小林區監督規程左ノ通定ム

小林區監督規程

第一條　大林區署長ハ此規程ニ依リ管轄内小林區業務ノ監督ヲナスヘシ
第二條　大林區署長ハ林務官、林務官補ヲ監督員トシ業務ノ監督ヲ分掌セシムヘシ但營林主事又ハ書記ヲ以テ監督員心得トナスコトヲ得
第三條　大林區署長ハ監督事務施行ノ爲メ管轄内ヲ區分シ監督區ヲ設クヘシ
第四條　大林區署長ハ監督事務上必要ト認ムルトキハ其細則ヲ定ムルコトヲ得
第五條　小林區監督ヲ分チテ事務檢閲、林野實査及職員服務ノ三トス
第六條　大林區署長ハ毎年度一回以上監督員ヲ派遣シテ事務檢閲及林野實査ヲ施行セシムヘシ
第七條　事務檢閲ニ於テハ小林區署備付ノ諸帳簿類、書類、官舍、極印、器具、機械ヲ檢閲スヘシ
第八條　林野實査ニ於テハ伐採跡地、造林地、苗圃、伐木又ハ林產物製造事業場、林產物貯藏場、事業簽定案編成ノ場所、被害ノ場所及譲約拂下地、社寺上地委託林等ヲ實地ニ就キ踏査スヘシ
第九條　監督員ハ檢閲又ハ實査ノ後左ノ各號ニ就テハ大林區署長ニ復命書ヲ差出スヘシ

一　成規定例ニ違背セシ事項
二　事業上ノ不成績ニ係ル事項
三　事務上ノ不整理ニ係ル事項
四　官舍物品類ノ不取締ニ係ル事項
五　大林區署長ノ特ニ復命ヲ命シタル事項

第十條　監督員ハ必要ト認ムルトキハ主任官吏ヨリ始末書ヲ徵シ之ヲ復命書ニ添付スヘシ
第十一條　監督員ハ常ニ職員ノ服務ニ注意シ且隨時森林手簿ヲ檢閲スヘシ但森林手簿ノ檢閲ヲ了シタルトキハ檢印ヲ捺スヘシ
第十二條　大林區署長ハ小林區署交代事務引繼及林產物公賣、造林事業實行ノ際ニハ可成監督員ヲシテ立會セシムヘシ
第十三條　第二條第三條第四條ノ場合ニ於テハ其都度報告スヘシ

◎森林監督規程

明治三十一年六月農商務省訓令第十四號

森林監督規程左ノ通定ム

森林監督規程

第一條　森林監督官ハ農商務大臣ノ命ニ依リ左ノ事項ヲ監察ス
一　保安林ニ對スル營林保護ノ指定使用收益ノ制限及國土保安ニ關係アル森林ノ開墾禁止ニ就テノ實況竝ニ效果
二　公有林、社寺林及私有林ノ營林方法
三　大小林區署ノ業務

前項ニ揭ケル事項ノ外仍ホ特ニ監察セシムルコトアルヘシ
第二條　森林監督官ハ出張巡廻中監察事項ニ就キ府縣知事又ハ大林區署長ニ照會往復スルコトヲ得
第三條　森林監督官ハ監察ノ事項ニシテ監督上處分ヲ要スルモノト認メタルモノハ山林局長ヲ經テ農商務大臣ニ具申スヘシ
第四條　森林監督官ハ監察事項ニ就テハ指揮命令ヲ爲スコトヲ得ス但法律命令又ハ成規ニ違背シ若クハ輕常ナラサル行爲ニシテ事ノ重大ニ渉ルモノハ之ヲ中止スルコトヲ得

◎林野整理局官制

明治三十二年四月勅令第百五十號

朕林野整理局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

林野整理局官制

第一條　林野整理局ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ國有林野ノ處分、國有林ノ實測、施業案ノ編製、造林及森林實上ニ係ル特別經營ノ業務ヲ掌ル
各大林區署所在地ニ林野整理支局ヲ置キ林野整理局ノ業務ヲ分掌セシム
第二條　林野整理局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	勅任
書記官	奏任
監督官	奏任
支局長	奏任
監督官補	奏任
技師	判任
屬	判任
技手	

支局長監督官補及技師ハ林野整理支局ニ屬及技手ハ林野整理局及支局ニ勤務セシム
第三條　局長ハ農商務省山林局長ヲシテ之ヲ兼ヌシム農商務大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス
第四條　書記官ハ奏任二人トス上官ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌ル
第五條　監督官ハ奏任四人トス上官ノ命ヲ承ケ支局業務ノ監督事務及局中各課ノ事務ヲ掌理ス
第六條　支局長ハ支局所在地ノ大林區署長タル林務官ヲシテ之ヲ兼ネシム上官ノ命ヲ承ケ所管ノ事務ヲ掌理ス
第七條　監督官補ハ奏任十六人トス林野整理業務ノ監督及支局中ノ庶務ヲ掌ル
第八條　技師ハ奏任十六人トス
第九條　屬技手ハ通シテ奏任二百十八人トス

屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十條　林野整理支局ノ管轄區域ハ其所在地大林區署ノ管轄區域ニ依ル
第十一條　農商務大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ林野整理支局出張所ヲ置クコトヲ得

◎林野整理支局長職務章程

明治三十二年四月農商務省訓令第十八號

林野整理支局長職務章程左ノ通定ム

林野整理支局長職務章程

第一條　林野整理支局長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付總テ其責ニ任ス
第二條　林野整理支局長ハ管内ヲ旅行シ又ハ部下ノ官吏ニ管内外ノ旅行ヲ命スルコトヲ得
部下ノ官吏ニ管外旅行ヲ命シタルトキハ其事由ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ
第三條　林野整理支局長ハ事務整理ノ爲メ處務規程ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ
第四條　林野整理支局長ハ左ニ揭ケル事項ニ付テハ之ヲ專決スルコトヲ得
一　不要存置林野及其產物ノ競爭契約ニ依ル賣拂ノコト
二　段別一町歩以内ニシテ見積價格三百圓ヲ超エサル不要存置林野ノ隨意契約ニ依ル賣拂ノコト
三　見積價格二百圓ヲ超エサル不要存置林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ノコト
四　一口金額五百圓ヲ超エサル造林其他ノ事業ノ隨意契約ニ依ル受負又ハ人夫物件ノ供給ノコト
五　造林豫定案ノ變更ノコト
但假計ノ大體ニ變更ヲ來タシ又ハ類別各項ノ金額ヲ轉用セントスルモノハ此限ニアラス
六　調査區ノ設置及調査組ノ配置ノコト

七　造林事業施行上伐採ヲ要スル造林地上ノ木竹斫伐ノコト
八　處分調査上境界ノ査定、實測及産物ノ材積數量調査ノ爲メ伐採ヲ要スル産物ノ斫伐又ハ採收ノコト
九　一箇所金二百圓ヲ超エサル新營及修繕ノコト
十　一箇金百圓ヲ超エサル物件購買及不用物件賣拂ノコト
十一　競爭契約ニ依ル物件ノ購買及事業ニ關スル諸契約ノコト
十二　金額五十圓ヲ超エサル手當又ハ謝金ヲ要スル事務囑託ノコト
十三　謝金二百圓ヲ超エサル辯護士雇入ノコト
十四　經伺ノ暇ナキ緊急ノ訴訟提起ノコト
十五　部下官吏ノ歸省、看護、葬參、轉地療養及除服出仕許否ノコト
十六　月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル雇員命免ノコト
十七　部下官吏ニ支局出張所在勤命免ノコト
十八　一市町村内ニ於ケル支局出張所ノ位置變更ノコト

第五條　林野整理支局長ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ區別ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ
一　前條六號中調査區ニ依ルモノハ設置及變更ノ都度調査組ハ配置及變更ノ都度
二　前條十四號ニ依リ訴訟ヲ提起シタルトキ及其裁判確定シタルトキ
三　前條十七號ニ依リ部下官吏ニ支局出張所在勤ヲ命免シタルトキ
四　前條十八號ニ依リ吏局出張所ノ位置ヲ變更シタルトキ

◎林野整理審査會規則

明治三十二年四月勅令第百七十九號

朕林野整理審査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

林野整理審査會規則

第一條　林野整理審査會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ國有林野ノ特別經營ニ關スル重要ノ事項ニ就キ農商務大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　林野整理審査會ハ會長一人委員十一人ヲ以テ組織ス
委員ハ農商務省高等官四人、内務省高等官二人、陸軍省、海軍省、大藏省、文部省及遞信省高等官各一人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外五人以内ノ臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條　會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ
會長委員及臨時委長ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス

第六條　會長事故アルトキハ委員中上席ノ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第七條　林野整理審査會ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第八條　林野整理審査會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
書記ハ林野整理局判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第九條　林野整理審査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

◎臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員ノ件

明治三十二年四月勅令第百五十一號

朕臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　臨時林野下戻處分ノ調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ山林局ニ屬セシム
山林局事務官　奏任
山林局技師
山林局鑑定官　奏任
山林局屬　判任
山林局技手

第二條　山林局事務官ハ專任三人山林局技師ハ專任二人山林局鑑定官ハ一人山林局屬及技手ハ通シテ五十四人ヲ以テ定員トス

第三條　山林局鑑定官ノ官等ハ高等官六等以下トシ其ノ年俸ハ八百圓以下トス

第四條　農商務大臣ハ事務ノ必要ニ依リ第一條ノ職員ヲ大林區署ニ勤務セシムルコトヲ得

◎國有林野處分調査規程

明治三十二年四月農商務省訓令第二十二號

國有林野處分調査規程左ノ通定ム

國有林野處分調査規程

第一章　總則

第一條　國有林野處分ノ爲メ調査スヘキ事項左ノ如シ
一　明治二十三年(四月)農商務省丙林第一三六號達官有林野實況調査内規(以下略シテ單ニ實況調査内規ト稱ス)及明治二十六年(七月)農商務大臣内訓官有森林原野實況調査方針(以下略シテ單ニ實況調査方針ト稱ス)ニ基キ調査シタル要存置不要存置林野ノ區別ノ適否
二　實況調査ノ際存廢區別未定若ハ調査脱落ノ林野ニ在リテハ要存置不要存置ノ區別
三　不要存置林野ノ面積、價格及其産物ノ材積、數量竝ニ價格
四　其他不要存置林野ノ賣拂處分ニ付準備上必要ナル事項

第二條　調査員ハ林野整理支局在勤判任官ヲ以テ之ニ充テ林野整理支局長之ヲ指揮監督スヘシ

第三條　林野整理支局長ハ調査員ヲ數組ニ分チ各調査區ニ派遣スヘシ
一組ハ判任官一名若ハ二名ヲ以テ組織シ之ニ雇員又ハ人夫ヲ附屬セシムルコトヲ得
調査區ハ小林區ノ管轄區域ニ從ヒ林野整理支局長之ヲ定ムヘシ

第四條　調査ハ經濟上優位ニシテ不要存置タルヘキ林野ノ多數ナル調査區ヨリ先ニスヘシ一調査區内ノ調査ニ付テモ亦同シ

第五條　調査ノ順序ハ存廢區別ノ調査ヲ先ニシ順次第三章乃至第七章ノ調査ヲ爲スヘシ但存廢區別ノ調査必要ナキ場合其他第三章乃至第七章ノ順序ニ依ルノ必要ナキ場合ニハ此限ニアラス

第六條　調査員ハ調査著手前ニ簿書ニ付受命調査區内ノ林野ニ對シ年期貸付、主副産物ノ年期賣拂、副産物ノ年期無料採收、部分林、豫約賣拂其他總テ林野ニ附帶スル義務ノ有無ヲ調査シ其調査ヲ携帶スヘシ

第七條　豫約賣拂林野ニシテ成功年限中ニ係ルモノハ第三章乃至第六章ノ調査ヲ爲スコトヲ要セス

第八條　豫約賣拂林野ニシテ事業不成功其他ノ原因ニ依リ返地セシメタルモノハ本規程ノ調査ヲ爲スヘシ

第九條　開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲メ貸付シタル林野ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第十條　調査ハ小林區署職員ノ立會ヲ求メ之ヲ施行スヘシ但林野整理支局長ニ於テ立會ノ必要ナシト認ムル場合ハ此限ニアラス

第十一條　義務ノ附帶スル林野ノ境界査定、産物ノ材積及數量ノ調査ニハ可成其權利者ヲ立會ハシムヘシ

第二章　調査書類

第十二條　調査員ハ林野整理局長ノ定ムル樣式ニ從ヒ要存置不要存置林野區別表(以下略シテ單ニ區別表ト稱ス)不要存置林野調査書(以下略シテ單ニ調査書ト稱ス)及不要存置林野實測圖(以下略シテ單ニ實測圖ト稱ス)ヲ調製スヘシ
前項ノ書類ハ之ヲ市町村別ニ編綴シ毎月三回林野整理支局長ニ差出スヘシ

第十三條　區別表ニハ要存置不要存置林野ノ區別面積價格及其事由ヲ記載スヘシ

第十四條　調査書ニハ不要存置林野ニ關スル一切ノ調査事項ヲ記載スヘシ
調査書ハ一箇所毎ニ用紙一葉ヲ充ツヘシ用紙ニ欄行ナキ事項アル場合又ハ欄行不足セル場合ニハ第二頁ニ之ヲ記載スヘシ

第十五條　調査書ニハ其欄外ニ調査ノ年月日ヲ記載シ調査員及立會官吏

署名捺印スヘシ

第十六條　實測圖ハ寫水引美濃紙半片一枚又ハ二枚以上ヲ繼キタル用紙ヲ用ヒ第四章ノ規定ニ從ヒ之ヲ調製スヘシ

實測圖ハ一箇所毎ニ用紙一葉ヲ充ツヘシ

實測圖ハ當該箇所調査書ノ第二頁ニ貼付シ又ハ次葉ニ編綴スヘシ

第十七條　林野整理支局長一調査區全部ノ調査報告書類ヲ受取リタルトキハ十五日以内ニ林野整理局長ノ定ムル樣式ニ從ヒ各調査區ニ分チ不要存置林野調査總括表ヲ調製スヘシ

第十八條　文字ハ楷書體ニテ明記シ訂正、挿入、削除等ヲ爲ス場合ニハ之ヲ朱記シ其箇所ニ檢印スヘシ

第三章　存廢區別ノ調査

第十九條　存廢區別ノ再調査ハ實況調査內規及實況調査方針ニ準據シ實地ニ就キ踏査スヘシ

實況調査ノ際存廢區別未定及調査脫落箇所ノ調査ニ付テモ亦同シ

第二十條　存廢區別ハ前條ノ外左ノ各號ヲ參酌シテ定ムヘシ

一　面積ヲ以テ存廢ノ標準ト爲スヘキ場合ニハ實際ノ見込面積ニ據ルヘシ

二　實況調査方針第二號ニ依リ存廢ヲ區別スヘキ場合ニハ左ノ事項ヲ參酌スヘシ

(イ)　地元及關係町村ノ耕地面積竝ニ牛馬ノ頭數

(ロ)　耕地ノ肥料及秣草ニ需要スル芝草ノ數量

(ハ)　民有林野放牧ノ慣行アル國有林野ヨリ供給スル芝草ノ數量

三　平坦地又ハ丘阜地等ニシテ容易ニ田畑ニ開墾シ得ヘキモノ及桑、柑類、漆、楮其他農業ニ屬スル果樹ノ植栽ニ適スルモノハ實況調査方針第一號ニ依リ固有農地ト認ムヘキモノトス

四　保安林ト雖利害ノ關係極メテ小ナルモノハ存置ヲ要セサルモノトス但調査書ニハ其保安林タルコトヲ記載スヘシ

五　無立木地若ハ岩石地等ニシテ收入ノ見込ナキ林野又ハ交通極メテ不便ナル位置ニ在ル林野等ニシテ民有ニ適セサルモノハ存置スヘキモノトス

第二十一條　河川法ニ依ル河川ノ區域、砂防法ニ依ル砂防設備又ハ航路標識其他國防上必要ナリト認ムヘキ林野ハ林野整理支局長ノ指揮ヲ受ケ存廢區別ヲ定ムヘシ

第二十二條　存廢區別再調査ノ結果カ實況調査ノ成績ト異ナルトキハ林野整理支局長ノ指揮ヲ受ケ存廢區別ヲ定ムヘシ

第四章　境界査定、實測及面積算定

第二十三條　境界ノ明瞭ナラサル林野ハ査定ヲ施行シタル上實測ヲ爲スヘシ但從前實測濟ノ林野ニ付テハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十四條　民地官木ノ森林ニ付テハ境界査定及實測ヲ爲スコトヲ要セス但產物ノ材積及數量ノ調査ノ爲必要ナリト認ムルモノニ在リテハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二十五條　實測ハ布鏡簡測器以上ノ精良ナル測器竝ニ測鍊、竹繩若ハ間繩ヲ使用シテ之ヲ爲スヘシ但面積一町歩以下ノ平地林野ニ在リテハ平面板若ハ羅針盤ヲ使用スルコトヲ得

第二十六條　實測圖調製ニ使用スル縮尺ハ可成左ノ區別ニ依ルヘシ

面積五段歩未滿	六百分ノ一
面積一町歩未滿	千分ノ一
面積五町歩未滿	二千分ノ一
面積十町歩未滿	三千分ノ一
面積十町歩以上	四千分ノ一

從前實測濟ノ林野ニ付テモ前項ニ依リ圖面ヲ調製スヘシ

第二十七條　市町村ノ附近ニ在ル林野其他經濟上特別ノ價值アル林野ニ付テハ實測ハ可成精良ナル器械ヲ用ヒ製圖ハ可成大ナル縮尺ヲ用フヘシ

第二十八條　林野內ニ左ニ揭ケル箇所アルトキハ實測圖面ニ其位置ヲ表示スヘシ

一　溫泉數地、礦泉數地、鹽田又ハ貯木場其他經濟上特殊ノ目的ニ供用シ得ヘキ土地

二　年期賃地、部分林、豫約賣拂其他義務ノ附帶スル土地

前項第一號ノ土地ニ付テハ別ニ其部分ヲ實測シ六十分ノ一ノ縮尺ヲ用ヒテ別圖ヲ調製シ之ヲ全圖ニ添付スヘシ

第二十九條　實測圖ノ調製終リタルトキハ從前實測濟ノモノヲ除ケノ外圖面ニ三斜線ヲ劃シ三斜法ニ依リ面積ヲ計算スヘシ

各三角形ノ面積及總面積ハ之ヲ圖面ニ記載スヘシ

第五章　產物ノ材積及數量ノ調査

第三十條　貴重樹種ノ森林ニ在リテハ全林ノ樹木ニ付材積ヲ計算シ薪炭林及未成樹林ニ在リテハ標準地ヲ選定シ標準地內ノ材積ヲ計算シテ全材ノ總材積ヲ算出スヘシ但林相混淆複雜又ハ立木群生等ノ爲準標地ヲ選定シ難キモノハ此限ニアラス

標準地ノ面積ハ全面積ノ百分ノ五以上トシ其ノ最小面積ハ一段歩トス

第三十一條　官地民木ノ森林ハ產物ノ材積及數量ヲ調査スルコトヲ要セス

第三十二條　林野內ニ主產物年期賣拂ニ係ルモノアルトキハ其賣拂フヘキ樹木ヲ控除シ殘餘ノモノニ付材積ヲ計算スヘシ

第三十三條　部分林ノ主產物ハ全林ノ材積調査ヲ爲シ分收ノ部合ニ依テ國有ニ屬スヘキモノヲ算出スヘシ土地ノ區域ニ依リ分收スル場合ニ在リテハ國有ニ屬スル區域ノ材積ヲ調査スヘシ

第三十四條　材積ノ調査ハ胸高ノ直徑若ハ周圍及各直徑ノ平均高サヲ測リ之ヲ爲スヘシ直徑級ハ一寸毎ニ階級ヲ設クヘシ

第三十五條　材積ノ計算ニ用フヘキ形數ハ左ノ標準ニ依ルヘシ但各地方ニ於テ實驗上調査ニ係ル形數ヲ用フルモ妨ナシ

針葉樹（闊葉樹ニ之ヲ準用ス）

形數等級	高サ（全長）	形數
一等	二十間未滿	〇、四六
二等	十五間未滿	〇、四八
三等	十間未滿	〇、五〇
四等	七間未滿	〇、五三
五等	五間未滿	〇、五五
六等	三間未滿	〇、六〇

雜木

形數等級	直徑（胸高）	形數
一等	五寸以上	〇、七五
二等	二寸以上	〇、六〇
三等	一寸以上	〇、五五
四等	一寸未滿	〇、三〇

第三十六條　人工植栽ノ幼樹ニ在リテハ植栽苗數年度、補植苗數年度等ヲ調査スヘシ

幼樹ト稱スルハ針葉樹林ニ在リテハ十五年生以下雜木林ニ在リテハ五年生以上トス但樹種又ハ地方ノ狀況ニ依リ之ヲ伸縮スルモ妨ナシ

第三十七條　假值ヲ有セサル種樹及下芝等ノ材積又ハ數量ノ調査ヲ爲スヲ要セス

第三十八條　竹林ハ其種類品質ノ良否ヲ參酌シ總面積ノ百分ノ一以上ノ標準地ニ據リ全數量ヲ算出スヘシ

第三十九條　副產物ハ左ノ方法ニ依リ數量ヲ調査スヘシ

一　菌糞、筍、下草又ハ萠等連年生產アルモノハ既往三箇年間ノ平均生產額ヲ調査スヘシ既往ノ生產額ヲ知リ難キモノハ適宜ノ方法ニ依リ數量ヲ調査スヘシ

二　果樹、茶、桑、椿、三椏又ハ漆等林業ニ屬セサルモノハ各適宜ノ方法ニ依リ數量（木數、株數、大小等）ヲ調査スヘシ

三　建築材料其他經濟上特殊ノ目的ニ供セラルヘキ土石類ハ適宜ノ方法ニ依リ現存ノ總數量ヲ調査スヘシ

年期賣拂又ハ年期無料採取ヲ許可シタル副產物ニ付テモ亦前項ニ依リ數量ヲ調査スヘシ

第四十條　樹皮、樹液、藁又ハ落枝葉等主產物ノ一部ヲ爲スモノ又ハ假值ヲ有セサル副產物ハ其數量ヲ調査スルヲ要セス

第六章　價格ノ調査

第四十一條　林野ノ素地ニ付テハ比鄰類地ノ時價、比鄰類地ノ時價ヲ知リ難キトキハ附近類地ノ時價ヲ標準トシ地質地形及交通ノ便否等ヲ參酌シテ其價格ヲ定ムヘシ

比鄰若ハ附近ノ類地ノ時價ハ登記所ニ登記セラレタル賣買價格其他賣買ノ際ノ賣買相場ヲ標準トスヘシ

第四十二條　生産物ニ付テハ其地方ノ時價ヲ標準トシ既往營拂代價ヲ參酌シテ山元時價ヲ定ムヘシ

第四十三條　人工植栽ニ係ル幼樹ニ付テハ費用價（植栽費及其利子ヲ合算シタルモノ）ヲ以テ其價格トス

費用價計算ニ用フヘキ利率ハ年五分トス

第四十四條　副産物ニ付テハ左ノ方法ニ依リ其價格ヲ定ムヘシ

一　第三十九條第一項第一號ニ該當スルモノハ既往三箇年間ノ平均單價、平均單價ヲ知リ難キ場合ニ於テハ適宜ノ方法ニ依リ單價ヲ求メ其價格ヲ算出スヘシ

二　第三十九條第一項第二號及第三號ニ該當スルモノハ適宜ノ方法ニ依リ單價ヲ求メ其價格ヲ算出スヘシ

第四十五條　第二十八條第一項第一號ニ揭ケタル土地及第三十九條第一項第二號ニ揭ケタル果樹ノ價格ヲ調査スル場合其他必要アリト認ムルトキハ評價人ヲシテ評價セシムルコトヲ得

前項ノ評價人ハ林野整理支局長之ヲ選定ス

第七章　賣拂處分ノ參考トナルヘキ事項ノ調査

第四十六條　調査員ハ左ノ事項ヲ調査シ之ヲ調査書當該欄内ニ記載スヘシ

一　社寺委託林ニ付テハ受託社寺、委託許可年月、委託年限其他必要ト認ムル事項

二　部分林ニ對スル部分林仕付主及官地民木ノ森林ニ對スル民木所有者

三　道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ニ付テハ其借地人、實況其他必要ト認ムル事項

四　前號以外ノ年期貸付地ニ付テハ其借地人貸付ノ年月、貸付年限、借地ノ目的、借地ノ目的タル事業ノ實況及契約解除ニ依リテ受クヘキ借地人ノ損害其他必要ト認ムル事項

五　主副産物年期賣拂竝ニ副産物無料採取ヲ許可シタル林野ニ付テハ其權利者、許可ノ年月、許可年限其他必要ト認ムル事項

第八章　監督

第四十七條　調査員ハ林野整理支局長ヨリ交付スル森林手簿ヲ携帶シ日日左ノ事項ヲ記入スヘシ

一　執務ノ種類

二　外業ナルトキハ延里程

三　調査セシ林野ノ字名及面積

四　立會者ノ官氏名又ハ住所氏名

五　上官ノ監督檢閲ヲ受ケタルトキハ其要領

六　其他必要ト認ムル事項

第四十八條　明治二十四年（一月）皮第一一〇號達森林手簿携帶心得ハ其第二條ヲ除クノ外調査員ニ之ヲ準用ス

第四十九條　調査員ハ林野整理局長ノ定ムル樣式ニ從ヒ調査功程表ヲ調製シ每月三回林野整理支局長ニ差出スヘシ

第五十條　林野整理支局長ハ每月一回總組ノ調査功程一覽表ヲ調製シ翌月十日迄ニ農商務大臣ニ進達スヘシ

調査功程一覽表ノ樣式ハ調査功程表ノ樣式ニ準據スヘシ

第五十一條　林野整理支局長ハ部下ノ官吏ヲシテ少ナクトモ每月一回各調査區ヲ巡回セシメ調査員ノ監督ヲ爲スヘシ

前項監督ニ關スル規定ハ林野整理支局長之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條　林野整理支局長ハ第十二條第一項ノ書類ヲ檢閲シ調査不備ト認ムル事項アルトキハ其再調査ヲ爲スヘシ但直ニ決定シ得ヘキモノハ此限ニアラス

前項ノ再調査ハ前調査ニ干與セサル部下ノ官吏ニ命スヘシ

第五十三條　林野整理支局長ハ處分調査ノ結了シタルモノニ就テハ每月二回要存置不要存置區別總括表ヲ調査シ農商務大臣ニ進達シテ存廢區別及見積價格ノ認可ヲ受クヘシ

要存置不要存置區別總括表ノ樣式ハ第十二條ニ規定スルモノヲ準用ス

ヘシ

第九章　雜則

第五十四條　調査員ハ境界査定、實測及産物ノ材積、數量調査ノ爲メ必要ナル場合ニ限リ國有林野ノ産物ヲ所伐又ハ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ所伐又ハ採取シタル産物ハ直ニ當該小林區署長ニ引渡スヘシ

第五十五條　調査員ハ境界査定又ハ實測ノ爲メ國有ニ屬セサル支障木竹ヲ所伐スルノ必要アルトキハ豫メ其旨ヲ所有者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ所有者ヨリ補償ヲ求ムルトキハ其事件ヲ當該小林區署長ニ移スヘシ

第五十六條　調査員大林區署職員ノ立會ヲ必要ト認ムルトキハ此事由ヲ記シ林野整理支局長ニ請求スヘシ

第五十七條　調査員ハ野帳ヲ携帶シ境界査定、實測及産物ノ材積、數量調査等實地ニ於テ調査シタル事項ヲ記入スヘシ

第三條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　書記ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　各生絲檢査所ヲ通シテ專任技師七人專任技手十一人專任書記六人ヲ以テ定員トス（明治三十二年一月勅令第七號ヲ以テ定員ヲ改ム）

◎臨時鑛區調査ニ關スル職員ノ件

明治三十一年七月勅令第百六十八號

第一條　臨時鑛區調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時鑛區ノ調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ鑛山局ニ屬セシム

技師　專任三人

技手　專任四十二人

屬　專任七人

農商務大臣ハ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

◎生絲檢查所官制

明治二十八年七月勅令第九十三號

第一條　生絲檢查所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

生絲檢查所官制

第一條　生絲檢查所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

技手

書記

第二條　所長ハ一人奏任トス技師ヲシテ之ヲ兼ヌシム農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第三條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第四條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　書記ハ列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　各生絲檢查所ヲ通シテ專任技師七人專任技手十一人專任書記六人ヲ以テ定員トス（明治三十二年一月勅令第七號ヲ以テ定員ヲ改ム）

◎生絲檢查所臨時商議員規程

明治二十九年一月勅令第一號

朕生絲檢查所臨時商議員規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

生絲檢查所臨時商議員規程

第一條　生絲檢查所ニ臨時商議員十名以內ヲ置クコトヲ得

臨時商議員ハ橫濱若クハ神戸ニ於テ現ニ生絲ノ貿易ニ從事シ經驗アル者ノ中ヨリ農商務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第二條　臨時商議員ハ農商務大臣ノ諮詢ニ應シ生絲ノ檢查及之カ施行ニ必要ナル事項ヲ審議スルモノトス

蠶業講習所官制

勅令第三十二号　明治三十九年三月

廃蠶業講習所官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

蠶業講習所官制

第一條　蠶業講習所ハ二箇所トス農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　蠶業ニ關スル講習

二　蠶業ニ關スル試驗及調査

三　巡回講話

四　蠶種檢定

第二條　蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

舍監

技手

書記

第三條　所長ハ一人技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條　舍監ハ二人技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ諸室ノ取締ヲ掌ル

第六條　技手ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ニ從事ス

第七條　書記ハ例任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　蠶業講習所ニ通シテ技師七人ヲ以テ定員トス

技手十二人ヲ以テ定員トス

第九條　蠶業講習所ノ位記及名稱ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ生徒ヲ入學セシム

第十一條　蠶業講習所ニ別科ヲ置キ別ニ定ムル所ニ從ヒ生徒ヲ入學セシム

第十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ練習生ヲ入學セシム

第十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ傳習生ヲ入學セシム

第十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ巡回講話ヲ開設ス

第十五條　巡回講話ニ關スル規程ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ヲ製造シ及之ヲ頒布ス

第十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第四十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第五十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第六十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第七十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第八十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第九十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百二十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百三十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百四十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百五十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百六十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百七十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百八十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第百九十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百二十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百三十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百四十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百五十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百六十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百七十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百八十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第二百九十九條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三百條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三百一條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三百二條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三百三條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三百四條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三百五條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三百六條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三百七條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ從ヒ蠶種ノ檢査ヲ行フ

第三百八條　蠶業講習所ニ別ニ定ムル所ニ

臣ノ定ムル所ニ依ル

種馬牧場及種馬所處務規程

明治二十九年六月農商務省訓令第十七號

種馬牧場及種馬所處務規程左ノ通相定ム

種馬牧場及種馬所處務規程

第一條　種馬牧場長及種馬所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス

第二條　種馬牧場長及種馬所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第三條　種馬牧場長及種馬所長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上處務細則ヲ設クルコトヲ得

第四條　種馬牧場長及種馬所長ハ判任官以下ノ歸省看護募參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第五條　種馬牧場長及種馬所長ハ其主管業務ノ順序方法及其分任擔當ヲ定メ農務局長ノ承認ヲ受クヘシ

第六條　種馬牧場長及種馬所長ハ月俸拾貳圓又ハ日給五拾錢ヲ超ヘサル傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第七條　種馬牧場長及種馬所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第八條　馬匹共進會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ種馬牧場員又ハ種馬所員ノ出張巡廻ヲ申出ツル者アルトキハ種馬牧場長又ハ種馬所長ハ之ヲ許否スルコトヲ得

種馬牧場長又ハ種馬所長ノ出張ヲ要スル場合ニ於テ日數十日以内ナルトキハ農務局長ノ承認ヲ經歸任ノ後其旨ヲ農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　前條ニ於ケル場合ヲ除クノ外種馬牧場又ハ種馬所業務ノ爲メ場員又ハ所員ノ出張巡廻ヲ要スルトキハ種馬牧場長及種馬所長ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　種馬牧場長及種馬所長ハ毎年四月中前年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ係ル場員及所員ノ出張巡廻ノ日數度數場所及理由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十一條　種馬牧場長及種馬所長ハ其主管業務ノ成蹟ヲ審査編纂シ毎年二回農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條　農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

牧馬監督官官制廢止ノ件

明治三十一年十月勅令第二百九十二號

朕牧馬監督官官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

牧馬監督官官制ハ明治三十一年十月三十一日限リ廢止ス

馬匹調査會規則廢止ノ件

明治三十一年四月勅令第七十五號

朕馬匹調査會規則廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十八年勅令第七十七號馬匹調査會規則ヲ廢止ス

水産講習所官制

明治三十年三月勅令第四十七號

朕水産講習所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水産講習所官制

第一條　水産講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水産ノ傳習及試驗ニ關スル事ヲ掌ル（明治三十一年十月勅令第二百八十九號ヲ以テ本條ヲ改メ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第二條　水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　一人

監事　專任一人

技師　專任四人

教授　專任二人

技手　專任六人

助教　專任三人

書記　專任四人

第三條　所長ハ水産局長ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス（同上）

第四條　監事ハ奏任トス所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ處理ス

第五條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第六條　教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第八條　助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第九條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　農商務大臣ハ講習上ノ須要ニ依リ水産講習所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ得

第十一條　（同上法令ヲ以テ本條ヲ削ル施行期同上）

水産講習所處務規程

明治三十年四月農商務省訓令第六號

水産講習所處務規程左ノ通相定ム

水産講習所處務規程

第一條　水産講習所ニ左ノ三部ヲ置キ傳習及試驗事務ヲ分掌セシム

第二條　傳習部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　漁業、製造、養殖ニ關スル學理

二　漁業、製造、養殖ニ關スル實地

三　傳習生募集ニ關スルコト

四　傳習生取締ニ關スルコト

第三條　試驗部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　漁具製作及漁撈方法

二　水産物製造方法

三　養殖方法

第四條　庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　會計ニ關スルコト

二　地所、建物及物品會計ニ關スルコト

三　公文書類及成案文書ノ接受發遣ノコト

四　所中一切ノ公文書類編纂保存ノコト

五　所長ノ官印及所印保管ノコト

六　所員ノ進退出張巡廻等ニ關スルコト

七　傳習及試驗結了後ノ生産物ニ關スルコト

八　傳習及試驗成績編纂印刷ニ關スルコト

九　他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第五條　水産講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ隨ヒ主管事務ノ處理ニ付其責ニ任ス

第六條　所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シテ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第七條　水産講習所長ハ月俸拾貳圓又ハ日給五拾錢ヲ超エサル傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第八條　水産講習所長ハ事務處理ノ爲メ農商務大臣ヘ經伺ノ上所中處務細則ヲ設クルコトヲ得

第九條　水産講習所長ハ農商務大臣ヘ經伺ノ上傳習科程及其擔任者竝ニ傳習生ニ關スル規程ヲ定ムヘシ

第十條　水産講習所長ハ傳習生徒ノ募集人員ヲ定メ毎年農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ

第十一條　水産講習所長ハ試驗ノ順序方法及其分任擔當ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條　試驗成績ハ各擔任者ニ於テ試驗結了ノ日ヨリ三十日以内ニ水産講習所長ニ報告スヘシ

第十三條　水産講習所長ハ傳習及試驗ノ成績ヲ審査編纂シ毎年二回農商

務大臣ニ報告スヘシ但臨時必要ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ

第十四條　水產講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ

第十五條　水產講習所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十六條　農商務大臣ニ經伺又ハ報告スルトキハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

◉地方水產試驗場及地方水產講習所規程

明治三十一年七月
農商務省令第四號

地方水產試驗場及地方水產講習所規程左ノ通定ム

但明治二十七年(八月)農商務省令第八號農事講習所規程第十一條ヲ削除ス

地方水產試驗場及地方水產講習所規程

第一條　府縣稅(又ハ地方稅)郡市町村費若クハ之カ補助ヲ以テ設立スル水產試驗場又ハ水產講習所ハ此規程ニ準據スヘシ

第二條　水產試驗場ハ水產業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ地方ノ必要ニ應シ左ノ事項ニ就キ試驗ヲ行フモノトス

一　漁撈
二　製造
三　養殖

第三條　水產試驗場ハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

一　漁撈ヲ主トスルモノハ漁船及漁具
二　製造ヲ主トスルモノハ製造場及製造器具
三　養殖ヲ主トスルモノハ養殖場又ハ孵化場竝其器具

第四條　水產試驗場ハ必要ニ應シ其試驗ノ結果ヲ地方當業者ニ傳習スルコトヲ得

第五條　水產講習所ハ地方當業者ニ水產ニ關スル技術ヲ傳習スルヲ以テ目的トシ其傳習科目ハ漁撈製造養殖ノ三科ニ係ルモノヲ主トシ補助科トシテ之ニ關係アル他ノ學科ヲ加フルコトヲ得但地方ノ情況ニヨリ漁撈製造養殖ノ三科ノ中一二若クハ一科中ノ種目ヲ限リ素修セシムルコトヲ得

第六條　府縣稅(又ハ地方稅)ヲ以テ水產試驗場又ハ水產講習所ヲ設立シ若クハ補助セントスルトキハ地方長官ハ其規則及各種ノ豫定設備及經費概算額ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

郡市町村費ヲ以テ設立シ又ハ補助セントスルトキハ前項ニ準シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　前條ノ認可ヲ經水產試驗場又ハ水產講習所ヲ設立シ若クハ補助シタルトキハ速ニ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ但第二號ハ每年三月三十一日マテニ其他ノ各號ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

一　名稱及位置
二　經費ノ種別及其豫算金額
三　試驗若クハ傳習ニ要スル設備ノ種別及其數又ハ其面積
四　建物ノ種別及其坪數
五　職員ノ履歷及其擔任ノ業務

第八條　水產試驗場又ハ水產講習所ハ必要ニ應シ便宜ノ季節ヲ撰ヒ隨所ニ開設スルコトヲ得

第九條　地方長官ハ水產試驗場事業ノ成績水產講習所業務ノ功程ヲ調査シ前年度分取纏メ每年四月三十日マテニ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十條　此規程ニ準據スヘキ現在ノ水產試驗場又ハ水產講習所ニ付テハ明治三十一年七月三十一日マテニ其規則ヲ添ヘ第七條ノ手續ヲ爲スヘシ

附　則

◉水產講習所商議委員規程

明治三十年四月農商務省訓令第十一號

水產講習所商議委員規程左ノ通定ム

水產講習所商議委員規程

第一條　水產講習所商議委員ハ水產講習所ニ商議委員ヲ置ク

第二條　商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ

農商務省高等官　一名
海軍省、文部省、遞信省又ハ其所屬高等官　四名以內
水產ノ經歷アル者　五名以內

第三條　商議委員ノ會議ニ附スヘキモノハ講習科目及講習ニ關スル重要ノ諸規則其他所長ニ於テ必要ト認ムル事項トス

第四條　商議委員會ハ農商務大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第五條　商議委員會ハ所長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス但商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第六條　商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ臨定スルコトヲ得

第七條　商議委員會ノ臨決ハ所長ヨリ農商務大臣ニ報告スヘシ

◉水產調查所官制廢止ノ件

明治三十一年十月勅令第二百八十八條

朕水產調查所官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水產調查所官制ハ明治三十一年十月三十一日限リ廢止ス

◉水產調查會規則廢止ノ件

明治三十一年十月勅令第三百九十號

朕水產調查會規則廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水產調查會規則ハ明治三十一年十月三十一日限リ廢止ス

◉府縣農事試驗場同講習所水產講習所商議委員規程及水產巡廻教師ノ名稱等ニ關スル件

明治二十七年十月
勅令第百八十七號

朕府縣農事試驗場農事講習所及水產講習所職員竝農事巡廻教師及水產巡廻教師ノ名稱待遇任免及官等等級配當ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ設立スル府縣農事試驗場職員左ノ如シ

技手
書記

第二條　府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ常設スル農事講習所及水產講習所職員左ノ如シ

所長
教師
書記

第三條　本令ニ於テ農事巡廻教師及水產巡廻教師ト稱スルハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ常置スル者ヲ云フ

第四條　府縣農事試驗場農事講習所及水產講習所職員竝農事巡廻教師及水產巡廻教師ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但府縣農事試驗場長農事講習所長及水產講習所長竝農事巡廻教師及水產巡廻教師ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クルコトアルヘシ

第五條　府縣農事試驗場農事講習所及水產講習所職員竝農事巡廻教師及水產巡廻教師ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令第四條第五條ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ府縣知事之ヲ行フ

第六條　府縣農事試驗場長ハ農科大學農學科、農藝化學科、札幌農學校農學科、舊駒場農學校農學科、農藝化學科、舊東京農林學校農學部ヲ卒業シタル者若クハ之ト相當スル學力技能ヲ有スル者ヨリ任用スヘシ

第七條　府縣知事ニ於テ前條ノ卒業者ニアラサル者ヲ判任文官ト同一ノ

待遇ヲ受クル府縣農事試驗場長ニ任用セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　府縣農事試驗場農事講習所及水產講習所職員竝農事巡廻教師及水產巡廻教師ニシテ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但同官等內又ハ同等級內ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

（別表略之）

◉農商工高等會議規則

明治三十一年六月勅令第百八十八號

廢農商工高等會議規則ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

農商工高等會議規則

第一條　農商工高等會議ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付農商務大臣ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　農商工高等會議ハ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　農商工高等會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　農商工高等會議ハ議長副議長各一人及議員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得

第六條　議長副議長議員及臨時議員ハ官吏又ハ農商工ニ關スル學識若ハ經驗アル者ノ中ニ就キ農商務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條　議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ議決ヲ農商務大臣ニ具申ス

第八條　議長事故アルトキハ副議長ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條　農商工高等會議ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條　議長副議長議員及幹事ニハ一箇年三百圓以內臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條　農商工高等會議ニ書記ヲ置ク議長幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ハ農商務省判任官又ハ其他ノ者ニ就キ之ヲ命ス

第十二條　書記ニハ事務ノ繁簡ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十三條　農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ議員又ハ其他ノ者ヲシテ農商工業ニ關スル諸般ノ調查ヲ爲サシムルコトヲ得

附　則

第十四條　從前ノ議長副議長議員臨時議員及幹事ハ別ニ辭令ヲ用ヰス本令施行ノ日ヨリ其任ヲ解カレタルモノトス

◉地方森林會規則

明治三十一年十二月勅令第四百四十號

廢地方森林會規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

地方森林會規則

第一條　地方森林會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ審議ス

一　保安林ノ編入又ハ解除

二　保安林補償金額ノ評決

三　保安林買上價格ノ評決

第二條　地方森林會ハ會務整理ノ爲必要ナル規則ヲ議定シ農商務大臣ニ届出ツヘシ（明治三十二年十二月勅令第三百二十九號ヲ以テ本條改正）

前項ノ規則ニ對シ農商務大臣ハ訂正ヲ命スルコトヲ得

第三條　地方森林會ハ縣治上實地ノ調查ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ議員ヲ派遣スルコトヲ得

第四條　地方森林會ノ開會及閉會期日ハ府縣知事之ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ（同上）

地方森林會ノ審議事項ニシテ其ノ利害ノ關係二府縣以上ニ涉ルトキハ關係地方府縣知事之ヲ協定シ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第五條　農商務大臣ハ左ノ場合ニ於テ地方森林會又ハ聯合地方森林會ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ議事ヲ停止スルコトヲ得

一　第一條ニ揭クル事項ヲ審議セサルトキ

二　議事其ノ權限ヲ越ヘ若ハ法律命令ニ背クト認ムルトキ

聯合地方森林會解散ノ場合ニ於テハ之ニ關聯スル地方森林會ハ同時ニ解散セラレタルモノトス

解散ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ解散ヲ命シタル日ヨリ三十日以內ニ更ニ地方森林會ノ議員ヲ選定スヘシ

第六條　地方森林會ハ議長一名議員十四名以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條　議長ハ議事ヲ整理シ會務ヲ指揮ス

第八條　議長ハ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ議長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル府縣高等官之ヲ代理ス（同上法令ニテ本項改正）

議員ハ左ニ揭クル者ニ就キ農商務大臣之ヲ選定ス但シ第五ニ該ルモノハ其ノ互選ニ依ル

一　府縣高等官　一人

二　土木監督署高等官　一人

三　鑛山監督署高等官　一人

四　大林區署高等官　一人

五　名譽職府縣參事會員　二人

府縣制ヲ實施セサル地方ニ在リテハ府縣常置委員　二人

六　森林事業ニ經驗アル者　若干

七　治水土木及鑛山事業ニ經驗アル者　若干

第九條　官吏ニシテ議員タル者ノ外議員ノ任期ハ二箇年トス

第十條　地方森林會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク（同上法令ニテ本條第二項及第三項ヲ改ム）

幹事ハ府縣高等官ノ中ヨリ書記ハ府縣判任官ノ中ヨリ府縣知事之ヲ命ス

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條　聯合地方森林會ノ關係地方森林會議員ノ總數ヲ以テ組織シ其ノ議長幹事書記及會務規則ハ開會地ノ地方森林會議長幹事書記及規則ヲ以テ之ニ充ツ（同上法令ニテ本條改正）

第十二條　官吏ニシテ議員タルモノ及幹事書記ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ニ充ツ（同上法令ニテ本項改正）

前項ノ外議員ノ手當及旅費其他地方森林會ノ費用ハ議員ノ手當及旅費ヲ除ク外總テ開會地府縣ノ負擔トス

◉鹽業調查所官制

明治三十二年三月勅令第九十一號

廢鹽業調查所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鹽業調查所官制

第一條　鹽業調查所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鹽業改良ニ關スル調查及試驗ノ事務ヲ掌ル

第二條　鹽業調查所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人
技師	專任四人
技手	專任八人
書記	專任二人

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

技師ノ內一人ハ勅任ト爲スコトヲ得

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條　書記ハ判任ト上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

第七條　本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

◉鹽業調査會規則廢止ノ件

明治三十二年三月勅令第九十號

朕鹽業調査會規則廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鹽業調査會規則ハ明治三十二年三月三十一日限リ廢止ス

◉漁業監督官官制廢止ノ件

明治三十一年十月勅令第二百九十三號

朕漁業監督官官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

漁業監督官官制ハ明治三十一年十月三十一日限リ廢止ス

◉臨時博覽會事務局官制

明治二十九年五月勅令第百八十九號

朕臨時博覽會事務局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臨時博覽會事務局官制

第一條　臨時博覽會事務局ハ之ヲ農商務省ニ置ク明治三十三年佛國巴里府ニ於テ開設スヘキ萬國博覽會參同ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第二條　臨時博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁	一人
副總裁	一人
事務官長	一人
事務官	六人
評議員	若干人
鑑査官	若干人
書記	若干人

第三條　總裁ハ農商務大臣、副總裁事務官長ハ勅任官、事務官ハ奏任官ヲ以テ之ニ充ツ

評議員及鑑査官ハ官吏其ノ他ニ就キ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選定シテ之ニ充ツ

書記ハ判任官其ノ他ノ者ヲ以テ之ニ充テ其ノ判任官ニ非サル者ノ取扱ハ判任官ニ準ス

第四條　總裁ハ諸部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總判ス

第五條　副總裁以下ノ職員ハ總裁ノ奏請ニ依リ裁可ヲ經テ內閣ニ於テ之ヲ命ス但書記ハ總裁之ヲ命ス

第六條　總裁ハ本局ノ事務ニ關シ諸規則ヲ定メ及警視總監北海道廳長官府縣知事ニ指令又ハ訓令スルコトヲ得

第七條　總裁ハ本局ノ經費豫算定額內ヲ以テ外國人ヲ雇入レ又ハ本局ノ事務ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　總裁ハ本局ノ經費豫算定額內ヲ以テ傭員ヲ使用シ又ハ報酬スルコトヲ得

第九條　副總裁ハ總裁ヲ補佐總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十條　事務官長ハ總裁又ハ副總裁ノ命ヲ承ケ一切ノ事務ヲ掌理ス

第十一條　事務官ハ總裁副總裁又ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十二條　評議員ハ總裁ノ諮詢ニ應シ重要ノ事項ヲ審議ス

第十三條　鑑査官ハ總裁ノ命ヲ承ケ出品鑑査及之ニ關スル事務ニ從事ス

第十四條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

◉第二回水產博覽會事務局官制廢止ノ件

明治三十一年七月勅令第百五十號

朕第二回水產博覽會事務局官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第二回水產博覽會事務局官制ハ明治三十一年七月三十一日限リ廢止ス

第十四章　遞信省所管

明治三十一年十月勅令第二百九十五號

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

遞信省官制

第一條　遞信大臣ハ官設鐵道、郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話及航路標識ヲ管理シ北海道官設鐵道、私設鐵道、電氣、造船水陸運輸ニ關スル事業及航路、船舶、海員ヲ監督ス

第二條　遞信省專任參事官ハ三人專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第三條　遞信省ニ左ノ局所ヲ置ク

鐵道局
通信局
管船局
電信燈臺用品製造所

第四條　鐵道局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　鐵道ノ監督ニ關スル事項
二　私設鐵道ノ免許ニ關スル事項
三　鐵道補助金ニ關スル事項

第五條　通信局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ニ關スル事項
二　陸運及電氣事業ノ監督ニ關スル事項
三　遞信事業ニ關スル經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項

第六條　管船局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　航路標識ニ關スル事項
二　航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項

第七條　電信燈臺用品製造所ニ於テハ電信燈臺用品ノ作業ニ關スル事務ヲ掌ル

所長ハ遞信省高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム

第八條　遞信省ニ專任技師二十三人ヲ置ク但シ內三人以內ヲ勅任トス

第九條　遞信屬ハ二百五十人ヲ以テ定員トス

第十條　遞信省ニ專任技手五十七人ヲ置ク

附則

第十一條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

◉遞信省官房各局所分課章程

明治三十一年十一月二日官報公示

遞信省官房各局所分課章程

第一條　遞信大臣官房ニ左ノ三課ヲ置ク

秘書課
文書課
會計課

第二條　秘書課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　機密ニ關スル事項
二　官吏ノ進退身分ニ關スル事項
三　大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

第三條　文書課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　公文書類及成案文書ノ授受發送ニ關スル事項
二　統計報告ノ調製及官報揭載ニ關スル事項
三　公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
四　圖書ノ出納保管ニ關スル事項
五　各局課ニ屬セサル事項

第四條　會計課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝ニ會計ニ關スル事項
二　本省所管各特別會計規定ノ審査竝ニ其豫算決算ノ調査ニ關スル事項
三　本省所管一般及特別會計ノ監査ニ關スル事項
四　本省所屬出納官吏ノ身元保證金ニ關スル事項
五　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スル事項
六　廳舍ノ建築修繕ニ關スル事項
七　省中取締ニ關スル事項

第五條　鐵道局ニ左ノ三課ヲ置ク

庶務課
設計課

營業課

第六條　鐵道局庶務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　鐵道ノ經營ニ關スル事項

二　私設鐵道ノ免許ニ關スル事項

三　私設鐵道會社ノ補給補助ニ關スル事項

四　鐵道ノ法規及統計ニ關スル事項

五　本局所屬ノ庶務、會計、人員ニ關スル事項

六　局中各課ニ屬セサル事項

第七條　鐵道局設計課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　鐵道建設ノ設計及豫算ニ關スル事項

二　鐵道線路調査ニ關スル事項

第八條　鐵道局營業課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　鐵道ノ運輸ニ關スル事項

二　鐵道ノ保線及改良工事ニ關スル事項

第九條　通信局ニ左ノ六課一所ヲ置ク

庶務課

郵務課

電務課

外信課

調度課

工務課

電氣試驗所

第十條　通信局庶務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　郵便、小包郵便、電信、電話、爲替、貯金ニ屬スル庶務ニ關スル事項

二　遞信事業ニ關スル經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項

三　東京郵便電信學校ニ關スル事項

四　局中各課ニ屬セサル事項

第十一條　通信局郵務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　郵便、小包郵便、爲替、貯金ノ法規及事業ノ經營ニ關スル事項

二　陸運事業ノ監督ニ關スル事項

第十二條　通信局電務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　電信、電話ノ法規及事業ノ經營ニ關スル事項

二　電報送受、料金收納ノ監査ニ關スル事項

三　電氣事業ノ監督ニ關スル事項

第十三條　通信局外信課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　外國郵便、小包郵便、爲替及電信事務ニ關スル事項

第十四條　通信局調度課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　郵便、小包郵便、電信、電話、爲替貯金用ノ器具物品購買保存配賦ニ關スル事項

二　遞信事業ニ關スル廳舍ノ建築修繕ニ關スル事項

第十五條　通信局工務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　電信、電話建築保存工事ニ關スル事項

二　電信、電話線路ニ關スル事項

第十六條　通信局電氣試驗所ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　電信、電話ノ技術ニ關スル事項

二　電氣事業技術上ノ監督ニ關スル事項

第十七條　管船局ニ左ノ三課ヲ置ク

監理課

船舶課

海員課

第十八條　管船局監理課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　內外航路及港務ニ關スル事項

二　海事ノ奬勵及水運ノ監督ニ關スル事項

三　保護海事會社及海事團體ノ監督ニ關スル事項

四　航路標識及官立商船學校ニ關スル事項

五　本局ノ主管ニ屬スル庶務、會計、統計、人員ニ關スル事項

六　局中各課ニ屬セサル事項

第十九條　管船局船舶課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　船舶ノ登錄ニ關スル事項

二　船舶ノ檢査測度及造船ノ工事監督ニ關スル事項

三　造船規程ニ關スル事項

四　船燈信號器救命具ニ關スル事項

第二十條　管船局海員課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　海員水先人ノ登錄及試驗ニ關スル事項

二　海員審判及水先人ノ審問ニ關スル事項

三　海員ノ雇入雇止ニ關スル事項

四　水難救助及難破、漂流處分ニ關スル事項

五　海員養成ニ關スル事項

第二十一條　電信燈臺用品製造所ニ左ノ二課一掛ヲ置ク

計理課

製機課

橫濱製作場

第二十二條　電信燈臺用品製造所計理課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　作業歲入歲出豫算決算出納ニ關スル事項

第二十三條　電信燈臺用品製造所製機課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　電信用品ノ製造及修繕工事ニ關スル事項

第二十四條　電信燈臺用品製造所橫濱製作場ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一　航路標識用品ノ製造及修繕工事ニ關スル事項

◎遞信省部內ノ官吏ヲ定員外ト爲スノ件

明治二十七年十月勅令第百八十三號

朕遞信省部內ノ官吏ニシテ陸軍野戰特設ノ職務ニ從事スル者ヲ定員外ト爲スノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

遞信省部內ノ官吏ニシテ本官ノ儘陸軍戰時特設ノ職務ニ從事スル者ハ本屬官記ノ必要ニ應シ之ヲ定員外トシ其ノ補缺ヲ爲スコトヲ得

◎遞信省ニ臨時鐵道職員ヲ置クノ件

明治二十九年三月勅令第八十九號

朕臨時鐵道職員ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鐵道敷設及既成鐵道改良ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲メ遞信省ニ左ノ職員ヲ置キ鐵道局ニ屬セシム

鐵道技監	二人
鐵道事務官	三人
鐵道技師	三十人
鐵道書記	百五十人
鐵道技手	百四十一人
鐵道書記補	百四十四人

附則

本令ノ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第百五十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◎鐵道作業官制

明治三十年八月勅令第二百六十八號

朕鐵道作業局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　鐵道作業局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ官設鐵道ノ建設保存及運輸ノ業務ヲ掌ル

第二條　鐵道作業局ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十一年十月勅令第二百九十六號ヲ以テ本條ヲ改メ同年十一月一日ヨリ施行ス）

長官

部長

鐵道事務官

鐵道技師

鐵道書記

鐵道技手

鐵道書記補

第三條　長官ハ一人勅任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　（同上法令ニテ本條ヲ削ル施行期同上）

第五條　部長ハ定員五人奏任トシ長官ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ分掌ス

第六條　鐵道事務官ハ專任十八人奏任トス各部ニ分屬シ部務ヲ掌ル（同上法令ニテ本條ヲ改ム施行期同上）

第七條　鐵道技師ハ專任四十九人ヲ以テ定員トシ內三人以內ヲ勅任トス（同上）

第八條　鐵道書記ハ八百五十三人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　鐵道技手ハ三百六十八人ヲ以テ定員トス

第十條　鐵道書記補ハ五百七十人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク

第十一條　鐵道作業局ニ左ノ五部ヲ置ク

建設部
工務部
汽車部
運輸部
計理部

各部事務ノ分掌ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十二條　建設部長工務部長汽車部長運輸部長ハ鐵道技師ヲシテ之ヲ兼ネシム（同上）

第十三條　遞信大臣必要ニ應シ局中ニ課ヲ置キ又ハ地方ニ鐵道業務取扱ノ部所ヲ置キ各部ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

課ニ課長部所ニ部所長ヲ置キ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

第十四條　（明治二十九年勅令第八十五號ノ本令施行ノ日ヨリ廢止ス）

鐵道會議規則

明治二十七年八月勅令第百五十三號

鐵道會議ハ遞信大臣ノ監督ニ屬シ鐵道數設法第十五條ニ揭クル事項ヲ審議シ及鐵道ニ關スル事項ニ就キ遞信大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申スルモノトス

第二條　鐵道會議ハ鐵道ニ關スル事項ニ就キ主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　鐵道會議ハ事務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　鐵道會議ハ議長一人議員二十一人以內ヲ以テ之ヲ組織ス（明治二十九年六月勅令第二百五十七號ヲ以テ議員ノ數ヲ增ス）

遞信省高等官四人陸軍省及參謀本部高等官二人海軍省及海軍軍令部高等官二人內務省大藏省農商務省高等官各一人ハ議員ニ加フヘキモノトス（明治三十年十月勅令第三百五十七號ヲ以テ本項改正）

第五條　特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得

第六條　議長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ノ內ヨリ命スヘキ議員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其ノ他ノ議員及臨時議員ハ遞信大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條　議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ遞信大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第八條　議長事故アルトキハ其ノ指名シタル議員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條　鐵道會議ニ幹事一人ヲ置キ遞信省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條　議長、議員及幹事ニハ一箇年五百圓以內、臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條　鐵道會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス」

第十二條　書記ニハ一箇年二百圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

第十三條　從前ノ議長、議員及臨時議員ハ別ニ辭令ヲ用ヰス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

港務局官制

明治三十一年七月勅令第百五十二號

改港務局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

港務局官制

第一條　港務局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ開港港則ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　各港務局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク（明治三十一年十月勅令第二百十七號ヲ以テ本條ヲ改メ同年十一月一日ヨリ施行ス）

局長	三人
港務官	專任三人
醫官	專任三人
書記	專任十二人
技手	專任五人
港吏	專任六人
港吏補	專任三十人

第三條　港務局長ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ管理シ港長ノ事ヲ行フ

第四條　港務官ハ奏任トス各港務局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ク（同上）

局長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第五條　（同上法令ニテ本條削除施行期同上）

第六條　醫官ハ奏任トス局長ノ指揮ヲ承ケ衞生ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　港吏ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ港務ニ從事ス

第九條　港吏補ハ判任トス港吏ノ事務ヲ助ク

第十條　港務局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

航路標識管理所官制

明治二十六年十月勅令第百五十四號

廢航路標識管理所官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

航路標識管理所官制

第一條　航路標識管理所ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航路標識ノ工事及其保守ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　航路標識管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	各一人
技師	二人
書記	二人
技手	
看守	

第三條　所長ハ一人奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ管理ス（明治三十一年八月勅令第二百七十二號ヲ以テ本條改正）

第四條　技師ハ六人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ所中ノ事務ヲ分掌ス（明治二十九年三月勅令第八十三號ヲ以テ定員ヲ增ス）

第五條　書記ハ判任トシ二十四人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス（明治三十一年十月勅令第二百九十八號ヲ以テ定員ヲ減シ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第六條　技手ハ二十四人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ工事ニ從事ス（同上）

第七條　看守ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ從事ス其ノ定員ハ左ノ如シ

一等燈臺	各三人
二等燈臺	
三等燈臺	
四等燈臺	
五等燈臺	各二人
六等燈臺	
等外燈臺	
燈船	二人
霧警號	二人

遞信大臣ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ前項定員ノ外航路標識看守雇備員十五人ヲ置クコトヲ得

附　則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

◉航路標識管理所ニ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クノ件

明治二十八年十月勅令第百五十一號

朕航路標識管理所ニ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

航路標識管理所ニハ技師書記及技手定員ノ外必要ニ應シ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クコトヲ得

◉船舶司檢所官制

明治二十九年三月勅令第七十九號

朕船舶司檢所官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船舶司檢所官制

第一條　船舶司檢所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ船舶職員ノ試驗、水先人ノ試驗及審問、船舶ノ檢査測度及造船ノ工事監督ヲ掌ル所トス（明治三十年三月勅令第六十九號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第二條　船舶司檢所ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十一年八月勅令第二百七十三號ヲ以テ本條ヲ改ム）

所長
司檢官
司檢官補
書記
技手

第三條　所長ハ司檢官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　司檢官ハ奏任トシ專任十二人ヲ以テ定員トス各船舶司檢所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス（明治三十一年十月勅令第二百九十五號ヲ以テ定員ヲ減シ同年十一月一日ヨリ施行ス）

第五條　司檢官補ハ奏任トシ專任三十人ヲ以テ定員トス司檢官ノ事務ヲ助ク（同上法令ヲ以テ定員ヲ減シタル後三十二年三月勅令第七十五號ヲ以テ復之ヲ增ス）

第六條　司檢官及司檢官補ハ遞信省管船局ニ兼勤シ臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ助ク

第七條　書記ハ判任トシ專任三十二人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス（同上）

第七條ノ二　技手ハ專任二十七人ヲ以テ定員トス（明治三十一年八月勅令第二百七十三號ヲ以テ本條ヲ追加シ尙同三十二年三月勅令第七十五號ヲ以テ定員ヲ增ス）

第八條　船舶司檢所ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

第九條　遞信大臣ハ必要アリト認ムル地ニ船舶司檢所支所ヲ設置シ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

船舶司檢所支所ニ支所長ヲ置キ司檢官又ハ司檢官補ヲ以テ之ニ充ツ（明治三十年三月勅令第六十九號ヲ以テ本項ヲ追加ス）

附　則

第十條　本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

◉船舶司檢所職員ニ在清國帝國領事館附ヲ命スル件

明治三十一年九月勅令第二百六號

朕船舶司檢所職員ニ在清國帝國領事館附ヲ命スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

遞信大臣ハ事務ノ必要ニ由リ船舶司檢所職員ニ在清國帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得

◉船舶司檢所管轄區域ノ件

明治三十一年六月勅令第二百二十號

朕船舶司檢所管轄區域ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船舶司檢所ノ管轄區域ハ地方海員審判所ノ管轄區域ニ同シ

◉海員審判所職員定員及任用令

明治三十年四月勅令第七十八號

朕海員審判所職員定員及任用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海員審判所職員定員及任用令

第一條　高等海員審判所職員定員ハ左ノ如シ

所長	一人
審判官	六人
理事官	二人
書記	四人

第二條　地方海員審判所職員定員ハ各所ヲ通シテ左ノ如シ（明治三十年十二月勅令第四百四十九號ヲ以テ本條ヲ改ム）

所長	四人
審判官	二十四人
理事官	專任四人
書記	十六人

第三條　高等海員審判所長ハ勅任トシ遞信省高等官ヲ以テ之ヲ兼ヲシム（同上）

高等海員審判官ハ奏任トシ遞信省內ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ヲシム

高等海員審判所理事官ハ奏任トシ中一名ハ遞信省內ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ヲシム

高等海員審判所書記ハ判任トシ遞信屬又ハ船舶司檢所書記ヲシテ之ヲ兼ヲシム

第四條　地方海員審判所長ハ奏任トシ船舶司檢所司檢官ヲシテ之ヲ兼ヲシム

地方海員審判所審判官ハ奏任トシ遞信部內ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ヲシム

地方海員審判所理事官ハ奏任トシ船舶司檢所書記ヲシテ之ヲ兼ヲシム（同上勅令ニテ本項追加）

地方海員審判所書記ハ判任トシ船舶司檢所書記ヲシテ之ヲ兼ヲシム

第五條　高等海員審判所理事官及地方海員審判所理事官ハ明治二十六年勅令第百八十三號文官任用令第一條ニ該當スル者又ハ海軍高等武官主理判事檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者及遞信省內ノ高等官ヨリ任用ス（同上法令ニテ本條改正）

◉海員審判所事務章程

明治三十一年六月勅令第八十九號

朕海員審判所事務章程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海員審判所事務章程

第一條　審判所長ハ海員審判所ノ事務ヲ總理ス

審判所長故障アルトキハ審判官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ先ナル者之ヲ代理ス

第二條　審判所長ハ自ラ審判長トナリ若ハ審判官ニ審判長ヲ命スルコトヲ得

第三條　各審判事件ノ掛審判官ハ審判所長ノ指定ニ依ル

第四條　四日以上引續クヘキ見込アル審判ニ於テ審判所長ハ補充審判官一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充審判官ハ其ノ審判中或ル審判官ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第五條　審判官若ハ理事官差支アリテ同一審判所ノ審判官若ハ理事官中其ノ職務ヲ行フヘキ者ナキ場合ニ遞信大臣ニ於テ其ノ事件緊急ヲ要スルコトヲ得

ト認ムルトキハ他ノ審判所ノ審判官若ハ理事官ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第六條　審判ノ公開ヲ停止スルノ決定ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第七條　審判ハ定數ノ審判官之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

評議ハ其ノ審判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ順序竝各審判官ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス

評議ノ際各審判官意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ審判長ヲ終トス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナル者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命審判官ヲ始トス

第八條　審判官ハ審判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　裁決及決定ハ過半數ノ意見ニ依ル其ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄最審人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第十條　裁決ヲ言渡シタルトキハ審判所長ハ直ニ遞信大臣ニ裁決ノ謄本ヲ差出スヘシ

第十一條　理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シ取調ヲ爲シタル後審判ヲ要セスト思料スルトキハ理由ヲ具シ審判所長ヲ經由シテ遞信大臣ニ報告スヘシ

第十二條　審判所ニ於テ或ル事件ニ付審判ヲ開始セス若ハ繼續セスト決定シタルトキハ審判所長ハ之ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第十三條　審判所長ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ事務取扱ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條　事務ノ執行ニ關シ遞信大臣ハ各審判所長ヲ監督シ高等海員審判所長ハ各地方海員審判所長ヲ監督ス

職務ノ執行ニ關シ高等海員審判所理事官ハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ地方海員審判所理事官ハ遞信大臣及高等海員審判所理事官ノ命令ニ從フ

◉海員審判所管轄區域

明治三十一年六月勅令第百九十號

朕地方海員審判所管轄區域ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

地方海員審判所管轄區域左ノ通之ヲ定ム

東京地方海員審判所管轄區域

東京府　神奈川縣　新潟縣　埼玉縣　群馬縣

千葉縣　茨城縣　栃木縣　三重縣　愛知縣

靜岡縣　山梨縣　岐阜縣　長野縣　宮城縣

福島縣　靑森縣　山形縣　石川縣　富山縣

大阪地方海員審判所管轄區域

京都府　大阪府　兵庫縣　奈良縣　滋賀縣

福井縣　鳥取縣　島根縣　岡山縣　廣島縣

山口縣　和歌山縣　德島縣　香川縣　愛媛縣

高知縣　福岡縣　大分縣

長崎地方海員審判所管轄區域

長崎縣　佐賀縣　熊本縣　宮崎縣　鹿兒島縣

沖繩縣

函館地方海員審判所管轄區域

北海道　靑森縣　秋田縣

◉電信建築署官制

明治二十四年七月勅令第百五十一號

朕電信建築署官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

電信建築署官制

第一條　電信建築署ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ電線建設電機裝置及其保存ニ關スル事務ヲ掌ル所トス其名稱位置及所轄區域ヲ定ムル左ノ如シ

（電信建築署ノ名稱位置及所轄區域表ハ之ヲ略ス）

第二條　電信建築署ニ左ノ職員ヲ置ク

技師

書記

技手

第三條　技師ハ七人ヲ以テ定員トス電信建築署長トシ遞信大臣ノ命ヲ承ケ署中全部ノ事務ヲ掌理ス

第四條　書記ハ判任トス署長ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ニ從事ス

第五條　技手ハ署長ノ指揮ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第六條　書記技手ハ七十六人ヲ以テ定員トス

附則

第七條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

◉郵便及電信局官制

明治三十年八月勅令第二百六十九號

朕郵便及電信局官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

郵便及電信局官制

第一條　郵便及電信局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、電信ノ事務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條　郵便及電信局ヲ分テ一等郵便電信局、二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電信局、三等電信局トス

第三條　一等郵便電信局ニ於テハ管轄內ノ各郵便電信局、郵便局電信局ヲ監督ス

遞信大臣ノ指定シタル一等郵便電信局ニ於テハ電信建築ノ事務ヲ兼掌ス

遞信大臣ハ二等郵便電信局、二等郵便局ヲシテ其ノ指定シタル區域內ノ三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局監督事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトアル可シ

遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便及電信ノ支局ヲ置キ郵便電信ノ業務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條　一等郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

通信事務官

通信書記

通信書記補

通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第五條　通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク

第六條　一等郵便電信局ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第七條　二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電信局、三等郵便局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

（別表）

一等郵便電信局名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域	
東京郵便電信局	武藏國東京	東京府	埼玉縣　千葉縣　山梨縣
大阪郵便電信局	攝津國大阪	大阪府	奈良縣　和歌山縣
京都郵便電信局	山城國京都	京都府	滋賀縣
橫濱郵便電信局	武藏國橫濱	神奈川縣	靜岡縣
神戶郵便電信局	攝津國神戶	兵庫縣	岡山縣　鳥取縣
長崎郵便電信局	肥前國長崎	長崎縣	佐賀縣
札幌郵便電信局	石狩國札幌	北海道	
新潟郵便電信局	越後國新潟	新潟縣	
名古屋郵便電信局	尾張國名古屋	愛知縣	岐阜縣　三重縣
熊本郵便電信局	肥後國熊本	熊本縣	福岡縣　大分縣
仙臺郵便電信局	陸前國仙臺	宮城縣	福島縣　山形縣

廣島郵便電信局	安藝國	廣島	廣島縣	島根縣	山口縣
宇都宮郵便電信局	下野國宇都宮	栃木縣	群馬縣	茨城縣	
長野郵便電信局	信濃國	長野	長野縣		
青森郵便電信局	陸奥國	青森	青森縣	盛手縣	秋田縣
金澤郵便電信局	加賀國	金澤	石川縣	富山縣	福井縣
多度津郵便電信局	讃岐國多度津		香川縣	愛媛縣	高知縣
鹿兒島郵便電信局	薩摩國鹿兒島		鹿兒島縣	宮崎縣	沖繩縣

◎臺灣ニ於ケル郵便及電信ニ關スル事務監督ノ件

明治二十九年三月勅令第八十六號

朕臺灣ニ於ケル郵便及電信ニ關スル事務監督ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臺灣ニ於ケル郵便及電信ニ關スル事務ハ遞信大臣ノ監督ニ屬セシム

附　則

本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

◎在外郵便電信局、郵便局官制

明治三十年八月勅令第二百七十號

朕在外郵便電信局、郵便局官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

在外郵便電信局郵便局官制

第一條　在外各地ノ郵便電信局、郵便局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便電信ノ業務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條　在外各地ノ郵便電信局、郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
通信書記
通信書記補

第三條　在外各地ノ郵便電信局長、郵便局長ハ奏任又ハ判任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ局務ニ從事ス

第五條　通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通信書記ノ事務ヲ助ク

第六條　在外郵便電信局、郵便局ノ名稱、位地ハ遞信大臣之ヲ定ム

◎電話交換局官制

明治三十一年八月勅令第二百七十四號

朕電話交換局官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

電話交換局官制

第一條　電話交換局ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ電話交換ノ業務ヲ執行スル所トス

第二條　電話交換局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
通信技師
通信書記
通信技手

遞信大臣ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ電話交換局ニ通信技師ヲ置カサルコトヲ得

第三條　局長ハ通信技師又ハ通信技手ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　通信技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局中ノ事務ヲ分掌ス

第五條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ電話交換ノ工事ニ從事ス

第七條　電話交換局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

第八條　遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ電話交換支局ヲ設置シ其ノ事

ヲ分掌セシムルコトヲ得

◎郵便爲替貯金管理所官制

明治三十年八月勅令第二百七十一號

朕郵便爲替貯金管理所官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

郵便爲替貯金管理所官制

第一條　郵便爲替貯金管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便爲替資金郵便貯金ヲ管理シ及郵便爲替郵便貯金檢査計畫ニ關スル事務ヲ掌理スルトス

第二條　郵便爲替貯金管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
通信事務官
通信事務官補
通信書記
通信書記補

第三條　郵便爲替貯金管理所長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條　通信事務官ハ奏任トス第三條ニ依リ所長タル者ノ外所長ノ事務ヲ助ケ又ハ郵便爲替貯金管理支所長トナリテ其ノ事務ヲ掌理ス

第五條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記、簿記、計算ノ事務ニ從事ス

第六條　通信書記補ハ判任トス通信書記ノ事務ヲ助ク

第七條　遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

◎臺灣總督府ニ郵便爲替及郵便貯金ノ出納計算事務ヲ掌ラシムル件

明治二十九年八月遞信省令第十三號

臺灣總督府ニ於テ左ノ區域内ノ郵便爲替貯金ノ出納計算ニ關スル事務ヲ掌ラシム

臺灣島　澎湖島

◎郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員

明治三十一年八月勅令第二百七十六號

朕郵便及電信局、在外電信局郵便局郵便爲替貯金管理所及電話局職員定員中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員ノ定員ハ各局所ヲ通シテ左ノ通トス但シ在外郵便電信局長郵便局長及三等郵便電信局長三等郵便局長ハ定員ノ外トス（明治三十一年七月勅令第百三十七號及同年十月勅令第三百號ヲ以テ定員ヲ增減シ明治三十二年三月勅令第四十九號ヲ以テ更ニ又「通信書記」ノ定員ヲ增ス）

通信事務官	奏任二十四人
通信事務官補	奏任二十七人
通信技師	奏任二十三人
通信書記	奏任二千八百四十九人
通信技手	奏任三百六人
通信書記補	奏任四千三百六十四人

第二條　各局所ノ定員ハ遞信大臣之ヲ定ム

㊞東京郵便電信學校官制

明治二十四年七月勅令第百五十四號

朕東京郵便電信學校官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

東京郵便電信學校官制

第一條　東京郵便電信學校ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條　東京郵便電信學校ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十年八月勅令第二百七十五號ヲ以テ「教諭」ノ二字ヲ加フ）

校長
幹事
教授
學生監
教諭
分校長
助教
書記

第三條　校長ハ一人奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條　幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第五條　教授ハ奏任トシ專任十一人ヲ以テ定員トス學生ノ教授ヲ掌ル

第六條　學生監ハ奏任トシ專任一人ヲ以テ定員トス學生ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル（明治三十一年七月勅令第百五十四號ヲ以テ定員ヲ增ス）

教諭ハ奏任トシ專任八人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ助ク（同上）

第七條　書記ハ判任トシ六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附　則

第八條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

㊞商船學校官制

明治二十九年三月勅令第八十一號

朕商船學校官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

商船學校官制

第一條　商船學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海、運用、機關ニ關スル學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條　商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク（明治三十年八月勅令第二百七十五號ヲ以テ「教諭」ノ二字ヲ加フ）

校長
幹事
教授
學生監
教諭
分校長
助教
書記

第三條　校長ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條　幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第五條　教授ハ奏任トシ專任十一人ヲ以テ定員トス學生ノ教授ヲ掌ル

第六條　學生監ハ奏任トシ專任一人ヲ以テ定員トス學生ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル（明治三十一年七月勅令第百五十四號ヲ以テ定員ヲ增ス）

教諭ハ奏任トシ專任八人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ助ク（同上）

第七條　書記ハ判任トシ專任十

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス
局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム
第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス
第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス
第五條　局ハ判任トス書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計ヲ掌ル
第六條　守衛長ハ判任トス守衛長以下ヲ部署シ院中ノ取締ニ任ス
第七條　守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス（以上二條ハ同上勅令ヲ以テ追加ス）
附　則（二十四年七月二十四日勅令第九十九號ヲ以テ本則ヲ追加ス）
本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

◉貴族院事務局ニ技手ヲ置クノ件

明治三十一年十一月勅令第四百十三號

貴族院事務局ニ技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

貴族院事務局ニ屬定員以内ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得

◉衆議院事務局官制

明治二十三年七月勅令第三十二號

衆議院事務局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ（二十四年七月勅令第百號ヲ以テ本條各項ヲ改正ス）

書記官長　一人
書記官　　十二人（同上法令ニテ定員ヲ減ス施行期日同上）
守衛長　　一人（二十四年十一月勅令第二百七號ヲ以テ追加ス）
守衛番長　三人（同上）

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス
局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム
第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス
第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス
第五條　局ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

◉衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件

明治三十一年十一月勅令第四百十四號

衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

衆議院事務局ニ屬定員以内ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得

◉帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル行政事務ノ指揮監督

明治二十四年二月勅令第十五號

腦帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル行政事務ハ各院書記官長之ヲ掌ル

第二條　前條ノ指揮監督ハ內務大臣之ヲ行フ

第一章　通則

◉高等官官等俸給令

明治二十五年十一月勅令第九十六號

勅奏ニ高等官官等俸給令ヲ裁可ス

高等官官等俸給令

官等及敘任

第一條　親任式ヲ以テ敘任スル官ヲ除ク外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ敘任スル官及一等官ニ等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第二條　勅任官中親任式ヲ以テ敘任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣又ハ首座ノ大臣之ニ副署ス

第三條　親任式ヲ以テ敘任スル官ヲ除キ其他ノ勅任官ノ辭令書ハ御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣之ヲ奉行ス

第四條　奏任官ノ任官及敘等ハ內閣總理大臣ヨリ之ヲ奏薦ス
奏任官ノ辭令書ハ內閣ノ印ヲ鈐シ內閣總理大臣之ヲ奉行ス

第五條　奏任官ノ辭令書ハ內閣總理大臣ヨリ之ヲ奏薦ス
屬ノ官廳ニ屬スルモノハ內閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第六條　高等官官等ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外本令中ノ文武高等官官等表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ルヲ以テ兼任セシメ又ハ之ニ充ツルノ官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第七條　初メテ高等文官ニ任セラルル者ノ官等ハ六等以下トス（明治三十二年四月勅令第百二十七號ヲ以テ本條改正）
高等文官ヲ勅メ退官シタル者再ヒ高等官ニ任セラルル場合ニ於テ其官等ハ前官ノ官等以下トス但前官ノ官等七等以下ナルトキハ陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第八條　高等官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタル者及七等以下ノ者ヲ除ク外在職滿二年ヲ踰ユルニアラサレハ陞敘スルコトヲ得ス（同上）

第八條ノ二　親任式ヲ以テ敘任セラルル官ニ任セラルル場合ニ於テハ第七條及第八條ヲ文官任用令第一條第四項ニ依リ勅任文官ニ任用セラルル場合ニ於テハ第七條ヲ適用セス（同上法令ニテ本條ヲ追加ス）

俸給

第九條　高等文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ如シ（明治三十一年十月二十二日勅令第三百九號ヲ以テ本條ヲ改メ同年十一月一日ヨリ之ヲ施行シ且同時ニ下ノ如ク發令シタリ「現任ノ高等官ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサル者ハ現ニ受クル所ノ俸給ニ照シ高等文官官等相當俸給表ニ定ムル所ノ相當官等ニ敘セラレタルモノトス」、「明治二十九年勅令第三百三十八號第四條ニ依リ司稅官ニ任セラレタル者ニハ其ノ官等相當以下ノ俸給ヲ給スルコトヲ得、前項ノ司稅官ニシテ本令施行ノ際稅務管理局長ニ任セラルル者亦同シ」、「明治三十一年勅令第百四十五號、明治二十九年勅令第七十三號、明治三十一年勅令第百五十七號、明治三十年勅令第七十九號、同年勅令第百十一號、明治二十九年勅令第七號、明治三十年勅令第二百七十九號、同年勅令第四十八號、明治二十九年勅令第三百三十八號、明治二十六年勅令第百七十四號、明治二十九年勅令第百三十八號、明治三十年勅令第百二十四號、明治二十四年勅令第二十號、同年三月勅令第百七號、同四月勅令第百六十一號及第百七十一號ヲ以テ改正追加スル所アリタリ）

內閣ノ部	
內閣總理大臣	年俸九千六百圓
內閣所屬職員	
書記長官	年俸四千圓
局長	年俸三千圓
書記官	
內閣總理大臣秘書官	高等文官年俸第一號表ニ依ル
統計局審查官	
印刷局事務官	高等文官年俸第二號表ニ依ル

| | | |

附則

第二十條　本令ハ明治二十五年十一月二十日ヨリ施行ス但第十四條ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第二十一條　明治二十四年勅令第八十二號高等官官等及俸給令竝ニ同年勅令第二百十五號文武高等官官職等級表ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

俸給ニ關スル他ノ勅令ニ於テ明治二十四年勅令第八十二號中第一號表第二號表若ハ第三號表ニ依ルヘキコトヲ規定セルモノハ本令施行ノ後ハ本令中同號ノ高等官俸各表ニ依ル

第二十二條　現任ノ高等官ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ左表ニ依リ明治二十四年勅令第二百十五號文武高等官官職等級表ニ規定シタル等級ト相對照スル官等ニ敍セラレタルモノトス現任例事檢事ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ現ニ受クル所ノ俸給ニ照シ高等文官官等相當俸給表ニ定ムル所ノ相當官等ニ敍セラレタルモノトス

文武高等官官等表

勅任

官等／官職	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等
内閣	内閣書記官長	賞勳局總裁	内閣書記官						
樞密院	樞密院議長	樞密院副議長	樞密院書記官長						
外務省	外務大臣	外務次官	外務省參與官						
内閣	内閣總理大臣	法制局長官	内閣書記官長	内閣參事官	内閣書記官				
樞密院	樞密院議長	樞密院副議長	樞密院書記官長	樞密院書記官					
外務省	外務大臣	外務次官	外務省參與官	外務書記官					
内閣	内閣總理大臣	賞勳局總裁	内閣書記官長	内閣參事官	内閣書記官				
樞密院	樞密院議長	樞密院副議長	樞密院書記官長	樞密院書記官					
外務省	外務大臣	外務次官	外務省參與官	外務書記官					
内閣	内閣總理大臣	印刷局長	内閣書記官長	内閣參事官	内閣書記官				
樞密院	樞密院議長	樞密院副議長	樞密院書記官長	樞密院書記官					
外務省	外務大臣	外務次官	外務省參與官	外務書記官					
内閣	内閣總理大臣	統計局長	内閣書記官長	内閣參事官	内閣書記官				
樞密院	樞密院議長	樞密院副議長	樞密院書記官長	樞密院書記官					
外務省	外務大臣	外務次官	外務省參與官	外務書記官					
内閣	内閣總理大臣	賞勳局總裁	内閣書記官長	内閣參事官	内閣書記官				
樞密院	樞密院議長	樞密院副議長	樞密院書記官長	樞密院書記官					
外務省	外務大臣	外務次官	外務省參與官	外務書記官					
内閣	内閣總理大臣	賞勳局總裁	内閣書記官長	内閣參事官	内閣書記官				
樞密院	樞密院議長	樞密院副議長	樞密院書記官長	樞密院書記官					
外務省	外務大臣	外務次官	外務省參與官	外務書記官					
内閣	内閣總理大臣	法制局長官	内閣書記官長	内閣參事官	内閣書記官				
樞密院	樞密院議長	樞密院副議長	樞密院書記官長	樞密院書記官					
外務省	外務大臣	外務次官	外務省參與官	外務書記官					
内閣	内閣總理大臣	賞勳局總裁

| | | |

技師	水產試驗場技師	農務院農事試驗場技師	農務院農事試驗場技師	警部
奏任	奏任	奏任	奏任	奏任
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同

官名	等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等
內閣書記官長	俸	一								
內閣書記官	俸	一								
內閣事務官	俸	一								
內閣屬	俸	一								
內閣技手	俸	一								
內閣雇	俸	一								
內閣傭人	俸	一								
內閣法制局長官	俸	一								
內閣法制局參事官	俸	一								
內閣法制局事務官	俸	一								
內閣法制局屬	俸	一								
內閣法制局雇	俸	一								
內閣恩給局長	俸	一								
內閣恩給局事務官	俸	一								
內閣恩給局屬	俸	一								
內閣恩給局雇	俸	一								
內閣官報局長	俸	一								
內閣官報局事務官	俸	一								
內閣官報局屬	俸	一								
內閣官報局雇	俸	一								
內閣印刷局長	俸	一								
內閣印刷局事務官	俸	一								
內閣印刷局屬	俸	一								
內閣印刷局雇	俸	一								
內閣印刷局技手	俸	一								
內閣印刷局傭人	俸	一								
內閣官制調查局長官	俸	一								
內閣官制調查局參事官	俸	一								
內閣官制調查局事務官	俸	一								
內閣官制調查局屬	俸	一								
內閣官制調查局雇	俸	一								
內閣官制調查局技手	俸	一								
內閣官制調查局傭人	俸	一								
內閣臨時法制局長官	俸	一								
內閣臨時法制局參事官	俸	一								
內閣臨時法制局事務官	俸	一								
內閣臨時法制局屬	俸	一								
內閣臨時法制局雇	俸	一								
內閣臨時法制局技手	俸	一								
內閣臨時法制局傭人	俸	一								
內閣臨時恩給局長官	俸	一								
內閣臨時恩給局參事官	俸	一								
內閣臨時恩給局事務官	俸	一								
內閣臨時恩給局屬	俸	一								
內閣臨時恩給局雇	俸	一								
內閣臨時恩給局技手	俸	一								
內閣臨時恩給局傭人	俸	一								
內閣臨時官報局長官	俸	一								
內閣臨時官報局參事官	俸	一								
內閣臨時官報局事務官	俸	一								
內閣臨時官報局屬	俸	一								
內閣臨時官報局雇	俸	一								
內閣臨時官報局技手	俸	一								
內閣臨時官報局傭人	俸	一								
內閣臨時印刷局長官	俸	一								
內閣臨時印刷局參事官	俸	一								
內閣臨時印刷局事務官	俸	一								
內閣臨時印刷局屬	俸	一								
內閣臨時印刷局雇	俸	一								
內閣臨時印刷局技手	俸	一								
內閣臨時印刷局傭人	俸	一								
內閣臨時法制局長官	俸	一								
內閣臨時法制局參事官	俸	一								
內閣臨時法制局事務官	俸	一								
內閣臨時法制局屬	俸	一								
內閣臨時法制局雇	俸	一								
內閣臨時法制局技手	俸	一								
內閣臨時法制局傭人	俸	一								
內閣臨時恩給局長官	俸	一								
內閣臨時恩給局參事官	俸	一								
內閣臨時恩給局事務官	俸	一								
內閣臨時恩給局屬	俸	一								
內閣臨時恩給局雇	俸	一								
內閣臨時恩給局技手	俸	一								
內閣臨時恩給局傭人	俸	一								
內閣臨時官報局長官	俸	一								
內閣臨時官報局參事官	俸	一								
內閣臨時官報局事務官	俸	一								
內閣臨時官報局屬	俸	一								
內閣臨時官報局雇	俸	一								
內閣臨時官報局技手	俸	一								
內閣臨時官報局傭人	俸	一								
內閣臨時印刷局長官	俸	一								
內閣臨時印刷局參事官	俸	一								
內閣臨時印刷局事務官	俸	一								
內閣臨時印刷局屬	俸	一								
內閣臨時印刷局雇	俸	一								
內閣臨時印刷局技手	俸	一								
內閣臨時印刷局傭人	俸	一								

官名	等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等
內閣總理大臣	俸	一								
內閣書記官長	俸	一								
內閣書記官	俸	一								
內閣事務官	俸	一								
內閣屬	俸	一								
內閣技手	俸	一								
內閣雇	俸	一								
內閣傭人	俸	一								
內閣法制局長官	俸	一								
內閣法制局參事官	俸	一								
內閣法制局事務官	俸	一								
內閣法制局屬	俸	一								
內閣法制局雇	俸	一								
內閣恩給局長	俸	一								
內閣恩給局事務官	俸	一								
內閣恩給局屬	俸	一								
內閣恩給局雇	俸	一								
內閣官報局長	俸	一								
內閣官報局事務官	俸	一								
內閣官報局屬	俸	一								
內閣官報局雇	俸	一								
內閣印刷局長	俸	一								
內閣印刷局事務官	俸	一								
內閣印刷局屬	俸	一								
內閣印刷局雇	俸	一								
內閣印刷局技手	俸	一								
內閣印刷局傭人	俸	一								
內閣官制調查局長官	俸	一								
內閣官制調查局參事官	俸	一								
內閣官制調查局事務官	俸	一								
內閣官制調查局屬	俸	一								
內閣官制調查局雇	俸	一								
內閣官制調查局技手	俸	一								
內閣官制調查局傭人	俸	一								
內閣臨時法制局長官	俸	一								
內閣臨時法制局參事官	俸	一								
內閣臨時法制局事務官	俸	一								
內閣臨時法制局屬	俸	一								
內閣臨時法制局雇	俸	一								
內閣臨時法制局技手	俸	一								
內閣臨時法制局傭人	俸	一								
內閣臨時恩給局長官	俸	一								
內閣臨時恩給局參事官	俸	一								
內閣臨時恩給局事務官	俸	一								
內閣臨時恩給局屬	俸	一								
內閣臨時恩給局雇	俸	一								
內閣臨時恩給局技手	俸	一								
內閣臨時恩給局傭人	俸	一								
內閣臨時官報局長官	俸	一								
內閣臨時官報局參事官	俸	一								
內閣臨時官報局事務官	俸	一								
內閣臨時官報局屬	俸	一								
內閣臨時官報局雇	俸	一								
內閣臨時官報局技手	俸	一								
內閣臨時官報局傭人	俸	一								
內閣臨時印刷局長官	俸	一								
內閣臨時印刷局參事官	俸	一								
內閣臨時印刷局事務官	俸	一								
內閣臨時印刷局屬	俸	一								
內閣臨時印刷局雇	俸	一								
內閣臨時印刷局技手	俸	一								
內閣臨時印刷局傭人	俸	一								

官名	等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等
內閣總理大臣	俸	一								
內閣書記官長	俸	一								
內閣書記官	俸	一								
內閣事務官	俸	一								
內閣屬	俸	一								
內閣技手	俸	一								
內閣雇	俸	一								
內閣傭人	俸	一								
內閣法制局長官	俸	一								
內閣法制局參事官	俸	一								
內閣法制局事務官	俸	一								
內閣法制局屬	俸	一								
內閣法制局雇	俸	一								
內閣恩給局長	俸	一								
內閣恩給局事務官	俸	一								
內閣恩給局屬	俸	一								
內閣恩給局雇	俸	一								
內閣官報局長	俸	一								
內閣官報局事務官	俸	一								
內閣官報局屬	俸	一								
內閣官報局雇	俸	一								
內閣印刷局長	俸	一								
內閣印刷局事務官	俸	一								
內閣印刷局屬	俸	一								
內閣印刷局雇	俸	一								
內閣印刷局技手	俸	一								
內閣印刷局傭人	俸	一								
內閣官制調查局長官	俸	一								
內閣官制調查局參事官	俸	一								
內閣官制調查局事務官	俸	一								
內閣官制調查局屬	俸	一								
內閣官制調查局雇	俸	一								
內閣官制調查局技手	俸	一								
內閣官制調查局傭人	俸	一								
內閣臨時法制局長官	俸	一								
內閣臨時法制局參事官	俸	一								
內閣臨時法制局事務官	俸	一								
內閣臨時法制局屬	俸	一								
內閣臨時法制局雇	俸	一								
內閣臨時法制局技手	俸	一								
內閣臨時法制局傭人	俸	一								
內閣臨時恩給局長官	俸	一								
內閣臨時恩給局參事官	俸	一								
內閣臨時恩給局事務官	俸	一								
內閣臨時恩給局屬	俸	一								
內閣臨時恩給局雇	俸	一								
內閣臨時恩給局技手	俸	一								
內閣臨時恩給局傭人	俸	一								
內閣臨時官報局長官	俸	一								
內閣臨時官報局參事官	俸	一								
內閣臨時官報局事務官	俸	一								
內閣臨時官報局屬	俸	一								
內閣臨時官報局雇	俸	一								
內閣臨時官報局技手	俸	一								
內閣臨時官報局傭人	俸	一								
內閣臨時印刷局長官	俸	一								
內閣臨時印刷局參事官	俸	一								
內閣臨時印刷局事務官	俸	一								
內閣臨時印刷局屬	俸	一								
內閣臨時印刷局雇	俸	一								
內閣臨時印刷局技手	俸	一								
內閣臨時印刷局傭人	俸	一								

	商船學校教諭	理事 主事	陸軍編修官 海軍編修官 陸軍通譯官 海軍通譯官	陸地測量師	陸軍監獄長	檢疫官	檢査官補	行政裁判所評定官	北海道廳事務官	北海道廳支廳長 北海道廳參事官	北海道警視 北海道廳典獄
		一級俸				一級俸		一級俸	一級俸		
		二級俸						二級俸			
		三級俸	一級俸	二級俸		二級俸		三級俸	一級俸		
		四級俸	二級俸	一級俸		三級俸		四級俸	二級俸	一級俸	
		五級俸	三級俸	二級俸		四級俸		五級俸	三級俸	二級俸	
		六級俸	四級俸	三級俸		五級俸		六級俸	四級俸	三級俸	一級俸
		七級俸	五級俸	四級俸		六級俸		七級俸	五級俸	四級俸	二級俸
		八級俸	六級俸	五級俸		七級俸			六級俸	五級俸	三級俸
		九級俸	七級俸	六級俸					七級俸	六級俸	四級俸
		十級俸	八級俸	七級俸						七級俸	五級俸
		十一級俸	九級俸	八級俸							六級俸
		十二級俸	十級俸	九級俸							七級俸
				十級俸							

	一等	二等	三等	四等	五等	六等
一級	二千五百圓	二千二百圓	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓
二級	二千二百圓	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓
三級	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓
四級	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓
五級	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓
六級	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓
七級	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓
八級	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓
九級	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百五十圓
十級	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百五十圓	四百圓

高等文官年俸第一號表

	一等	二等	三等	四等	五等	六等
一級	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓
二級	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓
三級	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓
四級	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓
五級	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓
六級	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓
七級	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百五十圓
八級	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百五十圓	四百圓
九級	七百圓	六百圓	五百圓	四百五十圓	四百圓	三百五十圓
十級	六百圓	五百圓	四百五十圓	四百圓	三百五十圓	三百圓

高等文官年俸第三號表

文武判任官等級表

明治二十七年四月勅令第四十三號

改文武判任官等級表ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（明治廿一年十月廿二日勅令第三百十一號ヲ以テ「臨時葉煙草取扱所建築部書記」ノ次ヘ「稅關事務官補」ノ一項ヲ加ヘ尙「淺吏補」四等ノ欄「二十圓以上」ヲ「二十五圓以下」ニ同五等ノ欄「二十圓未滿」ヲ「二十圓以下」ニ改メ同年十一月一日ヨリ施行シ尙同廿二年一月勅令第十號ヲ以テ「各廳書記」ノ次ニ「外務省翻譯官補」ノ一項ヲ又「同大藏省鑑定官補」ノ次ニ「專賣局鑑定官補」ノ一項ヲ又「北海道廳鐵道書記」ノ次ニ「北海道廳鐵道技手」ノ一項ヲ追加シ其他「營林主事補」及「貴族院衆議院速記技手」ノ項ニ改正ヲ加ヘ尙同四月勅令第百六十三號及第百七十二號ヲ以テ改正追加スル所アリタリ）

	一等	二等	三等	四等	五等	六等
特別俸	各廳					
一級俸	各廳					
二級俸	各廳 各書記	各廳 各書記	各廳 各書記	各廳 各書記	各廳 各書記	各廳 各書記
三級俸						
四級俸						
五級俸						
六級俸						
七級俸						
八級俸						
九級俸						
十級俸						
同	外務省翻譯官補 公使館書記生 領事館書記生 專賣局事務官	外務省翻譯官補 公使館書記生 領事館書記生 專賣局事務官	外務省翻譯官補 公使館書記生 領事館書記生 專賣局事務官	外務省翻譯官補 公使館書記生 領事館書記生 專賣局事務官	外務省翻譯官補 公使館書記生 領事館書記生 專賣局事務官	外務省翻譯官補 公使館書記生 領事館書記生 專賣局事務官